

保 長 配 備	反 復 突 撃	夜 間 攻 撃 準 備 拂 曉	攻 撃 準 備 位 置	位 置	攻 撃 準 備 位 置	夜 間 攻 撃 準 備 拂 曉	攻 撃 準 備 位 置	保 長 配 備
------------------	------------------	--------------------------------------	----------------------------	--------	----------------------------	--------------------------------------	----------------------------	------------------

ヲ破推セシムル等常ニ歩戰砲ノ協同ヲ緊密ナラシム
大隊長ハ陣内ノ攻撃ノ爲縦長配備ヲ有スルコト緊要ナリ之ガ爲豫備隊ヲ使用シ盡
クシタルトキハ爲シ得ル限リ速カニ之ヲ設ク
第五百十三 頑強ナル敵ニ對シテハ一舉ニ敵陣ヲ突破シ得ザルコトアリ此ノ場合
ニ於テハ大隊長ハ部下各隊ヲシテ占領セル地點ヲ確保シ隊勢ヲ整ヘ百方手段ヲ盡
クシテ突撃ノ動機ヲ作爲シ不撓不屈飽ク迄突撃ヲ反復シ以テ最後ノ勝利ヲ獲得セ
ザルベカラズ如何ナル場合ニ於テモ突撃部隊ノ行動ヲシテ有效ナル火力ノ支援ヲ
缺カシメザルコト特ニ緊要ナリ
第五百十四 夜暗ヲ利用シ敵ニ近接シテ攻撃準備ノ位置ニ就キ拂曉ヨリ攻撃ヲ實
行セントスル場合ニ於テハ大隊長ハ爲シ得ル限リ晝間ニ於テ搜索並ニ聯絡砲ノ戰
車及砲兵トノ協定ヲ行ヒ且企圖ヲ秘匿シ成ルベク速カニ攻撃ニ關スル企圖ヲ示シ
攻撃部署ノ大要ヲ攻撃準備ノ位置及之ニ就ク爲ノ前進ノ障礙物ノ破壊等所要ノ事
項ヲ命ジ各部隊ヲシテ晝間ヨリ諸準備ヲ十分ナラシムルコト必要ナリ
第五百十五 夜間ニ於テ攻撃準備ノ位置ニ就クニハ大隊ハ夜間攻撃ニ於ケル要領
ニ準ジ行動スルニ進出スルヤ大隊長ハ部下ノ掌握ヲ確實ニシ工事ニ著手セシメ極
力敵陣地ヲ搜索シ且敵ノ出撃ニ對應スルノ處置ヲ講ジ黎明ニ先ダ障礙物ヲ破
壞シ聯絡砲ノ戰車及砲兵トノ協定ヲ補綴シ資材ノ整備ノ爲シ得レバ側防機能ノ破
壞等所要ノ突撃準備ヲ完了スルニ勉ム

保 長 配 備	反 復 突 撃	夜 間 攻 撃 準 備 拂 曉	攻 撃 準 備 位 置	位 置	攻 撃 準 備 位 置	夜 間 攻 撃 準 備 拂 曉	攻 撃 準 備 位 置	保 長 配 備
------------------	------------------	--------------------------------------	----------------------------	--------	----------------------------	--------------------------------------	----------------------------	------------------

攻撃準備ノ位置附近ニ撒毒地域アルトキハ勉メテ之ヲ越エ攻撃ヲ準備スルヲ可ト
ス制毒ハ大隊長統一シテ之ヲ行ヒ或ハ各部隊毎ニ行ハシム
第五百十六 拂曉ヨリ攻撃ヲ實行スルニ方リ天明後砲兵ノ射撃ヲ行ヒタル後突撃
セル敵情ノ地形ニ應ジ逐次突撃部署ヲ補足シ又機會ヲ捉ヘテ敵重火器特ニ側防機
能ノ撲滅ヲ圖リ突撃準備ノ完璧ヲ期スルヲ要ス此ノ際黎明ヲ利用シ部隊ノ配置ヲ
點檢シ要スレバ部署ノ補足ヲ行フ
第五百十七 拂曉ヨリ攻撃ヲ實行スルニ方リ攻撃準備ノ位置ヲ敵前至近距離ニ設
キ黎明ヲ利用シ突撃セントスル場合ニ於テハ大隊ノ攻撃部署ハ晝間攻撃ニ準ズル
モ中隊以下ニ在リテハ運動及突撃ヲ容易ナラシムル爲適宜集結セル隊勢ヲ保チ火
戰ヲ交フルコトナク不意ニ敵陣地ニ突入ス
突入セル部隊ハ天明ノ近ヅクニ從ヒ逐次晝間ノ隊勢ニ移リ爾後ノ戰鬪遂行ニ遺憾
ナカラシム此ノ際煙ヲ使用シテ黎明ノ状態ヲ延長スルコトアリ
大隊長ハ特ニ天明直後ノ歩戰砲ノ緊密ナル協同ニ遺憾ナキ如ク攻撃準備ヲ周到ナ
ラシムルト共ニ突入天明ニ及ブコトアルヲ願慮シ特ニ砲兵トノ連絡、重火器ノ使
用等ニ關シ豫メ所要ノ準備ヲ整フ
第五百十八 薄暮ヲ利用シテ突撃ヲ實施セントスル場合ニ於テハ巧ニ暮暮ニ蔽ハ
レテ敵ニ近接シ突入ス此ノ際大隊ノ攻撃部署ハ當初晝間ニ於ケル要領ニ準ズルモ
暗黒ノ度加ルニ從ヒ逐次部隊ヲ集結シ中隊以下火戰ヲ交フルコトナク突入ス突入

全出口
 後ノ行動ハ夜間攻撃ノ要領ニ準ズ
 大隊長ハ重火器及協同スル砲兵ヲシテ十分ナル準備ヲ整ヘ所要ニ應ジ攻撃ヲ支援
 セシム又戰車ヲ最初ノ突撃ニ協同セシムルヲ得バ有利ナリ

聯六六
 隊防禦
 性
 第五百十九 大隊ハ獨立シテ抵抗地帯ノ防禦ヲ擔任ス
 大隊ハ各種火器就中機關銃ノ特性ヲ遺憾ナク發揮シ得ル如ク第一線中隊、重火器
 等ヲ統轄シテ陣地前方ニ對スル火力配置ヲ完成シ敵ノ攻撃ヲ我が陣地前ニ破摧ス
 縦ヒ隣接部隊ノ防禦不利ナル場合等ニ於テモ尙能ク獨立シテ戰闘ヲ遂行シ得ル如
 ク側面要スレバ背面ニ對シ所要ノ火力ヲ發揚シ得ルト共ニ陣地ノ一部ニ破綻ヲ生
 ズルモ直チニ侵入セル敵ヲ擊滅シ得ル如ク陣地内部ニ對シ所要ノ火力ヲ準備ス
 第五百二十 大隊長ハ狀況ノ許ス限リ綿密ニ地形ヲ偵察シテ抵抗地帯ノ前線及火
 力配置ヲ第一線中隊、其ノ射擊區域及占領區域、重火器等ノ任務及陣地、火
 力急襲ニ關スル計畫、各部隊相互ノ連繫、隣接部隊トノ間隙ニ對スル處置、豫備
 隊ノ配置、戰況ノ推移ニ應ジテ取ルベキ處置、搜索、警戒、對空、對戰車及對瓦
 斯ノ處置、工事、連絡等所要ノ事項ヲ定ム此ノ際聯隊砲及砲兵ノ火力トノ關係ヲ
 考慮ス

第五百二十一 抵抗地帯ノ前線ヲ定ムルニハ地形ヲ利用シ勉メテ火力ノ發揚容易
 ニシテ且對戰車防禦ニ便ナル如ク考慮ス此ノ際過早ニ敵砲火ニ暴露セザルノ著意
 亦必要ナリ

火力配置
 陣地前方ニ對スル火力配置ヲ定ムルニハ抵抗地帯ノ前方ニ各種火器ヲ以テ火網ヲ
 構成シ敵ノ攻撃ノ重點ヲ豫想スル部分ニ於テ之ヲ濃密ナラシメ且火網内要スレ、
 火網外ノ要點ニ對シ適時火力急襲ヲ爲シ得ル如ク兵力配置時ニ重火器ノ用法ヲ適
 切ナラシム

火網ノ縱深ハ通常近距離ト爲ス狀況ニ依リ至近距離ニ短縮スルコトアリ

第五百二十二 第一線中隊ノ射擊區域及占領區域ヲ定ムルニハ大隊ノ火力配置
 ニ基キ良好ク地形ニ適應シ且獨立シテ中隊ノ陣地ヲ保持シ得シムル如ク考慮ス陣地
 ノ重要部ニ在ル中隊又ハ射界短小ナルカ若クハ突出部等陣地ノ薄弱部ニ在ル中隊
 ニハ其ノ正面ヲ狭小ナラシメ或ハ隣接部隊ヨリスル射擊ヲ以テ其ノ火力ヲ増加シ
 又中隊前地ノ死角ヲ隣接部隊ヨリ側防セシムル等各、當面ノ防禦ニ遺憾ナカラシ
 ム

中隊ノ射擊區域ヲ示スニ方リテハ隣接部隊トノ境界ヲ明カナラシメ又隣接部隊ノ
 前地ニ指向スベキ射擊ニ關シテハ其ノ火力、射擊區域、要スレバ射擊時機等ヲ示
 シ相互ノ協調ヲ確實ナラシム

第五百二十三 大隊長ハ機關銃中隊ノ外通常中隊機關銃ヲ直轄使用ス
 機關銃ハ斜射、側射ヲ以テ大隊火網ノ重要部ヲ射擊セシムルト共ニ陣地直前ノ側
 防、火力急襲等ニ使用シ所要ニ應ジ必要ノ火力ヲ以テ火網外ノ重要ナル目標ヲ射
 撃セシム之ガ爲戰闘ノ初期一部ヲ抵抗地帯ノ前方ニ配置スルコトアリ

陣地直前ノ側防ニ任ズル機關銃ハ通常敵兵至近距離ニ近接シタル後不意ニ射擊ヲ

開始シ最モ有效ニ側射シ突撃ヲ挫折セシム之ガ爲通常陣地前縁附近ニ組織的ニ之ヲ配置シ時トシテ一部ヲ陣地前ノ掩護確實ナル要點ニ配置ス

第五百二十四 大隊砲ハ主トシテ其ノ有效射界特ニ近距離ニ現出スル敵重火器ノ射撃及火力急襲ニ使用ス

大隊砲ノ陣地ハ勉メテ同一陣地ヨリ其ノ擔任スル全地域ニ對シ射撃ヲ爲シ得ル如ク選定ス

聯隊砲ヲ配屬セラレタルトキノ用法ハ大隊砲ニ準ズ所要ニ應ジ對戰車射撃時トシテ陣地前ノ側防ニ任ゼシム

第五百二十五 速射砲ハ敵戰車ノ撲滅ニ使用ス狀況ニ依リ近距離ニ現出スル敵重火器ノ射撃及火力急襲ニ使用スルコトアリ

速射砲ノ陣地ハ勉メテ最前線ニ近ク良ク秘匿セル位置ニ選ブ此ノ際戰車ヲ支援スル敵ノ砲兵等ニ對シ掩護ノ處置ヲ講ズ

第五百二十六 豫備隊ハ主トシテ逆襲ニ用ヒ所要ニ應ジ前線ノ補填、側背ノ掩護等ニ用フ之ガ爲地形ヲ利用シ用途ニ適スル如ク配置シ且所要ノ施設ヲ爲サシム

豫備隊ノ長ハ逆襲ノ爲所要ノ部隊ト協定シ十分ナル準備ヲ整フ

第五百二十七 兵力ニ比シ著シク廣キ正面ノ防禦ニ於テ據點ノ占領ニ任ズル大隊ノ占領區域及兵力部署ハ一般ノ場合ニ準ズルノ外四周ニ對シ防禦シ得ル如ク部隊ノ配置ヲ適切ニシ防禦ノ施設ヲ爲シ得ル限リ堅固ナラムル等陣地ノ獨立性ヲ大ナラシム

第五百二十八 防禦ニ在リテハ速カニ敵情ヲ偵知シ且警戒ヲ周密ナラシムルコト

緊要ナリ之ガ爲大隊長ハ警戒部隊ト連絡シ斥候ヲ派遣シテ絶エズ敵情ヲ知得スルニ勉メ第一線中隊ヨリ出ス監視部隊概略ノ線其ノ他所要ノ事項ヲ示シテ監視部隊相互ノ連絡ヲ密ナラシメ又指揮機關及各中隊ノ監視ニ關シ全般ヲ統一シ不斷ニ敵情ヲ監視セシムル等ノ處置ヲ講ズ

第五百二十九 防禦ニ於ケル陣地ノ秘匿ハ特ニ緊要ナリ故ニ大隊長ハ全般ノ關係ヲ考慮シ陣地秘匿ノ處置ヲ講ジ嚴ニ其ノ實施ヲ監督ス

偽工事ヲ設クルニ方リテハ成ルベク大隊長統一シテ實施スルト共ニ敵ノ利用ヲ妨グルノ著意必要ナリ

第五百三十 防禦ニ於ケル連絡ハ戰鬪激烈ナル時機ニ於テモ大隊長ノ戰鬪指揮ニ支障ナカラシムルコト緊要ナリ之ガ爲各種ノ手段ヲ併用シ時間ノ餘裕ヲ得ルニ從ヒ堅固ニ施設ス重火器トノ連絡ニ於テ特ニ然リ

第五百三十一 大隊長ハ現地ニ就キ中隊長等ニ所要ノ命令ヲ與ヘ各部隊ヲシテ配備ニ就カシム

時間ノ餘裕ナキトキハ先ヅ抵抗地帯ノ前縁及火力配置ノ概要ヲ定メテ速カニ配備ニ就カシメ爾後逐次之ヲ補足ス

第五百三十二 敵兵我が火網ニ近接スルヤ大隊長ハ聯隊砲及砲兵ノ射撃ト相俟テ有利ナル目標ニ對シ重火器等ヲシテ射撃セシメ次第敵兵火網内ニ侵入スルヤ各種火器ノ特性ヲ發揮セシメ之ヲ壓倒シ敵兵漸次近接スルニ從ヒ火力ヲ最高度ニ發揚セシメ我が陣地前ニ破摧スベシ此ノ間大隊長ハ良ク全般ノ狀況ヲ觀察シ敵ノ重要

逆襲ノ時 機中二〇五 敵兵陣地 二役人 中二六 追撃戦ノ指導 中二五 退却ノ命 第五百三十六

部ニ對シ火力急襲ヲ行ヒ又要スレバ所要ノ部隊ニ新ナル任務ヲ與ヘ若クハ機ヲ失
セズ一部ノ配備ヲ變更スル等絶エズ主動的ニ戰闘ヲ指導ス
狀況ニ依リ敵兵近接スルモ射撃ヲ控制シテ極力陣地ヲ秘匿シ敵ヲ近ク陣地前ニ誘
致シタル後不意ニ熾烈ナル射撃ヲ開始シ敵ヲ擊滅スルヲ利トスルコトアリ此ノ際
ニ於ケル射撃開始ハ大隊長之ヲ命ズ
第五百三十三 陣地前至近距離ニ於テ敵兵萎靡混亂セル場合ニ於テハ大隊長ハ全
般ノ狀況ニ鑑ミ逆襲ヲ敢行シ之ヲ擊滅スベシ此ノ際重火器等ヲ以テ我が逆襲ヲ妨
害スレキ敵ヲ制壓シ要スレバ煙ヲ使用シ出撃部隊ノ行動ヲ容易ナラシム
第五百三十四 敵兵大隊陣地ニ侵入セバ大隊長ハ直チニ之ニ火力ヲ集中セシメ機
ヲ失セズ豫備隊ヲ以テ猛烈果敢ニ逆襲シ敵ヲ擊滅スベシ
敵兵隣接部隊トノ間隙若クハ大隊陣地ノ側背ニ侵入セバ爲シ得ル限りノ火力ヲ集
中シ狀況之ヲ許セバ豫備隊ヲ以テ逆襲ヲ敢行シ敵ヲ擊滅スベシ
第五百三十五 攻撃奏功セバ大隊長ハ機ヲ失セズ敵ヲ急追シ極力之ヲ殲滅スルニ
勉ムベシ此ノ際重火器等ヲ有利ニ使用シ又爲シ得ル限り敵ノ側方若クハ間隙ヨリ突
進シテ之ヲ捉ヘ荷モ脱逸ノ餘裕ヲ與ヘザルコト緊要ナリ
追撃ニ方リテハ大隊長ハ速カニ追撃目標ヲ示シ適時下部隊ヲ部署シ自己ノ意圖
ノ如ク追撃ヲ實施セシム
第五百三十六 退却ノ命令ヲ受ケタルトキハ大隊長ハ特ニ沈著シテ其ノ處置ヲ決

ヲ受ケタルトキ 退却戦ノ指導 中二五 退却ノ命 第五百三十六 夜間攻撃ノ部署 夜間攻撃ノ命令 中二〇九

スベク各部隊ハ自若トシテ動作スルコト必要ナリ
退却ニ方リテハ特ニ下部隊ヲ確實ニ掌握スルニ勉ム
第五百三十七 退却ヲ行フニハ大隊長ハ所要ノ部隊ヲ以テ前線ヲ收容シ或ハ一部
ヲ第一線ニ殘置シ其ノ掩護ニ依リ主力ヲ退却セシムルヲ可トス此ノ際重火器等ヲ
有利ニ使用スルコト緊要ナリ
第三章 夜間戦闘
第一節 攻撃
第五百三十八 夜間攻撃ハ寡ヲ以テ克ク衆ニ勝チ歩兵ノ本領ヲ顯著ニ發揮シ得ル
モノナリ而シテ大隊ハ獨立シテ夜間攻撃ヲ遂行スルニ特ニ適ス故ニ大隊長ハ進
テ夜間攻撃ヲ企圖シ積極的ニ實現ヲ圖ルノ概アルヲ要ス
第五百三十九 夜間攻撃ニ決セバ大隊長ハ速カニ中隊長等ニ企圖ヲ示シテ準備ノ
餘裕ヲ得シメ幹部以下ヲシテ極力攻撃地區ノ地形及敵陣地ノ状態ニ通曉セシム此
ノ際特ニ夜暗ノ状態ニ想到シ地形地物ヲ暗識セシムルコト緊要ナリ
搜索ハ晝夜連續シテ行ヒ特ニ薄暮ヲ利用シテ敵情ノ變化ヲ偵知ス
第五百四十 夜間攻撃ノ爲メ大隊ハ通常第一線ト豫備隊トニ區分ス而シテ縱深深ク
敵陣地ヲ奪取セントスルコトキハ二線ノ攻撃部隊ヲ設クルコト少カラズ此ノ場合ニ
於テモ所要ニ應ジ豫備隊ヲ設ク
何レノ場合ニ於テモ夜間攻撃ノ部署ハ巧妙複雑ヲ避ケ實行確實ナルヲ要ス
第五百四十一 夜間攻撃ノ爲メ大隊長ハ成ルベク晝間ニ於テ中隊長等ヲ集メ現地ニ

頭ノ敵陣地前 要地占	出る	食用法 食二四一四	全用法 全三〇一三	シ	全
---------------	----	--------------	--------------	---	---

就キ的確ナル命令ヲ下ス此ノ命令ニハ狀況、自己ノ企圖就中大隊ノ攻撃目標及戰
闘遂行ノ要領、第一線中隊及其ノ攻撃目標、重火器ノ任務、前進及突撃ノ部署、
豫備隊ノ行動、方向ノ維持、障礙物ノ破壊、搜索、警戒、連絡、彼我ノ識別法、
要スレバ監視部隊ノ驅逐、陣地内掃蕩ノ部署、敵陣地奪取後ノ處置、制毒等所要
ノ事項ヲ示ス又狀況豫定ノ如ク進展セザル場合ニ於ケル對策ニ關シ豫メ所要ノ中
隊長ニ示シ置クコトアリ

中隊ノ攻撃目標ヲ示スニハ中隊毎ニ其ノ奪取スベキ地點ヲ以テス
狀況特ニ之ヲ要スレバ縦ヒ晝間十分ナル準備ヲ爲サザル場合ニ於テモ手段ヲ盡ク
シテ攻撃ヲ遂行セザルベカラズ

第五百四十二 機關銃ハ主トシテ奪取セル陣地ノ確保ニ任ズ之ガ爲通常豫備隊ト
共ニ行動セシム

步兵砲ハ通常天明後ノ戰闘時トシテ奪取セル陣地ノ確保等ニ任ズ之ガ爲豫備隊ト
共ニ行動セシム或ハ一時殘置シ適時追及セシム

所要ニ應ジ機關銃及步兵砲ノ一部ヲシテ照明機關等ヲ射撃セシム

攻撃ノ當初ヨリ砲兵協同ノ下ニ火器ノ威力ヲ利用シテ攻撃ヲ強行スル場合ニ於テ
モ小銃及輕機關銃ノ射撃ハ之ヲ禁ズ

第五百四十三 大隊長ハ通常豫メ小部隊ヲ以テ前進地區或ハ敵陣地前ノ要點ヲ占
領シテ我が行動ヲ掩蔽シ或ハ突撃ノ準備ヲ容易ナラシム此ノ際我が企圖ヲ秘匿シ
連繫ヲ密ニシ齟齬ヲ生ゼシメザルヲ要ス

前進及突 撃部署	前進指揮	隊形	夜間方向 維持	指揮官位	夜間連絡 障礙物
-------------	------	----	------------	------	-------------

第五百四十四 夜間攻撃ニ在リテハ大隊長ハ通常主力ヲ集結シテ敵ニ近接シ次デ
中隊ヲ分進、突撃ヲ準備セシム

狀況ニ依リ第一線中隊毎ニ敵ニ近接シ突撃ヲ準備セシムルヲ利トスルコトアリ此
ノ際大隊長ハ其ノ行動ニ關シ所要ノ規正ヲ行フ

第五百四十五 夜間敵ニ近接スルニ方リテハ大隊長ハ自ラ大隊ノ先頭ニ立チ一部
隊ヲ手裡ニ存シ大隊ノ運動ヲ統一指揮ス

大隊ノ隊形ハ爾後ノ使用ヲ考慮シ勉メテ單一ニシテ前進容易且掌握確實ナル如ク
之ヲ定ム

第五百四十六 夜間方向維持ノ爲ニハ成ルベク地物ニ依リ其ノ方向ヲ定メ或ハ豫
メ前方若クハ後方ニ行進方向ノ基準ヲ標示シ且薄暮ニ乘ジ標示材料、標兵等ヲ以
テ進路ノ標示ヲ行ヒ又選拔セル斥候ヲシテ誘導セシムルヲ可トス何レノ場合ニ於
テモ磁石、經路機等ヲ併用ス

敵陣地内ニ於ケル方向維持ノ爲ニハ特ニ周到ナル準備ヲ必要トス此ノ際光彈等ヲ
利用シ得バ有利ナリ

第五百四十七 夜間攻撃ニ方リテハ指揮官ハ適時其ノ位置ヲ標示スルト共ニ幹部
以下進シテ各、其ノ長ノ掌握下ニ入ルコト特ニ緊要ナリ

夜間ノ連絡ハ特ニ確實ナル手段ヲ用ヒ且企圖秘匿ノ爲通信ノ濫用ヲ戒ム又本部及
各中隊ヲシテ各、其ノ經路ヲ標示シ適宜之ヲ連接セシムルヲ可トス

第五百四十八 夜間敵ノ障礙物ヲ破壊スルニ方リ之ヲ大隊長統一シテ行フベキヤ

中三一二 或ハ第一線各中隊ヲシテ行ハシムベキヤハ狀況ニ依ル
 第一線各中隊ヲシテ破壊セシムル場合ニ於テハ大隊長ハ所要ニ應ジ破壊班ノ派遣
 時機及掩護、破壊地點、破壊ノ方法、完成時刻等ニ關シ統轄ス
 第五百四十九 突撃ノ準備完了スルヤ大隊長ハ第一線中隊ニ突撃ヲ命ジ爾後要ス
 レバ豫備隊ヲ以テ敵ノ逆襲ヲ排撃シ斷乎戰闘ヲ指揮スベシ
 第一線中隊所命ノ地點ヲ奪取セバ大隊長ハ速カニ秩序ヲ恢復シ各部隊トノ連絡ヲ
 確保シ要スレバ重火器ヲ射撃位置ニ就カシメ搜索、警戒ノ處置ヲ講ジ嚴ニ敵ノ恢
 復攻撃ニ備ヘ殘存セル敵ヲ掃蕩シ爾後ノ行動ヲ準備ス
 第五百五十 二線ノ攻撃部隊ヲ設ケル場合ニ於ケル兩攻撃部隊ノ兵力ハ特ニ奪取
 セントスル敵陣地ノ縱深、其ノ狀態等ヲ考慮シテ定ム
 大隊長ハ第一線攻撃部隊ヲシテ突破ニ必要ナル第一線陣地ヲ先ヅ奪取セシム其ノ
 奪取スベキ正面ハ地形特ニ敵陣地ノ火制範圍ヲ考慮シテ定ム
 大隊長ハ第一線攻撃部隊ノ奏功ヲ看取スルヤ自ラ第二線攻撃部隊、豫備隊ヲ指揮
 シ破壊班等ヲ先頭ニ準備シ第一線攻撃部隊ヲ超越シテ敵陣地内ノ攻略ニ移リ適時
 第二線攻撃部隊ニ突入ヲ命ジ所期ノ地點ヲ奪取セシム
 第二線攻撃部隊ノ第一線攻撃部隊ヲ超越スル時機ハ敵ニ餘裕ヲ與ヘザル爲成ルベ
 ク早キヲ可トスルモ第一線攻撃部隊ノ混亂ノ渦中ニ投ゼザルヲ要ス
 第五百五十一 第一線攻撃部隊ハ超越セル第二線攻撃部隊トノ連絡ヲ確保シ錯誤
 ヲ生ゼシメザルヲ要ス而シテ敵ノ逆襲ヲ受ケタルトキト雖モ射撃ヲ行フハ超越セ

第二線部 隊ノ前進
 第五百五十二 第二線攻撃部隊ハ通常最初ヨリ攻撃部署ヲ定メ攻撃ニ適スル隊勢
 ヲ以テ前進ス而シテ第一線攻撃部隊ヲ超越スルニ際シ之トノ混淆ヲ避クル爲各部
 隊間ノ距離間隔ヲ閉縮シテ第一線攻撃部隊ニ續行シ超越後速カニ所要ノ隊勢ヲ取
 ルヲ可トス
 第五百五十三 第二線攻撃部隊所命ノ地點ヲ奪取セバ大隊長ハ所命ノ地域ヲ確保
 シ所要ニ應ジ第一線攻撃部隊ヲ招致シ爾後ノ戰闘ヲ準備ス
 第五百五十四 夜間攻撃ノ爲戰車ヲ配屬セラレタルトキハ主トシテ第一線ニ於ケ
 ル鐵條網、明瞭ナル重火器特ニ側防機能ノ破壊等ニ用フ
 大隊長ハ通常戰車ヲ中隊ニ配屬シ且戰闘加入ノ時機等ニ關シ統制ス
 步兵ハ戰車ノ爲進路ノ開設及標示、誘導、掩護等ニ關シ極力援助ス
 第五百五十五 夜間攻撃ニ方リ殘置セル重火器、馬等ノ爲ニハ要スレバ指揮者ヲ
 定メ且自衛ノ處置ヲ講ゼシムルト共ニ適時追及スル爲連絡、進路標示等ノ手段ニ
 遺憾ナカラシム
 第二節 防禦
 第五百五十六 夜間ノ防禦ニ在リテハ通常第一線中隊ヲシテ各、晝間ノ占領區域
 ヲ堅固ニ守備セシムルト共ニ敵ノ攻撃ニ對シ各種ノ積極的手段ニ依リ事前ニ其ノ
 企圖ヲ挫折セシム
 第五百五十七 夜間防禦ノ爲大隊長ハ所要ニ應ジ一部ノ兵力ヲ中隊間ノ間隙大ナ

ノ為配備
 増加シ又豫備隊ヲ第一線ニ近ク進メ逆襲ノ準備ニ在ラシム
 第五百五十八 夜間大隊長ハ敵ノ企圖ヲ偵知シ且近接ヲ警ムルヲ要ス之ガ爲搜索ヲ周到ニシ第一線中隊ニ警戒ニ關シ任務ヲ増補シ監視部隊相互ノ連繫ヲ一層密ナラシメ又小部隊ヲ以テ前方ノ要點ヲ占領シ敵ノ行動ヲ妨ゲ或ハ小部隊ノ出撃ニ依リ敵ノ行動ヲ擾亂スル等諸種ノ手段ヲ講ズ

第五百五十九 夜間大隊長ハ通常直轄セル中隊ニ復歸セシメ所要ノ重火器ヲ最前線ニ近ク推進シ陣地直前ノ重要部ニ火力ヲ準備セシム

第六百六十 夜間大隊長ハ特ニ第一線トノ連絡ヲ密ニシ適時豫備隊ヲ使用シ得ルノ準備ヲ整フ而シテ敵兵陣地前至近距離ニ於テ混亂スルカ又ハ大隊陣地ニ侵入セバ直チニ豫備隊ヲ以テ果敢ニ逆襲シ之ヲ撃滅スベシ此ノ際一小部隊ト雖モ敵ノ側背ニ向ヒ攻撃セシムルヲ利トス然レドモ輕學ニ陣地ヲ棄テテ出撃スルコトナキヲ要ス

第五百六十一 大隊長ハ晝間ヨリ夜間ヘノ配備ノ變更ニ關シ準備ノ餘裕ヲ與フル如ク適時命令ス晝間ノ配備ニ復スル場合ニ於テモ亦然リ

第三節 追撃、退却

第五百六十二 夜間敵ノ退却ヲ察知スルヤ大隊長ハ直チニ敵ヲ急追スベシ此ノ際一小部隊ト雖モ放膽ナル行動ニ依リ敵線深ク突進セシムルト共ニ適時目標ヲ示シテ確實ニ部下ヲ掌握スルコト緊要ナリ

夜間退却
 中二三
 敵情及追撃ノ處置ハ速カニ上級指揮官ニ報告シ隣接部隊ニ通報ス

第五百六十三 夜間退却ノ爲ニハ細心ノ注意ヲ拂ヒ極力我が企圖ヲ秘匿ス之ガ爲敵ノ搜索ヲ妨害スルト共ニ勉メテ日没前ニ於ケル部隊ノ移動ヲ避クルヲ要ス此ノ際斥候ヲ活動セシメ時トシテ小部隊ノ攻撃ヲ行フ等積極的手段ニ依リ敵ヲ欺騙スルヲ利トス

退却ニ方リテハ豫メ後方ヲ整理シ退路其ノ他ノ偵察ヲ行ヒ所要ノ標示ヲ爲ス等準備ヲ周密ナラシムルコト緊要ナリ

第五百六十四 夜間退却ヲ爲スニ方リ殘置部隊ヲ設クル場合ニ於テハ之ニ明確ナル任務ヲ與ヘ爾後ノ行動ニ關シ所要ノ事項ヲ示シ且勉メテ一指揮官ヲシテ之ヲ指揮セシメ殘置部隊相互ノ連繫ヲ密ナラシム

夜間退却ニ方リ縦ヒ輕易ナル障礙ト雖モ進路上ニ之ヲ設クルトキハ敵ノ追撃ヲ避滯セシメ得ルモノナリ

第四章 彈藥及資材ノ補充、大隊彈藥班及行李ノ行動

第五百六十五 大隊長ハ緊要ノ方面ト時機トニ於テ彈藥、資材ノ補充ニ遺憾ナキヲ期スルト共ニ常ニ之ガ節用ニ留意スルヲ要ス

大隊長ハ通常戰鬪開始ニ先ダチ大隊彈藥班ヲシテ所要ノ彈藥、資材ヲ中隊ニ交付シ且大隊彈藥班ニ行動ノ準據ヲ與ヘ勉メテ大隊ニ跟隨セシム

大隊長ハ大隊彈藥班、聯隊彈藥班、要スレバ彈藥交付所ノ位置ヲ所要ノ指揮官ニ通報シ彈藥、資材ノ補充ヲ圓滑ナラシム

戰團ノ補充 戰團ノ現況 大隊彈藥班ノ現況 大隊彈藥班ノ補充 大隊彈藥班ノ現況 大隊彈藥班ノ補充

第五百六十六 戰團中隊ノ彈藥、資材ハ通常大隊長ノ命令ニ依リ大隊彈藥班ニ就キ補充ス狀況ニ依リ大隊彈藥班ノ一部ヲ分進セシメ或ハ豫備隊ノ人員ヲ使用シテ前送セシムルコトアリ歩兵砲彈藥ニ於テ特ニ然リ

大隊長ハ戰團間彈藥、資材ノ現況ヲ適時聯隊長ニ報告シ要スレバ補充ヲ請求ス而シテ之ガ補充ハ大隊彈藥班ヲシテ通常聯隊彈藥班狀況ニ依リ彈藥交付所ニ就キ之ヲ行ハシム

第五百六十七 地形特ニ道路ノ狀態ニ依リ大隊彈藥班ノ跟隨ヲ許サザルトキハ大隊長ハ中隊ノ彈藥小隊ヲ直轄使用シ又ハ大隊彈藥班ヲシテ別路(自己ノ戰團地域外ナルトキハ聯隊長ノ命令ニ依ル)ヲ前進シ所要ニ應ジ馬背ヲ利用シテ補充セシメ或ハ此等ヲ併用スル等各種ノ手段ヲ講ズ何レノ場合ニ於テモ衛生材料其ノ他緊要ノ資材ハ常ニ大隊ニ跟隨セシム

第五百六十八 戰團間大隊彈藥班ハ地形ヲ利用シ隊形ヲ選ビ勉メテ遮蔽シ爲シ得ル限リ第一線ニ近ク跟隨ス之ガ爲大隊長トノ連絡ヲ確保シテ前線ノ狀況ヲ明カニシ爾後ノ前進ヲ考慮シテ進路ヲ偵察シ要スレバ補修スル等諸準備ヲ整ヘ又常ニ上空及四周ヲ警戒シ自衛ノ處置ヲ講ズ

第五百六十九 戰團ニ方リ大隊行李ノ一部跟隨シアルトキハ大隊長ハ通常大隊彈藥班長ノ區處ヲ受ケシム此ノ際行李ノ行動ハ大隊彈藥班ニ準ズ

第六篇 通信隊教練

戰團ノ現況 戰團ノ補充 大隊彈藥班ノ現況 大隊彈藥班ノ補充 大隊彈藥班ノ現況 大隊彈藥班ノ補充

第五百七十 通信隊ハ通信隊長ヲ核心トセル志氣結合ノ基礎ナリ故ニ通信隊ハ通信隊長ノ意圖ニ從ヒ衆心一致良ク精神的團結ヲ保チ戰團ノ慘烈及至難ノ狀況ヲ克服シテ通信ノ能力ヲ最高度ニ發揚シ以テ戰團ノ要求ヲ充足スルヲ要ス

第五百七十一 通信隊ノ主要ナル任務ハ確實迅速ナル連絡ニ依リ聯隊長ノ指揮及各部隊ノ協同ヲ適切ナラシムルニ在リ而シテ通信網構成ノ主眼ハ戰機ニ適合シ緊要ノ方面ト時機トニ於テ完全ヲ期スルニ在リ

第五百七十二 適切ナル指揮 嚴肅ナル軍紀、必通ノ責任感及精熟セル技能ハ通信任務達成ノ爲重要ナル素因ナリ而シテ通信ニ任ズル者ハ縦ヒ缺兵ヲ生ジ器材、馬其ノ用ヲ爲サザルニ至ルモ手段ヲ盡クシテ連絡ノ確保ニ勉メ狀況之ヲ要スレバ敢然武器ヲ執リテ敵ヲ排撃セザルベカラズ

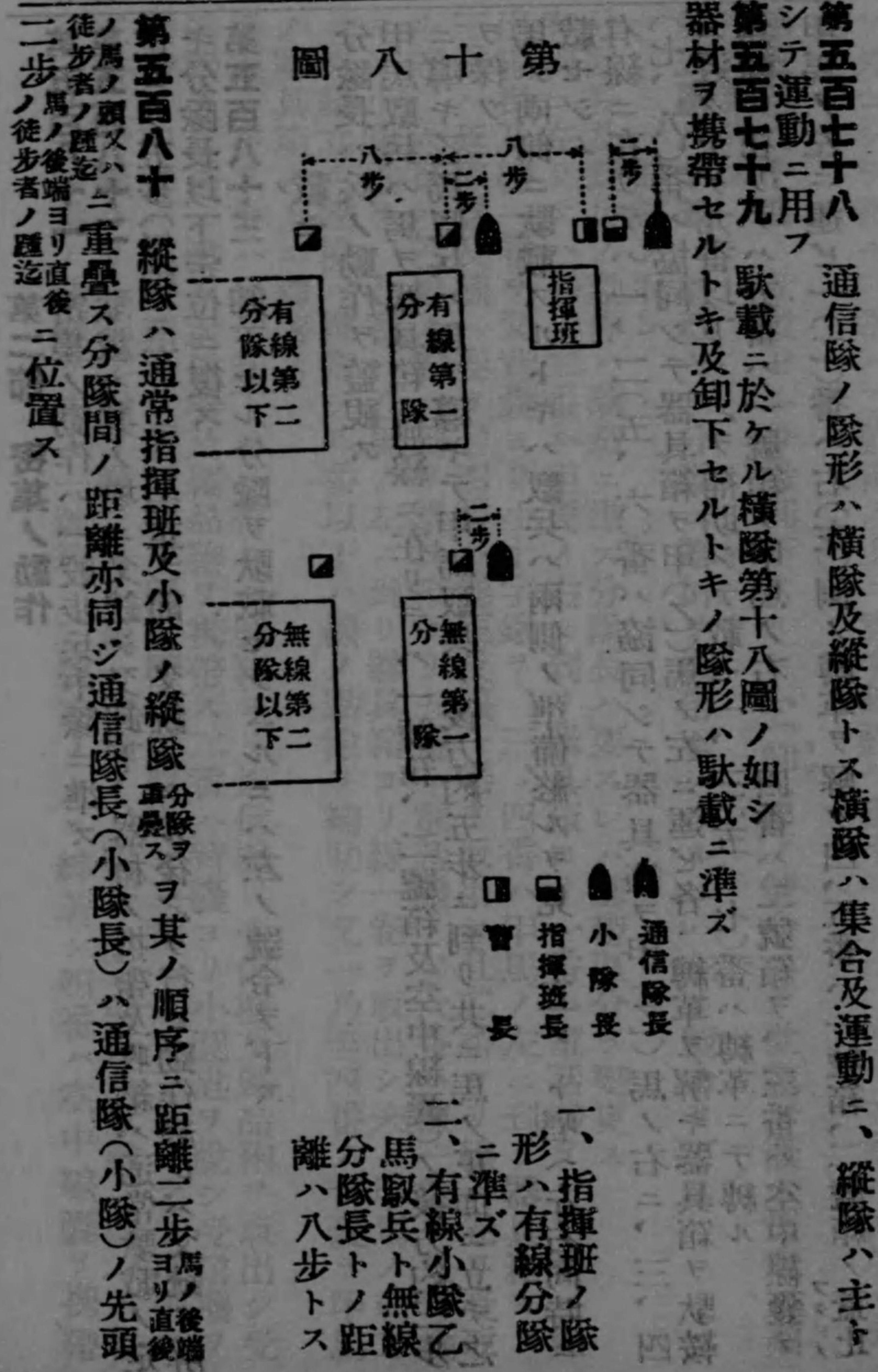
第五百七十三 幹部以下秘密保持ニ全幅ノ注意ヲ拂ヒ通信竊取ニ對スル防遏ヲ嚴ニシ自己ノ開知セシ秘密ハ縦ヒ友軍ノ間ニ於テモ漏洩スベカラズ

第五百七十四 通信隊ハ常ニ通信器材ノ機能ヲ良好ニ維持シ其ノ能力ヲ發揚スルニ遺憾ナカラシム之ガ爲器材ノ愛護及補充ニ注意シ且戰團間ト雖モ爲シ得ル限リ之ガ點檢、整備ヲ行フ

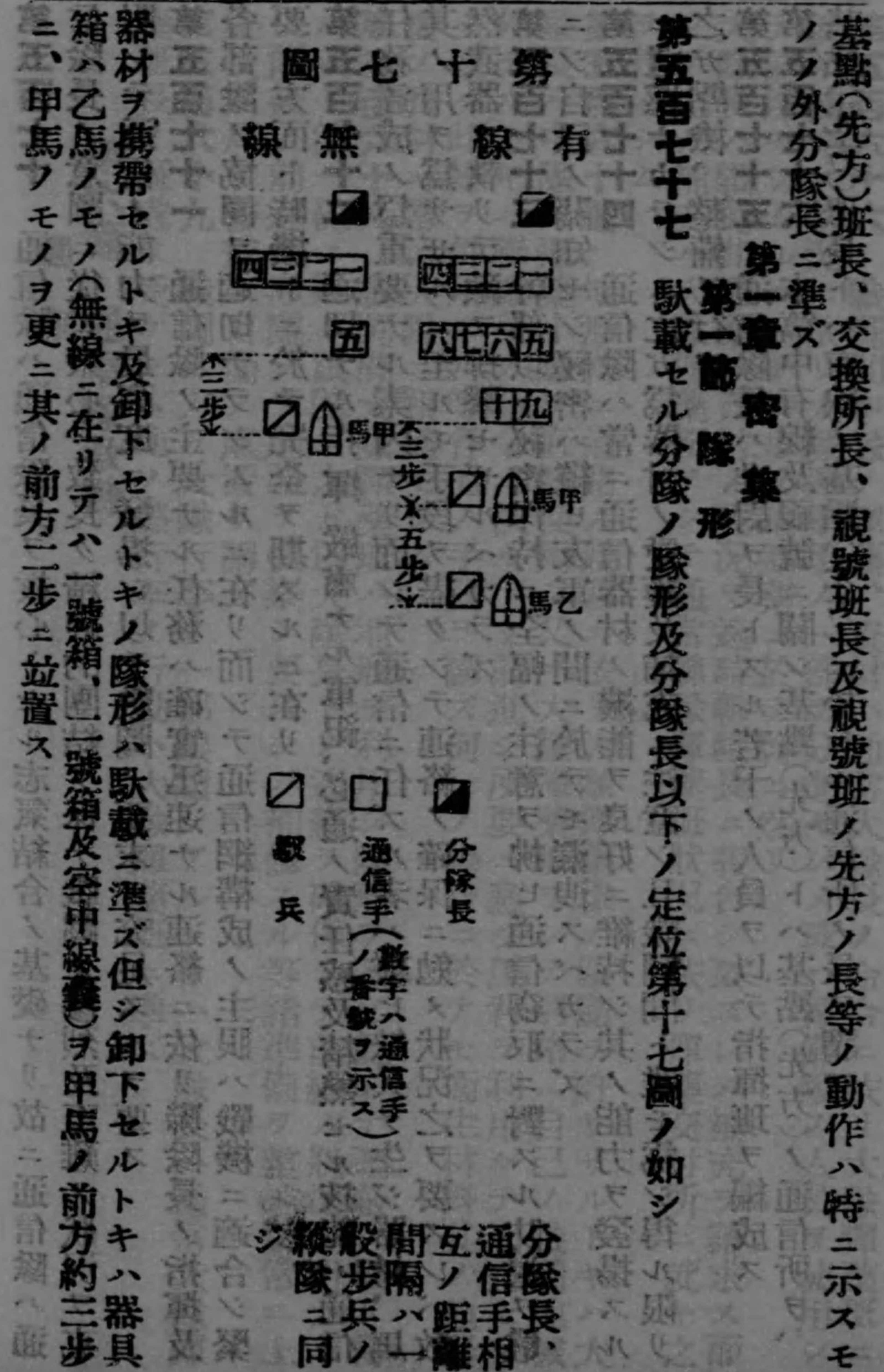
第五百七十五 通信隊長ハ准尉ヲ長トスル若干ノ人員ヲ以テ指揮班ヲ編成ス

第五百七十六 本篇中有線及視號ニ關シ基點(先方)トハ基點(先方)ノ通信所ヲ、基點(先方)班長トハ有線ノ基點(先方)ニ於ケル通信所ノ長ヲ謂フ

又隊形 横隊 又隊形 横隊



分隊ノ隊形



卸下
器材ノ携
さ

第五百八十四 隊載セル分隊卸下スルニハ「卸」セリノ號令ニテ隊載ト概ネ反對ノ順
序ニ動作ス

第五百八十五 隊載セル分隊ニ器材ヲ携帶セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

分隊長及隊兵ノ動作ハ隊載ニ準ズ分隊長ハ要スレバ携帶區分ヲ變更ス
有線ニ在リテハ一、二番ハ甲馬ノ右ニ到リ器具箱ヨリ一番ハ電話機ヲ、二番ハ線
出線掛及線一卷ヲ又背囊ヨリ小十字鍬ヲ、三、四番ハ甲馬ノ左ニ到リ器具箱ヨリ
三番ハ延線器及線一卷ヲ、四番ハ卷匡及線一卷ヲ取出シ且二番ヨリ線一卷ヲ受取
ル五、六番ハ乙馬ノ右ニ到リ器具箱ヨリ五番ハ電話機ヲ、六番ハ線一卷ヲ又背囊
ヨリ小圓匙ヲ、七番ハ乙馬ノ左ニ到リ器具箱ヨリ線一卷ヲ取出シ夫々甲馬ノ前方
ニテ組立テ點檢、携帶シ八番以下ハ線ノ點檢ヲ補助シ又一乃至四番ノ背囊ヲ甲馬
ノ器具箱ノ上ニ縛著ス

無線ニ在リテハ先ヅ卸下シ一番ハ一號箱ヨリ送信機、受信機及屬品靴ヲ取出シ受
信機ヲ二番ニ渡シ送信機及屬品靴ヲ携帶ス二番ハ背囊ヨリ小圓匙ヲ脱シ受信機ヲ
携帶ス四番ハ二號箱ヨリ發電機及同接續紐ヲ取出シ三番ニ渡シ三番ハ之ヲ携帶ス
五番ハ背囊ヨリ小十字鍬ヲ脱シタル後一號箱ヲ、四番ハ二號箱ヲ隊載シ四、五番
ハ一乃至四番ノ背囊ヲ夫々一號箱、二號箱ノ上ニ縛著シ四番ハ空中線囊ヲ携帶

密集動作
隊載及卸
さ

第二節 密集ノ動作

第五百八十一 密集ノ動作ハ一般歩兵中隊ニ準ズ

第五百八十二 隊載ハ其ノ場ニ又銃シ又卸下、器材ノ携帶及收納ハ通常隊載ノ定
位ヨリ五歩(無線ニ在リテハ三歩)前ニ又銃シタル後之ヲ行ヒ動作終レバ又銃ヲ解
キ分隊長以下定位ニ復ス

第五百八十三 卸下セル分隊ヲ隊載セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

載セ

分隊長ハ兵ノ動作ヲ監視ス

甲馬隊兵ハ馬ヲ器具箱(無線ニ在リテハ一號箱、二號箱及空中線囊)ノ後方約三歩
ニ導キ乙馬隊兵ハ馬ヲ導キテ甲馬隊兵ノ後方約五歩ニ到リ共ニ馬ノ正面ニ立チ之
ヲ保ツ

馬ノ兩側ニ隊載スルトキハ隊兵ハ兩側ノ準備終ルヲ見テ「宜シ」ト唱へ左右同時ニ
隊載セシム

有線ニ在リテハ一、二(五、六)番ハ協同シテ器具箱ヲ甲(乙)馬ノ右ニ、三、四
(七、八)番ハ協同シテ器具箱ヲ甲(乙)馬ノ左ニ運ビ各、縛革ヲ解キ器具箱ヲ隊載
ニ近ク上ゲ九番以下ハ之ヲ補助シテ隊載セ一、三(五、七)番ハ縛革ニテ縛ル
無線ニ在リテハ五番ハ一號箱ヲ甲馬ノ右ニ、四番ハ二號箱ヲ、三番ハ空中線囊ヲ
甲馬ノ左ニ運ビ一(二)番ハ右(左)側ノ縛革ヲ解ク四、五番ハ一號箱、二號箱ノ蓋止

卸下シアル場合ニ於テハ前諸項ニ準ズ

第五百八十六 器材ヲ携帶セル分隊器材ヲ收納スルニハ器材ヲ納メテノ號令ニテ器材ヲ携帶スルトキト概ネ反對ノ順序ニ動作ス

第五百八十七 分隊及縦隊ノ方向變換ニ方リ馭兵ハ馬ヲ概ネ外側ノ兵ノ後方ヲ行進セシメ新正面ニ於テ定位ニ入ル

第五百八十八 縦隊ヨリ同方向ニ横隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

先頭ノ指揮班又ハ分隊ハ動クコトナク(行進間ニ在リテハ停止シ)他ハ速歩(行進間ニ在リテハ馭歩)ニテ捷路ヲ經逐次新位置ニ就キ各々整頓ス

第二章 通信

第一節 分隊

第五百八十九 分隊長以下恰モ一體ノ如ク動作シ如何ナル場合ニ於テモ確實迅速ニ連絡ヲ實施ス

第五百九十 分隊長ハ通信所ヲ開設セルトキ、交信系ヲ完成セルトキ、所命ノ送受信ヲ完了セルトキ、通信所ヲ移動又ハ撤收セントスルトキ、通信系ヲ變更又ハ撤收セントスルトキ、交換機ニ通信系ヲ加入セルトキ竝ニ故障等ノ爲通信不能トナリタルトキハ通常所要ノ事項ヲ直チニ連絡スベキ指揮官又ハ小隊長ニ報告シ且關係

係通信所及關係連絡者ニ通報ス

第五百九十一 通信手ハ通信法及通信諸元ヲ嚴守シ正確ナル送受信ヲ實施スルヲ要ス又保線及故障ノ排除、通信勤務ニ必要ナル暗號、略號ノ使用竝ニ裝面時、混信中、空電中及長距離ノ通信ニ習熟スルコト緊要ナリ

第五百九十二 通信手ハ通信ナキトキト雖モ絶エズ同一通信系内ノ通信ニ注意シ時々通信状態ヲ點檢シ器材、線路ノ故障ノ有無ヲ確ム

第五百九十三 散開及運動ハ一般歩兵中隊ニ準ズ

第一款 基本

第五百九十四 線路ノ構成及撤收

第五百九十五 分隊長ハ通常通信手四名及乙馬ヲ殘置シテ基點ト爲シ自ラ主力ヲ指揮シテ一方ノ線路ヲ構成シ連絡ニ任ズ此ノ際分隊長ハ通常先方班長ヲ兼ヌ時トシテ基點ノ人馬、器材ヲ減少ス

分隊ヲ以テ區分構成スルヲ行フカ又ハ復線或ハ往復線ヲ構成スル場合等ニ於テハ通常二有線班ヲ設ク有線班ノ動作ハ分隊ニ準ズ

第五百九十六 線路構成ノ爲出發ヲ準備セシムルニハ分隊長ハ器材ヲ携帶セシメ現地ニ就キ狀況、連絡スベキ指揮官及其ノ位置、基點、經路、要スレバ構成ノ方

法、駄馬ノ處置等ヲ示シ左ノ號令ヲ下ス、
 五番ハ基點班長トナリ通常八、九、十番ト共ニ基點ニ到リ電話機ヲ設置ス一乃至
 四番及六、七番ハ進路上基點ヨリ適宜離レタル位置ニ到リ一番ハ地線ヲ設置シ四
 番ハ一番ノ電話機ヲ三番ノ延線器ニ接続シ八番ハ線端ヲ取り之ヲ基點ノ電話機ニ
 接続シ餘長ヲ取りテ留線ス
 分隊長ハ「導通點檢」ト號令シ一、四、五番ハ協同シテ信號點檢ヲ爲シ異狀ナケレ
 ば一、五番ハ「準備終リ」ト唱へ通話ノ點檢ヲ爲ス次デ一、三番ハ接続ヲ解ク此ノ
 間二、六、七番ハ出發ヲ準備ス
 基點ノ通信手ハ線ヲ整理シ且分隊長ノ指示ニ從ヒ爾後ノ行動ヲ準備ス
 第五百九十七 線路構成ノ爲出發セシムルニハ分隊長ハ「前」(駈歩前へ、早駈前
 へ、匍匐前へ)ノ號令ヲ下ス
 一番ハ延線ノ指導及導通點檢ニ、三番ハ延線ニ、二番ハ三番ニ續行シテ補修ニ、
 四番ハ適時線ノ補充要スレバ延線ニ、六番ハ警戒、連絡スベキ指揮官トノ連絡及
 線ノ補充ノ補助ニ、七番ハ二番ノ補修ノ補助要スレバ線ノ補充ニ任ズ甲馬馱兵ハ
 馬ヲ導キ通常先頭ニ近ク續行ス
 第五百九十八 線路ノ構成中繼換ヲ爲セバ一番ハ基點ニ對シ導通點檢ヲ爲ス此ノ
 際「第何巻終リ」ト唱へ爲シ得レバ地點ヲ附加ス

導通點檢
 線路構成
 號令
 連絡スベキ指揮官ニ近ヅケバ分隊長ハ通常六番ヲ伴ヒテ先行シ該指揮官ニ連絡シ
 テ通信所ノ位置ヲ定ム次デ一番到著セバ通信所ヲ開設シ導通點檢ヲ行ハシム此ノ
 際一番ハ「目的地ニ到著」ト唱フ
 第五百九十九 先方通信所ヲ開設セシムルニハ分隊長ハ電話機ノ位置、線ノ整
 理、警戒法等ヲ示シ左ノ號令ヲ下ス
 一番ハ電話機ヲ設置シ六番ハ警戒ニ任ジ他ノ者ハ通信所内ヲ整理ス爾後分隊長ハ
 通信ノ間隙ヲ利用シ小隊長ニ殘線、人馬、器材ノ狀態等ヲ報告ス
 基點及交換所ノ開設ハ前諸項ニ準ズ
 第六百 通信系ノ變更又ハ撤收ニ方リテハ分隊長ハ分隊ノ任務、通信系變更ノ要
 領、線路ノ撤收方法、對所ノ行動等ヲ示シ且重要ノ方面ニ在リテ指
 揮ス
 第六百一 通信所ヲ移動セシムルニハ分隊長ハ「前進用意 前」(駈歩前へ、早駈
 前へ、匍匐前へ)ノ號令ヲ下ス
 「前進用意」ノ號令ニテ通信手ハ協同シテ出發ヲ準備シ「前」(駈歩前へ、早駈前へ、
 匍匐前へ)ノ號令ニテ前進ス分隊長ハ要スレバ前進ノ區分ヲ示ス
 第六百二 通信系ヲ撤收セシムルニハ分隊長ハ左ノ號令ヲ下ス
 撤收用意

前へ(距歩前へ)
 「撤収用意」ノ號令ニテ通信手ハ協同シテ通信所ヲ撤収シ線路ノ撤収ヲ準備ス「前へ(距歩前へ)」ノ號令ニテ通信手ハ卷線ノ動作ヲ基準トシ協同シテ速カニ線路ヲ撤収ス此ノ際爾後直チニ使用シ得ル如ク卷線ニ注意ス
 線路ノ撤収ヲ終レバ分隊長ハ人馬及器材ヲ點檢シ小隊長ニ報告シ爾後時間ノ餘裕ヲ得ルニ從ヒ器材ヲ整備ス

第六百三 通信所ノ位置ハ連絡スベキ指揮官ニ近ク通信實施ニ適シ且勉メテ掩蔽スルト共ニ指揮官ノ位置ヲ暴露セザル如ク選定ス此ノ際多數ノ通信所アルトキハ之ガ整理ニ任ズル者ノ指示ヲ受ケ
 通信所ノ設備ニ方リテハ一般人馬ノ行動ヲ妨害セズ且此等人馬ニ依リ通信實施ニ支障ヲ生ゼシメザルト共ニ勉メテ偽裝、工事、標識等ヲ行フ
 第六百四 分隊長ハ如何ナル場合ニ於テモ其ノ構成セル線路ノ確保ニ任ジ且連絡スベキ指揮官、小隊長及附近ニ在ル所要ノ通信所ト連絡ヲ密ニシ常ニ部下ヲ掌握シ警戒ヲ嚴ニシ通信所内ヲ整理シ爾後ノ行動ヲ準備ス
 第六百五 先方ニ在リテハ一番ハ通話ニ任ジ他ノ者ハ連絡スベキ指揮官トノ連絡、警戒、保線、一番ノ補助及交代、器材ノ整備等ニ任ズ
 第六百六 通信所交換機ニ加入ヲ命ゼラレタルトキハ通信手ハ交換手ト協同シ通

機加入
 通話不能
 時ノ處置

第六百七 通信不能ノトキハ直チニ障碍ノ原因ヲ探求シテ排除ニ勉メ要スレバ副通信ニ依リ連絡ニ任ズ此ノ際分隊長ハ若シ短時間ニ排除シ難キヲ認ムルトキハ特ニ障碍ノ狀況、復舊ノ見込等ヲ報告、通報シ爾後ノ連絡ニ關シ指示ヲ受ク自己通信所以外ノ故障ト判斷シタルトキハ分隊長ハ所要ノ保線兵ニ保線上ノ憑據ヲ與ヘテ派遣シ速カニ故障ヲ排除セシム此ノ際故障ノ程度ニ應ジ要スレバ一部ノ架換ヲ行フ

第六百八 分隊長以下ノ動作ハ有線ニ準ズルノ外以下示ス所ニ據ル

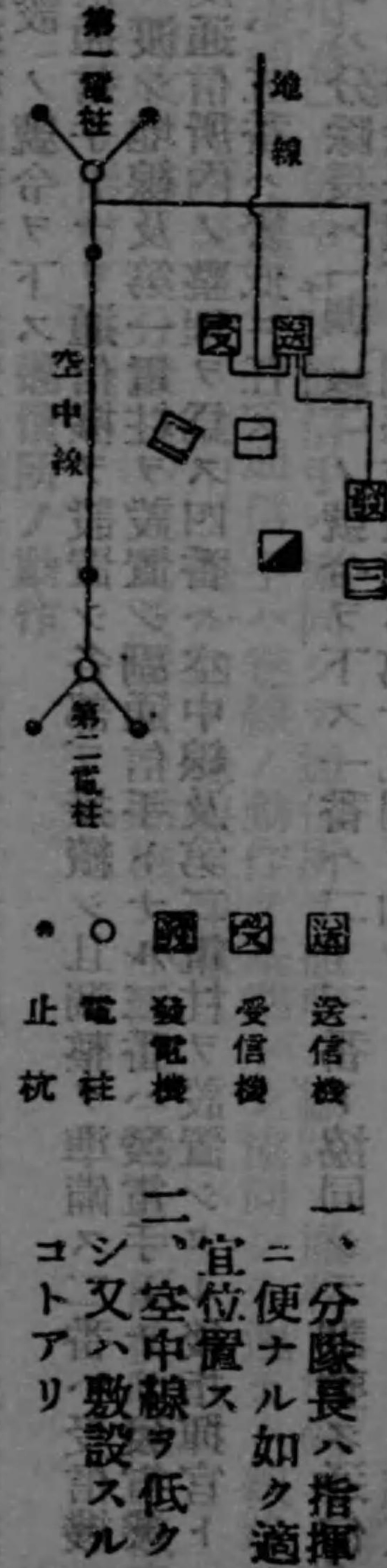
第六百九 通信所ヲ開設セシムルニハ分隊長ハ連絡スベキ指揮官、通信系、通信諸元、通信機ノ位置、空中線ノ方向、要スレバ其ノ高さ、型式、對所ノ狀態等ヲ示シ「開設」ノ號令ヲ下ス

一 番ハ正通信手トナリ通信機ヲ設置シ各部ヲ接続シ且調整ヲ準備ス二番ハ受信機ヲ一 番ニ渡シ地線及第一電柱ヲ設置シ副通信手トナル三番ハ發電手トナリ發電機ノ準備及通信所内ノ整理ヲ爲ス四番ハ空中線及第二電柱ヲ設置シタル後指揮官トノ連絡ニ、五番ハ警戒ニ任ズ

準備終レバ分隊長ハ「調整」ノ號令ヲ下ス一番ハ二、三番ト協同シテ調整ス通信所ニ於ケル分隊長以下ノ關係位置概ネ第十九圖ノ如シ

又所ノ撤
收
連絡
他ノ通信
所ノ傍受
電報取扱

圖九十第



第六百十 通信所ヲ撤收セシムルニハ分隊長ハ「撤收」ノ號令ヲ下ス通信手ハ概ネ開設ト反對ノ順序ニ動作シ撤收終レバ異狀ノ有無ヲ報告ス

第六百十一 通信所ヲ開設セバ通常通信系構成ノ爲連絡無線、視號ノ通信系ヲ構成ス

第六百十二 通信手ハ爲シ得ル限り同一通信系内ニ於ケル他ノ通信所ノ通信ヲ傍受シ分隊長ハ之ヲ連絡スベキ指揮官若クハ小隊長ニ報告ス

第六百十三 分隊長ハ電報ノ取扱ヲ確實迅速ニシ且狀況ニ適合セシムル特ニ重要ナ

第六百十四 視號班 通常長以下四名ノ通信手及ハ交信系ノ構成ニ方リ之ヲ基點及先方ニ區分シ視號班長ハ通常基點ニ位置ス

第六百十五 交信系ヲ構成スルニハ視號班長ハ現地ニ就キ狀況、連絡スベキ指揮官及其ノ位置、呼出符號、要スレバ通信開始時期、通信所ノ位置及標示法、使用器材等ヲ示ス

第六百十六 線路ハ戰況ニ適合シ且之ガ保持確實ナル如ク構成ス

上ノ注意
處理
き

線路選定

ル電報ノ送信ヲ命ゼラレタルトキハ其ノ送信實施ニ關シ速カニ之ヲ連絡スベキ指揮官若クハ小隊長ニ報告ス移動若クハ故障ニ方リ未送信電報アルトキハ連絡スベキ指揮官若クハ小隊長ノ指示ヲ受ク

第六百十四 視號班 通常長以下四名ノ通信手及ハ交信系ノ構成ニ方リ之ヲ基點及先方ニ區分シ視號班長ハ通常基點ニ位置ス

第六百十五 交信系ヲ構成スルニハ視號班長ハ現地ニ就キ狀況、連絡スベキ指揮官及其ノ位置、呼出符號、要スレバ通信開始時期、通信所ノ位置及標示法、使用器材等ヲ示ス

第六百十六 線路ハ戰況ニ適合シ且之ガ保持確實ナル如ク構成ス

線路ノ選定ニ方リテハ構成ノ爲使用シ得ベキ時間及器材ノ多寡、爾後ニ於ケル利用ノ度、友軍就中車馬部隊ノ行動等ヲ考慮シ特ニ掩蔽シ線路ノ構成及保持容易ナル如ク著意ス

分隊長ハ線路構成ノ爲多クノ時間ヲ要スト判斷セル地點ニ對シテハ豫メ所要ノ人員及器材ヲ以テ準備セシムルヲ可トス

戰時同線路構成	線路錯湊	撤毒地域内ニ構成	汚毒器材	連絡スベキ指揮官トノ連絡確保
---------	------	----------	------	----------------

第六百十七 戰間線路ヲ構成スルニハ分隊長ハ勉メテ地形地物ノ掩護下ニ準備ヲ整ヘ的確ニ分隊ヲ部署シ迅速ニ行動セシム

開豁地ニ在リテハ通常目標ニ向ヒ直進スルヲ利トス此ノ際分隊ハ敵火ノ状態ニ應ジ散開シテ躍進シ線ヲ地面ニ膚接シ且十分ナル餘長ヲ存置シ又接續部ハ勉メテ地形地物ノ掩護下ニ在ラシム

無線及視號ニ關シテハ前諸項ニ準ズ

第六百十八 線路錯綜スル地域ニ於ケル線路ノ構成ニ方リテハ混信ヲ避ケ且保線及撤收ヲ容易ナラシムル爲適宜他ノ線路ト離隔セシムルト共ニ標識ヲ附ス

第六百十九 線路ノ構成ニ方リ撤毒地域ニ遭遇セバ成ルベク之ヲ迂回シ若クハ制毒セル地域ヲ利用スルヲ可トス然レドモ状況之ヲ要スレバ撤毒地域ト雖モ構成ヲ強行シ以テ機ヲ失セザルコト緊要ナリ

汚毒セル器材ハ應急消毒ヲ行ヒ所要ノ標識ヲ附シテ携行スルヲ可トス

第六百二十 連絡スベキ指揮官ノ移動ニ方リ有線分隊長ハ速カニ通信所ヲ移動シヲ補充シ爲シ得レバ延線シ置ク等準備ヲ周到ナラシム

連絡スベキ指揮官移動セバ有線分隊長ハ追隨シツツ延線ス若シ追隨シ得ザルトキハ連絡スベキ指揮官ト通信所間ニ視號、傳令等ヲ配置シ要スレバ他ノ連絡機關ト協同シ連絡ヲ中絶セシメザルヲ要ス

連絡スベキ指揮官既ニ構成シアル線路ニ沿ヒ移動スルトキハ此ノ線路ヲ利用シ接

保線兵	オノ任務	防禦ノ又設備	夜間系
-----	------	--------	-----

續部ニ又ハ之ヨリ分岐シ通信所ヲ開設シテ逐次移動ス

無線及視號ニ關シテハ第一、第二項ニ準ズ

第六百二十一 線路ノ保持ヲ確實ナラシムル爲有線分隊長ハ適時保線兵ヲ派遣シ或ハ所要ノ地點ニ之ヲ配置シ時間ノ餘裕ヲ得ルニ從ヒ線路ノ施設ヲ堅固ナラシム

敵彈下ニ於テ特ニ然リ

保線兵ノ兵力ハ敵情、線路ノ景況、明暗ノ度等ニ應ジ又要スレバ戰間ヲ準備シツツ行動シ得ル如ク之ヲ定ム特ニ掩護兵等ヲ増加スルコトアリ

第六百二十二 分隊長ハ部下分隊ノ通信ノ疏通良好ナリヤ、通信手良ク通信ノ法則及規定ヲ守ルヤ、沈著シテ動作スルヤ、器材及馬ノ取扱適當ナリヤ、秘密保持可ナリヤ等ヲ監視ス又絶エズ連絡スベキ指揮官ト密ニ連絡シ適時分隊ノ状態、空界ノ狀況等ヲ小隊長ニ報告シ要スレバ自ら調整若クハ送受信ヲ爲ス等機宜ノ處置ヲ講ジ極力連絡ノ確保ニ勉ム

第六百二十三 防禦ニ方リテハ分隊長ハ時間ノ許ス限リ準備ヲ周到ニシ豫メ通信所ノ位置、線路等ニ就キ偵察ヲ行ヒ要スレバ人馬、器材ノ區分ノ變更、應用材料ノ準備等ヲ爲シタル後通信施設ニ著手ス

通信施設ハ戰間激烈ナルトキニ於テモ確實ニ之ヲ維持シ得ル如ク通信所及配置セル保線兵ノ位置ニ掩護ヲ設ケ豫備ノ通信所ヲ準備シ線路ノ重要部ヲ埋設シ或ハ複線ニシテ狀況ニ依リ線路、空中線、地線ノ爲壕ヲ設ク

第六百二十四 夜間通信系ノ構成ニ方リテハ分隊長ハ準備ヲ周到ニシ部下ノ掌握

ノ構成	夜間ニ於ケル諸注意	撤收	異系トノ通信	敵襲時ノ處置
-----	-----------	----	--------	--------

ニ勉メ方向ノ維持ニ注意シ通信手ハ相互ノ連繫ヲ密ニシ警戒ヲ十分ニシ靜慮確實ニ動作ス

分隊長ハ夜間確實ニ所命ノ地點ニ到達スル爲連絡スベキ指揮官ニ同行スルカ若クハ之ヨリ出サレタル誘導者ニ依リ前進シ或ハ豫メ進路ヲ偵察シ標示ヲ行フ狀況ニ依リ磁石ヲ用ヒ又ハ目標ヲ定メテ直進スルコトアリ而シテ線路ハ多少迂路トナルモ明瞭ナルモノヲ選ブ

途中進路ヲ失ヒタルトキハ通信所ヲ開設シ基點ニ連絡スルヲ可トス

第六百二十五 夜間ハ特ニ通信所ノ祕匿、警戒及指揮官トノ連絡ニ注意シ且通信所ノ標示ヲ行ヒ通信所内ヲ整理シ無線及視號ニ在リテハ特ニ火光ノ漏洩及發電機ノ回轉等ヨリ生ズル噪音ノ防止ニ注意ス

夜間構成セル通信施設ハ拂曉後速カニ點檢シ所要ノ補修ヲ行フ

第六百二十六 通信系ノ撤收ハ通常小隊長ノ命令ニ依ル

夜間線路ノ撤收ハ之ガ構成ニ任ゼル者ヲシテ實施セシムルヲ可トス

第六百二十七 通信系ヲ異ニスル通信所トノ無線通信ハ通常小隊長ノ命令ニ依ル此ノ際分隊長ハ對所ノ通信中ナラザルコトヲ確認シ對所ノ通信諸元ニ依リ連絡ヲ行ヒタル後通信ヲ行ヒ終レバ直チニ其ノ通信系ヨリ脱ス

第六百二十八 敵襲ニ方リ分隊危殆ニ陥リ命令ヲ受クルノ邊ナキトキハ通信文、暗號書其ノ他重要ノ書類ヲ處理シ敢然敵ヲ擊退シ縦ヒ一兵トナルモ飽ク迄其ノ任務ヲ遂行スベシ

ノ構成	夜間ニ於ケル諸注意	撤收	異系トノ通信	敵襲時ノ處置
-----	-----------	----	--------	--------

第六百二十九 戰闘ニ方リ通信隊長ハ聯隊長ノ企圖ニ基キ戰況ノ推移ヲ判斷シ地形及部下ノ現況ニ即シテ方針ヲ定メ事前ノ準備ヲ周到ニシ適時通信隊ヲ部署シ各小隊ヲ統轄シテ通信ニ任ズ

通信隊長ハ通常聯隊長ノ側近ニ位置シテ通信ノ運用ニ關シ聯隊長ヲ輔佐シ連絡主任者及關係通信部隊トノ連繫ヲ密ニシ要スレバ聯隊副官ヲ援助シ本部附近ニ開設セル各通信所ノ整理、施設等ニ任ズ

通信隊長ハ聯隊長ノ命令ニ依リ大隊連絡班ヲ區處シ或ハ其ノ業務ヲ統制スルコトアリ

第六百三十 通信隊ハ適切ナル通信網ノ構成及推進、機宜ニ適スル通信諸元ノ變更、正確ナル送受信竝ニ各小隊相互ノ緊密ナル協同ニ依リ其ノ任務ヲ遂行ス

小隊ハ其ノ特性ニ應ジ小隊長ノ意圖ノ如ク通信ニ任ジ其ノ能力ヲ遺憾ナク發揮ス

有線小隊長ハ所要ニ應ジ視號班ヲ設ク

第六百三十一 指揮班ハ主トシテ命令ノ受領及傳達、關係部隊トノ連絡、情報ノ收集、器材ノ整備等ニ任ズ

第六百三十二 通信隊ハ常ニ自衛ノ處置ヲ講ジ特ニ通信所及馬ノ位置ノ選定ヲ適切ニシ任務ノ達成ニ遺憾ナカラシム

第二節 小隊及通信隊

第六百三十三 戰團ノ爲ノ前進間通信隊長ハ任務ニ基キ搜索、警戒ニ任ズル部隊等トノ連絡ノ爲無線、視號等ヲ部署スルト共ニ爾後ノ使用ヲ考慮シ通信隊主力ヲ前方ニ進出セシム此ノ際地形地物ヲ利用シ要スレバ疎開シ成ルベク歌載ニテ前進ス

第六百三十四 攻撃ニ方リ任務ヲ受クルヤ通信隊長ハ機ヲ失セズ通信隊ヲ部署シ極力展開完了迄ニ所命ノ通信網ヲ構成ス

通信網構成ノ爲時間ノ餘裕ナキ場合ニ於テハ拙速ヲ旨トシ迅速ニ所望ノ通信網ヲ構成ス

通信網構成ノ爲時間ノ餘裕アル場合ニ於テハ豫メ周到ナル準備ヲ整ヘ當初ヨリ堅固ニシテ組織アル通信網ヲ構成ス

何レノ場合ニ於テモ通信系ハ勉メテ簡單ナラシメ通信ノ圓滑ヲ圖ルヲ要ス

第六百三十五 通信網ヲ構成スルニ方リ通信隊長、小隊長ハ通信所開設ノ地點、時刻等ニ關シ連絡スベキ指揮官ト確實ニ連絡シ置クコト緊要ナリ夜間ニ於テ特ニ然リ

第六百三十六 通信隊ヲ部署スルニハ通信隊長ハ通常小隊長ニ勉メテ現地ニ就キ狀況、自己ノ企圖、小隊ノ任務、通信網、要スレバ其ノ完成時期、通信開始時期、他ノ通信機關トノ連絡、通信諸元等所要ノ事項ヲ命ズ

通信隊長ハ各小隊ノ特性ヲ發揮スル如ク統合運用シ相互ノ協同ヲ密ナラシム之ガ爲有線小隊ハ重要ノ方面及時機ニ於テ通常主通信トシテ又無線小隊ハ有線ノ使用

困難ナル場合、有線通信網ノ完成前又ハ其ノ撤收後ニ於ケル主通信及重要ノ方面ニ於ケル副通信トシテ其ノ能力ヲ發揮セシム視號モ亦有利ニ使用スルノ著意ヲ必要トス

戰團ノ進歩ニ伴ヒ通信隊長ハ適時小隊ニ新ナル任務ヲ附與スルト共ニ要スレバ重要ナル方面ノ小隊ヲ直接指導ス

第六百三十七 有線通信網ヲ推進スルニハ基點ヨリ放線狀ニ構成セル通信系ヲ連絡スベキ指揮官ニ追隨シテ延線セシムルヲ通常トス狀況ニ依リ通信網ノ一部ニ於テ追隨セシムルコトナク連絡スベキ指揮官ノ豫定位置ニ新ナル通信系ヲ構成セシムルコトアリ此ノ場合ニ於テハ聯隊長ノ意圖ヲ明カニセル後實行シ且連絡ノ中絶ヲ補フノ處置ヲ講ズ

豫定線路ノ近傍ニ通信所ノ開設ヲ豫期スル場合ニ於テハ縦ヒ迂路トナルモ其ノ地點ヲ通過シテ延線セシムルヲ可トス

線路ハ通常單線トスルモ戰況、通信ノ要度、地形、氣象等ニ依リ複線又ハ往復線ト爲ス

交換機ハ通常利用スベキ時間ヲ有シ且部隊相互ニ緊密ナル連絡ヲ要スル場合ニ於テ使用ス

第六百三十八 無線通信網ヲ推進スルニハ連絡スベキ指揮官ノ移動ニ伴ヒ逐次通信所ヲ開設セシムルカ若クハ連絡スベキ時刻又ハ位置ヲ指定シテ通信所ヲ開設セシム而シテ連絡ノ中絶ヲ避クル爲聯隊本部等ニハ爲シ得ル限り二機以上ヲ配當シ

テ逐次躍進セシムルヲ可トス。視號通信網ノ推進要領ハ前項ニ準ズ。有線小隊長小隊ヲ部署スルニハ勉メテ現地ニ就キ要スレバ要圖等ヲ與ヘ狀況、自己ノ企圖、分隊ノ任務、要スレバ線路構成ノ方法、保線及撤收ノ方法等ヲ示ス而シテ分隊ノ任務ハ通常連絡スベキ指揮官及其ノ位置、分隊ノ經路、要スレバ完成時期ヲ以テ示ス。視號班ニ任務ヲ與フルニハ通常連絡スベキ指揮官及其ノ位置、呼出符號等ヲ以テ示ス。無線小隊長小隊ヲ部署スルニハ勉メテ現地ニ就キ要スレバ要圖等ヲ與ヘ狀況、自己ノ企圖、分隊ノ任務、要スレバ通信法、通信所ノ交代法、分隊ノ進路等ヲ示ス而シテ分隊ノ任務ハ通常連絡スベキ指揮官及其ノ位置、通信系、通信諸元、要スレバ通信開始時期ヲ以テ示ス。小隊長ハ一通信系中一分隊ヲ統制通信所トシ通信實施上所要ノ統制ヲ行ハシム之ガ爲通常聯絡本部ニ位置スル分隊ヲ統制通信所ト爲ス。第六百四十一、戰團間小隊長ハ通常指揮ニ便ナル所ニ位置シ通信ノ狀態ヲ監視シ且所要ノ分隊ニ逐次新ナル任務ヲ與ヘテ適時通信網ヲ推進シ變更シ有線、無線ノ視號ノ連繫ヲ適切ナラシム又特ニ戰況ノ推移ヲ判斷シ通信隊長ノ企圖ニ基キ事前ノ準備ヲ周到ニシ要スレバ重要ナル方面ノ分隊ヲ直接指導シテ自己ノ意圖ノ如ク通信ニ任ゼシム。

又隊長歩 第六百四十二 通信隊長ハ歩戰砲各指揮官ノ協定ニ基キ特ニ突撃及爾後ニ於ケル 定及諸施 通信連絡ニ關シ豫メ協定ヲ遂ゲ之ガ完全ヲ期スルヲ要ス之ガ爲戰車及砲兵ノ連絡 者及通信機關ト密ニ連絡シ此等ニ與フベキ援助、通信施設保全ノ爲戰車及砲兵ノ 知ルベキ事項、歩戰及歩砲間ニ直接通信實施ヲ要スル場合ノ通信系、通信諸元、 通信法、通信開始時期、要スレバ副通信ノ手段等ヲ定メ爾後適時此等ヲ補綴 ス。 第一線部隊敵ニ近接シ戰團激烈トナルモ通信隊ハ幹部以下ノ沈著勇敢ナル動作ニ 依リ連絡ノ確保ニ遺憾ナキヲ要ス。 第六百四十三 防禦ニ在リテハ通信隊長ハ時間ノ許ス限り綿密ニ計畫ヲ定メテ通 信隊ヲ部署シ整然タル通信施設ヲ爲シ聯隊長ト其ノ所屬指揮官、監視及觀測機關 等ト連絡ス。 通信施設ハ地形ヲ利用シ極力工事、偽裝ヲ施スト共ニ補修材料、豫備器材等ヲ整 へ被毒防止及制毒ノ準備ヲ爲ス等手段ヲ盡クシテ戰團激烈ナル時機ニ於テモ連絡 ヲ中絶セシメザルコト緊要ナリ。 第六百四十四 夜間通信網ヲ構成スルニ方リテハ所要ノ部隊ト協定ヲ遂ゲ之ヲ各 小隊ニ徹底セシメ事前ノ準備ヲ整フ夜間ハ巧妙複雜ナル部署ヲ避クルト共ニ錯誤 ノ豫防及秘密ノ保持ニ關シ特ニ留意スルヲ要ス。 第六百四十五 戰團間通信隊長(小隊長)ハ適時通信網及連絡ノ狀態、通信隊(小 隊)ノ現況就中推進能力等ヲ聯隊長(通信隊長)ニ報告シ且關係アル連絡機關ニ通

集合隊形
第六百五十一
第六百五十二
第六百五十三
第六百五十四
第六百五十五

第一章 集合隊形
第六百五十一 聯隊ノ集合隊形ハ大隊ノ集合隊形ヲ一線、二線又ハ三線ニ配置ス而シテ大隊間ノ距離間隔ハ通常二十歩トス
第六百五十二 聯隊ハ軍旗ヲ奉ジ有ユル難局ヲ克服シテ其ノ特色ヲ發揮シ戰勝ノ獲得ニ邁進スルモノトス
第六百五十三 聯隊ヲ展開スルニハ聯隊長ハ成ルベク大隊長等ヲ集メ狀況及自己ノ企圖ヲ示シ任務ヲ與フ此ノ際協同スベキ戰車、砲兵等ノ指揮官ヲモ會同セシメ得ハ有利ナリ

撤退
第六百四十九
第六百五十

第七篇 聯隊教練
第六百四十九 聯隊ハ將校團ノ團結、教育ノ統一、編制及歴史ニ基キ獨立シテ一方面ニ於ケル戰闘ヲ遂行スルニ特ニ適スルモノトス
第六百五十 聯隊長ハ聯隊ヲ指揮スル爲命令ヲ用フ

本部諸機 關 配屬ノ 用法 配屬出ノ 用法 消毒隊用 法 近接戰特 種資材 戰備指導

ヲ所要ノ部下指揮官ニ配屬スルコトアリ
聯隊長ハ通信施設ニ要スル時間ヲ考慮シ機ヲ失セズ通信隊ニ所要ノ憑據ヲ與ヘ極
力展開ヲ終ル迄ニ通信網ヲ完成セシム爾後適時企圖ヲ示シ通信隊ノ行動ヲシテ常
ニ狀況ニ適合セシム
第六百六十一 聯隊本部諸機關ニ關シテハ大隊ニ示セル所ニ準ズ
第六百六十二 戰車ヲ配屬セラレタルトキハ聯隊長ハ戰車ニ其ノ攻撃目標等所要
ノ事項若クハ協同スベキ部隊ヲ示シ第一線歩兵ノ戰闘ニ直接協同セシム戰車ヲ第
一線大隊ニ配屬スル場合ニ於テハ勉メテ中隊ノ分割ヲ避ク
聯隊長ハ戰車ヲ大隊ニ配屬スル場合ニ於テモ爲シ得レバ使用ノ時機及地點ヲ示シ
テ統合戰闘力ノ發揮ニ遺憾ナカラシム
第六百六十三 砲兵ヲ配屬セラレタルトキハ聯隊長及砲兵ニハ狀況及砲ノ特性ニ
應ジ射擊區域(目標)ヲ示シテ任務ノ分界ヲ明カニシ或ハ達成スベキ目的ヲ示シテ
彈丸先ノ協調ヲ爲サシム
第六百六十四 制毒部隊ヲ配屬セラレタルトキハ通常之ヲ直轄使用ス狀況ニ依リ
一部ノ歩兵ヲシテ制毒部隊ノ作業ヲ援助セシムルコトアリ
第六百六十五 近接戰闘ノ爲聯隊ニ特種ノ資材ヲ交付セラレタルトキハ聯隊長ハ
適宜之ヲ大隊ニ配當シテ固有裝備ヲ増強シ又ハ一部ノ固有裝備ニ代ヘ要スレバ特
種ノ部隊ヲ編成シ近接戰闘ノ威力ヲ遺憾ナク發揮セシム
第六百六十六 聯隊長ハ戰闘ノ進捗ニ伴ヒ第一線ニ近ク進出シ各大隊ノ戰闘ヲ指

攻撃目標 戰闘地域 大目 長測兵力 聯備隊ノ 出 點ノ用法 兵ノ用法 點方面ニ於ケル 第一線大隊ニ配屬ス 聯隊砲ニ任務ヲ與フルニハ協同スベキ部隊又ハ射擊區域(目標)ヲ以テシ且要スレ 第六百五十七 聯隊ニ連射砲ヲ有スルトキハ聯隊長ハ通常之ヲ第一線大隊ニ配屬 第六百五十八 作業隊ハ障礙物ノ破壞、陣地内ノ掃蕩、主要ナル瓦斯勤務等ノ爲 第六百五十九 通信隊ハ通常戰闘ノ全經過ニ互リ聯隊長ト所要ノ部下指揮官要ス 第六百六十 砲兵、隣接部隊ノ指揮官等トノ連絡ノ爲用フ狀況ニ依リ一部

第六百五十四 聯隊長ハ攻撃ニ在リテハ通常各大隊ニ聯隊ノ攻撃目標ヲ示シ第一
線大隊ニ其ノ攻撃目標及戰闘地域ヲ示ス
大隊ノ攻撃目標ヲ示スニハ通常攻撃スベキ敵若クハ敵ノ第一線ト爾後攻撃シテ進
出スベキ地線若クハ攻撃前進スベキ方向トヲ以テス
第六百五十五 聯隊長ハ展開ニ方リ第一線ノ兵力ヲ勉メテ節約スルヲ要ス
狀況ニ依リ豫備隊タル大隊ノ重兵器時トシテ第一線大隊ノ所要ノ對戰車兵器ヲ直
轄使用シ或ハ一時他ノ大隊ニ轉屬ス
第六百五十六 聯隊砲ハ敵ノ重兵器時ニ大隊砲ノ威力ノ及バザル目標時トシテ砲
兵ノ火制困難ナル地區ノ近キ目標其ノ他必要ナル目標ヲ射撃シ第一線大隊特ニ重
點方面ニ於ケル大隊ノ攻撃ニ協同セシム之ガ爲通常聯隊長直轄使用シ狀況ニ依リ
第一線大隊ニ配屬ス
聯隊砲ニ任務ヲ與フルニハ協同スベキ部隊又ハ射擊區域(目標)ヲ以テシ且要スレ
バ陣地ノ概要、行動ノ準據、使用彈藥ノ概數等所要ノ事項ヲ示ス
第六百五十七 聯隊ニ連射砲ヲ有スルトキハ聯隊長ハ通常之ヲ第一線大隊ニ配屬
ス狀況ニ依リ聯隊長直轄使用スルコトアリ
第六百五十八 作業隊ハ障礙物ノ破壞、陣地内ノ掃蕩、主要ナル瓦斯勤務等ノ爲
第六百五十九 通信隊ハ通常戰闘ノ全經過ニ互リ聯隊長ト所要ノ部下指揮官要ス
第六百六十 砲兵、隣接部隊ノ指揮官等トノ連絡ノ爲用フ狀況ニ依リ一部

ノ資務
班大五五
裝甲運搬車
戰闘間彈藥班
大五六

等ノ射撃ニ任ゼシム
第四章 彈藥及資材ノ補充、聯隊彈藥班ノ行動
第六百六十九 聯隊長ハ大隊長ニ就キ示セル所ニ準ジ彈藥及資材ノ使用ニ關シ計
畫指導シ且之ガ補充ニ遺憾ナカラシム
第六百七十 戰闘間各大隊、聯隊砲中隊等ノ彈藥、資材ハ通常聯隊長ノ命令ニ依
リ聯隊彈藥班ニ就キ補充ス狀況ニ依リ聯隊彈藥班ノ一部ヲ分進セシムルコトア
リ
聯隊長ハ適時聯隊彈藥班ヲシテ彈藥交付所ニ就キ彈藥、資材ヲ補充セシメ又所要
ニ應ジ兵器ノ修理等ニ任ゼシム
裝甲運搬車ヲ配屬セラレタルトキハ通常聯隊長直轄使用シ主トシテ戰線ニ彈藥、
資材ヲ直接補充セシム
第六百七十一 戰闘間聯隊彈藥班ノ行動ハ大隊彈藥班ニ準ズ

ノ用法
聯隊夜間
攻撃
大三八一五
食用法
聯隊砲
防禦戰闘
大五九一五

導シテ所期ノ突撃ヲ實行セシメ要スレバ自ラ有スル火力等ヲ以テ突撃ヲ誘起シ又
ハ戰機ヲ看破シテ突撃ヲ命ズ
聯隊長ハ豫備隊ヲ以テ機ヲ失セズ第一線大隊ノ獲得セル戰果ヲ擴張ス
第六百六十六 聯隊長ハ防禦ニ在リテハ抵抗地帯ノ前線、第一線大隊ノ戰闘地域
要スレバ其ノ占領區域ヲ示シ側防ノ關係ヲ律シ且據點相互ノ間隙ニ對スル處置ヲ
講ズ而シテ戰闘地域ハ通常抵抗地帯ノ後端附近ヨリ警戒陣地ノ附近ニ互リ劃定
ス
聯隊砲ハ通常聯隊長直轄使用シ時トシテ第一線大隊ニ配屬ス狀況ニ依リ豫備隊ノ
重火器ヲシテ第一線大隊ニ協同セシムルコトアリ
作業隊ハ重要ナル作業、主要ナル瓦斯勤務等ニ任ゼシム
第三章 夜間戰闘
第六百六十七 夜間攻撃ニ於ケル攻撃目標ハ攻撃ノ目的ニ基キ狀況特ニ敵陣地ノ
狀態等ニ應ジ戰術上ノ要求ヲ考慮シ通常敵陣地ノ要部ニ選定ス
夜間攻撃ニ於テハ聯隊長ハ大隊毎ニ各個ノ攻撃目標ヲ與フニ其ノ戰術上ノ要
大隊ヲ併列シテ夜間攻撃ヲ行フニ方リテハ聯隊長ハ各大隊ノ突入時機要スレバ運
動規正ノ爲所要ノ事項ヲ示ス
縱深深ク敵陣地ヲ奪取スルニ方リ大隊ヲ重疊シテ二線ノ攻撃部隊ヲ設クル場合ニ
於テハ第二線大隊ノ超越前進スベキ位置及時機ハ聯隊長之ヲ命ズ
第六百六十八 夜間攻撃ニ方リテハ聯隊砲ハ通常殘置シ所要ニ應ジ敵ノ照明機關

附 錄

其ノ一 觀兵ノ制式、刀及喇叭ノ操法

閱兵式隊ノ形 第一 閱兵式ノ隊形(附圖第一)ハ大隊ノ縱隊橫隊ヲ一線若クハ三線ニ配置シ聯隊ノ步兵砲隊、通信隊等ハ橫隊ヲ以テ其ノ左翼若クハ後方ニ配置ス

分列式隊ノ形 分列式ノ隊形(附圖第二)ハ一般步兵中隊ニ在リテハ併立縱隊又ハ中隊縱隊ヲ、重兵器、通信隊等ニ在リテハ橫隊又ハ之ニ準ズル隊形ヲ用フ

作業隊ノ隊形 作業隊ノ隊形ハ一般步兵中隊ニ準ズ

分列進行ノ起サシムルニハ通常大隊長、聯隊ノ步兵砲隊長、通信隊長等ハ第一列ノ右側(押伍列)ニ在ル小隊長、指揮班長以外ノ者ヲ列中ニ入レタル後、分列に前へ進メレノ號令ヲ下ス

刀及喇叭ノ操法

第三 刀ハ佩環ヲ鈎ニ懸ケ柄ヲ後ロニシテ佩ブ馬上ニ在リテハ鈎ニ懸ケズ

第四 各級指揮官(指揮班長ヲ含ム)ハ密集隊形(大隊以上ハ集合隊形)ニ在リテハ通常拔刀ス但シ戰鬥ニ際シテハ所要ノ時機ニ拔刀ス

第五 刀ヲ拔クニハ左手ニテ柄ヲ前ニシ佩環ノ所ヲ握リ右手ニテ刀ヲ拔キ右臂ヲ右前上方ニ伸バシ次デ肩刀ヲ爲シ同時ニ左手ヲ下ロス

肩刀ハ柄ヲ右手ノ拇指ト食指及中指トノ間ニ保チ他ノ二指ヲ柄ノ外ニ附シ其ノ

手ヲ右腕骨ノ稍、下方ニ著ケ刀身ヲ垂直ニ立テ刀背ヲ肩ニ托シ肘ヲ稍、後方ニ拔刀ノ儘休憩スルニハ右臂ヲ垂レ或ハ之ヲ體ノ前ニ致シ左手ニテ右手ヲ支ヘ刀身ヲ臂ニ托ス

第六 刀ヲ納ムルニハ刀ヲ垂直ニ上ゲ刀面ヲ顔ノ前ニシ切羽ヲ口ノ高サニシ同時ニ左手ニテ佩環ノ所ヲ握リ鯉口ヲ前ニシ之ニ注目シテ刀ヲ納ム

第七 拔刀ノ儘進行スルニハ柄ヲ握リ臂ヲ垂レ刀背ヲ上膊ニ托シ輕ハ懸ケタル儘左手ニテ握リ(拔刀セザルトキハ之ニ準ス)兩臂ヲ自然ニ振ル但シ分列進行ニ在リテハ肩刀トス

第八 馬上ニ在リテ拔刀スルニハ左手ニ纏ヲ執リ右手ニテ拔刀ス肩刀ハ柄頭ヲ右股ニ托シ右手ノ脈部ヲ腕骨ニ接ス

第九 拔刀シアルトキ刀緒ハ觀兵式其ノ他所要ニ應ジ右手ニ嵌ム

第十 喇叭ヲ携フルニハ懸紐ヲ頸ニ懸ケ右手ニテ拇指ヲ上ニシ食指ヲ緊定螺壓螺ニ接シテ握リ接著管ヲ輕ク右手ノ脈部ニ接シ中指ヲ概本袴ノ縫目ニ當テ正シク前ニ向カシム進行スルトキハ之ヲ自然ニ振ル

第十一 喇叭ヲ吹奏スルトキハ接著管ヲ左ニシテ水平ニ保ツ

其ノ二 對戰車肉薄攻擊

第一 對戰車肉薄攻擊ハ自衛ノ爲行フ之ガ爲敵戰車ノ近迫スルヲ待チテ攻撃スルヲ通常トス狀況ニ依リ自ラ進ンデ攻撃スルコトアリ

肉薄攻撃ノ要訣	攻撃ノ好機	爲ラシキ	肉薄攻撃ノ要訣	攻撃ノ好機	爲ラシキ															
第二	肉薄攻撃ノ要ハ好機ニ乘ジテ突如肉薄シ決死ノ攻撃ヲ行フニ在リ	戰車ノ障礙ノ通過、斜面ノ攀登等行動遲緩スルトキ、戰車相互及歩兵ト分離セルトキ、隱蔽地ヲ通過スルトキ並ニ夜間、黎明、薄暮等ハ通常攻撃ノ好機ナリ狀況之ヲ許セバ煙ヲ使用シ或ハ戰車地雷ヲ布置スル等ノ手段ヲ講ジ積極的ニ好機ヲ作爲ス	第三	各部隊ハ所要ニ應ジ肉薄攻撃ヲ準備ス之ガ爲小隊若クハ之ニ準ズル部隊以上ノ長ハ通常長以下二、三名ヲ以テ肉薄攻撃組ヲ編成シ爆藥、手榴彈、發煙筒其ノ他ノ材料ヲ携帶セシム中隊長ハ要スレバ若干ノ組ヲ以テ班ヲ編成シ通常下士官ヲ以テ長ト爲ス	第四	肉薄攻撃班(組)ヲ準備セル部隊ノ長ハ敵戰車ノ攻撃ヲ豫期スルヤ地形、對戰車射擊、對戰車障礙等ヲ考慮シ機ヲ失セズ肉薄攻撃班(組)ヲ配置ス狀況ニ依リ豫メ配置スルコトアリ何レノ場合ニ於テモ肉薄攻撃班(組)ノ行動ヲ掩護スルヲ可トス	第五	肉薄攻撃班(組)ヲ配置スルニハ其ノ位置、擔任區域、要スレバ對戰車射擊トノ關係、攻撃要領、爾後ノ行動等ヲ示ス此ノ際勉メテ各兵ヲ輕裝セシメ偽裝ヲ十分ナラシム	第六	肉薄攻撃班(組)長ハ任務ヲ受クルヤ地形ヲ觀察シ攻撃實施ノ要領ヲ考案シ要スレバ豫メ各組(兵)ノ配置、攻撃實施ノ要領等ヲ示ス	第七	肉薄攻撃班(組)長ハ任務ヲ受クルヤ地形ヲ觀察シ攻撃實施ノ要領ヲ考案シ要スレバ豫メ各組(兵)ノ配置、攻撃實施ノ要領等ヲ示ス	第八	肉薄攻撃班(組)長ハ任務ヲ受クルヤ地形ヲ觀察シ攻撃實施ノ要領ヲ考案シ要スレバ豫メ各組(兵)ノ配置、攻撃實施ノ要領等ヲ示ス	第九	肉薄攻撃班(組)長ハ任務ヲ受クルヤ地形ヲ觀察シ攻撃實施ノ要領ヲ考案シ要スレバ豫メ各組(兵)ノ配置、攻撃實施ノ要領等ヲ示ス	第十	肉薄攻撃班(組)長ハ任務ヲ受クルヤ地形ヲ觀察シ攻撃實施ノ要領ヲ考案シ要スレバ豫メ各組(兵)ノ配置、攻撃實施ノ要領等ヲ示ス	第十一	肉薄攻撃班(組)長ハ任務ヲ受クルヤ地形ヲ觀察シ攻撃實施ノ要領ヲ考案シ要スレバ豫メ各組(兵)ノ配置、攻撃實施ノ要領等ヲ示ス

肉薄攻撃ノ要訣	攻撃ノ好機	爲ラシキ	肉薄攻撃ノ要訣	攻撃ノ好機	爲ラシキ							
失セズ各組(兵)ヲ配置ス	第七	肉薄攻撃ノ爲ニハ通常一組ニ數戰車ヲ配當ス組ハ各戰車ニ一名ヲ配當シテ攻撃セシムベキヤ或ハ組ヲ以テ攻撃スベキヤハ狀況ニ依ル	第八	肉薄攻撃ニ方リテハ勇猛機敏ナル行動ニ依リ一擊以テ確實ニ奏功ヲ期スベシ然レドモ若シ效果確實ナラザルトキハ執拗ナル攻撃ヲ反復シ飽ク迄目的ヲ達成スルヲ要ス	第九	肉薄攻撃ニ方リ班(組)長ハ通常各組(兵)ニ目標ヲ示シ適時攻撃セシム此ノ際先ヅ先頭戰車或ハ指揮官戰車ヲ破摧スルヲ得バ有利ナリ	第十	組ハ適宜散開シテ速カニ配置ニ就キ地形地物ヲ利用シテ潜伏シ爆藥ニ點火ノ準備ヲ爲シ隱忍敵戰車ノ近迫スルヲ待チ要スレバ煙ヲ使用シ好機ニ乘ジ突如躍進シテ戰車ノ死角内ニ突進シ爆藥ニ點火シテ車體ニ裝著シ或ハ爆藥ヲ履帶下ニ挿入シ或ハ適宜ノ應用材料ヲ以テ攻撃ス此ノ際過早ニ躍進スルトキハ敵戰車ヲシテ回避行動ヲ爲サシメ或ハ戰車掩護部隊等ノ爲機ニ先ダチ損害ヲ被ルコトアルニ注意スルヲ要ス	第十一	戰車ニ對シ組ヲ以テ攻撃スル場合ニ於テハ攻撃ニ任ズル兵相互ニ危害ヲ被ラザル如ク攻撃ノ時機ト地點トヲ適切ナラシム	第十二	敵戰車至近距離ニ近迫シテ停止シ射擊スル場合ニ於テハ肉薄攻撃班(組)ノ如ク攻撃ノ時機ト地點トヲ適切ナラシム

裝填抽出
 立射
 膝(伏)射
 一般操法
 第一 十一年式輕機關銃ノ操法
 第二 擔銃(立銃)ヲ爲スニ方リテハ左手ニテ銃把ヲ握リ銃ヲ擔ク(下ロス)
 第三 右(左)向、後向、立銃等ヲ爲スニ方リ銃ヲ地ニ置クニハ床尾ヲ置ク所ニ注
 目ス
 第四 裝填スルニハ銃ニ注目シテ之ヲ體ニ托シ兩手ニテ脚桿ヲ開キ左手ニテ脚桿
 ノ基部ヲ、右手ニテ銃把ヲ握ルト同時ニ左足ヲ約一步前ニ踏出シ銃ヲ据エ右膝ヲ
 地ニ著ケ左手ニテ壓桿ヲ起シ彈箱ヨリ彈藥ヲ撮ミ出シ裝填架ニ込メ壓桿ヲ閉チ安

進ノ進攻
 第十二 攻撃奏功セバ班(組)長ハ直チニ各組(兵)ヲ指揮シテ敵ノ後續戰車ヲ攻撃
 セシメ或ハ速カニ各組(兵)ヲ掌握シテ爾後ノ行動ヲ準備ス
 第一 拳銃ノ取扱ニ際シテハ不慮ノ危害ヲ生ゼザル如ク注意スルヲ要ス
 第二 拳銃ヲ操作スルトキハ射撃ノ外銃ニ注目シテ行フ
 第三 拳銃ヲ出スニハ蓋ヲ開キ右手ニテ銃把ヲ握リテ出シ左手ニテ蓋ヲ閉ヂ
 次デ右拳ヲ右肩ノ前約十釐ノ所ニ於テ之ト同ジ高サニ上ゲ銃口ヲ上ニ向ケ用心鐵
 ヲ前ニシ食指ヲ之ニ沿ヒテ伸バス
 第四 拳銃ヲ納ムルニハ前項ト反對ノ順序ニ操作ス
 第五 拳銃ニ彈倉ヲ挿入スルニハ拳銃ヲ體ノ正面ニ下ゲ銃口ヲ左前下ニ向ケ左手
 ニテ彈倉ヲ彈倉室ニ徐ロニ挿入シ掌ニテ十分彈倉底ヲ壓著ス此ノ際彈倉止ニ右手
 ノ拇指ヲ觸レシメザルヲ要ス
 第六 彈倉ノ抽出スルニハ前項ト反對ノ順序ニ操作ス
 第七 彈倉ヲ抽出スルニハ先ヅ彈倉ヲ抽出シ裝填ノトキノ如ク銃ヲ保チ左手ニテ圓筒ヲ
 筒ヲ十分ニ引キ一舉ニ之ヲ放ツ
 第八 彈藥ヲ抽出スルニハ先ヅ彈倉ヲ抽出シ裝填ノトキノ如ク銃ヲ保チ左手ニテ圓筒ヲ
 徐ロニ引キ彈室ノ殘彈ヲ抽出シ殘彈ヲキヲ確メ遊底ヲ閉ツ
 第九 彈藥ヲ抽出シタル後空彈倉ヲ挿入セルトキハ空撃ヲ爲シ置クヲ要ス
 第十 立射ノ姿勢ヲ止ムルニハ先ヅ目標ニ正對シ頭ヲ其ノ方向ニ保チ左足尖ニテ半
 バ左ニ向キツツ右足ヲ約半歩右前ニ踏出ス
 第十一 立射ノ姿勢ヲ復スルニハ目標ノ方向ニ向キツツ左足ヲ右足ニ引著ケ拳銃ヲ出シア
 ルトキノ姿勢ニ復ス
 第十二 膝(伏)射ノ姿勢ハ小銃ノ膝(伏)射ニ準ズ
 第十三 其ノ四 十一年式輕機關銃ノ操法
 第十四 外以下示ス所ニ據ル
 第十五 目ス
 第十六 裝填スルニハ銃ニ注目シテ之ヲ體ニ托シ兩手ニテ脚桿ヲ開キ左手ニテ脚桿
 ノ基部ヲ、右手ニテ銃把ヲ握ルト同時ニ左足ヲ約一步前ニ踏出シ銃ヲ据エ右膝ヲ
 地ニ著ケ左手ニテ壓桿ヲ起シ彈箱ヨリ彈藥ヲ撮ミ出シ裝填架ニ込メ壓桿ヲ閉チ安

換行法
眼鏡照準
具ヲ用フ
ルトキ
眼鏡ニ依
ル射撃
陣地變換
射向修正
隊形分隊

第一 照準具體(眼鏡)ハ囊ニ納メ三(四)番左肩ヨリ右脇ニ懸ケ携行ス
第二 照準具體ヲ用フルトキハ陣地進入ニ先ダテ照準具體ヲ銃ニ裝ハ
照準具體ヲ裝スルニハ分隊長ノ指示ニテ三番ハ之ヲ四(二)番ニ渡シ四(二)番ハ
照準具體ヲ蓋ヲ脱シテ三番ニ渡シ照準具體ヲ照準具體ヲ裝シ方向分画ヲ零ニ
シ俯仰匡ヲ十分下ゲタル後緊定螺ヲ緊メ高低分画ヲ定位ニス三番ハ照準具體ヲ蓋
蓋ヲ囊ニ納ム
第三 照準具體ヲ銃ヨリ脱スルニハ前項ト概ネ反對ノ順序ニ操作ス
第四 陣地變換ニ方リテハ四番ハ銃ノ操作ヲ爲シタル後眼鏡ノミヲ脱ス
第五 射向ノ修正ハ通常回轉板分画ニ依ル
第六 其ノ六 鞍馬編制大隊砲及速射砲教練
第一 鞍馬編制大隊砲及速射砲教練ハ第四篇ニ準ズルノ外以下示ス所ニ據ル
第二 繫駕セル分隊ノ隊形及分隊長以下ノ定位第一圖ノ如シ

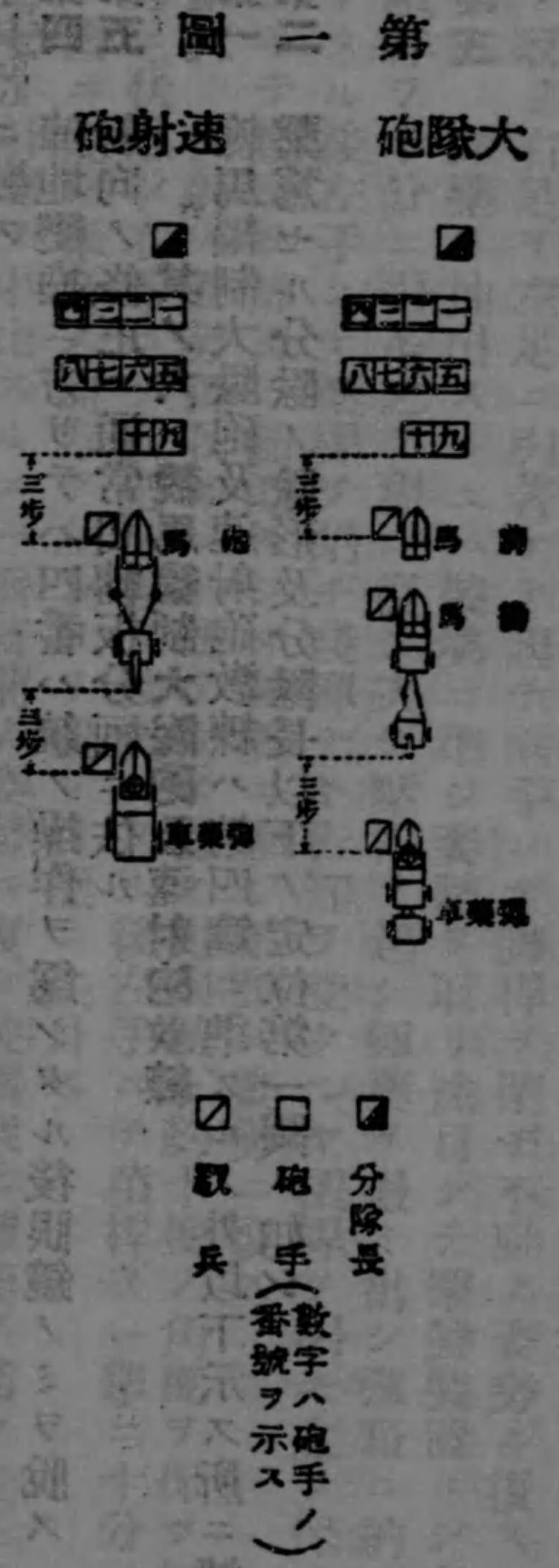
彈藥抽出
伏射ノ姿
射撃中止
脚桿ノ高
(低)操作
直接地物
依托
早座等ノ
運動時握
革ニ依ル
握方

全裝置ニシ彈箱ノ蓋ヲ閉ヂ次テ握革ニ依リ放熱筒ノ中央部附近ヲ下ヨリ握リテ銃
ヲ取り右足ヲ左足ニ引著ケテ起チ兩手ニテ脚桿ヲ閉ヂ不動ノ姿勢ニ復ス
第五 彈藥ヲ抽出スルニハ裝填ニ準ジ姿勢ヲ取り注目シテ擊發裝置ニシ左手ニテ
槓桿ヲ十分ニ引キ之ヲ舊ニ復シ次テ槓桿ヲ起シ彈藥ヲ撮ミ出シ彈箱ニ納メ蓋ヲ閉
ヂタル後左手ニテ壓桿ヲ閉ヂ殘彈ナキ告知ヲ受クルヤ槓桿ヲ引キ之ヲ保チ引鐵ヲ
引キテ遊底ヲ靜カニ前進セシメ裝填ニ準ジ不動ノ姿勢ニ復ス
第六 伏射ノ姿勢ヲ取ルニハ銃ヲ据エ體ノ方向銃ト約十度ノ角度ヲ保ツ如ク左後
方ニ伏臥シ右手ニテ銃把ヲ握リ裝填シタル後左手ニテ槓桿ヲ一擧ニ十分ニ引キ之
ヲ舊ニ復シ床鼻ノ前方ヲ左上ヨリ握リ目標ニ注目ス
第七 射撃ヲ中止スルニハ据銃前ノ姿勢ニ復シ裝填架ニ彈藥ヲ補フ
第八 射撃ニ方リ脚桿ヲ低(高)クスルニハ脚桿ノ位置ヲ移動スルコトナク銃ヲ僅
カニ前方ニ出シ且體ヲ少シク前ニ進メ右手ニテ脚止栓ヲ抽出シ(押入レ)體ヲ後退
シ銃ヲ後方ニ引ク
第九 銃ヲ直接地物ニ依托シテ射撃スルノ止ムナキトキハ挿彈子ノ落下ヲ妨ゲザ
ルコトニ注意ス
第十 戰間早座(速歩)ヲ以テ運動スルニ方リテハ右手ニテ銃把ヲ、左手
ニテ握革ニ依リ放熱筒ノ中央部附近ヲ下ヨリ握ル
其ノ五 九四式眼鏡照準具ノ操法

第一 一般操法
 第二 平射歩兵砲教練ハ第四篇ニ準ズルノ外以下示ス所ニ據ル
 第三 平射歩兵砲ノ主要ナル任務ハ敵ノ重火器ヲ撲滅若クハ制壓シ第一線歩兵ノ
 近距離ニ於ケル戰鬪ニ協同スルニ在リ状況ニ依リ對戰車射撃ニ任ズルコトアリ

第四 分隊長ハ兵ノ動作ヲ監視ス
 第五 大隊砲ニ在リテハ一、二番ハ提桿ヲ提ゲ左ニ廻ハリ砲ヲ鋼紐ニ連結シ一番ハ提
 桿ヲ脱シテ前車ノ右側ニ縛ル三番ハ携帶箱及標桿ヲ受取り之ヲ、五番ハ照準具
 箱ヲ、四番ハ曳綱、洗桿ヲ受取り之ヲ前車ニ載セ又ハ縛著ス六番以下ハ彈藥箱
 ヲ彈藥車前車ノ兩側ニ運ビ六、七、八番ハ之ヲ載セ九、十番ハ前馬ヲ繋グ
 速射砲ニ在リテハ砲馬駟兵ハ聯隊砲ニ準ジテ動作シ一、三番ハ曳綱ヲ二番ニ渡
 シ轆桿ヲ環革ニ通シ轆桿端環ヲ丁字鎖ニ掛ケ轆桿控革ヲ托環ニ通シテ縛ル二番
 ハ担綱ト共ニ一、三番ノ曳綱ヲ、四番ハ曳綱及兩頭槌ヲ、五番ハ曳綱及第一屬
 品箱ヲ、六乃至十番ハ彈藥箱ヲ彈藥車ニ載ス
 第六 動作終レバ分隊長以下背囊ヲ負ヒ定位ニ就ク
 第七 繫駕セル分隊長以下背囊ヲ負ヒ定位ニ就ク
 第八 繫駕セル分隊長以下背囊ヲ負ヒ定位ニ就ク
 第九 繫駕セル分隊長以下背囊ヲ負ヒ定位ニ就ク
 第十 繫駕セル分隊長以下背囊ヲ負ヒ定位ニ就ク

第一 砲隊大
 第二 砲射速
 第三 分隊長、砲手相互ノ距離間隔ハ一般歩兵ノ縱隊ニ同ジ
 第四 大隊砲ニ在リテハ砲ヲ運搬ノ姿勢ニシ砲尾ヲ砲尾受ニ托シ緊定桿ヲ緊メ安全裝
 置ニシ諸被ヲ裝ス
 第五 速射砲ニ在リテハ高低角ヲ零ニシ砲尾ヲ砲尾托架ニ托シ安全裝置ニシ諸被ヲ裝
 第六 脱駕セル分隊長ノ隊形及分隊長以下ノ定位ハ第四篇ニ準ズ但シ大隊砲ニ在リ
 第七 脱駕セル分隊長ノ隊形及分隊長以下ノ定位ハ第四篇ニ準ズ但シ大隊砲ニ在リ
 第八 脱駕セル分隊長ノ隊形及分隊長以下ノ定位ハ第四篇ニ準ズ但シ大隊砲ニ在リ
 第九 脱駕セル分隊長ノ隊形及分隊長以下ノ定位ハ第四篇ニ準ズ但シ大隊砲ニ在リ
 第十 脱駕セル分隊長ノ隊形及分隊長以下ノ定位ハ第四篇ニ準ズ但シ大隊砲ニ在リ



隊形

砲ハ低姿勢トシ提棍甲(乙)ヲ右(左)ニ裝シ砲身ヲ概ネ水平ニシテ緊定螺ヲ緊メ且其ノ方向ヲ正シ安全裝置ニシ洗桿ヲ砲腔ニ挿シ拉繩ヲ擊鐵ニ掛ケ砲口被、砲尾被及表尺被ヲ裝ス携帶箱ハ蓋止ヲ、彈藥箱ハ托環ヲ前ニス

第四 卸下セル分隊隊載スルニハ「載セ」ノ號令ニテ左ノ如ク動作ス

架馬 隊兵ハ馬ヲ三脚架ノ後方約八歩ニ導キ砲馬隊兵ハ馬ヲ導キテ架馬隊兵ノ後方約五歩ニ到リ共ニ馬ノ正面ニ立チ之ヲ保ツ

六(七) 番ハ彈藥箱ヲ架馬ノ左(右)ニ運ビテ置キ縛革ヲ解キ彈藥箱ノ托環ヲ外ニ向ケ左右同時ニ載セ五番ハ携帶箱ヲ砲馬ノ左ニ運ビ第一屬品箱ニ納メ縛革ヲ托環ニ通シテ縛ル八番ハ砲馬ノ右ニ到リ縛革ヲ解ク七(八) 番ハ三脚架(砲身)ヲ駄載シタル後提棍乙(甲)ヲ彈藥箱(屬品箱)ト共ニ縛ル屬品箱ヲ卸下シアルトキハ五(八) 番ハ第一(第二)屬品箱ヲ砲馬ノ左(右)ニ運ビテ載ス

一番ハ提棍甲ヲ脱シ砲尾ヲ約十纏高クシ緊定螺ヲ緊ム三番ハ後脚ノ中間ニ入り砲尾被ヲ脱シテ二番ニ渡シ砲耳蓋板ヲ開ク二番ハ提棍乙ヲ脱シ砲身ノ左ニ置キ砲尾被ヲ受取り砲口前ヨリ左(右)手ニテ洗桿(搖架ノ下面)ヲ支ヘ三番ト協同シテ砲身(搖架共)ヲ脱ス四番ハ擊鐵ヲ上ゲ一番ハ提棍甲ヲ砲尾ニ裝シ四番ト共ニ兩端ヲ持ツ次デ三番ハ姿勢ヲ低クシ一、二、四番ハ砲身(搖架共)ヲ駄馬ノ左ヨリ砲馬ノ後ロニ運ビ左ニ旋回シ二番ノ「宜シ」ノ合圖ニテ載セ二番ハ砲馬ノ右ニ移リ五番ト協同シテ縛リ砲尾被ヲ裝ス四番ハ提棍甲ヲ八番ニ渡シ一(四) 番ハ三脚架ノ左(右)ニ到ル

分隊隊形

第三 分隊ノ隊形及分隊長以下ノ定位第二、第三圖ノ如シ

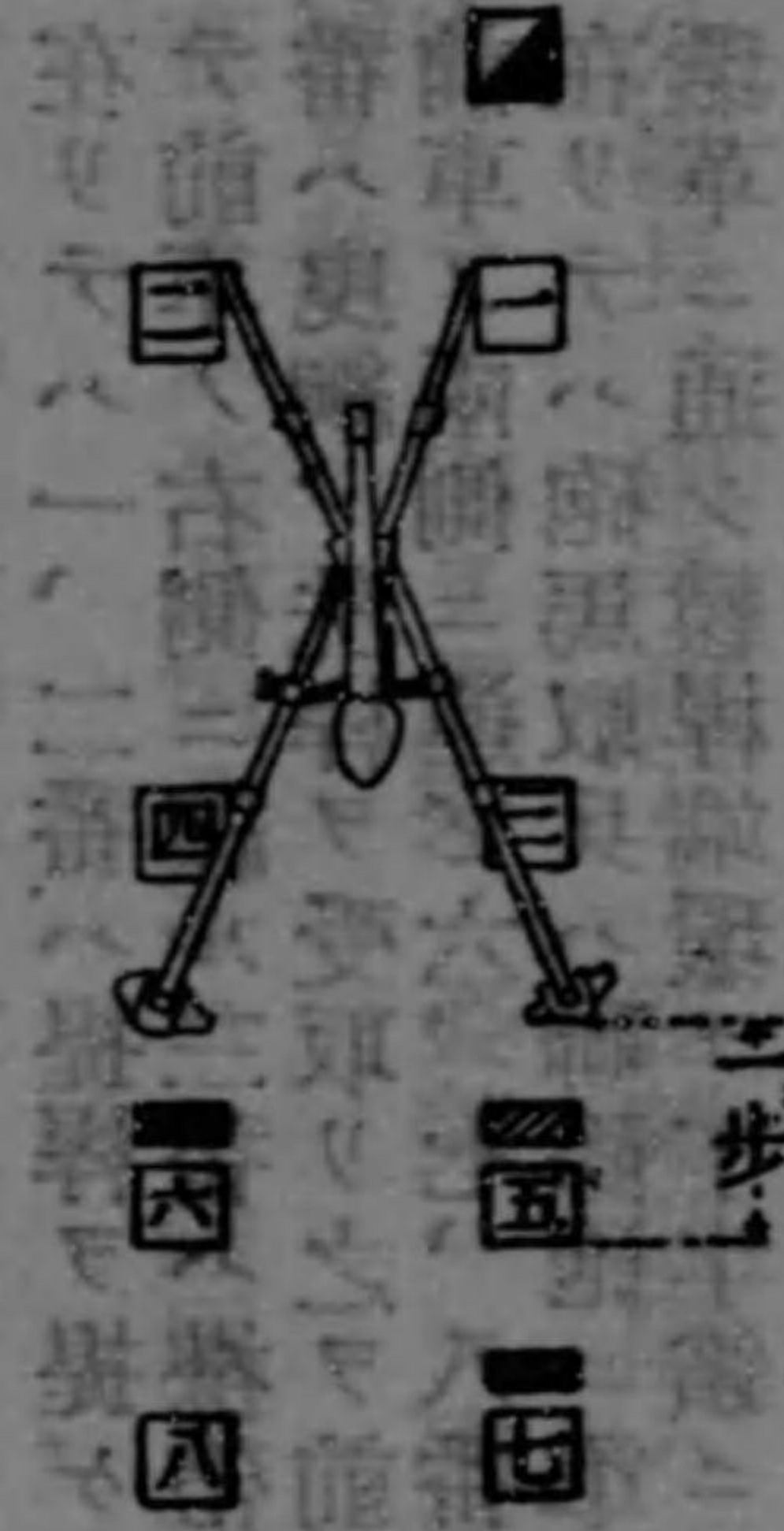
第二 隊 載 駄

分隊長 數字ハ砲ヲ示ス

砲手 數字ハ砲ヲ示ス

隊兵

第三圖 卸下



分隊長ト一番及五番以下砲手相互ノ距離ハ二般歩兵ノ縱隊ニ同ジ

第一屬品箱ハ砲馬ノ左側ニ、第二屬品箱及提棍甲ハ砲馬ノ右側ニ、提棍乙ハ架馬ノ右側ニ駄載ス

分隊長、砲手相互ノ距離間隔ハ一般歩兵ノ縱隊ニ同ジ

陣地進入
分隊陣地
進入

↑

陣地進入、陣地變換

第八 陣地進入ニ先ダチ分隊長ハ通常一、四番ヲ伴ヒ先行シテ示サレタル方向
(目標)ニ對シ砲ノ位置ヲ選ビ所要ノ準備ヲ行フ

第九 分隊ヲ陣地ニ進入セシムルニハ方向(目標)、要スレバ進入要領ヲ示シ左ノ
號令ヲ下ス

第四圖



ニ向キ折敷ヲ爲シ「右(左)」ト唱ヘ砲身ヲ右(左)肩ニ擔ヒ左ニ移ル六番ハ砲尾被
ヲ裝ス一番ハ後坐測尺ノ遊標ヲ裝シ搖架後端ヲ約十種高クシ緊定螺ヲ緊メ砲ノ
右ニテ前方ニ向キ折敷ス

三番ハ砲耳蓋板ヲ開キ二番ト共ニ搖架ノ下面ヲ支ヘテ之ヲ脱シ一番ニ擔ハシム
一番ハ四番ト同要領ニ依リ之ヲ擔ヒ右ニ移ル三番ハ砲耳蓋板ヲ閉ヂ提把ヲ持チ
二番駐軸栓把ヲ引ケバ後脚ヲ閉ヅ二番ハ提棍ノ前端、三番ハ提把ヲ持チテ砲ヲ、
五番ハ携帶箱ヲ提ゲ六、七番ハ彈藥箱ヲ擔フ

時トシテ砲身ノミヲ分解シ或ハ砲身ヲ搖架ヨリ脱スコトナク分解シ或ハ三脚架
ヲ一砲手ニ擔ハシム

卸下行進
卸
砲ヲ分解
後散開

三番ハ砲耳蓋板ヲ閉ヂ脚頭ノ後方ヲ持チ前脚ヲ上ゲ分隊長ハ前脚ヲ歇載位置ニ
疊ミテ提棍乙ヲ前脚ニ裝シ一、四番ハ兩端ヲ持ツ次デ三番ハ提把ヲ持チ四番駐
軸栓把ヲ引ケバ後脚ヲ閉ヅ一、三、四番ハ三脚架ヲ其ノ位置ニ於テ左ニ廻ハシ
架馬ノ左ヨリ後ロニ運ビ三番ノ「宜シ」ノ合圖ニテ載セ三番ハ架馬ノ右ニ移リ
一、四、六番ト協同シテ縛ル四番ハ提棍乙ヲ七番ニ渡ス

動作終レバ分隊長以下定位ニ就ク

第五 歇載セル分隊長以下「卸セ」ノ號令ニテ歇載ト概ネ反對ノ順序ニ動作
ス但シ砲ハ通常低姿勢ニ組ム卸下行進ニテ一乃至四番ハ内側ニ向ヒ外(内)側ノ手ニテ上
第六 卸下行進ニ在リテハ豫令ニテ一乃至四番ハ内側ニ向ヒ外(内)側ノ手ニテ上
(下)ヨリ一、二番ハ提棍ノ前端ヲ、三、四番ハ架馬托坐ノ前後ヲ持チ四番ノ「宜シ」
ノ合圖ニテ砲ヲ擔ヒ六、七番ハ彈藥箱ヲ擔フ五番ハ右手ニ携帶箱ヲ提グ屬品箱ヲ
卸シアルトキハ五、八番之ヲ擔フ

第七 分解搬送ニテ縦ニ散開セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

分解搬送 縦ニ散レ

砲手ハ左ノ如ク動作シ第四圖ノ如ク散開シツツ前進ス

一番ハ後坐測尺ノ遊標ヲ脱シ接續螺軸ヲ抽出シ二番ハ砲口前ヨリ左(右)手ニテ
砲口部(砲身)ヲ上ヨリ持チ三番ハ後脚ノ中間ニ入り砲尾被ヲ脱シテ六番ニ渡シ
兩手ニテ砲尾下面ヲ支ヘ二番ト協同シテ砲身ヲ僅カニ後退シ一番接續螺軸ヲ砲
尾下面ノ突耳ニ裝セバ之ヲ搖架ヨリ脱シ四番ニ擔ハシム四番ハ砲ノ左ニテ前方

↑ 古古 古古

砲ヲ据エ

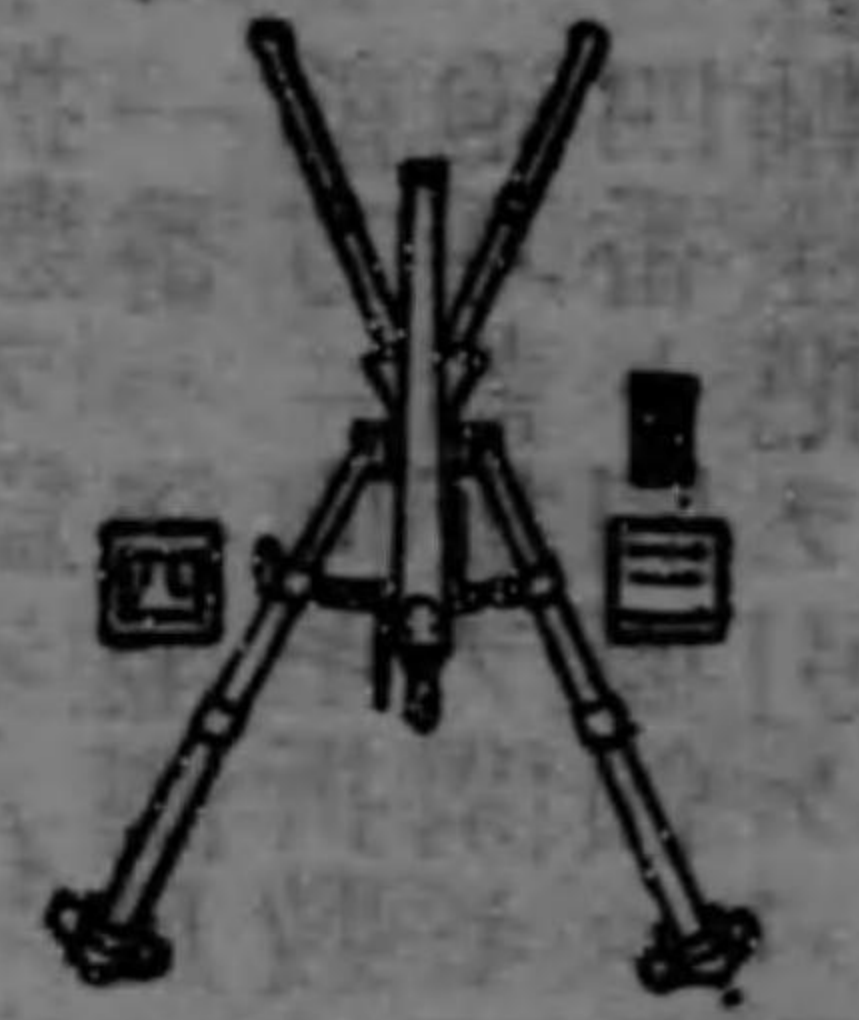
二、三番ハ協同シテ砲ヲ据ウ四人ニテ砲ヲ据エシムルトキハ分隊長之ヲ指示ス、分隊長ハ直チニ砲ノ後方ニ移リ要スレ、バ自ラ提把ヲ持チテ砲ノ方向ヲ修正ス、三番ハ左後脚ノ外側ニ接シテ伏臥シ緊定螺ヲ緩メ右手ヲ高低轉輪ニ、左手ヲ方向轉輪ニ致ス三番ハ右後脚ノ外側ニ接シテ伏臥シ左手ニテ發火裝置ニス提棍ヲ脱スルトキハ分隊長ノ指示ニテ二番之ヲ脱シ其ノ位置ニ置ク

六番ハ砲ヲ据エ終ラントスルニ先ダチ彈藥箱ヲ三番ノ身邊ニ搬送ス一番ハ通常小隊長トノ連絡ニ任ズ二、五、六番ハ動作終レバ概ネ第五圖ノ位置ニ伏臥シ七、八番ハ彈藥箱ヲ六番ノ位置ニ置キ彈藥遞送ノ配置ニ就ク

高姿勢ニ在リテハ通常分隊長、三、四番ハ折敷ス

低(高)姿勢ヨリ高(低)姿勢ニ移ルニハ二番ハ砲口前ニ到リ提棍ヲ持チテ砲ヲ上ゲ三番ハ前脚ヲ起シ(伏セ)前脚止栓ヲ挿ス

第五圖



洗桿

古古

射擊姿勢
ヨリ前進

照準法
古古
射擊用意

分隊長ハ指揮ニ、一番ハ小隊長トノ連絡ニ便ナル如ク位置ス六番ハ彈藥補充ニ便ナル如ク砲ノ後方ニ適宜離レテ(利用スベキ地物ナキトキハ約二十歩)伏臥ス七番以下ハ彈藥ノ遞送ニ便ナル如ク適宜離レテ伏臥ス

第十 射擊姿勢ヨリ前進スルニハ左ノ方法ニ依ル

「前進用意」ノ號令ニテ三、四番ハ「擊方止メ」ニ準ジテ操作シ四番ハ通常表尺(眼鏡共)ヲ脱シテ五番ニ渡ス五番ハ之ヲ携帶箱ニ納ム「前(前歩前)」「早(前前)」「(前)」「號令ニテ二(二)番ハ兩提棍(兩後脚)ヲ持チ一、四、五番ハ適宜散開シ前進ス六番以下ハ充實セル彈藥箱ヲ携行ス砲ハ要スレバ三、四番ヲシテ搬送セシム他ノ方法ニテ前進セシムルニハ「前進用意」ノ次ニ隊形及前進法ヲ示シ又表尺被、砲口被、砲尾被、眼鏡被ヲ裝シ又表尺(眼鏡共)ヲ脱スコトナク前進セシムルニハ豫メ之ヲ示ス

射擊姿勢ヨリ砲ヲ後方ニ撤去シテ砲ノ位置ヲ移動シ或ハ陣地ヲ變換スルニハ「變換用意」ノ號令ニテ遮蔽シテ砲ヲ後方ニ移シ「前進用意」ニ準ジ操作シ爾後ノ行動ヲ準備ス

射擊

第十一 射擊ハ通常小隊長ノ命令ニ基キ分隊長之ヲ號令ス射擊號令ハ第四篇速射砲ニ準ズ

第十二 射擊用意ヲ爲スニハ「射擊用意」ノ號令ニテ四番ハ砲尾被及表尺被ヲ脱シテ二番ニ渡ス三番ハ發火裝置ニシ閉鎖機ヲ開キ一番ノ補助ニ依リ洗桿ヲ抽出シ砲

砲ヲ据エ
タル後ノ
動作

口被ト共ニ五番ニ渡シ砲腔及砲尾機關ヲ點檢シ安全裝置ニス二番ハ砲尾被及表尺被ヲ帶革ニ縛著ス一番ハ砲口被ヲ脱シテ三番ニ渡シ砲口ヲ點檢ス五番ハ表尺次デ眼鏡ヲ六番ニ渡シ眼鏡箱ヲ携帶箱ニ納ム六番ハ眼鏡ヲ表尺ニ裝シテ四番ニ渡ス四番ハ照準機及表尺托架ヲ點檢シ表尺ヲ表尺托架ニ裝シ照準具ノ機能ヲ點檢シ表尺ノ指針ヲ分画環ノ赤線ニ、横尺ヲ零ニ裝ス

眼鏡ヲ裝スルニハ折敷ヲ爲シ左手ニ表尺ヲ持チテ左膝ニ托シ右手ニ眼鏡ヲ持チ左手ノ食指ニテ眼鏡室ヲ壓シ眼鏡ヲ眼鏡室ニ裝ス

表尺ヲ裝スルニハ左手ニテ横尺室ヲ握リ表尺托架ノ溝ニ裝シ右手ニテ壓螺ヲ緊ム

射撃用意ヲ解クニハ射撃用意ト概ネ反對ノ順序ニ動作ス

第十三 砲ヲ据ウルヤ三番ハ左手ニテ藥莢ノ起縁部鎖栓上面ニ到ル迄靜カニ彈藥ヲ挿入シ次デ一擧ニ押込ミ左手ニテ拉繩ヲ取り四番ニ注意ス

表尺ヲ號令セラシヤ四番ハ左手ニテ表尺轉輪ヲ操作シテ距離分畫ヲ裝シ次デ右手ニテ横尺轉輪ヲ操作シ射距離ニ應ズル偏流及所命ノ横尺分畫ヲ裝シ共ニ之ヲ報告ス次デ右(左)手ヲ高低轉輪(方向轉輪)ニ致シ眼鏡ニテ照準ス照準終レバ頭ヲ眼鏡ノ外ニ離スト同時ニ「宜シ」ト唱フ分隊長ハ「撃テ」ノ號令ヲ下ス三番ハ拉繩ヲ引キ發射セバ裝填シ四番ハ照準ス

照準ノ爲眼鏡ヲ高ムルヲ要スルトキハ表尺補助桿ヲ用フ

補助照準點ニ依リ射撃スルニ方リテハ分隊長ハ補助照準點ト目標トノ高低偏差量

不發ノト
キ古
射撃修正
射撃止メ

ヲ表尺距離ニ修正ス

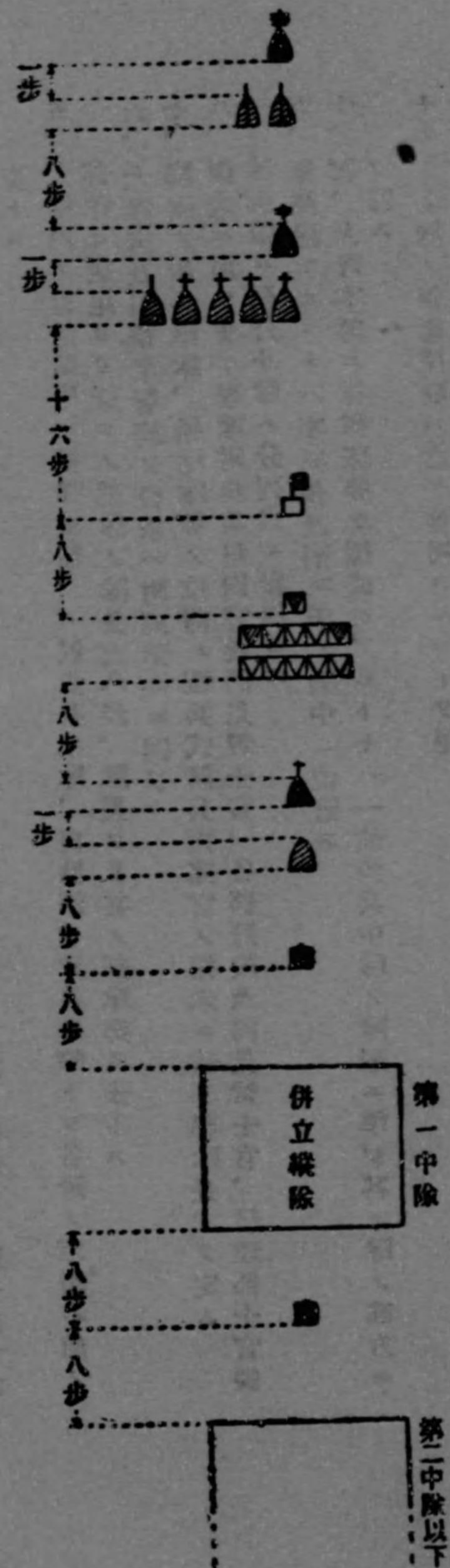
第十四 不發ノトキハ四番ハ照準ヲ點檢ス分隊長ハ四番ノ「宜シ」ノ合圖ニテ數回「撃テ」ト號令ス尙發火セザルトキハ分隊長ハ彈藥ヲ抽出セシム

第十五 射向ヲ修正スルニハ例ヘバ「一ツ右」ノ號令ニテ四番ハ横尺ニ之ヲ修正シ其ノ結果ヲ報告ス此ノ際脚ノ移動ヲ要スルトキハ四番ハ「後脚移動」ト唱ヘ小架ヲ概ネ中央ニ復シ三番ハ安全裝置ニシ各、駐鋤ノ位置ニ到ル分隊長ハ自ら後脚ヲ左右シテ砲ヲ概ネ新目標ニ向カシメ三、四番ハ脚ヲ固定シタル後舊ニ復シ三番ハ發火裝置ニシ四番ハ照準ス

第十六 射撃ヲ止ムルニハ「撃方止メ」ノ號令ニテ三番ハ徐ロニ閉鎖機ヲ開キ左手ヲ砲尾部ニ當テ彈藥ヲ抽出シテ彈藥箱ニ納メ閉鎖機ヲ閉ヂ安全裝置ニシ後坐測尺ノ遊標ヲ舊ニ復ス四番ハ横尺ノ矢標ヲ零ニ、表尺ノ指針ヲ分画環ノ赤線ニ合ハセ小架ヲ概ネ中央ニシ砲身ヲ概ネ水平ニシ緊定螺ヲ緊ム

歩兵操典終

形 隊 號 甲



〇 喇叭手
 □ 喇叭手
 其ノ他ハ附圖第一ニ詳シ

- 一、聯(大)隊本部ニ指揮班等ヲ編成シアルトキハ一般歩兵中隊ニ準ズル隊形ヲ以テ其ノ頭號大(中)隊ノ右翼ニ位置ス
- 二、聯隊間ノ間隔ハ右聯隊ノ左翼ヨリ左聯隊ノ聯隊長迄二十四歩トス
- 三、大隊間ノ間隔ハ右大隊ノ左翼ヨリ左大隊ノ右中隊(指揮班等)ノ右翼嚮導迄十六歩トス
- 四、大隊旗ヲ持ツ者ハ頭號中隊右翼嚮導ノ左側(中隊縱隊ノトキハ先頭小隊右翼分隊長ノ右側)ニ位置シ射撃名譽旗ヲ持ツ者ハ當該部隊最右翼ノ先頭ニ於テ列中ニ入ル
- 五、聯隊ノ歩兵砲隊、通信隊、彈藥班、行李等ノ位置ハ親兵式諸兵指揮官ノ指示ニ依リ聯隊長之ヲ定ム
- 六、大隊ノ喇叭手ハ喇叭長之ヲ指揮シ通常大隊ノ中央後十六歩ニ位置ス
- 七、旅團司令部又ハ之ニ相當スル司令部、聯、大隊本部附准尉及下士官並ニ中隊、砲隊、通信隊等ノ衛生兵ハ列外小隊トシ大隊ノ者ハ該大隊ノ、旅團司令部又ハ之ニ相當スル司令部及聯隊本部ノ者ハ第一大隊ノ、砲隊、通信隊等ノ者ハ該隊ノ左翼後方十六歩ニ位置ス其ノ順序ハ兵科(旅團司令部又ハ之ニ相當スル司令部、聯隊本部、大隊本部ノ順序)、經理部、衛生部、獸醫部トシ兵科高級先任ノ者之ヲ指揮ス但シ中隊、砲隊、通信隊等以上ニ於テ指揮班等ヲ編成シアルトキハ之ニ入ル
- 八、經理部見習士官及同士官候補生ハ經理部將校ノ、衛生部見習士官ハ衛生部將校ノ次ニ位置シ步兵科士官候補生ハ中隊等ノ編成ニ入ル
- 九、三線ニ大隊ヲ排列スルトキハ大隊間ノ距離ハ八歩トシ聯隊ノ全喇叭手及列外小隊ハ後尾大隊ノ後方ニ位置ス
- 十、各隊ノ距離間隔ハ之ヲ伸縮スルコトヲ得
- 十一、本圖ニ規定セル以外ノ部隊、人馬等アルトキ其ノ隊形及位置ニ關シテハ通常親兵式諸兵指揮官ノ指示ニ依リ聯隊長之ヲ定ム

- 一、乙號隊形ニ在リテハ一般歩兵中隊ヲ中隊縱隊ト爲スノ外甲號隊形ニ準ズ
- 二、教護ハ中隊、砲隊、通信隊等毎ニ之ヲ行フ時宜ニ依リ大隊、聯隊ノ歩兵砲隊等毎ニ行フコトアリ
- 三、聯隊間ノ距離ハ前ノ聯隊ノ後尾ヨリ後ロノ聯隊ノ聯隊長迄二十乃至四十歩トス
- 四、大隊、聯隊ノ歩兵砲隊、通信隊等ト前ノ部隊トノ距離ハ前ノ部隊ノ後尾ヨリ隊長迄十六歩トス
- 五、大隊内ノ行進順序ハ指揮機關、一般歩兵中隊、機關銃、歩兵砲等トシ各隊ノ距離ハ前ノ部隊ノ後尾ヨリ後ロノ部隊ノ隊長迄八歩、隊長ヨリ其ノ部隊迄八歩トス
- 六、大隊旗及射擊名譽旗ノ位置ハ附屬第一ニ同ジ
- 七、聯隊ノ歩兵砲隊、通信隊等ノ位置ハ親兵式隊兵指揮官ノ指示ニ依リ聯隊長之ヲ定ム
- 八、編成ニ加ラザル聯隊附歩兵科尉官及同見習士官、各部將校及同見習士官、經理部士官候補生位ニ列外小隊ハ分列式ニ參加セズ
- 九、軍樂隊アルトキハ喇叭長及喇叭手ノ列中ニ位置ス
- 十、聯、大隊本部ニ指揮班等ヲ編成シアルトキハ一般歩兵中隊ノ隊形ニ準ジ其ノ隊ノ前方ニ位置ス
- 十一、各隊ノ距離間隔ハ之ヲ伸縮スルコトヲ得
- 十二、本圖ニ規定セル以外ノ部隊、人馬等アルトキ分列式ニ參加セシムベキヤ否ヤ其ノ隊形及位置ニ關シテハ通常親兵式隊兵指揮官ノ指示ニ依リ聯隊長之ヲ定ム

陸連第三十七號

諸兵射擊教範總則、第一部、第二部、第三部、第四部別冊、通定△

昭和十四年七月四日

陸軍大臣 板垣征四郎

諸兵射擊教範

總則
第一部

②

射擊一

凡例

本文上欄見出部ニ使用セル符號左ノ如シ

○ 聯隊長 ♂ 大隊長 ㊦ 中隊長 ① 小銃 ② 輕機關銃 ③ 重機關銃
④ 重擲彈筒 ⑤ 大隊砲、步兵砲、九二式步兵砲 ⑥ 四一式山砲、聯隊砲
⑦ 速射砲 ⑧ 平射砲 ⑨ 曲射砲 ⑩ 飛行機

諸兵射擊教範 第一節 目次

第二篇	第一節	第八章	第七章	第六章	第五章	第四章	第三章	第二章	第一章	第一部	總則
觀測具ノ操法	間隙射撃ノ限界	超過射撃及間隙射撃ノ限界	彈道ノ關係	命中(彈達)ノ公算	彈丸效力	射撃ノ散布	並ニ其ノ修正	射撃諸元ニ及ス偏差	照準	彈道	射撃ニ關スル定説
四六	四三	四三	三二	二八	二六	一九	一六	一四	一五	一五	一頁

第二節	第一節	要則	第二章	第五節	第四節	第三節	第二節	第一節	要則	第三章	第二章	第一章	第三篇	第二篇	第一篇	通則
測角器ニ依ル測量	砲隊鏡ニ依ル測量	砲隊鏡ニ依ル測量	角測量	正切法	携帶測遠器ニ依ル測量	機ニ依ル測量	九三式野戰輕測遠機ニ依ル測量	歩(騎)測及卷尺又ハ測索ニ依ル測量	目測及音響測量	距離測量	距離測量及角測量	其ノ他ノ觀測具	九三式野戰輕測遠機	九三式砲隊鏡	九三式砲隊鏡	九三式砲隊鏡
六七	六六	六六	六三	六三	六一	六〇	五九	五七	五六	五六	五五	五〇	四七	四七	四六	四六

1 [1-4] 則總

射擊軍紀	射擊效果ノ要素	精神ノ充實	射擊教育ノ目的	射擊要性	射擊ノ重	本教範記述範圍	本教範記述ノ範圍
射擊軍紀正シク教育能ク至レハ戰闘長時間ニ互リ死傷續出シ狀況慘烈ヲ極ムル場合ニ於テモ克ク沈著シ確實ニ射擊ノ諸法則ヲ實行シ常ニ指揮官ニ注意シ其ノ意圖ノ如ク射撃ヲ實行シ得ルモノトス	第四 射撃ハ適切ナル射撃指揮、嚴肅ナル射撃軍紀、精熟セル射撃動作等ニ依リ偉大ナル效果ヲ收メ得ルモノトス而シテ效果ナキ射撃ハ單ニ彈藥ヲ浪費スルニ止ラズ却ツテ敵ノ輕侮ヲ招クニ至ルモノナルコトニ注意スルヲ要ス	射撃ハ精神充實セザルトキハ實戰ニ於テ其ノ眞價ヲ發揮シ難シ故ニ射撃教育ニ方リテハ常ニ思フ實戰ノ光景ニ致シ彈丸雨飛ノ間尙克ク旺盛ナル責任觀念ト必中ノ信念トヲ以テ正確ナル射撃ヲ實施シ十分ナル效果ヲ收メ得ルノ技能ヲ養成スルコト緊要ナリ	射撃ハ精神充實セザルトキハ實戰ニ於テ其ノ眞價ヲ發揮シ難シ故ニ射撃教育ニ方リテハ常ニ思フ實戰ノ光景ニ致シ彈丸雨飛ノ間尙克ク旺盛ナル責任觀念ト必中ノ信念トヲ以テ正確ナル射撃ヲ實施シ十分ナル效果ヲ收メ得ルノ技能ヲ養成スルコト緊要ナリ	第三 射撃教育ノ目的ハ指揮官及兵ヲ訓練シテ射撃ニ關スル制式、法則ニ習熟セシムルト共ニ嚴肅ナル射撃軍紀ヲ涵養シ以テ各兵種ノ戰闘任務ヲ完全ニ遂行シ得ルノ射撃技能ヲ養成スルニ在リ	第二 射撃ハ極メテ緊要ナル戰闘手段ナリ重火器ニ於テ特ニ然リ故ニ絕エズ指揮官及兵ノ射撃技能ヲ練磨向上シテ精熟ノ域ニ達セシメザルベカラズ	第一 本教範ハ諸兵共通ノ射撃ニ關シ記述シ戰車及裝甲車ノ車載火器、砲兵ノ火砲、飛行機ノ機上火器等ニ依リ射撃ニ就テハ別ニ定ムル所ニ據ル	第一 本教範ハ諸兵共通ノ射撃ニ關シ記述シ戰車及裝甲車ノ車載火器、砲兵ノ火砲、飛行機ノ機上火器等ニ依リ射撃ニ就テハ別ニ定ムル所ニ據ル

諸兵射撃教範 第一部

第三節 各種眼鏡ノ焦點分畫又ハ腕長規尺其ノ他應用材料ニ依ル測量	附 表 第一 密位、度換算表	第二 其二ノ一 曲射砲傾斜ニ應ズル合成方向修正量表(第一托筒)	第二 其二ノ二 曲射砲傾斜ニ應ズル合成方向修正量表(第二托筒)	第二 其二ノ三 曲射砲傾斜ニ應ズル合成方向修正量表(第三托筒)
六	七〇	七一	七一	七三

諸兵射撃教範 第一部 則 目次 終	附 圖 第一 風ノ分速決定圖	第二 方向桿	第三 射撃姿勢(伏射)ニ於ケル兵器某部分ノ密位概數例	第三 公算因數表	第四 三八式步兵銃命中公算表	第五 四四式(三八式)騎銃命中公算表	第六 九六式輕機關銃命中公算表	第七 十一年式輕機關銃命中公算表	第八 九二式重機關銃命中公算表
	八三	八三	八三	七五	七八	七九	八〇	八一	八二

急襲的效 第五 射撃ハ好機ニ投シ急襲的ニ其ノ威力ヲ發揮スルヲ本旨トス重火器ニ於テ特ニ然リ故ニ射撃教育ニ任ズル者ハ宜シク此ノ趣旨ヲ銘肝シ最善ノ努力ヲ傾注シテ其ノ目的達成ヲ期セザルベカラズ

法則ト實 第六 射撃ノ法則ハ射撃實施ノ爲一般ノ準據ヲ示スモノトス故ニ射撃ノ實施ニ方リテハ戰術上ノ要求ニ基キ兵器ノ特性ヲ考慮シテ之ヲ活用スルヲ要ス

法則ト學 第七 射撃ノ法則ヲ活用スルニハ射撃ニ關スル學理ニ通曉シ法則ノ精神ヲ十分會得シアルコト極メテ緊要ナリ

兵器尊重 第八 兵器保存ノ良否ハ任務遂行ニ著大ノ影響ヲ及スヲ以テ兵器ノ機能ハ常ニ完全ニ保持セザルベカラズ之ガ爲衷心ヨリ兵器ヲ尊重愛護スルノ精神ヲ涵養スルト共ニ兵器ノ取扱法ニ精通セシムルコト極メテ緊要ナリ

兵器ノ構 第九 射撃教育ト兵器ノ構造、機能ノ教育トハ相關聯セル各部分毎ニ連繫シテ實施シ十分ナル理解ヲ與フルヲ要ス

幹部ノ技 第十 射撃教育就中射撃術ノ教育ニ方リテハ幹部ハ先ヅ自己ノ伎倆ヲ練磨シ率先範ヲ示スト共ニ特ニ熱誠ニシテ懇切事ニ從フヲ要ス教育ノ進度ヲ急グト之ガ練磨ヲ中絶スルトハ共ニ教育ノ良果ヲ收メ難キモノトス

教練ト射 第十一 射撃教育ハ職團教練間有ユル機會ヲ捉ヘテ之ヲ實施シ其ノ技能ヲ向上シ教練ト射撃トノ一致ヲ圖ルコト緊要ナリ指揮官以下疲勞困憊セル場合ニ於ケル教練ハ實戰的射撃教育ノ好機ナルヲ以テ幹部ハ此ノ際特ニ其ノ監督ヲ嚴ニシ嚴正ナル指揮ノ下ニ射撃ノ法則ヲ勵行セシムルコト緊要ナリ

教練ト射 第十二 射撃教育ハ教練ノ進度ト相伴ハザルコトアルニ鑑ミ射撃豫行演習ノ適切ナル實施ニ依リ之ヲ補足スルノ著意ヲ緊要トス

實彈射撃 第十三 實彈射撃教育ニ方リテハ特ニ計畫ヲ周到ニシ彈藥ノ使用ヲ有效適切ナラシメ以テ十分其ノ成果ヲ收ムルコト緊要ナリ戰團射撃ニ於テ特ニ然リ

夜間射撃 第十四 夜間ニ於ケル射撃動作ヲ教育スルニハ最初ハ夜間ニ近似セル狀態ニ於テ晝間之ヲ行ヒ次テ薄暮、月明時等ニ實施シ漸次暗夜ニ移ラシムルヲ可トス

射撃教育 第十五 射撃教育ニ伴ヒ屢々體操ヲ實施シ射撃ニ必要ナル關節ノ柔軟ト筋力ノ強健トヲ得シメ以テ如何ナル場合ニ於テモ正確迅速ナル射撃ヲ實施シ得シムルト共ニ持久力ヲ養成スルヲ要ス

中隊長 第十六 中隊長(之ニ準ズル者ヲ含ム以下同シ)ハ中隊ノ射撃教育ニ關シ全責任ヲ有ス之ガ爲先ヅ射撃並ニ其ノ教育技能ニ精熟セル幹部ノ養成ニ勉ムルト共ニ兵器ノ整備ヲ圖リ以テ中隊射撃教育向上ノ爲確乎タル基礎ヲ作ルコト必要ナリ

大隊長 第十七 大隊長(此等ニ準ズル者ヲ含ム以下同シ)ハ本教範ノ趣旨ニ基キ部下ノ射撃教育ヲ監督指導スルト共ニ之ガ獎勵ノ方法ヲ講シ又特ニ幹部ノ射撃並ニ其ノ教育技能ノ向上ヲ圖リ以テ射撃教育ノ振作ニ勉ムルヲ要ス重火器ノ射撃教育ニ於テ特ニ然リ

旅團長 第十八 旅團長以上ノ團隊長モ亦前項ノ趣旨ニ依リ特ニ部下各隊ノ重火器射撃教育ニ

射撃教育 第十九 射撃教育ニ伴ヒ屢々體操ヲ實施シ射撃ニ必要ナル關節ノ柔軟ト筋力ノ強健トヲ得シメ以テ如何ナル場合ニ於テモ正確迅速ナル射撃ヲ實施シ得シムルト共ニ持久力ヲ養成スルヲ要ス

中隊長 第二十 中隊長(之ニ準ズル者ヲ含ム以下同シ)ハ中隊ノ射撃教育ニ關シ全責任ヲ有ス之ガ爲先ヅ射撃並ニ其ノ教育技能ニ精熟セル幹部ノ養成ニ勉ムルト共ニ兵器ノ整備ヲ圖リ以テ中隊射撃教育向上ノ爲確乎タル基礎ヲ作ルコト必要ナリ

大隊長 第二十一 大隊長(此等ニ準ズル者ヲ含ム以下同シ)ハ本教範ノ趣旨ニ基キ部下ノ射撃教育ヲ監督指導スルト共ニ之ガ獎勵ノ方法ヲ講シ又特ニ幹部ノ射撃並ニ其ノ教育技能ノ向上ヲ圖リ以テ射撃教育ノ振作ニ勉ムルヲ要ス重火器ノ射撃教育ニ於テ特ニ然リ

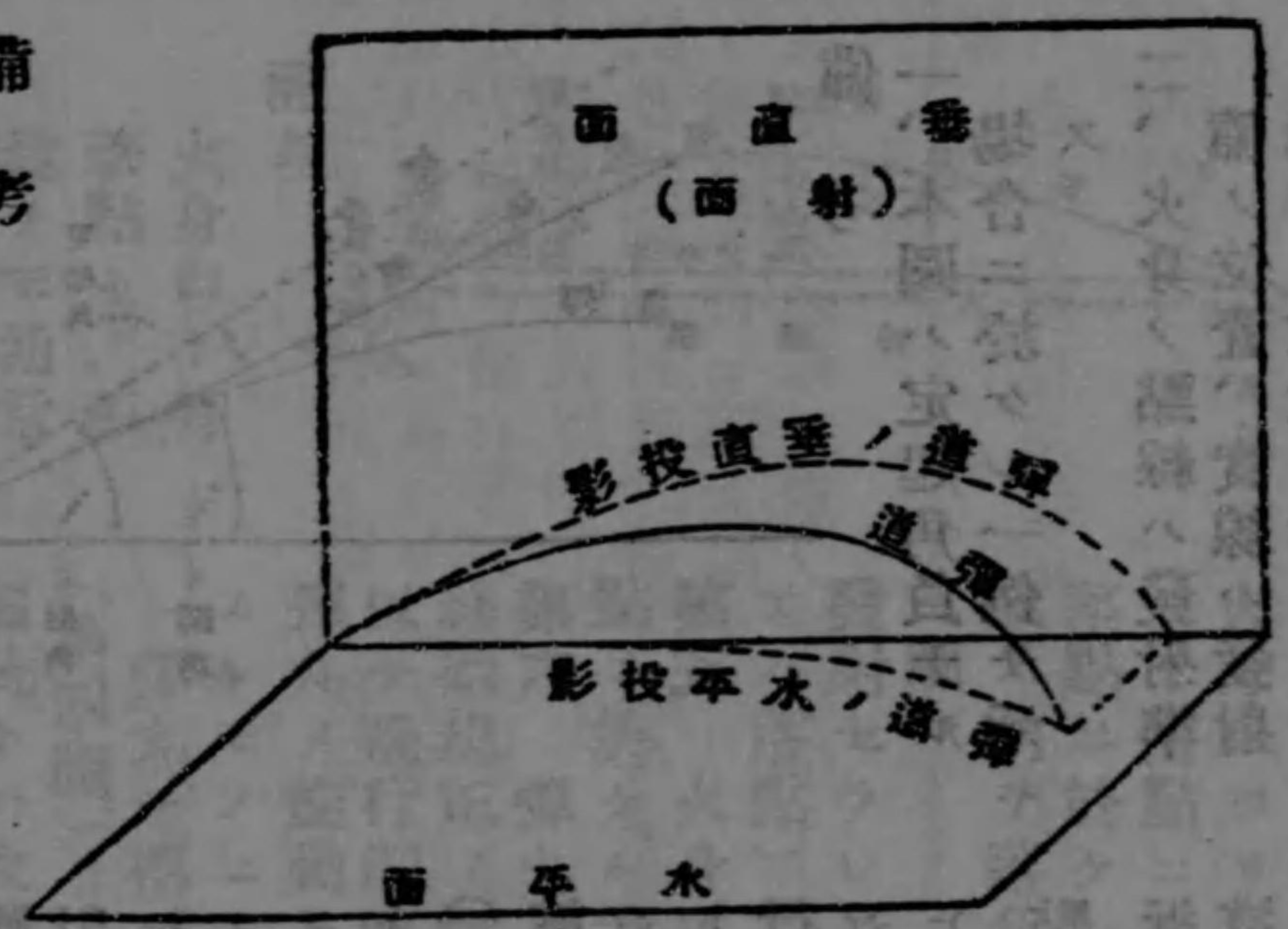
旅團長 第二十二 旅團長以上ノ團隊長モ亦前項ノ趣旨ニ依リ特ニ部下各隊ノ重火器射撃教育ニ

上(騎)兵
歩(騎)兵
兵旅團長
ト重火器
師團長
軍司令官
師團長特
別權限
教範規定
外諸部隊
射擊教育
兵器ニ關
スル進達

關シ深甚ノ考慮ヲ拂ヒ之ガ振作ニ遺憾ナキナ期スベシ
第十五歩(騎)兵聯 大隊長若クハ騎兵旅團長ハ重火器ニ關スル知識ヲ普及
徹底セシメ以テ重火器部隊ノ運用竝ニ之ト一般歩(騎)兵部隊トノ協同ニ關シ
遺憾ナカラシムルコト緊要ナリ之ガ爲此等ノ部隊ヲ連合シテ戰闘射撃ヲ行ヒ
或ハ他部隊ノ實彈射撃ヲ見學セシムル等各種ノ手段ヲ講ジ此等ノ協同特ニ火
力ノ協調ヲ適切ナラシメ以テ各種火器ノ綜合威力ヲ遺憾ナク發揮セシムル爲
必要ナル教育ニ關シ計畫指導ヲ適切ナラシムルヲ要ス
師團長(騎兵旅團長其ノ他之ニ準ズル者)モ亦右ノ趣旨ニ基キ勉メテ諸兵種特
ニ歩(騎)兵、戰車、砲兵ノ連合戰闘射撃ヲ實施スルノ著意ヲ必要トス
第十六軍司令官若クハ師團長(飛行集團長、騎兵集團長其ノ他之ニ準ズル
者)ハ實彈ヲ以テ行フ射撃教育ノ實施ニ關シ駐屯地、演習場ノ狀況等ニ依リ
眞ニ止ムヲ得ザル場合ニ於テハ本教範ノ精神ヲ没却セザル範圍ニ於テ適宜規
定スルコトヲ得
第十七本教範ニ規定セザル諸部隊ノ射撃教育ハ狀況ノ許ス限り本教範ニ規
定セル當該兵科ノ爲ノ規定ニ從ヒ實施スベキモノトス
第十八聯隊長ハ毎年射撃教育ヲ終リタル後射撃教育及兵器ニ關スル意見竝
ニ聯隊演習用彈藥使用狀況ヲ順序ヲ經テ軍司令官又ハ師團長(飛行集團長)ニ
報告スルモノトス軍司令官又ハ師團長(飛行集團長)ハ部下團隊長ヨリ提出セ
ル射撃教育竝ニ兵器ニ關スル意見ニ所見ヲ加ヘ毎年射撃教育終了後一箇月以
内ニ之ヲ教育總監(航空兵ニ在リテハ航空總監)ニ進達スルモノトス

食トハ災
彈道
射線、射
面、射向、
射角
擲線、擲

圖 一 第



備考
本圖ノ彈道ハ右轉旋腔綫ヲ有
スル火器ノ彈道ヲ示ス

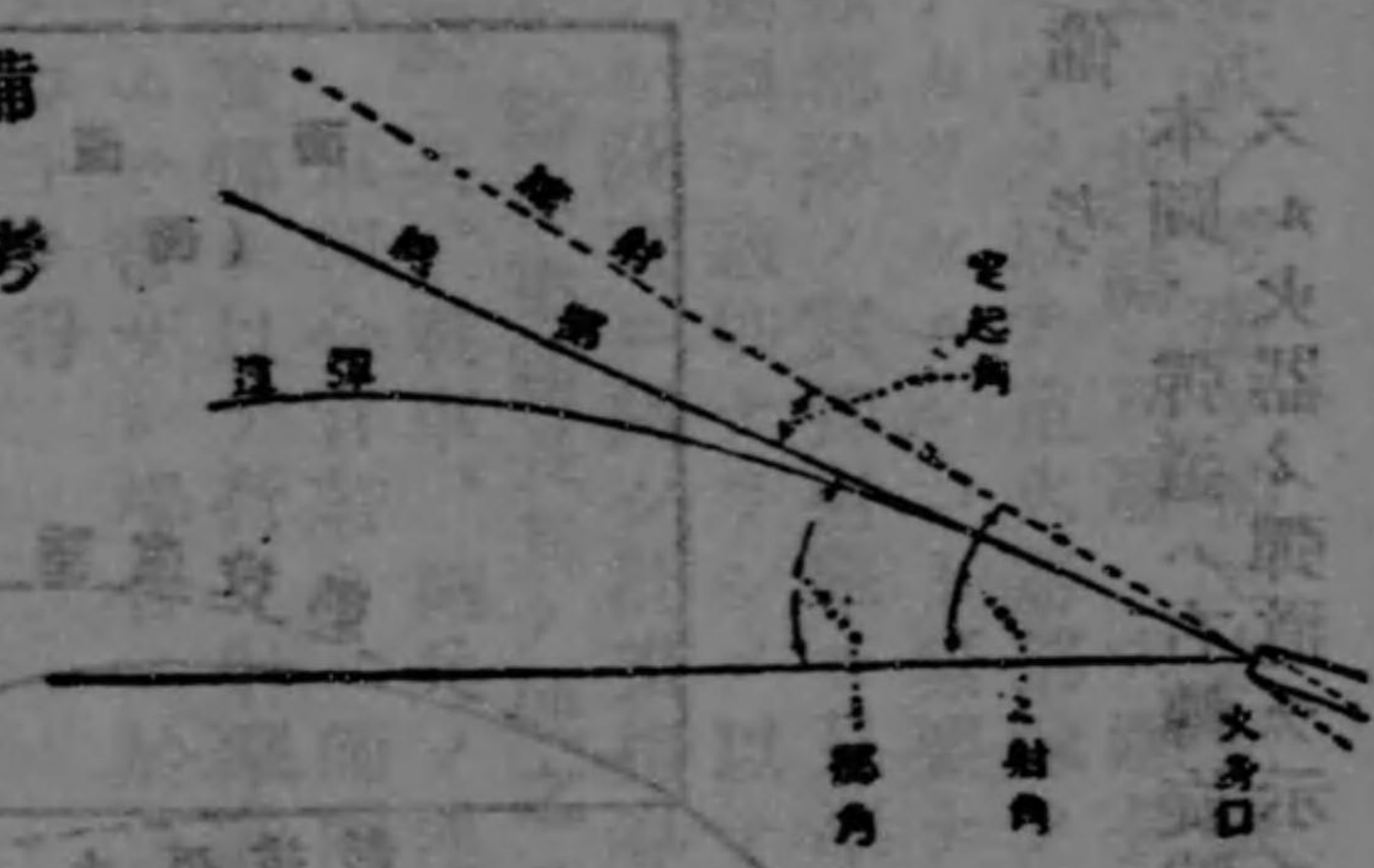
第十九 本教範ニ於テ步兵砲ト稱
スルハ速射砲ヲ除外シアルモノト
ス

第一部
第一篇 射撃ニ關スル
定說

第一章 彈道
第一 彈道トハ發射セラレタル彈
丸ノ重心ノ過ケル綫ヲ謂ヒ其ノ形
狀ハ重力、空氣抗力、彈丸ノ速度、
旋速及火身等ヲ總稱スノ傾度等ニ依
リ異ナルモノトス(第一圖)
第二 發射ノ爲準備セラレタル火
身軸ノ延長ヲ射線、射線ヲ含ム垂
直面ヲ射面、射面ノ方向ヲ射向ト
謂ヒ射線ト水平面トニテ成ス角ヲ
射角ト謂フ(第一、第二圖)
第三 發射ノ瞬時火身口ニ於ケル

面、擲角
定起角
彈道高、
最高度

圖二 第



備考
一、本圖ハ定起角負ナル
場合ニ於ケル一例ヲ示
ス
二、火身ノ點線ハ發射準
備ノ位置、實線ハ發射
時ノ位置ヲ示ス

彈道切線ヲ擲線、擲線ヲ含ム垂直面ヲ擲
面ト謂フ擲線ト水平面トニテ成ス角面ヲ
擲角ト謂フ
射角ト擲角トハ通常僅少ノ差アルモノニ
シテ此ノ差ヲ定起角ト謂フ定起角ハ火器
ノ種類ニ依リ生起ノ方向及其ノ量ヲ異ニ
スルモノトス又小銃ニ在リテハ臂上射擊
ト依托射擊トニ依リ其ノ量ニ差異ヲ生ズ
(第一圖)
第四 重力ハ飛行スル彈丸ヲ落下セシム
ルモノニシテ其ノ落下ノ量ハ時間ノ經過
ト共ニ増加シ空氣抗力ハ絶エズ彈丸ノ飛
行速度ヲ減ズ之ガ爲彈道ハ曲線狀ヲ成
シ其ノ彎曲ノ度ハ火身口ヲ遠ザカルニ從
ヒ益々甚ダシク其ノ最高點ハ火身口ト落
點ハ火身口ヲ通ズル水平
面上ノ彈着點ヲ謂フトノ中央ヨリモ落點ニ
近シ火身口ニ通ズル水平面ノ某點ヨリ彈
道ニ至ル高サヲ其ノ距離ニ於ケル彈道高
ト謂フ最高點ノ高サヲ最高度ト謂フ(第

昇弧、降
弧、落角
經過時間
初速、存
腔、旋
動、旋
定偏
偏流

圖三 第



備考
火身口ト彈
著點トノ距
離ヲモ通常
射距離ト稱
ス

三圖)
火身口ヨリ最高點ニ至ル彈道ノ部分ヲ昇弧、最高點
ヨリ落點ニ至ル部分ヲ降弧ト謂フ(第三圖)
落點ニ於ケル彈道切線ト落點ヲ通ズル水平面トニテ
成ス角ヲ落角ト謂フ落角ハ通常射角ヨリ大ナリ(第
三圖)
發射セラレタル彈丸ノ火身口ヨリ彈着點(射表ニ於
テハ落點)ニ到ルニ要スル時間ヲ經過時間ト謂フ
第五 火身口ニ於ケル彈丸ノ速度ヲ初速、彈道ノ某
點ニ於ケル速度ヲ其ノ點ノ存速ト謂フ
第六 彈丸ヲシテ絶エズ其ノ尖頭ヲ前方ニ向ハシメ
終始規正ノ彈道ヲ描カシメンガ爲火身ニ腔綫ヲ施シ
以テ飛行間彈丸ヲ其ノ長軸周ニ旋動セシム
彈丸ノ旋動ハ彈丸ヲシテ腔綫旋回ノ方側ニ偏移セシ
ムルモノニシテ右轉旋ノ腔綫ヲ有スル火身ニ在リテ
ハ彈丸ヲ擲面ノ右方ニ偏移セシム之ヲ定偏ト謂フ
(第四圖)
偏流トハ火身口ト落點トヲ含ム垂直面ト射面トニテ
成ス角ヲ密位ヲ以テ示シタルモノヲ謂フ
小銃、輕機關銃、重機關銃ハ近距離ニ於テハ其ノ偏

高低線、
高低線、
高低線、

考	備	重擲彈筒	平射砲	四一式山砲	速射砲	重機關銃	小銃、輕機
	一、本表ノ數量中一ヲ附セルモノハ左ニ、十ヲ附セルモノハ右ニ修正スルモノトス	-40				0	0
	二、九二式歩兵砲及曲射砲ニ在リテハ常ニ偏流表ニ依リ定偏ノ修正ヲ行フヲ以テ本表中ニハ之ヲ省略ス	-30	+1		+2		
	三、四一式山砲ハ九〇榴彈ニ就キ示ス	-20		0	+1	-1	-0.5
			0			0	-1
			-1		-1	-3	
				-1	-2	5	
						-8	

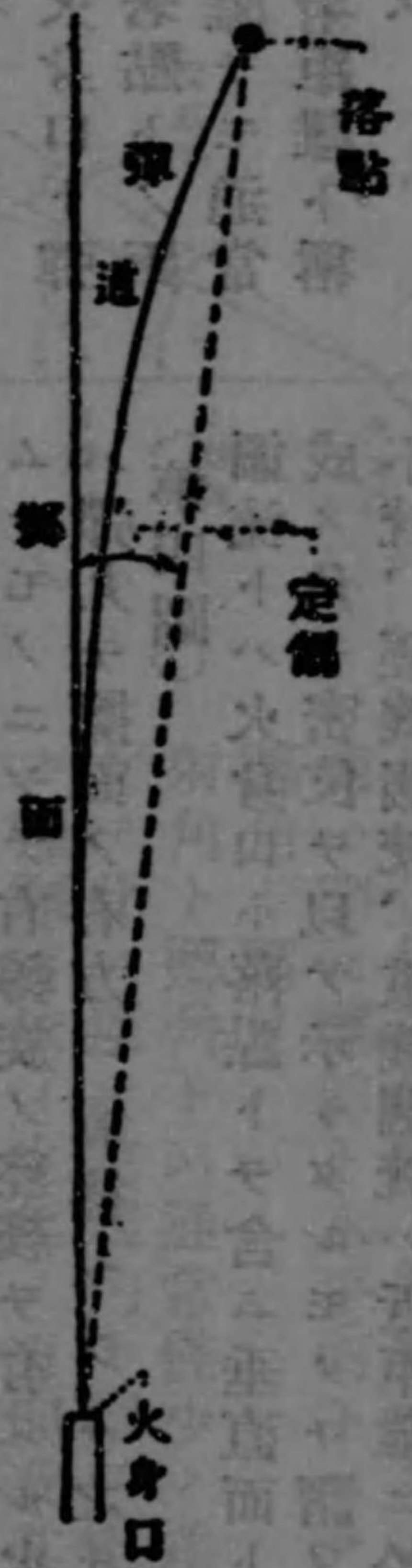
第七 小銃、輕機關銃ノ眼鏡照準具ニハ所要ノ偏流修正ヲ施シ四一式山砲ニ在リテハ表尺桿ノ傾斜ニ依リ自然ニ偏流ノ大部ヲ修正セラレアリ
火身口ト目標ト同一水平面上ニ在ラザルトキ兩者ヲ連ナル線ヲ高低線

偏流修正
量概見表
第一表

火器ノ種類	射距離(米)
	100
	200
	300
	400
	500
	600
	700
	800
	900
	1000
	1100
	1200
	1300
	1400
	1500
	1600
	1700
	1800
	1900
	2000
	2100
	2200
	2300
	2400
	2500
	2600
	2700
	2800
	2900
	3000

流小ナルヲ以テ實用上殆ド顧慮スルヲ要セズ
平射砲及速射砲ニ在リテハ定偏ハ右ニ生ズルモ定起角ノ關係上彈道ハ最初射
面ノ左方ニ通シ後右方ニ偏スルニ至ルモノトス九二式歩兵砲一號裝藥ニ於テ
モ此ノ現象ヲ生起ス
九二式歩兵砲高射界、曲射砲及重擲彈筒ニ在リテハ偏流量著シク大ニシテ射
距離ノ増大ニ伴ヒ漸次減少ス
各種火器ノ偏流修正量ノ概數第一表ノ如シ

圖四第

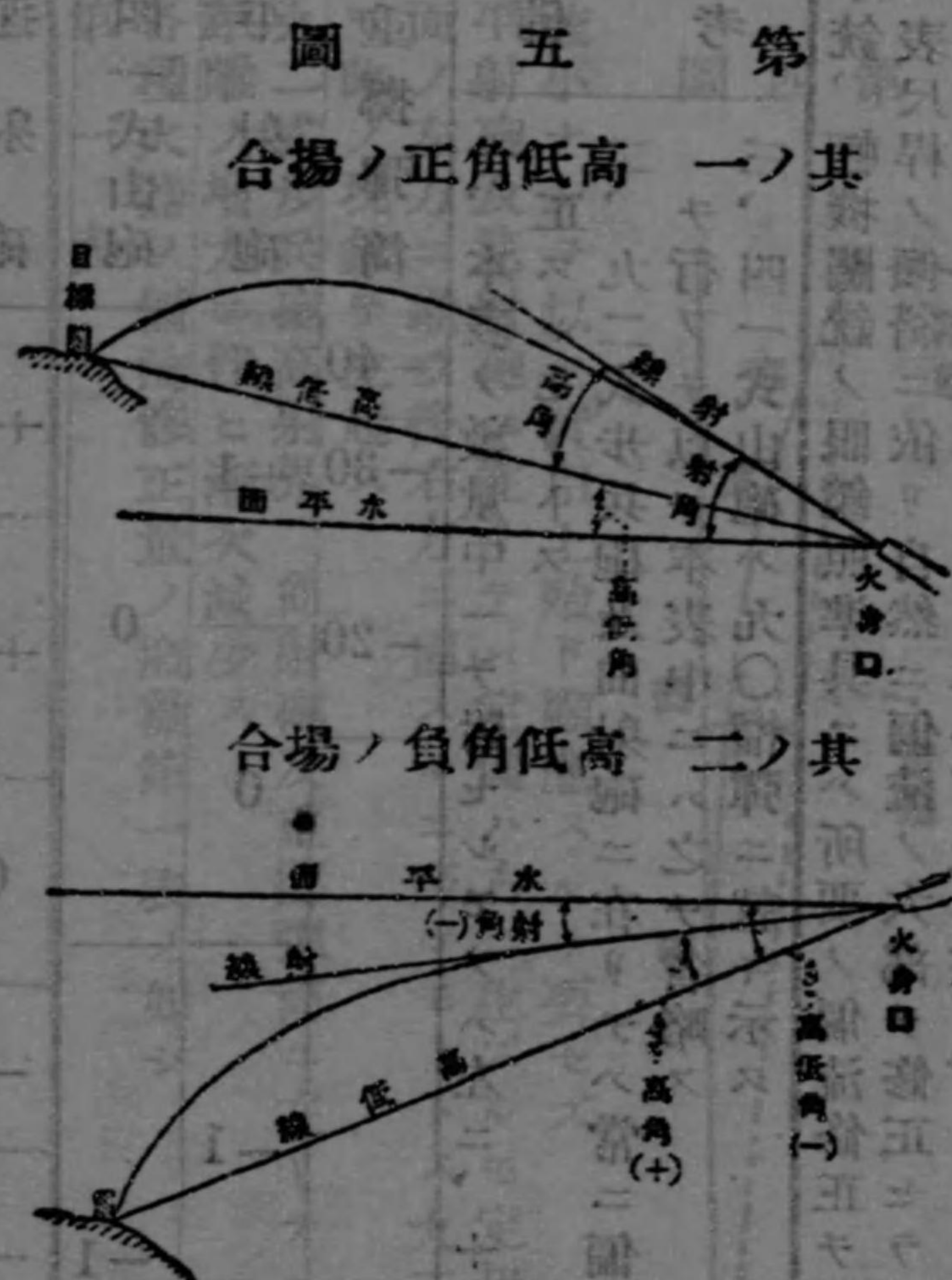


高低角

高角

命中角

低射界射擊、高射界射擊



高低線ト水平面トニテ成ス角ヲ高低角ト謂フ目標火身口ヲ通ズル水平面ノ上(下)方ニ位置スルトキハ高低角ハ正(負)トナシテ射角ヨリ高低角ヲ減シタル角ヲ高角ト謂フ高低角ナキ場合ニ於テハ高角ハ射角ニ等シキモノナリ(第五圖)

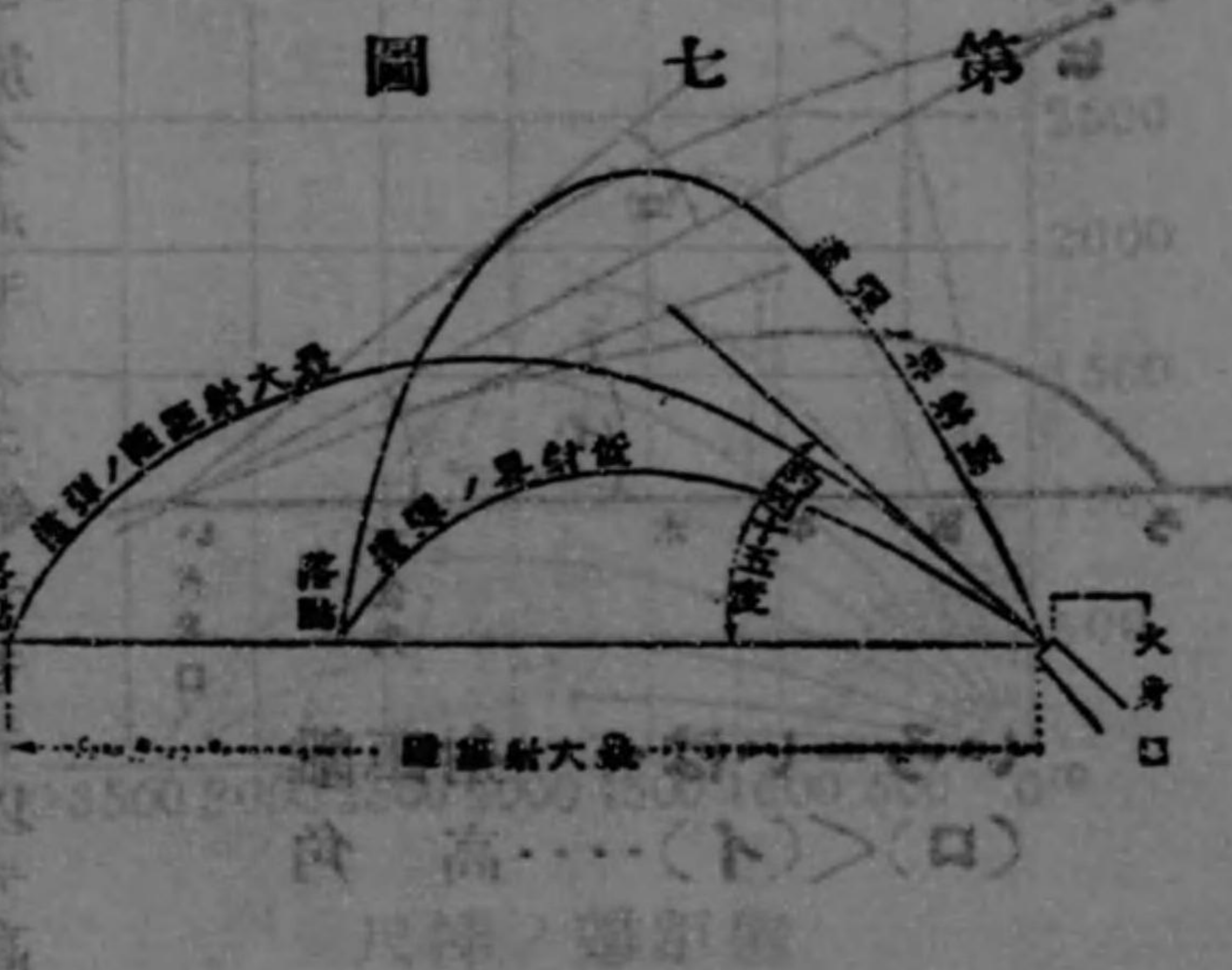
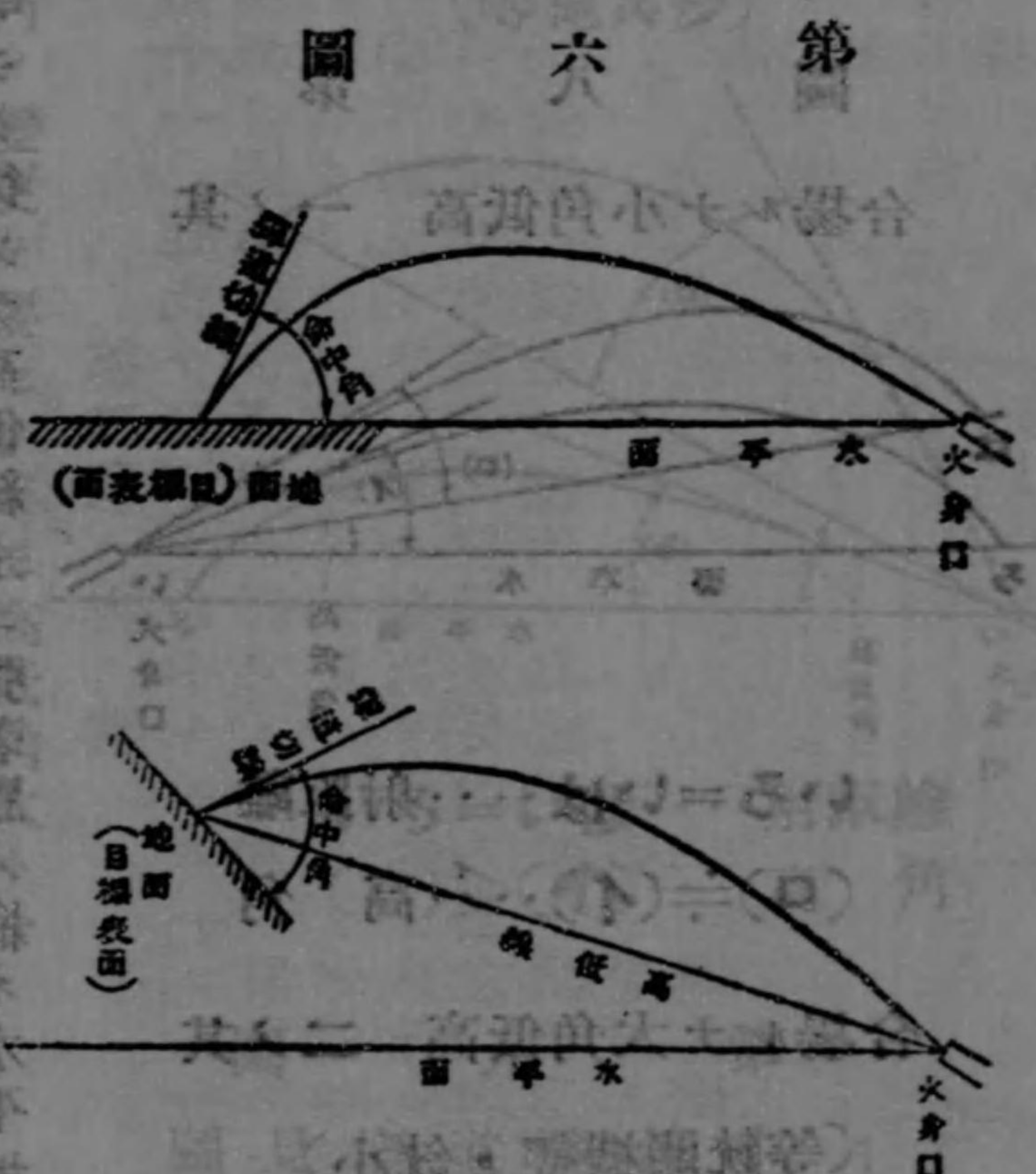
第八 彈著點ニ於ケル彈道切線ト地面又ハ目標表面トニテ成

ス角ヲ命中角ト謂フ(第六圖)
第九 水平地ニ於テ一定ノ初速ヲ以テ射擊スルニ方リ射角大ナルニ從ヒ射距離ハ増大ス然レドモ射角一定ノ限界(約四十五度)ヲ超ユレバ之ニ反ス此ノ限界ヨリ小ナル射角ヲ以テ發射スルヲ低射界射擊、之ヨリ大ナル射角ヲ以テ發

↑ 高低角

射界射擊

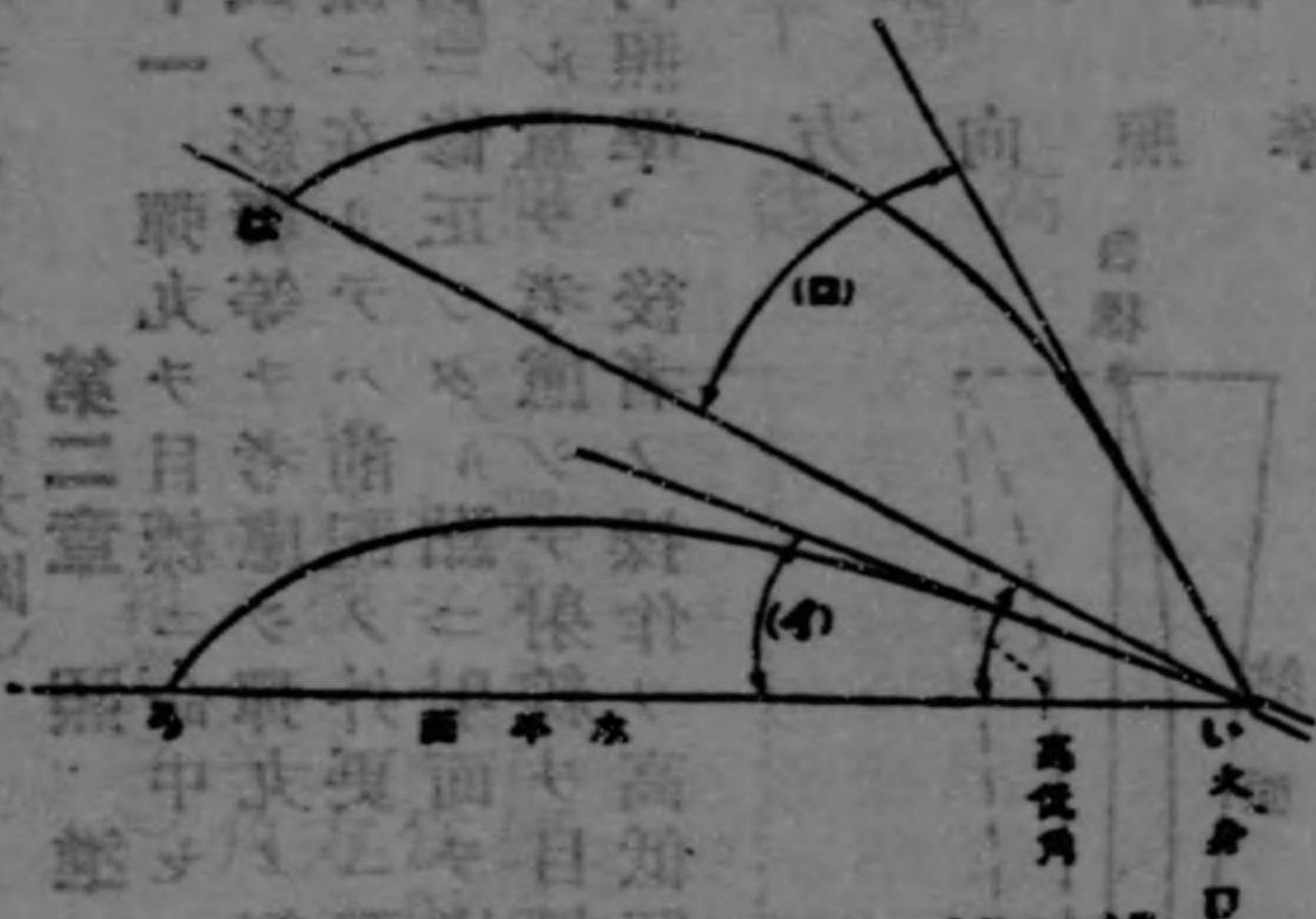
射スルヲ高射界射擊ト謂フ(第七圖) 曲射砲ハ高射界射擊ヲ、九三式歩兵砲ハ低射界(平射)及高射界(曲射)ノ兩射擊ヲ行ヒ其ノ他ノ火器ハ總テ低射界射擊ヲ行フ但シ重擲彈筒ハ四十五度ノ一定射角ノ射擊ヲ行フモノトス



食 高 同 照 照 準 準
 保 護 計 向
 大 小 同 準
 二 準

角ノ變更ヲ要セザルモ高低角大トナ
 ルニ從ヒ彈道ノ形漸次變化スルヲ
 以テ水平地ニ於ケルモノニ比シ高角
 ノ變更ヲ要スルニ至ル而シテ彈道變
 化ノ状態ハ火器ノ種類、彈種、初速

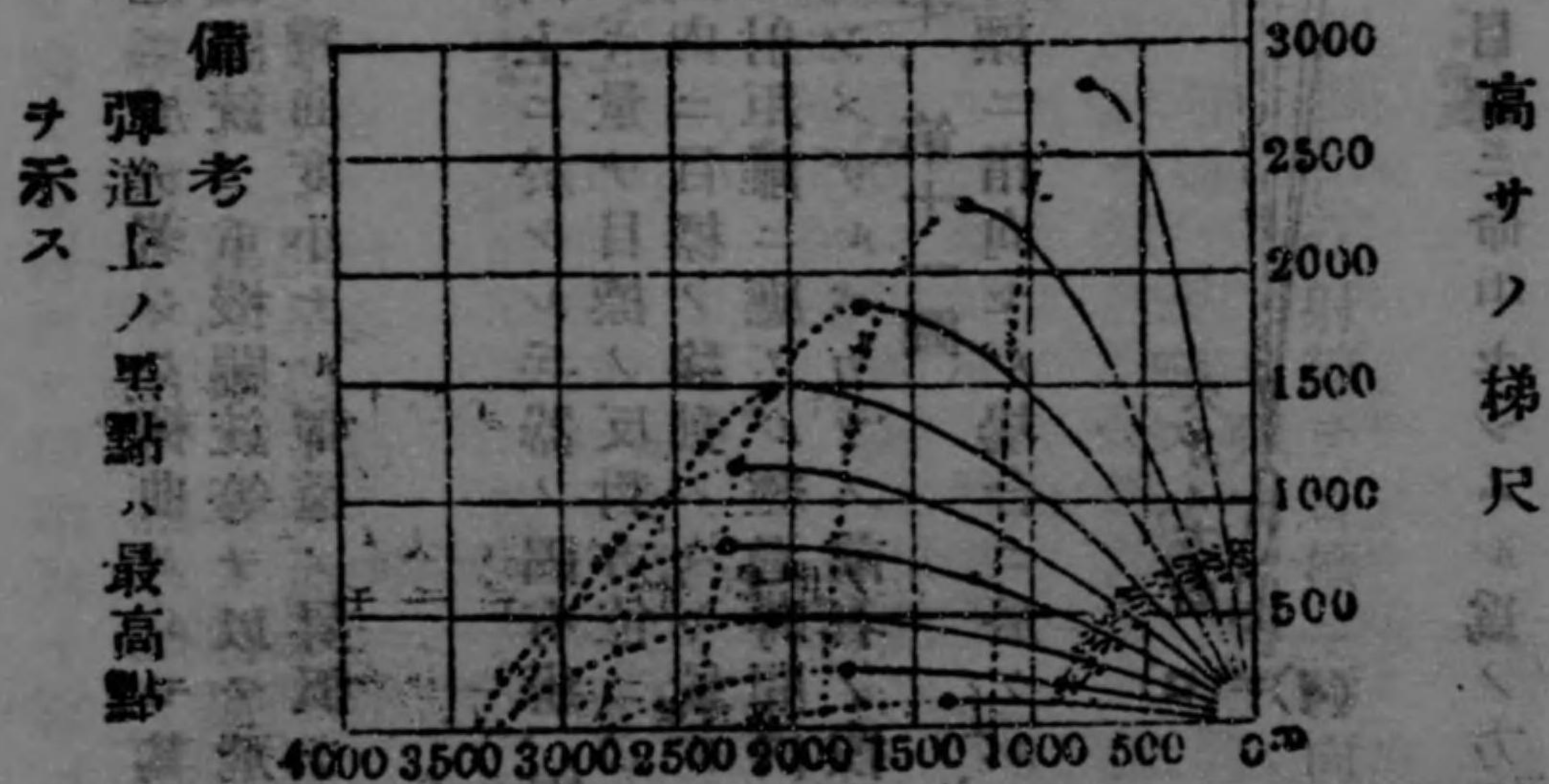
(等砲兵歩)



いろ=いは...射距離
 (ロ)>(イ)...高角

圖 九 第

圖 見 概 道 彈 銃 小



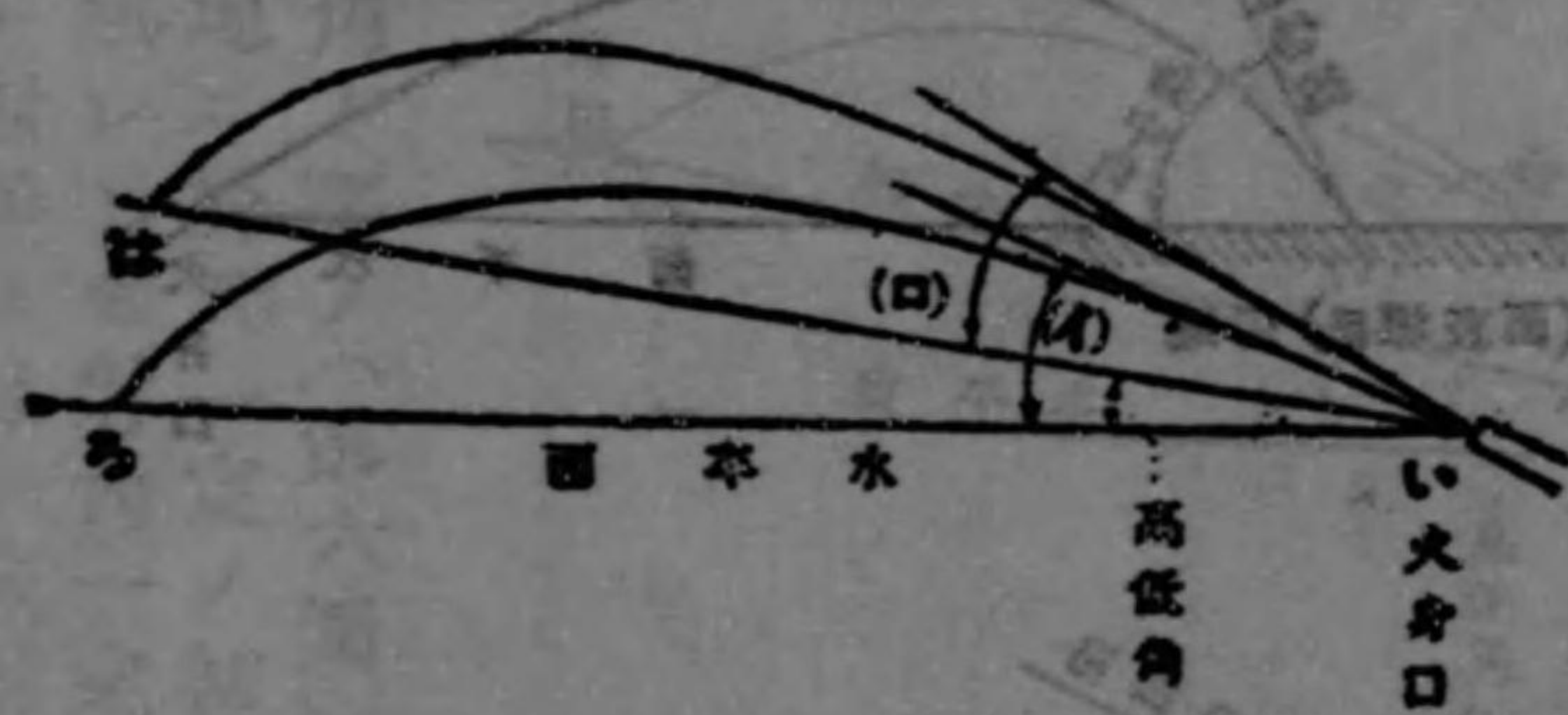
備 考
 彈道上ノ要點ハ最高點
 ナ示ス

尺梯ノ離距射

限 界 射 角
 高 低 角
 高 角
 高 角
 高 角

圖 八 第

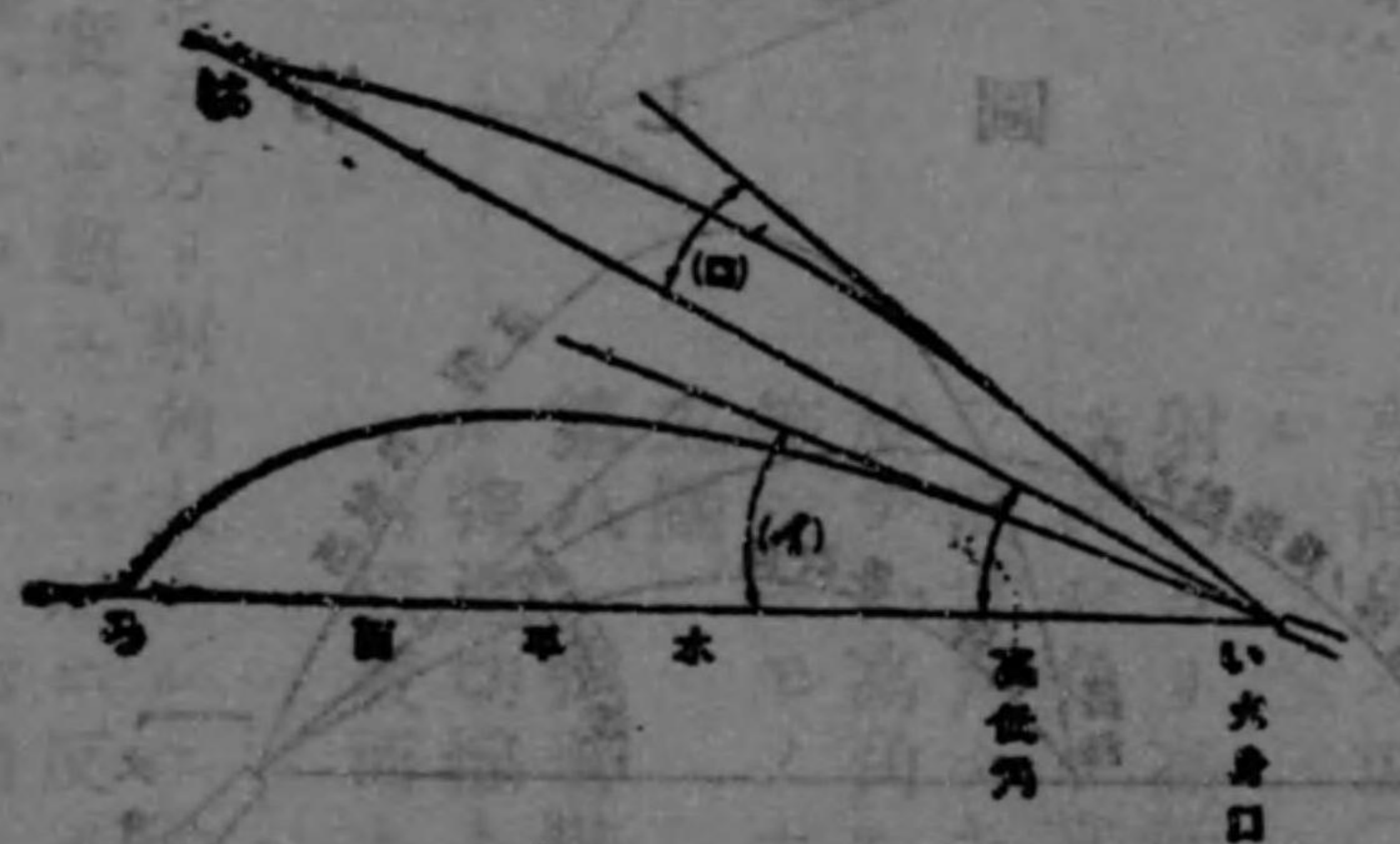
合 場 ル ナ 小 角 低 高 一 ノ 其



いろ=いは...射距離
 (ロ)≠(イ)...高角

合 場 ル ナ 大 角 低 高 二 ノ 其

(等銃關機輕・銃小)



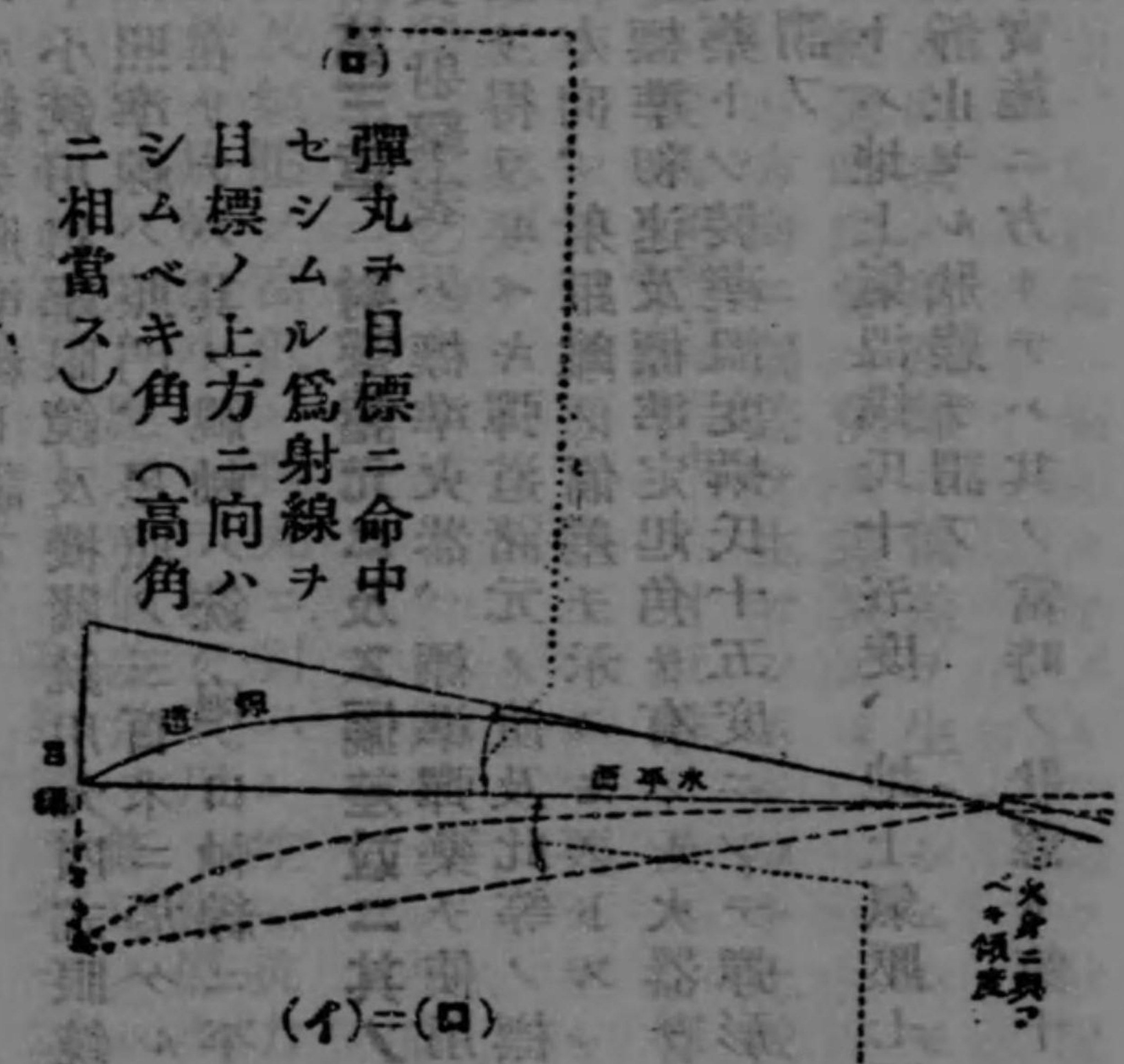
いろ=いは...射距離
 (ロ)<(イ)...高角

高射界射撃ニ在リテハ射角一定ノ限界ヲ超ユルトキハ彈丸反轉シ彈尾ヲ先ニ
 シテ彈著スルモノヲ生ズルニ至ル此ノ射角ヲ限界射角ト謂フ限界射角ハ初
 速、風向、風速等ニ依リ異ナルモ六十乃至七十度ヲ標準トス
 第十、高低角小ナルトキハ彈道ノ形狀ハ高低角ナキ場合ニ於ケルモノニ略
 等シク從ツテ高低線上ニ彈著點ハ概ネ水平地ニ於ケルモノニ等シキヲ以テ高

照準線、
照準點、
照準面

第十二 孔照門(谷型照門)ノ孔(照門上縁)ノ中央ト照星頂トヲ通視スル線又ハ眼鏡十字ノ交截點(眼鏡内ニ目盛ヲ有スルモノニ在リテハ其ノ目盛ト縦、横線トノ交點)ヲ通ズル視線ヲ照準線、照準線ヲ向ケル點ヲ照準點、照準線ヲ含ム垂直面ヲ照準面ト謂フ

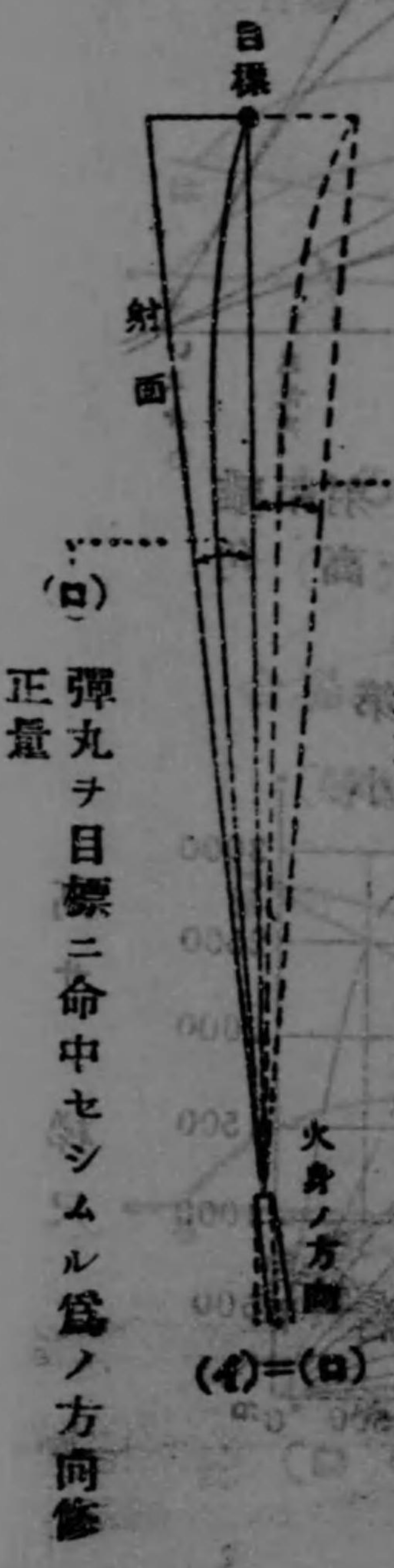
第十圖 準照 高低



(イ) 彈丸ヲ目標ニ命中セシムル爲メ射線ヲ目標ノ上方ニ向ハシムベキ角(高角ニ相當ス)
(ロ) 射線ヲ目標ニ指向セシトキ彈丸ノ落下スル量ニ應ズル角

射線指向
九十度ニ
近キ彈道
高低照準
方向照準

第十圖 準照 方向



第十一 彈丸ヲ目標ニ命中セシムルニハ方向上ニ於ケル兵器ノ固有ノ偏流、横風ノ影響等ヲ考慮シ彈丸ノ側方ニ偏移スベキ量ヲ目標ノ反對方位ニ移動目標ニ在リテハ前記ノ外更ニ彈丸ノ經過時間内ニ目標ノ移動スベキ量ヲ移動下スル量ヲ考慮シタル點ニ射面ヲ指向シ且彈丸ノ射距離ニ應ズル經過時間内ニ落方向照準、後者ノ操作ヲ高低照準ト謂フ(第十、第十一圖)
(イ) 射面ヲ目標ニ指向セル場合ニ於ケル方向偏差量
(ロ) 彈丸ヲ目標ニ命中セシムル爲メノ方向修正量

等ニ依リ異ナルモノトス(第八圖)
射角九十度ニ近ヅクニ從ヒ彈道ハ最高點附近ニ於テ著シク彎曲スルモ其ノ他ノ部分ハ直線狀ニ接近スルニ至ル小銃、輕機關銃、重機關銃等ヲ以テ發射機ノ如キ仰角ナル目標ヲ射撃スル場合ニ於テハ彎曲度小ナル彈道ノ見舞ヲ利用スルモノトス(第九圖)

高射照準具
眼鏡照準具
射表(射撃表)ノ値
標準火器
標準氣象
狀態ノ修正
偏差

重砲彈筒ニ在リテハ、照準筒ノ方向照準線トチ含ム垂直面ヲ照準面ト謂ヒ此ノ垂直面内ニ於テ筒ノ方向照準線ノ上端ヲ通視スル線ヲ照準線ト謂フ
高射照準具(焦點鏡ニ照準環チ有スル眼鏡照準具)ニ在リテハ、飛行機ノ飛行方向線ヲ照準門ト照準環ノ中央トチ通視スル線(眼鏡十字ノ交截點ヲ通ズル視線)ニ交ハラシメタルトキ兩線ニテ成ス平面ト飛行機ノ航速ニ應ズル照準環トノ交點ヲ通視スル線ヲ照準線ト謂フ
眼鏡照準具中小銃用狙撃眼鏡及機關銃用九四式眼鏡照準具ニ在リテハ其ノ三百米ニ於ケル照準線ハ照準門、星照ノ三百米ニ於ケル照準線ニ平行シ其ノ他ノ眼鏡照準具ニ在リテハ其ノ視軸ハ銃(砲)口軸線ニ平行スル如ク設定セラレタリ

第三章 射撃諸元ニ及ス偏差並ニ其ノ修正
第十三 射表(射撃表)ハ標準火器、標準彈藥ヲ使用シ標準氣象狀態ニ於テ行ヘル射撃ニ依リ得ラルベキ彈道諸元ノ値及此等ノ標準狀態ニ偏差チ生ジタル場合ニ於ケル方向、射距離ノ偏差チ示スモノトス
標準火器トハ標準初速及標準定起角チ有スル火器ヲ謂ヒ標準彈藥トハ規定藥勢ノ火藥ヲ裝藥トシ裝藥溫度攝氏十五度ニシテ彈形、彈量、裝藥量等規定ニ合スルモノヲ謂フ
標準氣象狀態トハ地上氣溫攝氏十五度、地上氣壓七百五十耗、濕度百分ノ五ニシテ空氣靜止セル狀態ヲ謂フ
第十四 射撃實施ニ方リテハ其ノ當時ノ狀態ト第十三ニ示ス標準狀態トノ差

正風
風、縱
斜風
氣溫及氣
土地ノ高低
氣溫、氣壓
關係

異ニ基因シ方向、射距離ニ偏差チ生ズルヲ以テ狀況ニ應ジ所要ノ修正チ行フヲ要ス
第十五 風ハ方向或ハ射距離ニ偏差チ生セシムルモノニシテ其ノ量ハ風向、風速、彈丸ノ經過時間等ニ依リ差異アリ
風速、彈丸ノ經過時間等ニ依リ差異アリ
斜風、彈丸ノ經過時間等ニ依リ差異アリ
修正スルヲ要ス縱風、射距離ニ平行セザルモノトス
修正スルヲ要ス斜風、射距離ニ垂直セザルモノトス
修正スルヲ要ス風、射距離ニ斜交セザルモノトス
修正スルヲ要ス風、射距離ニ斜交セザルモノトス
第十六 氣溫及氣壓ノ高低ハ彈丸ニ對スル空氣抗力ニ差異チ生ジ射距離チ増減ス此ノ偏差量ハ比較的小ナルヲ以テ實用上顧慮セズト雖モ氣溫、氣壓ノ高低著シキ場合ニ於テハ之ニ應ズル偏差量チ修正スルヲ要ス
標準氣溫ニ比シ氣溫高(低)キトキハ射距離チ増シ(減シ)標準氣壓ニ比シ氣壓高(低)キトキハ射距離チ減ズ(増ス)
空氣ハ土地ノ高サチ増シ氣溫上昇スルニ伴ヒ稀薄トナルモノニシテ標高十米ノ高(低)ハ氣壓一耗ノ減(増)チ來スモノトス
氣溫、氣壓ノ射距離ニ及ス影響チ考慮スルニ方リテハ氣溫一度ノ増(減)ハ氣壓三耗ノ減(増)ニ相當スルモノト看做シ得

方向(高低)固有修正量ト謂ヒ射撃ニ方リテハ之ヲ修正スルモノトス

第十七 照準具ノ方向(高低)誤差ハ方向(射距離)ニ偏差ヲ生セシム此ノ偏差ト實射ノ結果得タル偏差ト合シタルモノヲ方向(高低)固有修正量ト謂ヒ射撃ニ方リテハ之ヲ修正スルモノトス

第十八 初速ノ偏差ハ射距離ニ偏差ヲ生セシム此ノ偏差ハ彈道(命中)試驗ノ結果求メラルルモノニシテ射撃ニ方リテハ之ヲ修正スルモノトス

第十九 銃、砲等左右ニ傾斜スルトキハ射撃ニ低キ方ニ偏セシメ且射距離ヲ短縮(高射界射撃ニ在リテハ延伸)ス而シテ其ノ量ハ傾斜ノ度及射角ニ關スルモノニシテ傾斜ノ修正裝置ヲ有セザル火器ニ在リテモ所要ニ應ジ此ノ偏差量ヲ修正スルモノトス

第二十 照準具ノ照準ニ應ズル修正量(偏流量ヲ合算ス)附表第二ノ如シ

第二十一 照準具ノ照準ニ依リ照準ヲ行フ場合ニ於テ光線側方ヨリ照準ヲ照ラストキハ照準具ノ輝ク方ノ視像他ノ方ヨリ膨大スルガ故ニ其ノ膨大セル部ヲ以テ照準シ自ラ眞ノ照準頂チ一側ニ偏シテ照準内ニ現シ彈丸ヲシテ暗黒ナル方ニ偏セシメ又光線上方ヨリ照準ヲ照ラストキハ射手ノ眼ニ映ズル視像大トナルヲ以テ自ラ照準頂チ低ク照準内ニ現シ射距離ヲ減ズルコトアリ

第二十二 曇天、黎明、薄暮、森林内等照準ヲ視ルコト明瞭ナラザルトキハ自ラ照準頂チ高ク現シ射距離ヲ増大スルコトアリ

第二十三 高低角アル目標ヲ射撃スルニ方リ間接照準ニ依ル射撃ニ在リテハ高低角ノ修正ヲ行フモ高角ハ實距離ニ應ズルモノヲ採用スルヲ通常トス但シ

對シ修正 九二式歩兵砲ノ高射界射撃及曲射砲ノ射撃ニ在リテ砲位置ト目標位置トノ比高五十米以上ナル場合ニ於テ目標位置高(低)キトキハ比高ノ二分ノ一ヲ射距離ニ増シ(減シ)之ヲ修正スルヲ有利トス

第二十二 重擲砲筒及曲射砲ニ在リテハ射撃當日ノ初速低下ノ爲著シク近著スルコトアリ腔内ノ塗油多量ナル場合ニ於テ特ニ然リ斯クノ如キ場合ニ於テハ此ノ射撃ハ射撃修正ノ資ニ供セザルヲ可トス

第二十三 同一火器ヲ以テ同一状態ニ於テ射撃ヲ行フモ諸種ノ原因ニ因リ射撃ハ每發其ノ彈道ヲ同シクセズ某範圍内ニ散布スベシ此ノ現象ヲ射撃ノ散布ト謂フ而シテ多數ノ彈丸ヲ發射スルトキハ其ノ彈道ハ恰モ東黨ノ如ク、曲圓錐形ヲ成スモノニシテ射撃ハ中央ニ近ヅクニ從ヒ益々稠密トナルモノトス之ヲ集束彈道ト謂フ

第二十四 射撃散布ノ原因ハ火器ノ構造、火器及彈藥製造上ノ誤差等ニ因リノ外氣象、目標ノ明暗、射撃位置及射撃操作ノ良否、姿勢、體力、精神状態等ニ關係ナシ有ス小銃、輕機關銃、重擲砲筒等ニ在リテハ射撃操作ノ不良ニ基因スルモノ其ノ影響最モ甚ダシキモノトス

第二十五 垂直面ニ收容セラレタル集束彈ノ散布面ヲ水平被彈面ト謂ヒ其ノ地上ニ於ケルモノヲ收容セラレタル集束彈ノ散布面ヲ水平被彈面ト謂ヒ其ノ地上ニ於ケルモノヲ

平均、平著
點、平著
彈道、最著
下、最著
彈道、最著
被、最著
形、最著
狀、最著

第二十七 垂直(水平)被彈面ノ總彈著點ヲ上下(遠近)、左右ニ平等ニ分ツベキ縱、横線ノ交點ヲ平均彈著點、之ニ通ズル彈道ヲ平均彈道、集束彈下端ノ彈道ヲ最下彈道ト謂フ

第二十八 多數射彈ノ彈著點ハ平均彈著點ニ對シ常ニ一定ノ關係ニ散布スルモノニシテ垂直被彈面上ニ於ケル上下、左右ノ疎密ノ景況第十三圖ノ如シ右ノ如キ關係ハ發射彈數少キトキハ十分明瞭ナル狀態ヲ知ルコト能ハザルモ

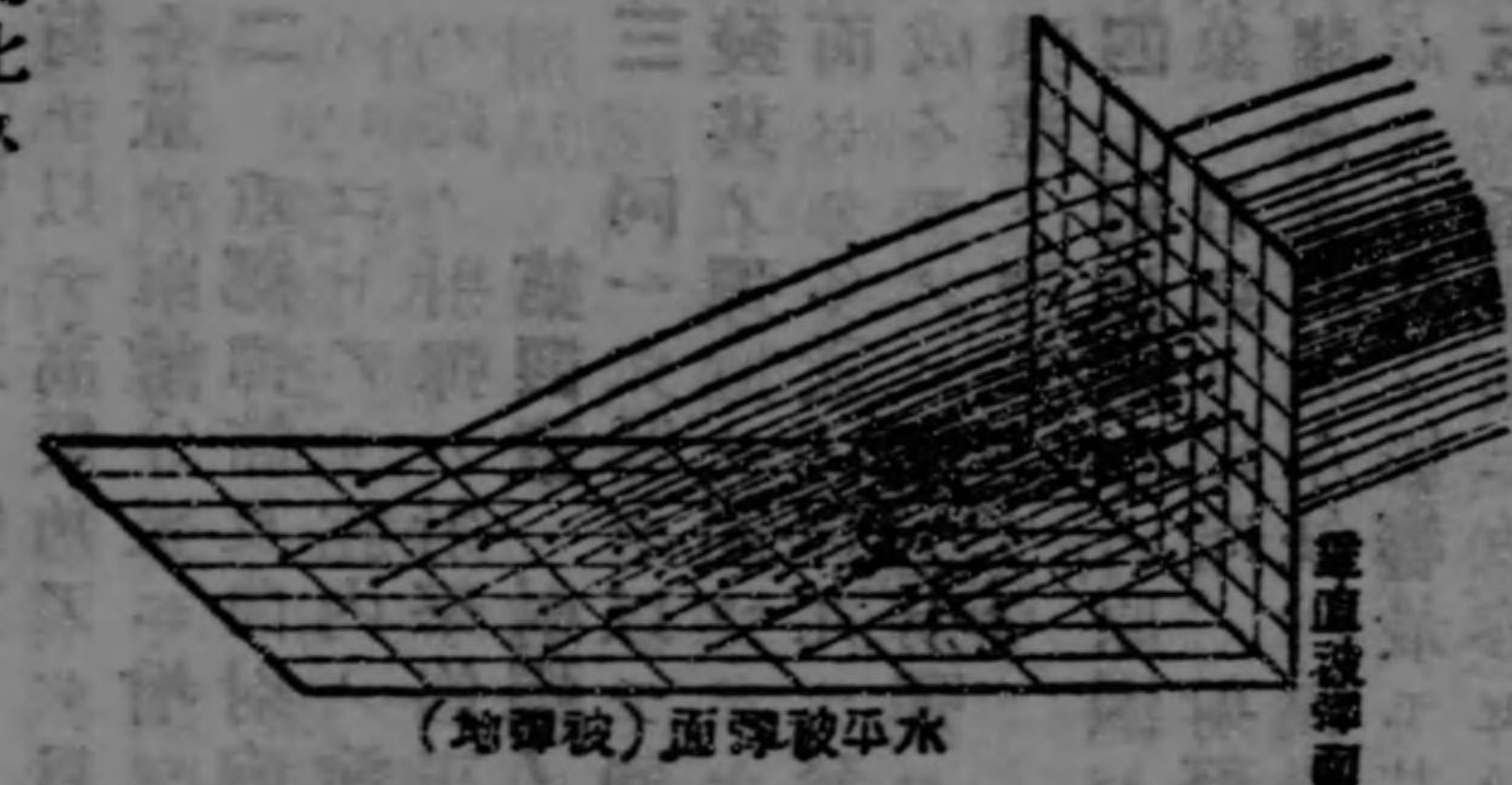
幅	縱長	區分射距離
2.0	190	600
2.5	172	700
3.0	165	800
3.5	157	900
3.5	148	1000
4.0	140	1100
4.5	132	1200
5.0	129	1300
5.5	124	1400
6.0	122	1500
6.5	117	1600
7.0	121	1700
8.0	123	1800
8.5	128	1900
9.5	132	2000

重機關銃射擊ニ於ケル被彈地ノ縱長及幅 (米)

被彈面
被彈地ノ
縱長及幅

依り變化ス
第二表

第二十圖



被彈地ト謂フ(第十二圖) 垂直被彈面ノ高さハ通常其ノ幅ヨリ大ナルモノナリト雖モ火器ノ種類、射距離等ニ依リ之ニ反スルモノアリ

水平被彈面ニ於ケル幅ハ垂直被彈面ノモノト大差ナキモ低射界射擊ニ在リテハ縱長ハ垂直被彈面ノ高さニ比シ大ナリ特ニ彈道低伸スルモノニ在リテハ此ノ差著シク大ナルモノトス

第二十六 被彈地ノ縱長及幅ハ射距離ト共ニ増大スルヲ一般トスルモ小銃、輕機關銃、重機關銃等ニ在リテハ某距離ニ至ル迄ハ縱長短縮シ爾後射距離ノ増大ニ伴ヒ縱長ヲ増大スルモノトス此ノ關係ヲ重機關銃ニ就キ例示セバ第二表ノ如シ

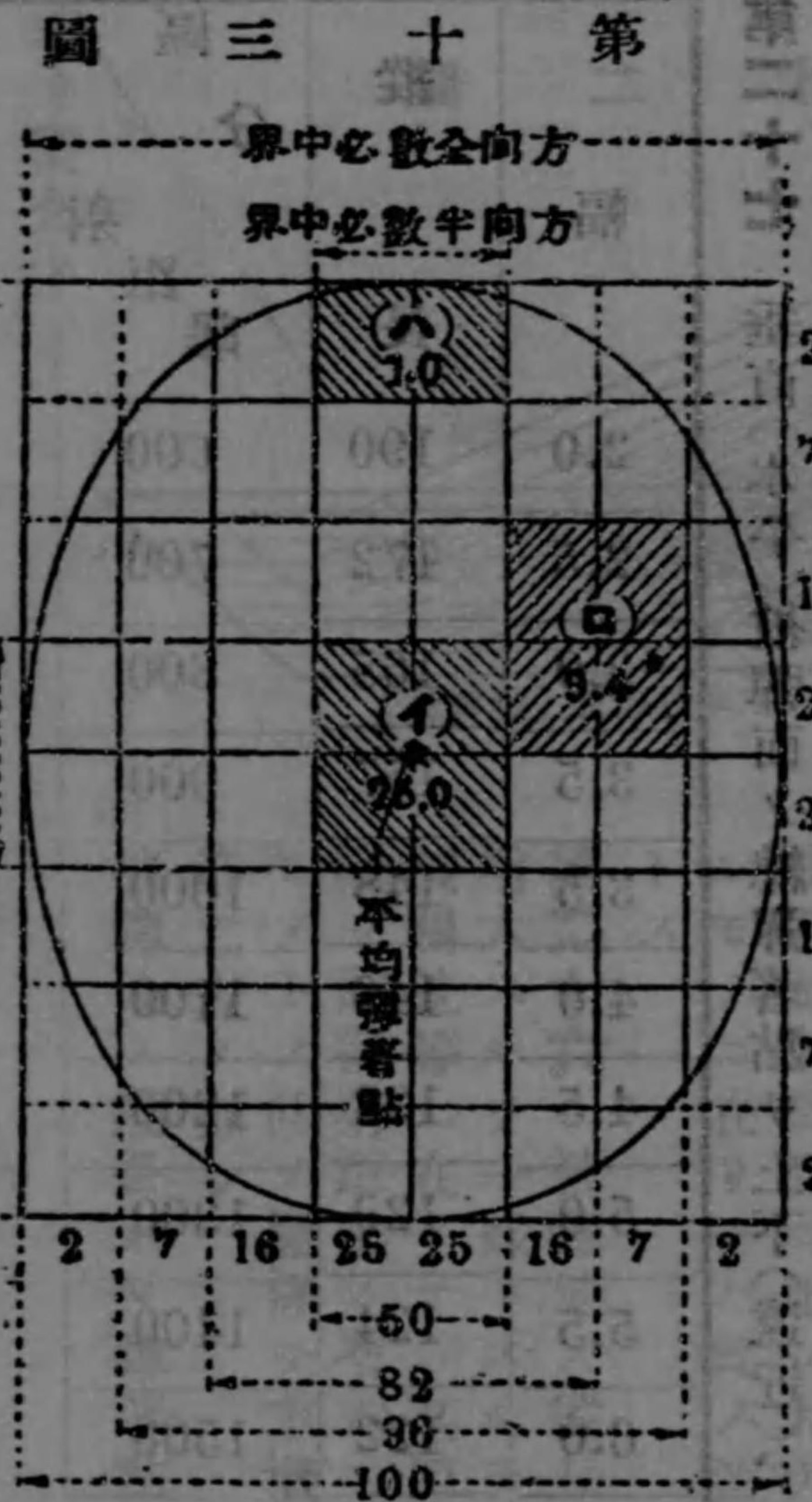
被彈地ノ縱長ハ又彈著點附近ノ地面ノ傾斜ニ依り變化ス

半數必中
界
方向半數
必中界
高低(射
距離)半
數必中界

公算躲避
公算誤差
平均彈著
點ノ求メ
方

實用半數
必中界

發射彈數多キニ從ヒ益々規則正シク一定ノ法則ニ依ルチ知レベシ
第二十九 多數射彈ノ垂直(水平)被彈面ニ於テ平均彈著點ヲ中央トシ其ノ兩
側ニ於テ總彈著點ノ半數ヲ含ム部分ヲ垂直線(平均彈著點ト火身口トヲ連ヌ
ル直線ニ平行ナル直線)ヲ以テ區劃スルトキハ其ノ兩界線間ノ長サヲ方向半
數必中界ト謂ヒ同様ニ前記直線ニ直交スル直線ヲ以テ區劃シタル場合ニ於テ



備考 數字ハ百分數ヲ示ス

高低 方向

(イ) $25\% = \frac{25 \times 25}{100} \times \frac{25 + 25}{100}$

(ロ) $9.4\% = \frac{25 + 16}{100} \times \frac{16 + 7}{100}$

(ハ) $1.0\% = \frac{2}{100} \times \frac{25 + 25}{100}$

ハ之ヲ高低(射距離)半數必中界ト謂フ而シテ射彈ノ全數ハ平均彈著點ヲ中心
トスル此等兩半數必中界ノ各々約四倍ノ帶内ニ收容セラレルモノニシテ(第
十三圖)半數必中界ノ大小ハ射擊精度ノ良否ヲ判定スルノ基準トナルモノナ
リ

半數必中界ノ半量ヲ公算躲避ト謂フ

第三十 各種ノ誤差ハ射彈ノ散布ト同一ノ狀態ニ生起スルモノナリ此ノ場合
ニ於テ第二十九ニ示ス公算躲避ニ相當スルモノヲ公算誤差ト謂フ

第三十一 平均彈著點ノ位置ヲ求ムルニハ通常左ノ方法ニ依ル

多數彈ヲ發射セル場合ニ於テハ總彈著ノ上方(遠方位)及下方(近方位)ヨリ
各々其ノ四分ノ一ヲ算ヘテ一線ヲ描キ次ニ右方及左方ヨリ同様ニ總彈著ノ
四分ノ一ヲ算ヘテ一線ヲ描キ此等ノ線ニ依リテ得タル矩形ノ對角線ノ交點
ヲ以テ平均彈著點トス

少數彈ヲ發射セル場合ニ於テハ計算又ハ圖解法ニ依リ垂直(遠近)及水平
(左右)方向ニ總彈著ノ平分線ヲ描キ其ノ交點ヲ以テ平均彈著點トス

何レノ場合ニ於テモ躲避著シク大ナル彈著ハ之ヲ不規彈トシ除外スルチ可ト

第三十二 單一銃ヲ以テ不明瞭ナル目標ヲ射擊シタル場合ニ於ケル半數必中
界實用半數必中界ト稱ス第三表ノ如シ

多數銃ヲ以テ同一目標ニ對シ同時ニ射擊スルトキハ其ノ實用半數必中界ハ前
項ニ示ス量ノ約一・五倍ニ増大スルチ通常トス

重擲彈筒ノ射擊ニ於ケル實用半數必中界ハ射表ニ示スモノト大差ナシ
 單一火砲ヲ以テ行フ射擊ノ實用半數必中界ハ射表ニ示スモノヨリモ稍増大
 シ數門ヲ以テ行フ射擊ノ實用半數必中界ハ單一火砲ノモノノ約一・五倍ニ増

考 備	銃 機 關		式 重		九 二		銃 機 關		九 六 式	
	定 緊	非	定	緊	方 向	高 低	方 向	高 低	方 向	高 低
	方 向	高 低	方 向	高 低	方 向	高 低	方 向	高 低	方 向	高 低
一、九六式輕機關銃、九二式重機關銃ニ在リテ眼鏡ニ依リ射擊ヲ行フトキハ半數必中界ハ若干減少スルモ至近距離ニ於テハ大差ナシ 二、九七式狙擊銃ニ在リテハ三八式歩兵銃ニ比シ半數必中界ハ稍小ナリ	26	29	24	22	32	28				
	34	37	30	29	46	36				
	43	46	38	37	62	48				
	53	55	46	45	78	62				
	64	64	54	54	94	78				
	77	74	63	64	112	96				
	91	85	73	75	130	118				
	107	89	82	87	150	144				
	126	112	92	99	170	176				
	147	128	102	113						
	170	143	113	128						
	197	167	123	143						
	226	191	134	161						
	261	218	144	199						

軍裝セル中等射手
 ナ以テ最低姿勢ニ
 テ點射ヲ行ヒタル
 結果トス

セル結果トス

第三表

關 式 十 一 年	騎 三 八 式	步 兵 銃		三 八 式		銃 種 類 必 中 界	射 距 (米)
		方 向	高 低	方 向	高 低		
48	30	24	27	20	22	200	單一銃ヲ以テスル射擊ノ實用半數必中界 (糧)
60	48	34	37	30	32	300	
74	68	40	48	42	44	400	
90	88	58	60	56	56	500	
108	108	76	72	72	63	600	
128	128	96	86	90	80	700	
150	150	118	102	110	94	800	
174	172	142	120	134	108	900	
200	196	165	142	144	122	1000	
						1100	
						1200	
						1300	
						1400	
						1500	

軍裝セル中等射手
 ナ以テ伏射ニテ射
 擊セル結果トス

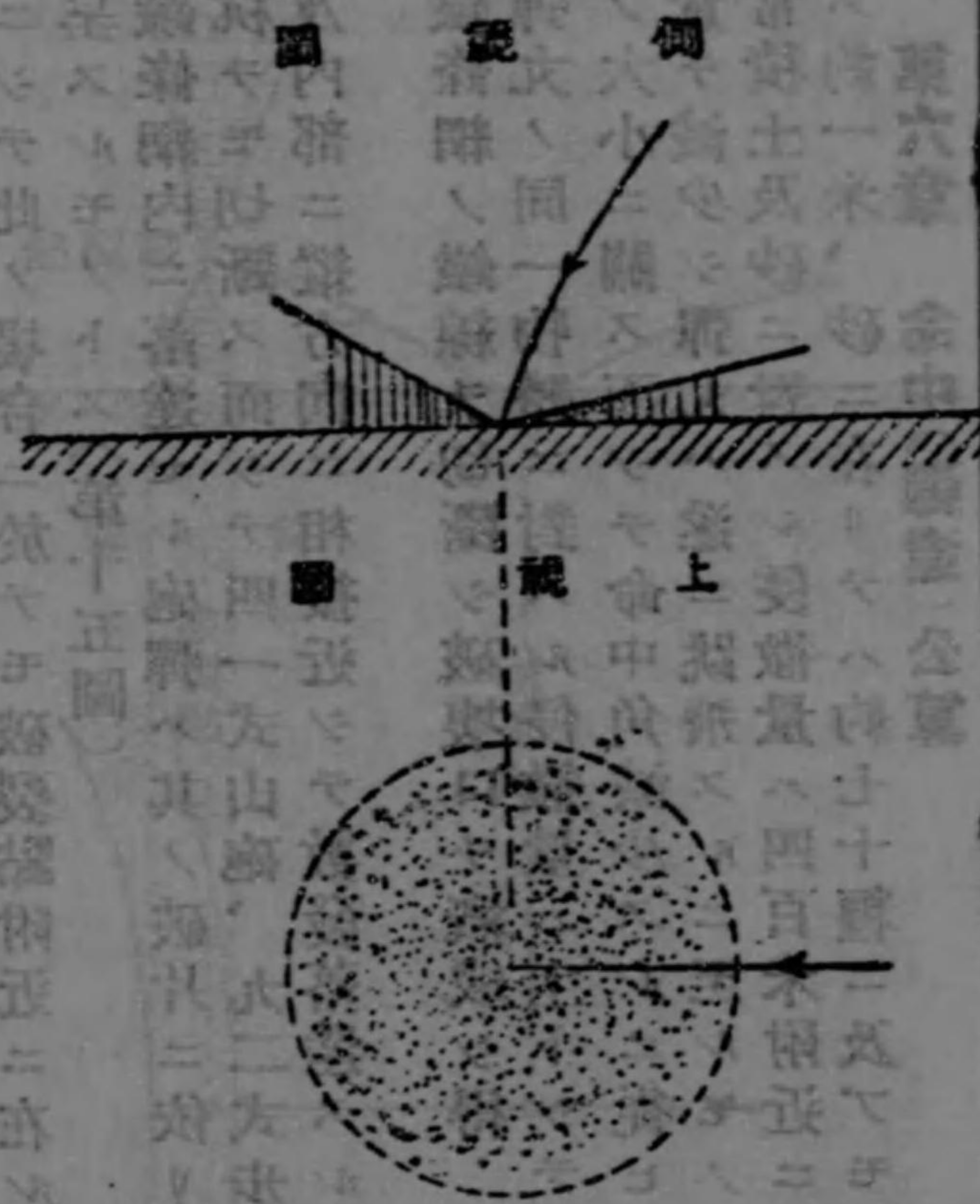
摘 要

食 象

食 象 ↑

左ノ如シ
四一式山砲
九二式歩兵砲(低射界)

合場ルナ大角落 二ノ其



一號裝藥
二號裝藥
三號裝藥
四號裝藥

約一千米
約六百米
約二百米
約百米

ハ彈著點ヨリ約十
米、曲射砲ニ在リテ
ハ十數米、四一式山
砲、九二式歩兵砲ニ
在リテハ二十米前後
ニ達スルモノトス
瞬發信管ノ確實ニ作
用スル射距離ハ彈頭
ノ經始、命中角ノ大
小、目標附近ノ土地
ノ景況等ニ依リ異ナ
ルモ土地平坦ニシテ
尋常土ナルトキニ於
ケル最近距離ノ標準

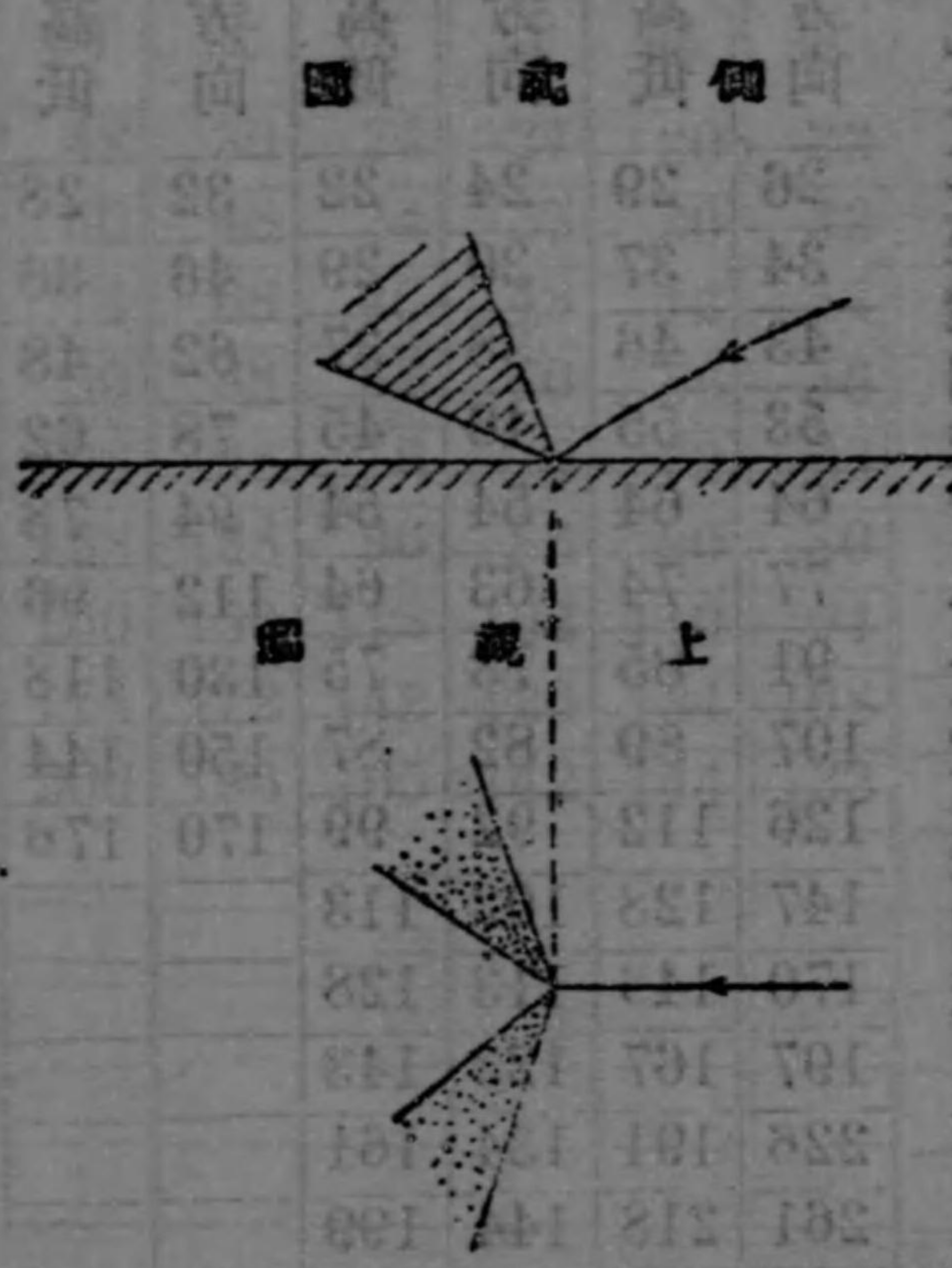
♀

力榴
彈ノ
效

力
彈ノ
效

○○○

圖 四 十 第
合場ルナ小角落 一ノ其



大スルモノトフ
實戰ニ在リテハ精神上ノ影響ヲ受ケ半數必中界ハ増大スルヲ通常トス其ノ影
響ハ小銃、輕機關銃、重擲彈筒等ニ於テ特大ナリ
第三章 小銃彈ハ暴露セル人馬ニ對シ殺傷效力ヲ呈シ又近距離ニ在リテハ
兵器等ニ對シ破壊ノ效力ヲ呈ス
跳彈ハ直射彈ニ比シ侵徹力小ナルモ人馬ニ對シテハ尙相當ノ殺傷力ヲ有ス
第三十四 瞬發信管ヲ
附セル榴彈ハ彈著ノ瞬
時ニ破裂シ破片ノ大部
ハ彈道ニ略、直角ナル
方向ニ散飛シ落角小ナル
ルトキハ彈著點ノ側方
ニ於ケル密度著シク大
ナルモ落角大ナルニ從
ヒ散布ノ狀態ハ圓形ニ
近ヅクモノトス(第十
四圖)
有效破片ノ散飛スル範
圍ハ重擲彈筒ニ在リテ

ハ彈著點ヨリ約十
米、曲射砲ニ在リテ
ハ十數米、四一式山
砲、九二式歩兵砲ニ
在リテハ二十米前後
ニ達スルモノトス
瞬發信管ノ確實ニ作
用スル射距離ハ彈頭
ノ經始、命中角ノ大
小、目標附近ノ土地
ノ景況等ニ依リ異ナ
ルモ土地平坦ニシテ
尋常土ナルトキニ於
ケル最近距離ノ標準

短延期信
管榴彈

曳火手榴彈ノ地上破裂ノ景況ハ概ネ落角大ナル際發信管附榴彈ニ類似シ破片ハ全周ニ散飛ス而シテ有效破片ノ散飛スル範圍ハ七米内外ナリ
第三十五 短延期信管ヲ附セル榴彈著シ跳飛セザルトキハ若干地中ニ侵入シタル後破裂スルモノニシテ輕掩蓋ニ對シテハ掩蓋ヲ破壊シ内部ノ人員、材料ニ損傷ヲ與ヘ得ルモノトス彈底信管ヲ附セル榴彈ニ在リテモ略々之ト同様ナリ

鐵條網ニ
對スル效
力與負↑

短延期信管附榴彈著シ信管作用スルモ跳飛スルトキハ第二彈道上ニ於テ破裂スルモノニシテ此ノ場合ニ於テモ破裂點附近ニ在ル暴露目標ニ對シテハ殺傷ノ效力ヲ呈スルモノトス(第十五圖)
第三十六 鐵條網内ニ落達セル砲彈ハ其ノ破片ニ依リ鐵條ヲ切斷シ且彈著點ニ接近セル抗ヲ切斷ス而シテ四一式山砲、九二式歩兵砲、曲射砲ノ榴彈鐵條網ノ前方及内部ニ縱方向ニ相接近シテ數發落達スルトキハ破壞口ヲ概成シ得

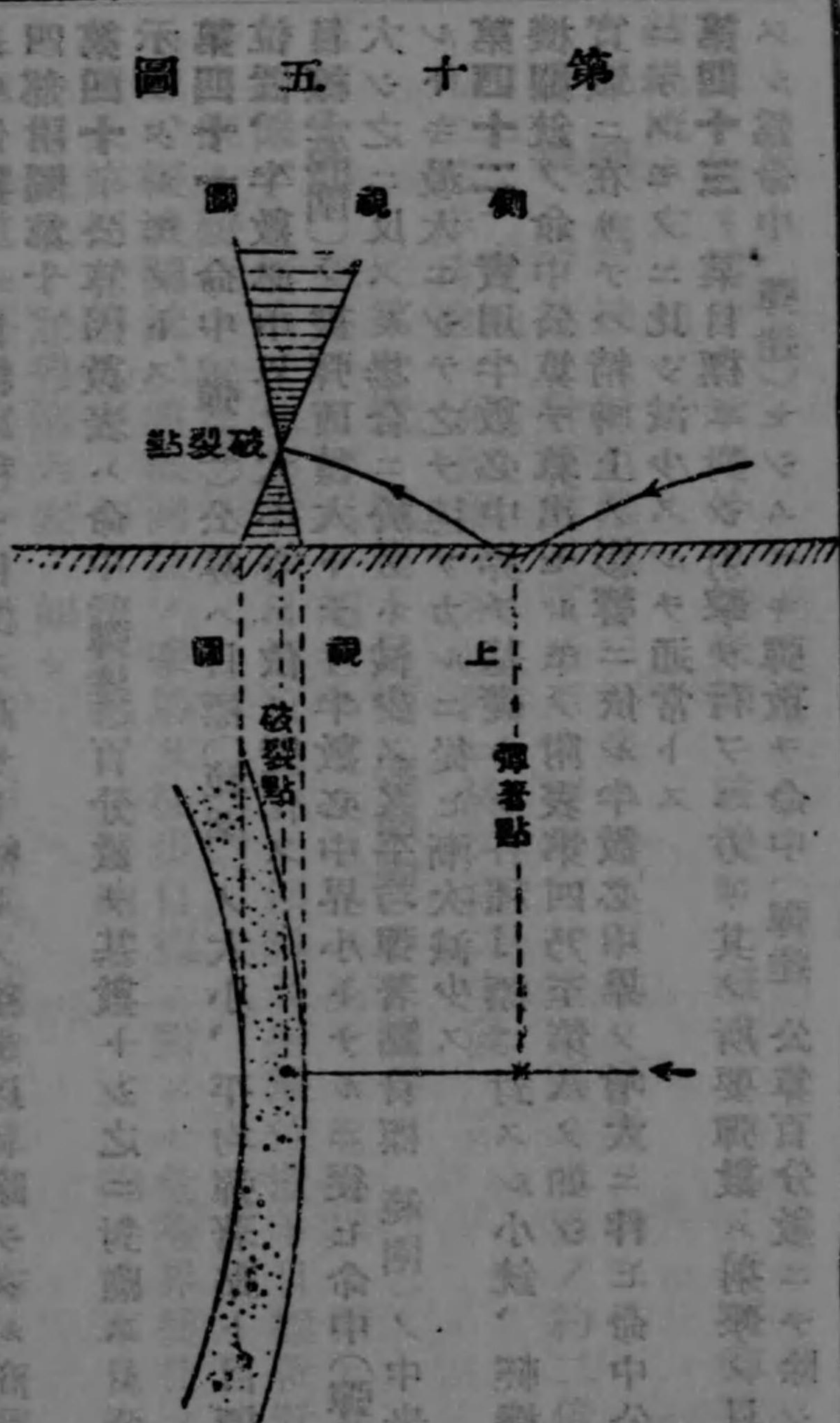
侵徹量ト
命中心

小銃彈モ亦鐵條網ノ鐵線ヲ切斷シ破壞口ヲ概成シ得
第三十七 彈丸ノ同一物體ニ對スル侵徹量ハ主トシテ彈丸ノ口徑、種類、存速及命中心ノ大小ニ關ス而シテ命中心減少スルニ從ヒ法線(表面ニ垂直ナリ)於ケル侵徹量ヲ減少シ彈丸ハ遂ニ跳飛スルニ至ルモノトス
小銃彈ノ尋常積土及砂ニ對スル侵徹量ハ四百米附近ニ於テ最大ニシテ尋常積土ニ在リテハ約一米、砂ニ在リテハ約七十糎ニ及ブモノトス

第六章 命中(彈達)公算

命中(彈
達)公算

第三十八 某目標ニ對シ射撃ヲ行ヒタルトキ幾何ノ命中(某範圍内ニ射彈落達セバ效力ヲ期シ得ルモノニ在リテハ其ノ範圍内ニ落達)ヲ期シ得ベキ力ヲ知ルハ彈藥使用計畫上ノ準據タルノミナラズ射撃教育上必要ナル條件ナリ此ノ比率ヲ命中(彈達)公算ト謂ヒ通常百分數ヲ以テ之ヲ表ハス
第三十九 某大キサノ目標ニ對シ平均彈著點其ノ中央ニ通ジタルトキノ命中



ノ算出法
公算ハ其ノ目標ノ高サ(幅)ト高低(方向)半數必中界トノ比即チ公算因數ヲ算
出シ公算因數表(附表第三)ニ依リ高サ(幅)ニ應ズル各命中百分數ヲ求メ兩命
中百分數ヲ乘シ更ニ之ニ命中係數ヲ乘シテ其ノ目標ニ對スル命中公算ヲ知ル
コトヲ得(第十三圖(イ))
某範圍ニ對スル彈達公算ヲ求ムル方法モ亦前項ニ準ズ
命中係數トハ目標面積ヲ目標ノ高サト幅トノ積ヲ以テ除シタル商ヲ謂フ(第
四部附圖第十)

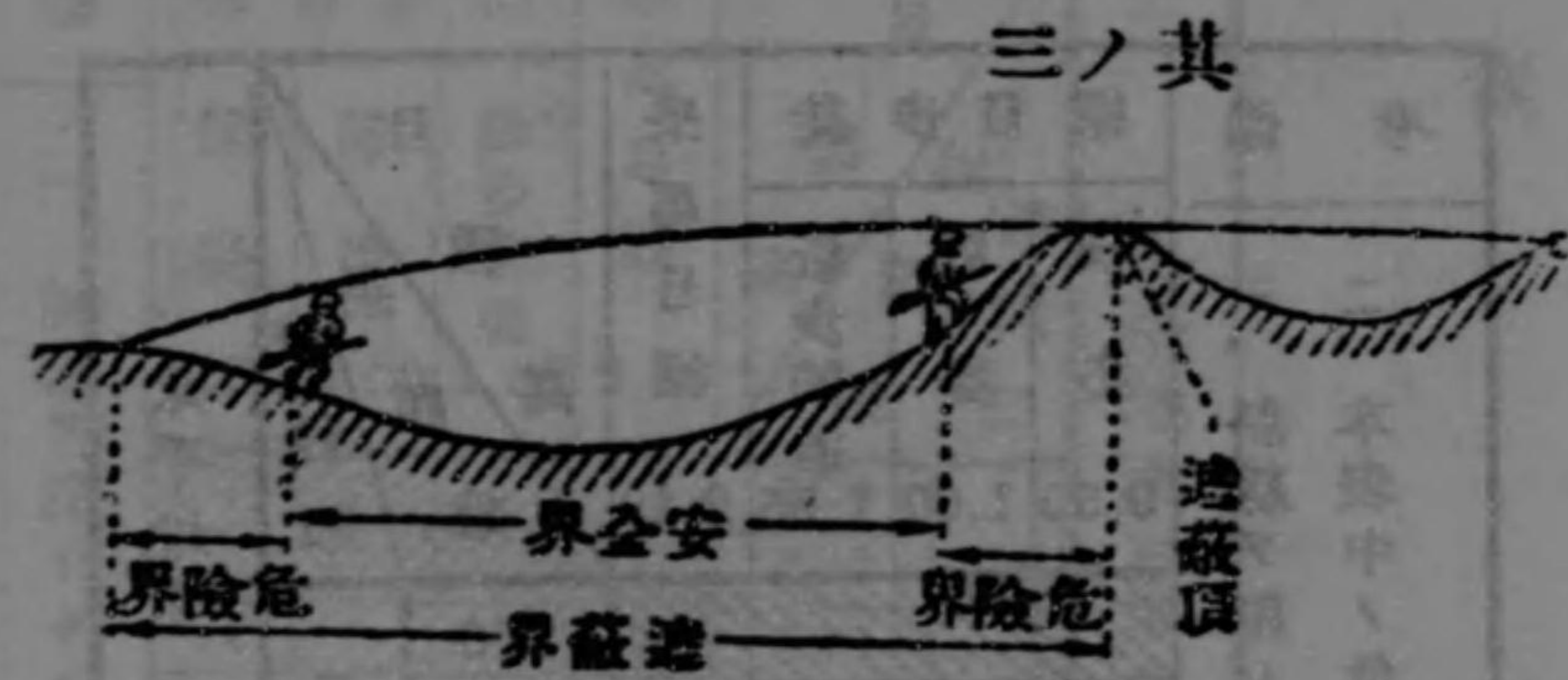
第四十 公算因數表ハ命中(彈達)百分數ヲ基數トシ之ニ對應スル公算因數ヲ
示シタルモノトス
第四十一 命中(彈達)公算ハ目標(範圍)ノ大小、平均彈著點ト目標トノ關係
位置、半數必中界ノ大小等ニ依リ變化ス
目標(範圍)ノ被彈面積大トナリ半數必中界小トナルニ從ヒ命中(彈達)公算増
大シ之ニ反スル場合ニ於テハ減少ス又平均彈著點目標(範圍)ノ中央ニ通シタ
ルトキ最大ニシテ之ヲ遠ザカルニ從ヒ漸次減少ス
第四十二 實用半數必中界ヲ基礎トシ各種目標ニ對スル小銃、輕機關銃、重
機關銃ノ命中公算ヲ算出セルモノノ附表第四乃至第八ノ如シ
實戰ニ在リテハ精神上ノ影響ニ依リ半數必中界ノ増大ニ伴ヒ命中公算ハ前項
ニ示スモノニ比シ減少スルヲ通常トス
第四十三 某目標ニ對シ射撃ヲ行フニ方リ其ノ所要彈數ハ射撃ノ目的ヲ達成
スル爲命中(彈達)セシムベキ彈數ヲ命中(彈達)公算百分數ニテ除シテ求ムル

鐵條網破
壞彈數
危險界
掃射地帶
遮蔽界
(死角)

コトヲ得
射撃ニ依リ深サ六米内外ノ鐵條網ニ破壞口ヲ概成スル爲ノ所要彈數ハ實驗ノ
結果概ネ左ノ如シ
輕機關銃 射距離二、三百米ニ於テ距離ノ米數ノ約二倍
重機關銃 射距離四百乃至六百米ニ於テ距離ノ米數ノ約二倍
四一式山砲 射距離千米以内ニ於テ約二十發
九二式歩兵砲
第七章 彈道ト目標(遮蔽物)トノ關係
第四十四 彈道ノ目標高ヲ超過セザル地界ノ長サヲ危險界ト謂ヒ其ノ長短ハ
射距離、目標高、地形特ニ目標所在地ノ傾斜及射撃位置ト目標位置トノ比高
等ニ依リ變化スルモノトス
小銃、輕機關銃、重機關銃ノ乘馬及徒歩目標ニ對スル危險界變化ノ狀態第十
六圖及第四、第五表ノ如ク速射砲、平射砲、四一式山砲ノ戰車目標ニ對スル
危險界變化ノ狀態第六表ノ如シ
火砲ノ彈道中落角大ナルモノニ在リテハ其ノ危險界算定ニ方リ一彈ノ效力半
徑ヲ考慮スルヲ要ス
被彈地ノ縱長ニ其ノ最下彈道ノ危險界ヲ合シタル地域ヲ掃射地帶ト謂フ(第
十七圖)
第四十五 掩護物ノ頂點(遮蔽頂)ト其ノ頂點ヲ通過スル彈道ノ彈著點トノ中
間地帶ヲ遮蔽界(死角)、遮蔽界中目標全部ノ危險ヲ免レ得ベキ地界ヲ其ノ目

遮蔽角
遮蔽距離
蔽陣地
免負ノ遮

遮蔽頂ニ通セシメタルトキ此ノ線ト水平面トニ在ラザルトキ其ノ高低角ヲ遮蔽角ヨリ減シタルモノナリニ代用シテ求メタルDハ遮蔽物ヨリ彈著點ニ至ル距離ナ



圖七十第

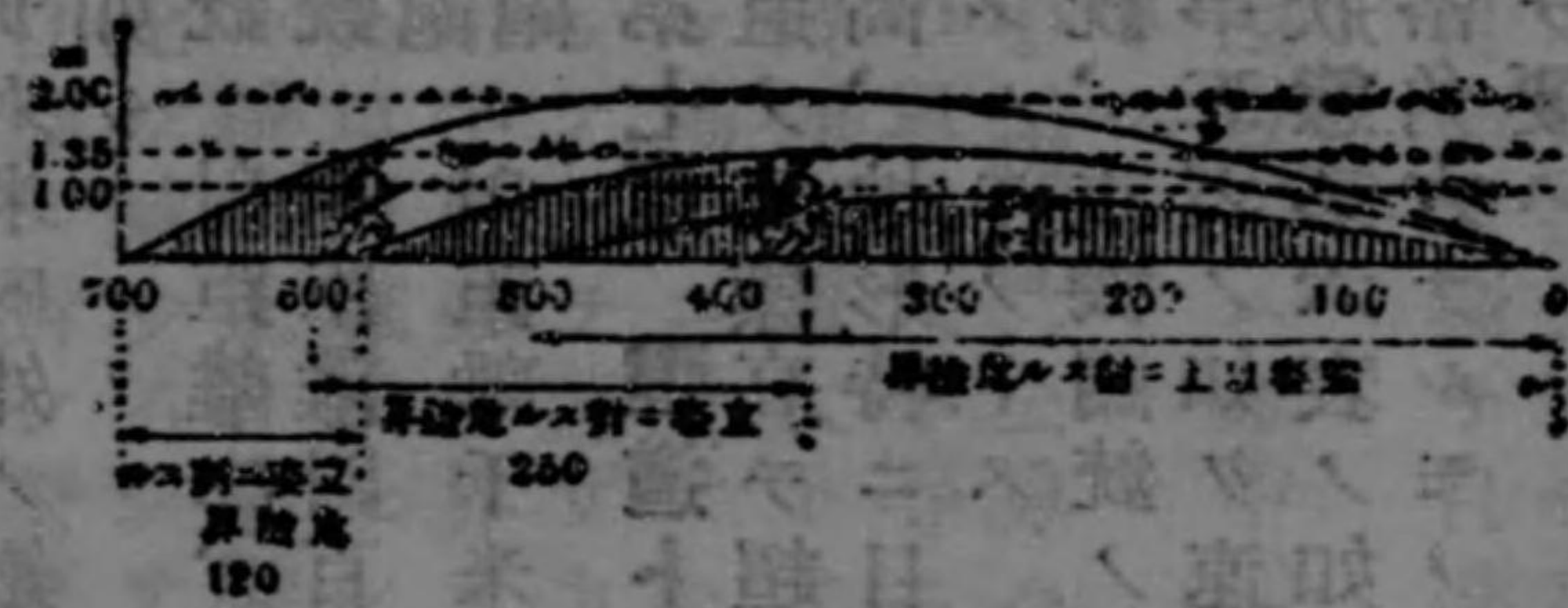


ス故ニ近キ距離ニ於テハ小ナル地物ト雖モ之ヲ利用セバ大ナル價値アルモノトス
第四十六 四一式山砲、九二式歩兵砲(低射界)ヲ以テ遮蔽物ノ後方ニ陣地ヲ占領セントスルニ方リテハ遮蔽距離、遮蔽角、最低表尺、遮蔽度等ヲ考慮スルコト必要ナリ
遮蔽距離トハ遮蔽頂ヲ通ズル彈道(最下彈道)ノ落點ヨリ遮蔽頂ニ至ル水平距離ヲ謂ヒ遮蔽角トハ砲身軸ノ延線ヲ

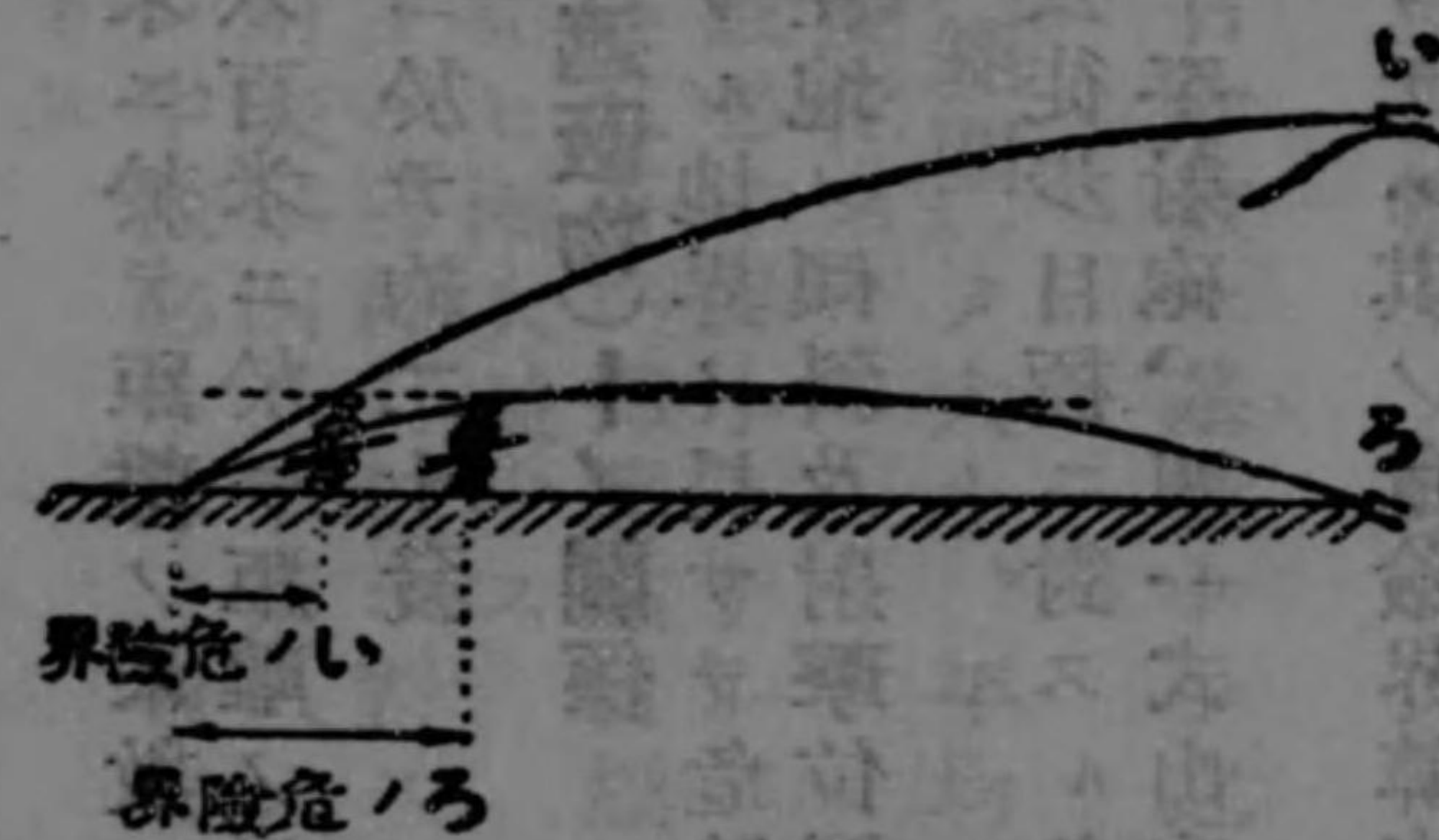
安全界ノ長サ

圖六十第

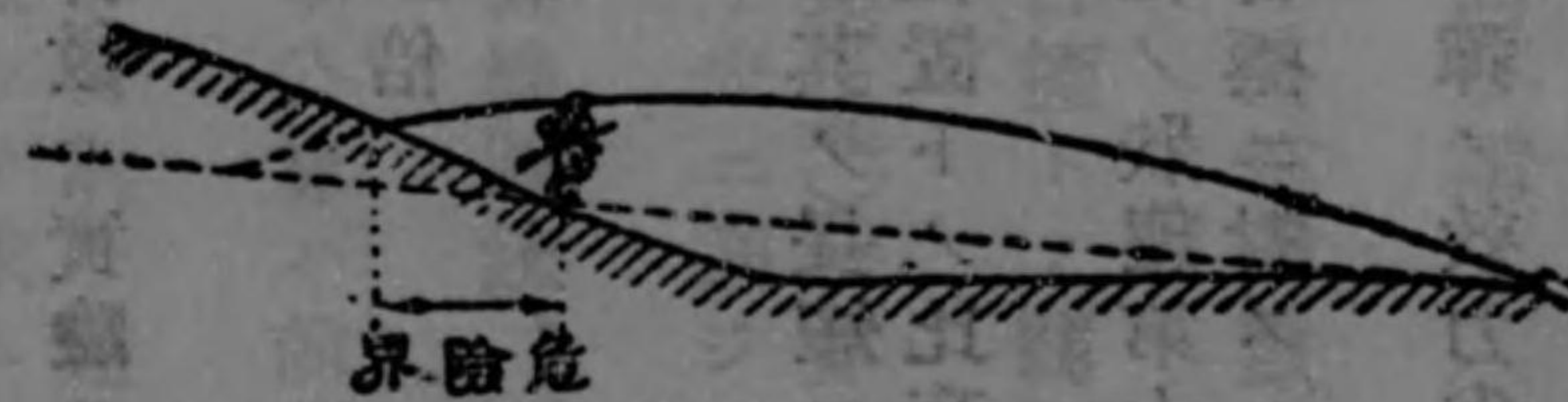
係關ノト高標目ト道彈 一ノ其 (例一ノ銃兵歩式八三)



係關ノト界險危ト置位擊射 二ノ其



係關ノト物地・形地ト道彈 三ノ其



標ノ安全界ト謂フ(第六圖) 安全界ノ長サハ地形、掩護物ノ高さ、落角ノ大小及目標ノ高さニ應ジテ變化スルモノニシテ彈道ノ低伸スルニ從ヒ同一掩護物ニ對シテモ其ノ安全界ヲ増



第五表

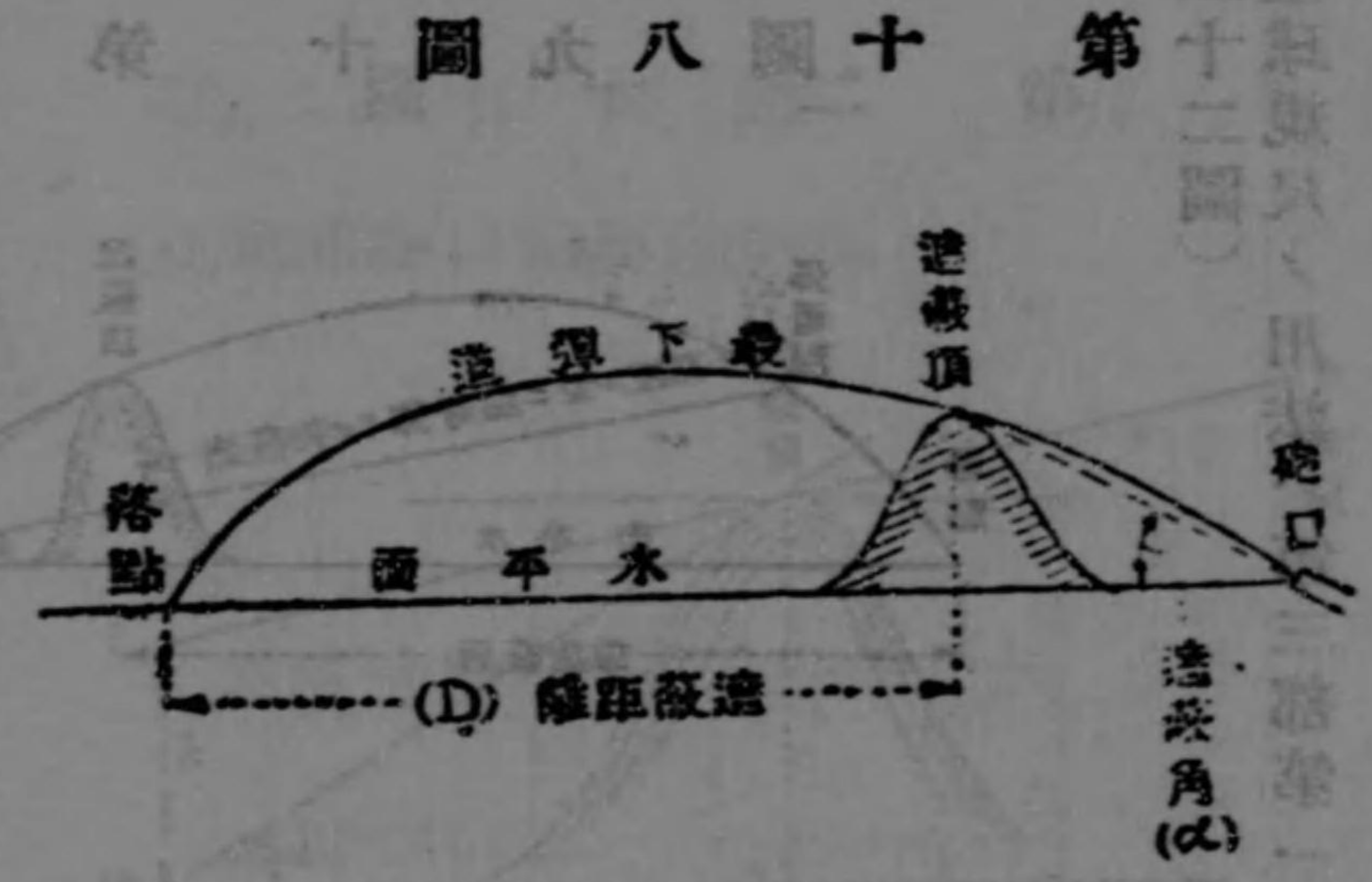
考 備	標目歩徒				乗馬目標	目 標	銃 種	銃 類	
	伏 姿	膝 姿	駈歩前進	2.10					
一、斜線ヲ施シタル部分ハ全彈道危險界ヲ示ス 二、本表中ノ危險界ハ彈着點ヨリ測定シタル概數ヲ示スモノトス	0.50	1.00	1.35	2.10					
					300	輕 機 關 銃	水 平 地 上 ニ 於 ケ ル 危 險 界 表 其 ノ 二	(米)	
					400				
					500				
	70				600				
	55	120	190		700				
	40	75	105	235	800				
	80	60	80	185	900				
	20	45	60	90	1000				
	15	35	45	70	800				重 機 關 銃
					400				
					500				
	85				600				
	60	150			700				
	40	85	135		800				
	85	65	90	150	900				
	25	50	70	110	1000				
	20	40	55	90	1100				
	15	35	45	70	1200				
	15	30	35	60	1300				
10	25	30	50	1400					
10	20	25	40	1500					
5	15	20	35	1500					

第四表
リ(第十九圖)

考 備	標目歩徒				乗馬目標	目 標	銃 種	銃 類	
	伏 姿	膝 姿	駈歩前進	2.10					
一、斜線ヲ施シタル部分ハ全彈道危險界ヲ示ス 二、本表中ノ危險界ハ彈着點ヨリ測定シタル概數ヲ示スモノトス	0.50	1.00	1.35	2.10					
					300	三 八 式 步 兵 銃	水 平 地 上 ニ 於 ケ ル 危 險 界 表 其 ノ 一	(米)	
					400				
					500				
	85				600				
	55	125	250		700				
	40	85	120		800				
	80	60	65	150	900				
	25	45	60	95	1000				
	20	35	50	75	800				四 四 式 (三 八 式) 騎 銃
					400				
					500				
	100				600				
	70				700				
	50	100	170		800				
	85	70	95	200	900				
	25	55	70	120	1000				
	20	40	55	85	1100				
	15	30	45	70	1200				

最低表尺

最低表尺トハ低射界ニ在リテ最下彈道ノ彈著點附近ノ高低角ヲ取りタルトキ其ノ彈道ニ應ズル表尺距離ヲ謂フ



遮蔽距離ト遮蔽角トハ略、左式ノ如キ關係ヲ有ス

四一式山砲 $D=25\alpha$

九二式歩兵砲(低射界) $D=10\alpha$

α ハ遮蔽角(密位)

Dハ遮蔽距離(米)

I... D=10 α

II... D=5 α

III... D=3 α

IV... D=2 α

I II 等ハ裝藥號ヲ示ス

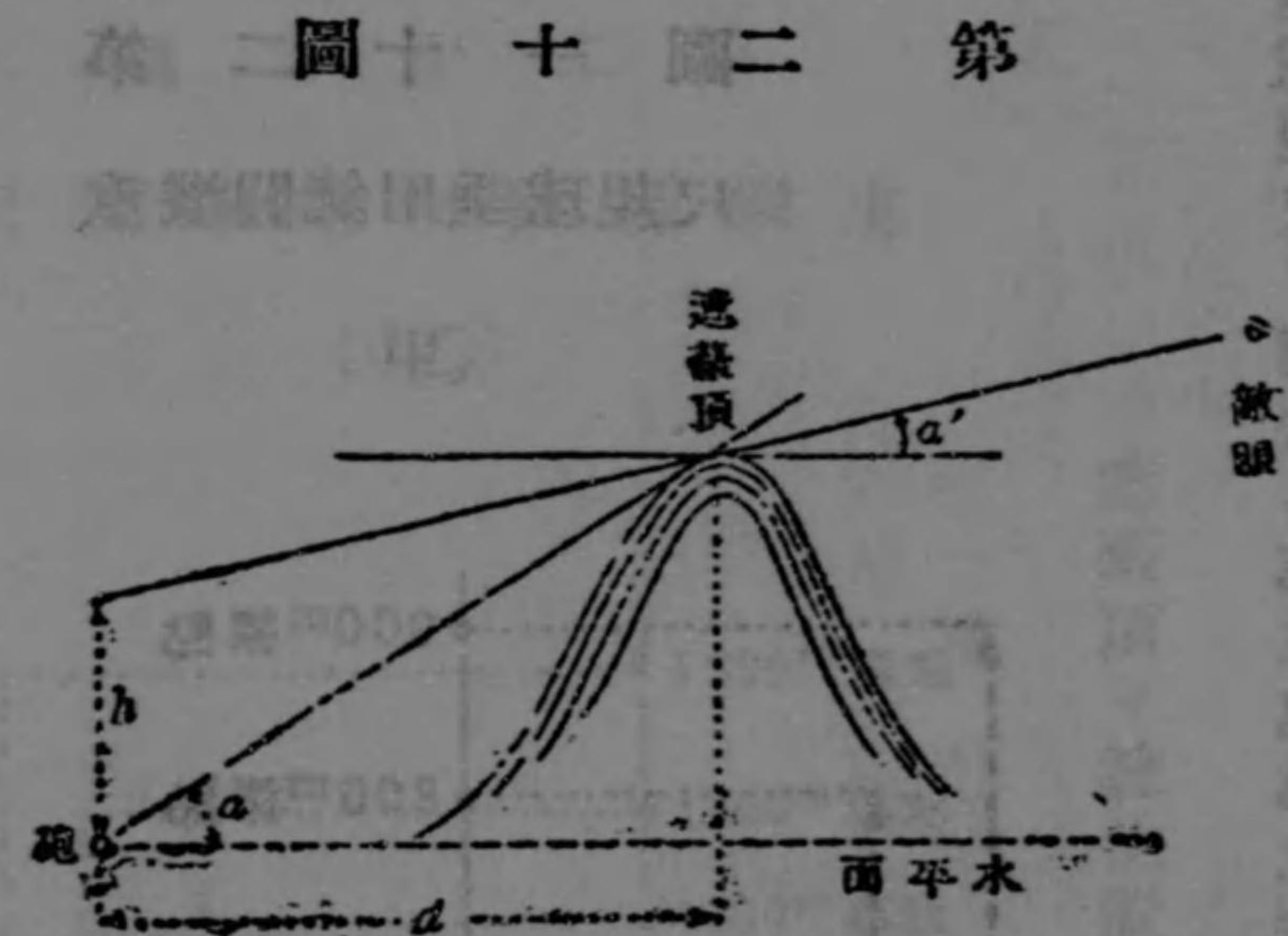
第六表

考 備	(2.00) 標目車砲			射 距 種 類 射 砲
	四一式山砲	平射砲	速射砲	
一、斜線ヲ施シタル部分ハ全彈道危險界ヲ示ス 二、本表中ノ危險界ハ彈著點ヨリ測定シタル概數ヲ示スモノトス				400
				500
		75		600
		70		700
		60		800
		50	110	900
		45	90	1000
		40	75	1100
		35	65	1200
		30	55	1300
		30	50	1400
		25	40	1500
		25	35	1600
		20	25	1700
		20	20	1800
	15	15	1900	
	15	15	2000	

水平地上ニ於ケル危險界表 其ノ三 (米)

陣地ノ遮蔽

第四十九 平射砲ヲ以テ遮蔽物ノ後方ニ陣地ヲ占領シ射撃ヲ實施セントスルニ方リテハ遮蔽角ノ彈道ノ遮蔽頂超過トノ關係ヲ考慮シテ砲位置ヲ決定セザルベカラズ之ガ爲垂球規尺ヲ使用ス(第二十三圖)

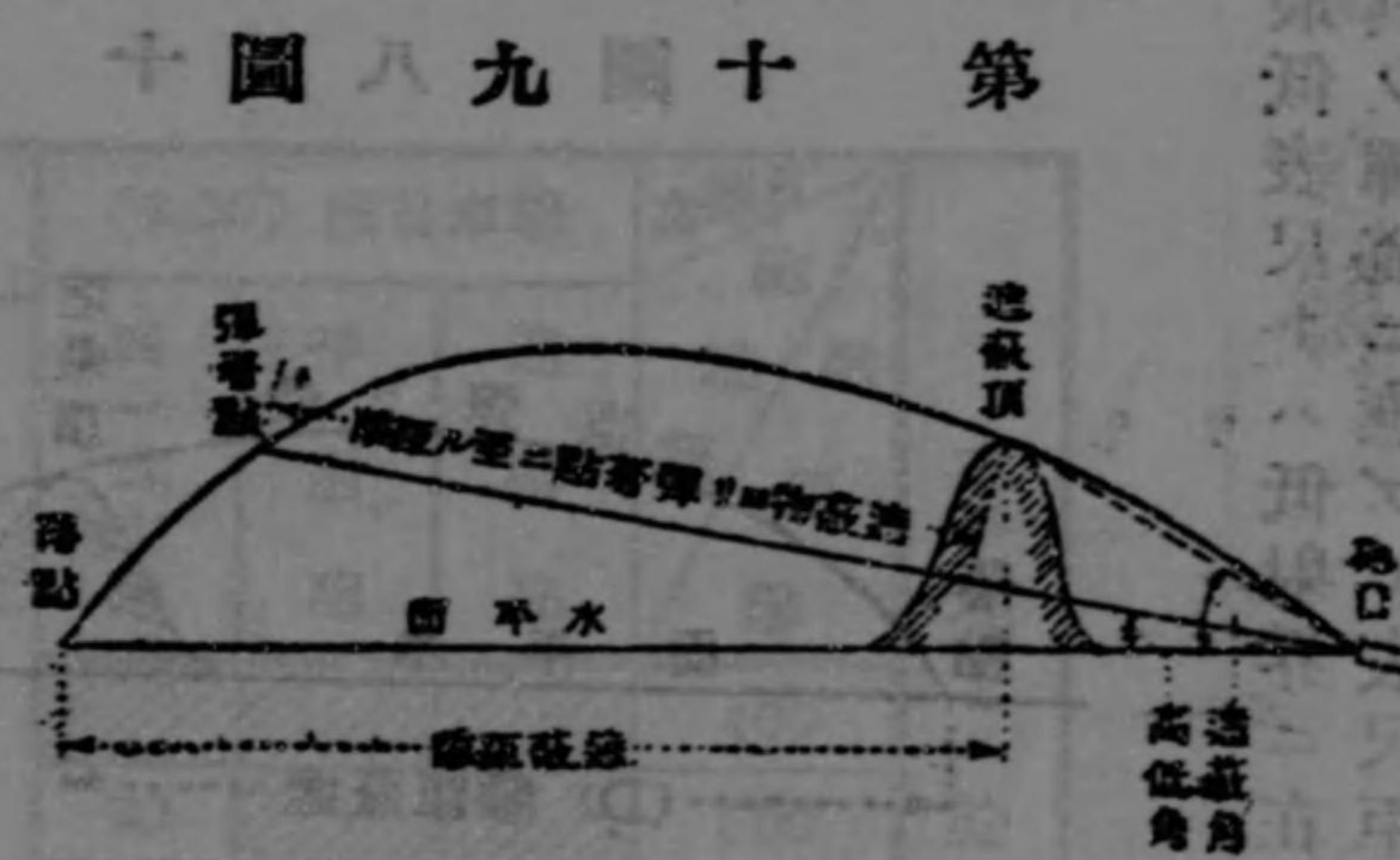


$$h = d(a - a')$$

h 遮蔽度 (米)
 d 砲ヨリ遮蔽頂ニ至ル水平距離ノ料數
 a 遮蔽角(密位)
 a' 敵眼及遮蔽頂ヲ連ナル線ト水平面トニ成ス角(密位)

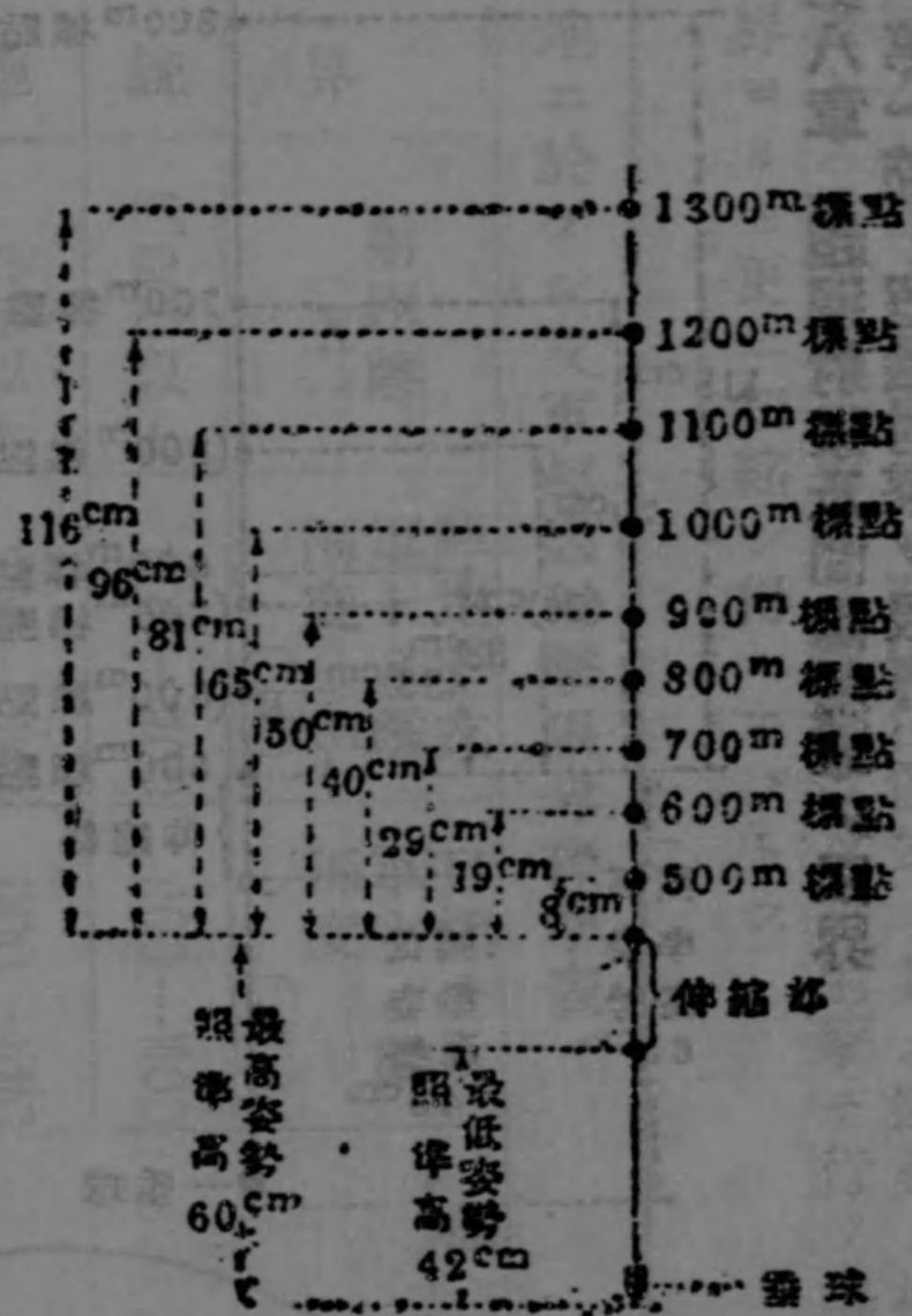
III 四〇、四一 地ノ遮蔽陣 高射界遮 蔽陣地 砲ノ射界 遮蔽度

垂球規尺ノ用法ハ第三部第一篇第一章第一節第三款間接照準ニ依ル射撃ニ據ル(第二十二圖)



砲位置遮蔽頂ニ近キトキハ遮蔽頂ノ僅少ナル高低差モ直チニ最低表尺ニ交感スルコト大ナルニ注意スルヲ要ス
 遮蔽度トハ砲ノ直上ニテ敵眼ト遮蔽頂トヲ連ヌル線ニ至ル高サヲ謂ヒ左式ニ依リ略近のニ之ヲ求ムルコトヲ得(第二十圖)
 畫間火光ヲ敵ニ暴露セザル爲ニ要スル遮蔽度ハ四一式山砲ニ在リテハ四米、九二式歩兵砲、曲射砲ニ在リテハ五米ヲ標準トス
 第四十七 高射界射撃ヲ爲ス場合ニ於テ遮蔽物ヲ超過シテ射撃スルニハ砲位置ヨリ遮蔽頂ニ至ル水平距離ヲ遮蔽物ノ高サヨリ大ナラシムルヲ要ス
 第四十八 重機關銃ヲ以テ遮蔽物ノ後方ニ陣地ヲ占領セントスルニ方リテハ遮蔽距離、遮蔽角等ヲ考慮シテ銃位置ヲ決定スルコト必要ナリ之ガ爲垂球規尺ヲ用フルヲ便トス(第二十一、第二十二圖)

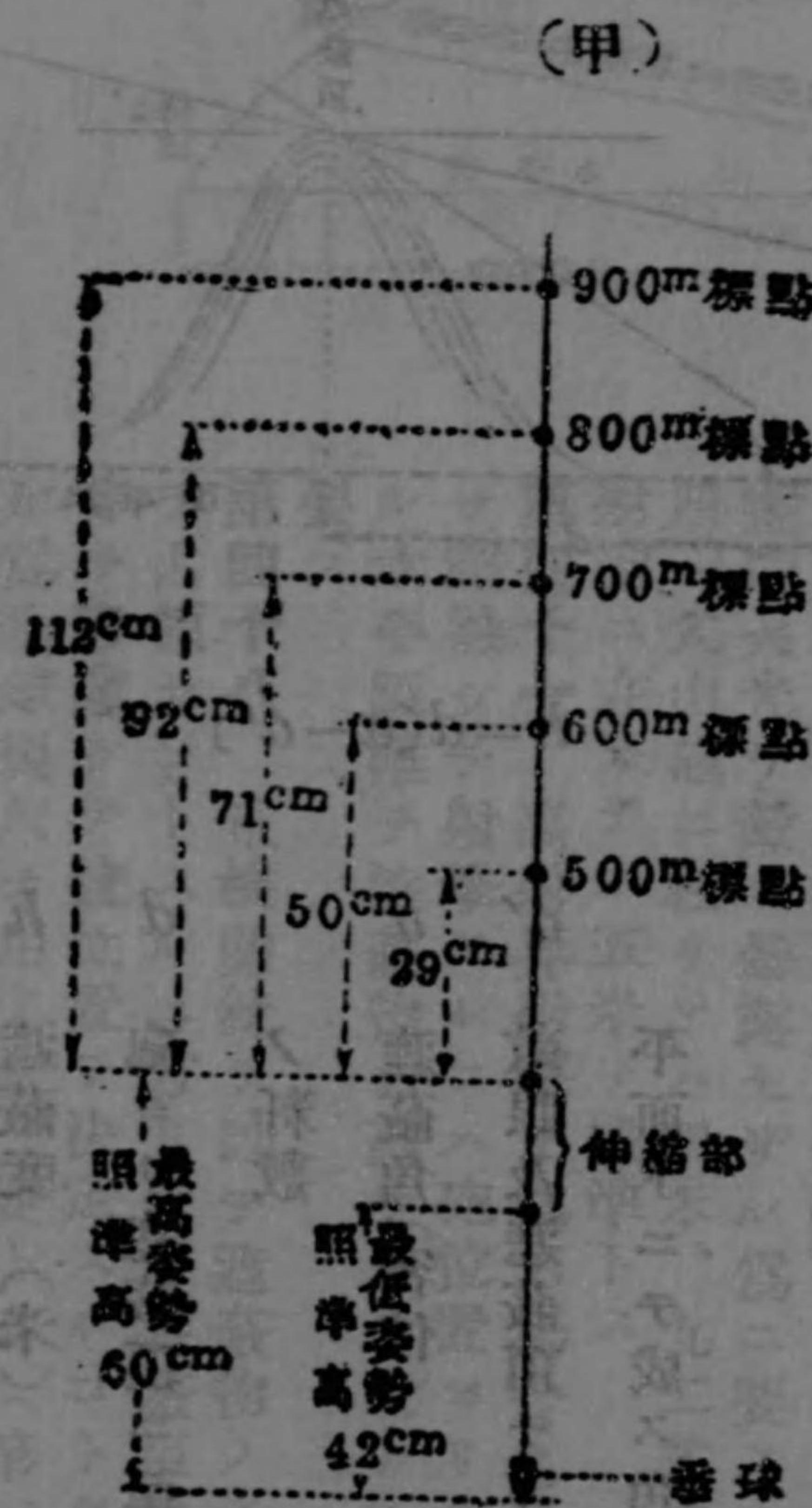
圖 二 十 二 第
(甲) 尺規球垂用銃關機重
(乙) 標點ハ色ヲ異ニシテ一箇ノ規尺ニ調製スルヲ便トス



遮蔽頂下銃位置トノ距離約五十米ノ場合ニ應ズルモノ

III
三〇五
一
三〇七

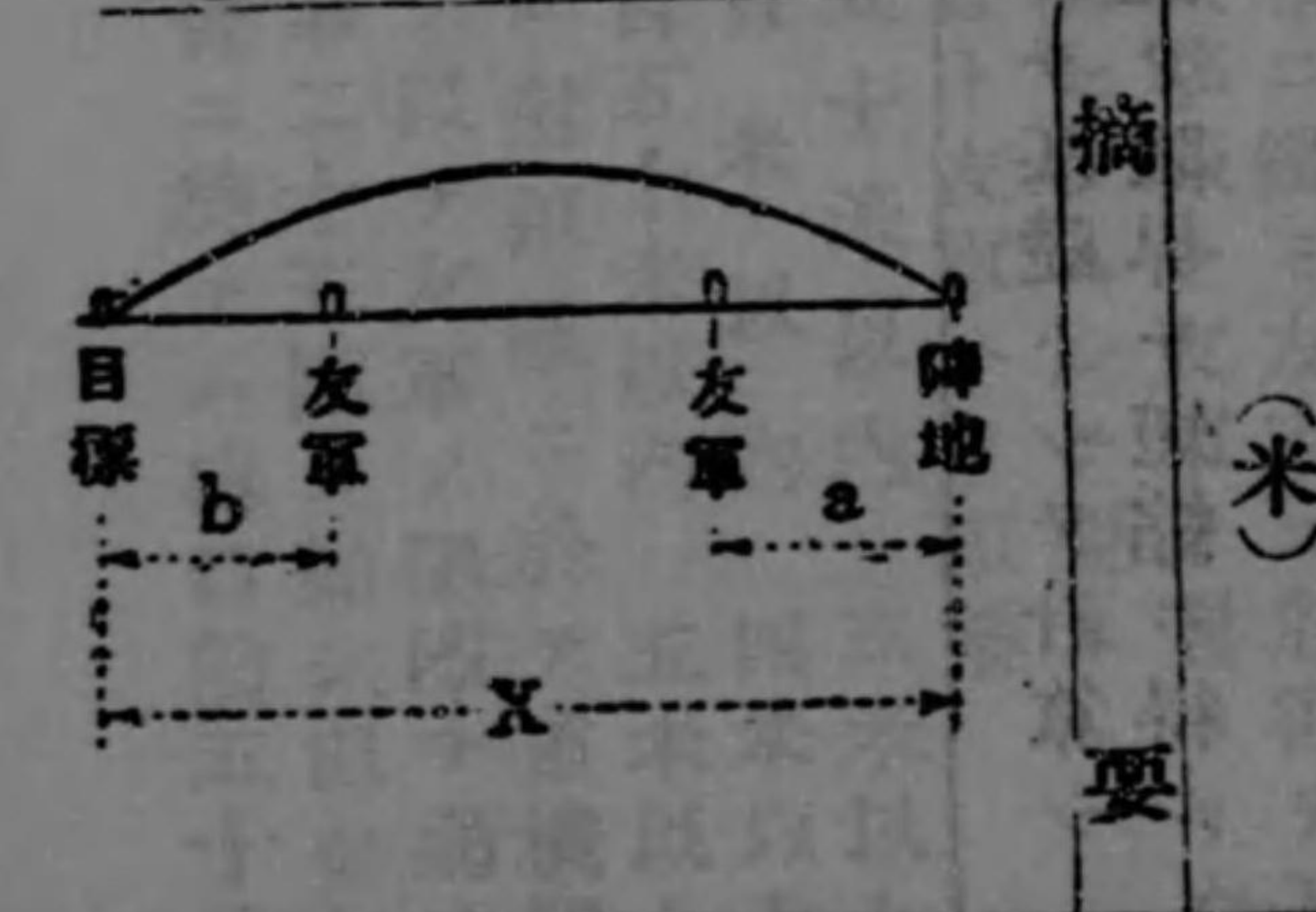
圖 一 十 二 第
(甲) 尺規球垂用銃關機重



遮蔽頂下銃位置トノ距離約百米ノ場合ニ應ズルモノ

↑ 次 ↓ 準撃軍於平
表限超ケ坦
界界過ル地
標射友ニ

火器ノ種類	重機銃	速射砲	平射砲
射距離 (X)	1,000以上	800以上	700以上
陣地ト友軍トノ距離 (a)	200—300	200—250	100—200
目標ト友軍トノ距離 (b)	200—300	200—250	200



第七表 平坦地ニ於ケル友軍超過射撃限界標準表

一、小銃及輕機銃
射撃位置ト友軍トノ距離通常百五十米以内ニ在リテ照準線友軍ノ頭上三米以上ニ通ズル場合ニ於テ實施スルコトヲ得

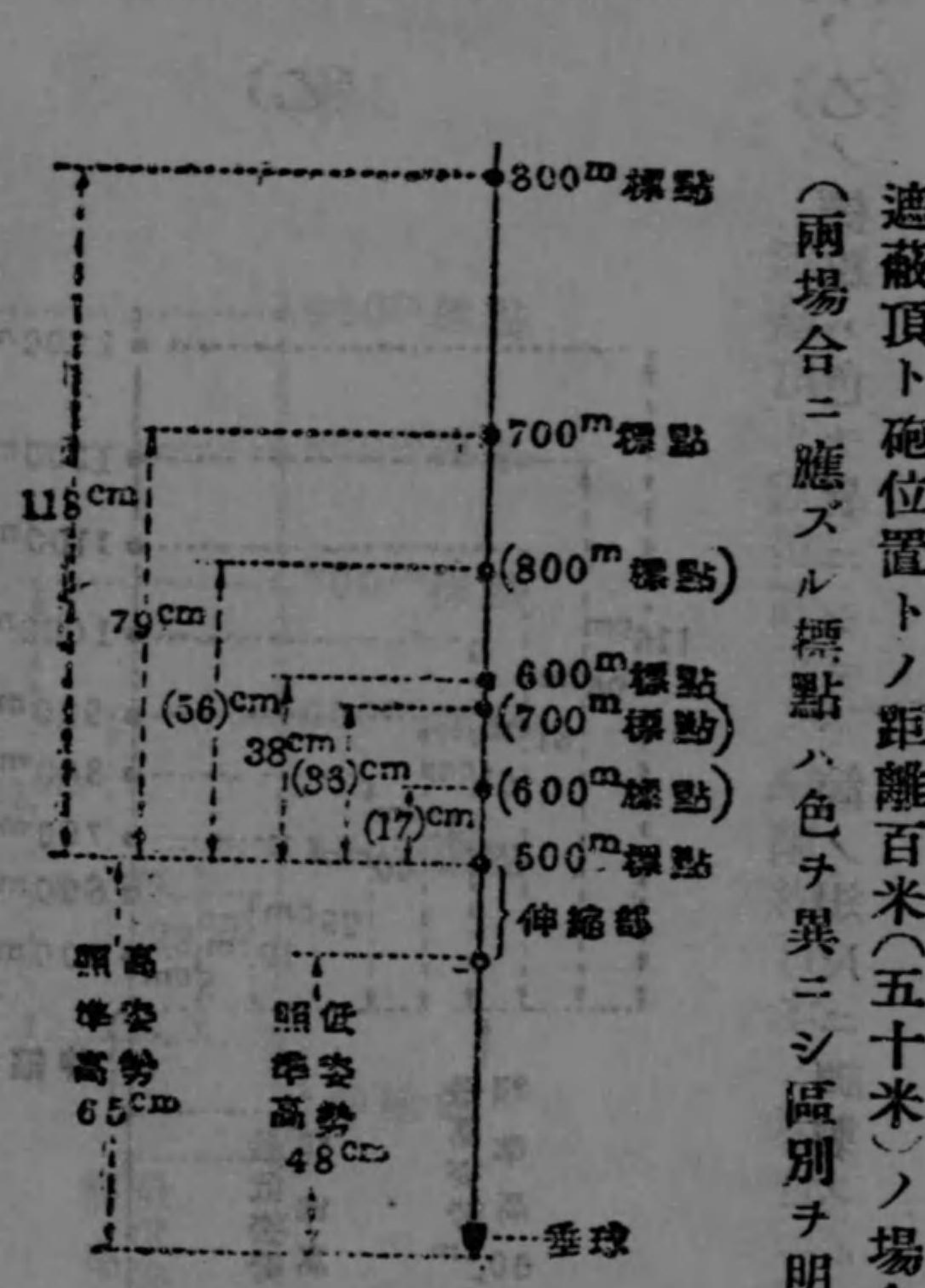
二、重機銃 歩兵砲及速射砲
陣地ト友軍及目標トノ距離ハ射撃ヲ觀測シツツ射撃ヲ行フ場合ニ於テハ前項友軍ト目標トノ距離ニ短縮シ得ルモノトス

↑ 超過射撃ノ限界 ↓

第五十 暴露シテ行動中ノ友軍ヲ超過シテ射撃ヲ行フニ方リ之ニ危害ヲ與ヘザル爲ノ射距離、目標ト友軍及陣地ト友軍トノ距離ノ限界ハ火器ノ種類、友軍ノ状態、地形、射撃ノ方法及其ノ精度等ニ依リ異ナリト雖モ平坦地ニ在リテ立姿ノ友軍ヲ超過シテ射撃シ得ル限界ノ標準左ノ如シ

第八章 超過射撃及間接射撃ノ限界 第一節 超過射撃ノ限界

圖三十二 尺規球垂用砲射平

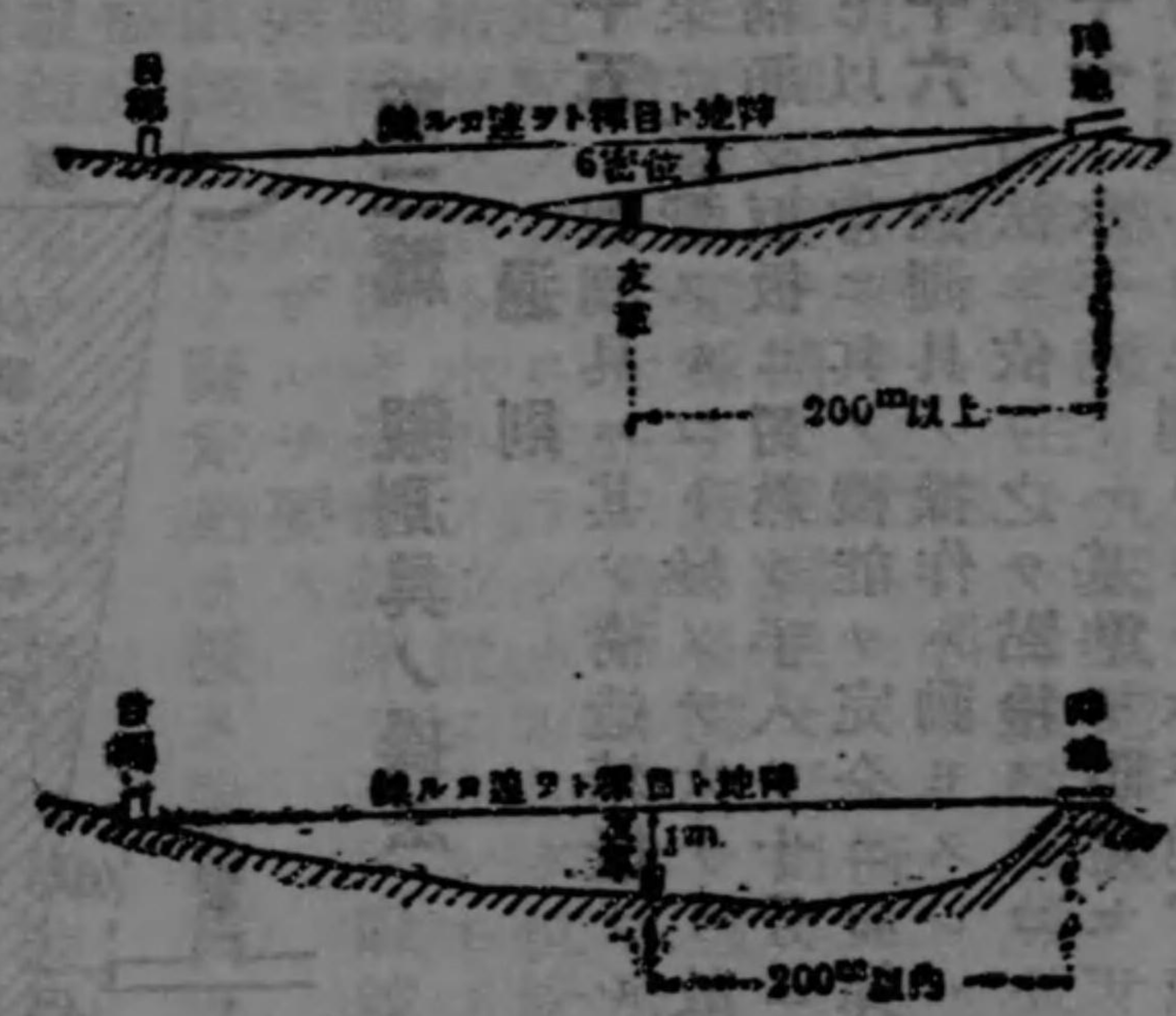


遮蔽頂ト砲位置トノ距離百米(五十米)ノ場合ニ應ズルモノ (兩場合ニ應ズル標點ハ色ヲ異ニシ區別ヲ明瞭ナラシム)

敵ノ界限
友軍ノ界限

撃射隙間
撃射界限

圖 四 十 二 第



第五十四 平坦地ニ於ケル友軍超過射撃ヲ爲シ得ザル射距離ニ於テ重機關銃、四一式山砲、平射砲、九二式歩兵砲、速射砲等ヲ以テ友軍ノ間隙ヲ通シテ射撃ヲ行フニ方リ友軍ニ危害ヲ及サザル爲ノ界限第二十五圖ノ如シ但シ火砲ニ在リテハ友軍第二十五圖ノ界限ニ接近シアル場合ニ於テハ砲口前五十米以内ニ友軍存在セザルヲ可トス

第五十三 小銃、輕機關銃ヲ以テ友軍ノ間隙ヲ通シテ射撃スルニハ射彈ノ散布ニ鑑ミ友軍ニ危害ヲ及サザル爲照準線ヲ友軍ノ翼ヨリ左ノ如ク離隔セシムルヲ要ス
撃射位置ト友軍トノ距離
同 五十米以内 三米以上
同 百五十米以内 四米以上
同 百五十米以内 五米以上

敵ノ界限
友軍ノ界限

撃射隙間
撃射界限

考 備	九二式歩兵砲 (低射界)	四一式山砲
一、本表ノ界限ハ友軍立姿ノ場合ニ於ケルモノヲ基礎トシテ計算シ アリ從ツテ友軍伏姿ナル場合ニ於テハ更ニ此ノ界限ヲ短縮シ得ル モノトス	700以上	100-150
二、九二式歩兵砲高射界及曲射砲ニ在リテハ彈丸ノ經過時間内ニ友軍ノ前進スベキ距離ヲ考慮シテ界限ヲ決定スルヲ要ス	500以上	150
	1,000以内	150
	500	150

第五十一 重機關銃、歩兵砲(九二式歩兵砲高射界及曲射砲ヲ除ク)及速射砲ノ射撃ニ於テ陣地ト友軍ノ頭上トヲ連ナル線ノ上方ニ目標存在スル場合ニ於テハ第五十圖第二號ニ示ス界限以内ノ射距離ニ於テモ超過射撃ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テ友軍ニ危害ヲ及サザル爲ノ界限第二十四圖ノ如シ但シ火砲ニ在リテハ此ノ場合ニ於テモ砲口前五十米以内ニ友軍存在セザルヲ可トス
第五十二 重擲彈筒ヲ以テ友軍ヲ超過シテ射撃ヲ行フニ方リテハ友軍ニ危害

ナ及サザル爲友軍ト目標トノ距離度ノ界限ハ五十米ヲ標準トス但シ友軍行動中ノ場合ニ於テハ彈丸ノ經過時間内ニ友軍ノ敵ニ近接スル距離ヲ考慮スルヲ要ス
第二節 間隙射撃ノ界限
第五十三 小銃、輕機關銃ヲ以テ友軍ノ間隙ヲ通シテ射撃スルニハ射彈ノ散布ニ鑑ミ友軍ニ危害ヲ及サザル爲照準線ヲ友軍ノ翼ヨリ左ノ如ク離隔セシムルヲ要ス
撃射位置ト友軍トノ距離
同 五十米以内 三米以上
同 百五十米以内 四米以上
同 百五十米以内 五米以上

磁針方位
角、俯仰
角、鏡用
砲隊鏡ノ
用途鏡ノ
整置鏡ノ

ハリニ測リタル水平角、俯仰角トハ水平面ヨリノ上下ノ角ヲ謂フ

第五十八 砲隊鏡ハ主トシテ敵情搜索及射彈ノ觀測ニ使用シ又水平角及小ナ

第五十九 砲隊鏡ヲ整置スルニハ概ネ左ノ順序、方法ニ依ル

- 一、三脚架ヲ開キ三脚架ヲ取出ス
- 二、三脚架ノ位置ガ正三角形ノ頂點ヲ示ス如ク適度ニ開脚シ架頭ノ中心ヲ所
- 三、概ネ直上ニ在ラシムル如ク位置セシメ把子ヲ緊定ス此ノ場合ニ於テ
- 四、望遠鏡ノ概ネ水平ノ位置ニ在ルモノトス
- 五、連結板ハ概ネ水平ノ位置ニ在ルモノトス
- 六、激突セシメザルヲ要ス
- 七、眼鏡ヲ取出ス此ノ際其ノ取扱ヲ丁寧ニシ
- 八、眼鏡ヲ取出ス此ノ際其ノ取扱ヲ丁寧ニシ
- 九、眼鏡ヲ取出ス此ノ際其ノ取扱ヲ丁寧ニシ
- 十、眼鏡ヲ取出ス此ノ際其ノ取扱ヲ丁寧ニシ
- 十一、眼鏡ヲ取出ス此ノ際其ノ取扱ヲ丁寧ニシ
- 十二、眼鏡ヲ取出ス此ノ際其ノ取扱ヲ丁寧ニシ
- 十三、眼鏡ヲ取出ス此ノ際其ノ取扱ヲ丁寧ニシ
- 十四、眼鏡ヲ取出ス此ノ際其ノ取扱ヲ丁寧ニシ
- 十五、眼鏡ヲ取出ス此ノ際其ノ取扱ヲ丁寧ニシ
- 十六、眼鏡ヲ取出ス此ノ際其ノ取扱ヲ丁寧ニシ
- 十七、眼鏡ヲ取出ス此ノ際其ノ取扱ヲ丁寧ニシ
- 十八、眼鏡ヲ取出ス此ノ際其ノ取扱ヲ丁寧ニシ
- 十九、眼鏡ヲ取出ス此ノ際其ノ取扱ヲ丁寧ニシ
- 二十、眼鏡ヲ取出ス此ノ際其ノ取扱ヲ丁寧ニシ

八、要スレバ彩鏡ヲ接眼鏡筒ニ装ス

七、間隔調整轉輪ヲ廻ハシテ兩接眼鏡ヲ瞳孔ノ間隔ニ合ハセテ接限外筒

六、圓形水準器ノ氣泡ヲ注視シ要スレバ三脚架ノ球軸壓螺及緊定球螺ヲ緩

五、眼鏡托架ヲ三脚架ノ圓桿ニ嵌装シ壓螺ヲ緊定ス

四、眼鏡托架ヲ三脚架ノ圓桿ニ嵌装シ壓螺ヲ緊定ス

三、眼鏡托架ヲ三脚架ノ圓桿ニ嵌装シ壓螺ヲ緊定ス

二、三脚架ノ位置ガ正三角形ノ頂點ヲ示ス如ク適度ニ開脚シ架頭ノ中心ヲ所

一、三脚架ヲ開キ三脚架ヲ取出ス

觀測具ニ
對スル心
得
觀測具ノ
點檢
水平角、
方向角、

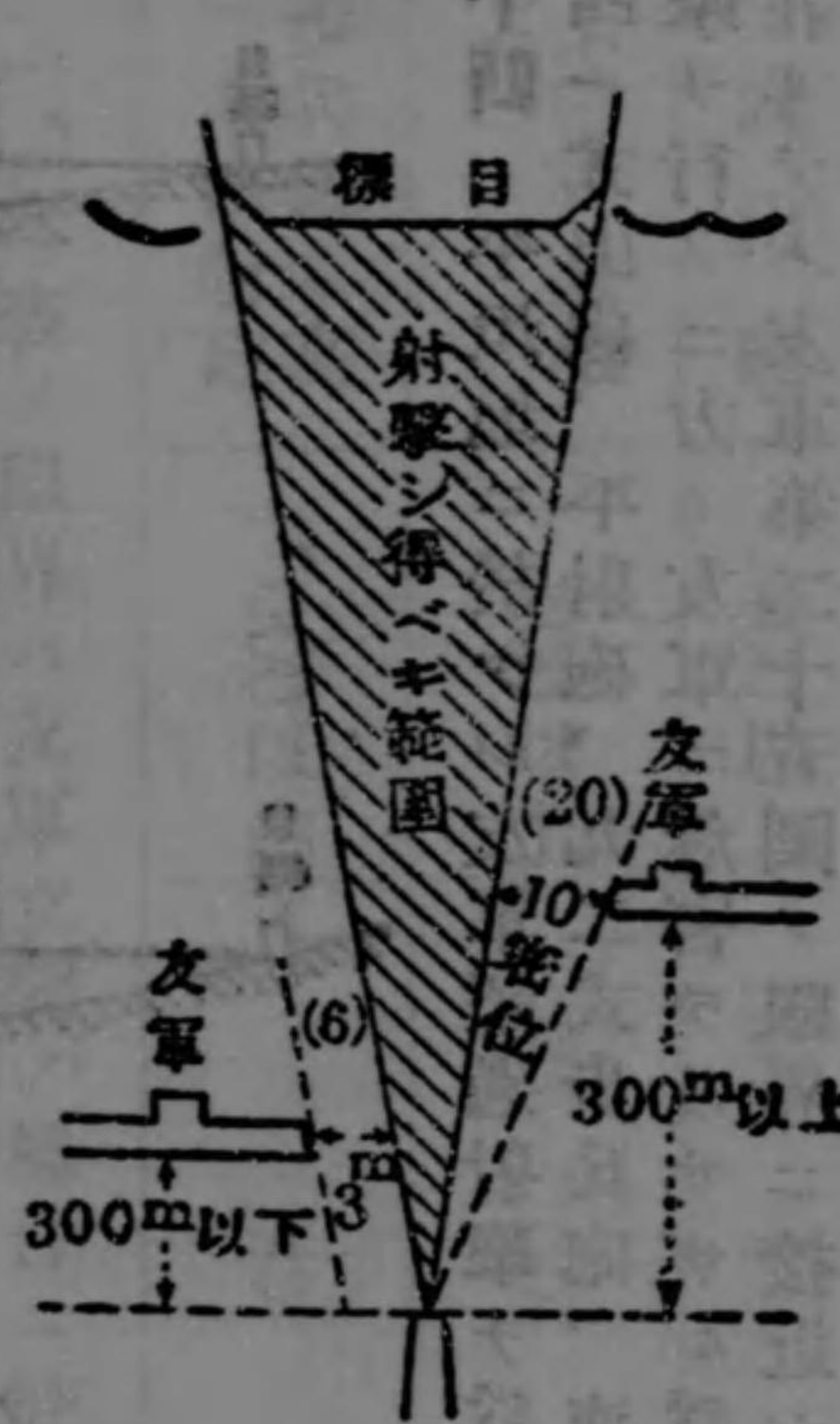
第五十五 觀測具ハ其ノ構造精緻ナルモノ多ク之ガ保存、取扱ノ良否ハ觀測

第五十六 觀測具ノ操作ハ動モスレバ過誤ヲ伴フコトアルヲ以テ爲シ得ル限

第五十七 水平角トハ基準ヲ限定セザル水平面上ノ角、方向角トハ某基準方

向ヨリ右廻ハリニ測リタル水平角、磁針方位角トハ磁針ノ北ヲ基準トシ右廻

圖五十二第



第二篇 觀測具ノ操法

通則

備考

(20) (6) ハ九二式歩兵砲ノモノヲ示ス

夜間使用
操作ノ
注意

- 第六十三 夜間砲隊鏡ヲ使用スルニハ照窓ヨリ焦點鏡ヲ照明ス
- 第六十四 砲隊鏡ノ操作ノ必要ナル注意事項左ノ如シ
 - 一、各部ノ壓螺、把子及緊定螺ハ機能ヲ損セザル程度ニ固ク緊ムルヲ要ス而シテ緊定球螺ハねぢノ破損ヲ豫防スル爲緊定又ハ緩解ニ際シ回轉方向ヲ誤ラザルコト
 - 二、三脚架ヲ設置スルニハ確實ニ安定ヲ得シメ顛倒ヲ豫防シ撤收ニ方リテハ脚管ノ短縮操作ヲ丁寧ニシ中管ノ凸部ヲ保護スルコト
 - 三、砲隊鏡ノ設置、撤收ニ方リテハ特ニ鏡面ニ破損又ハ瑕疵ヲ生セシメザルコト
 - 四、眼鏡ヲ托架ヨリ離脱スルニ方リ兩者ノ嵌合強キニ過ギ離脱困難ナルトキハ眼鏡托架ヲ輕ク且僅カヅツ左右ニ搖リ動カシツツ靜力ニ拔出ス此ノ際強ク動搖セシムルコトハ嚴ニ戒ムルコト
 - 五、使用ニ方リ方向分畫用轉輪ノ空轉スルモノニ在リテハ回轉ノ最後ニ於テ右廻ハリニ止ムルコト
 - 六、方向分畫用轉輪ノ使用ニ際シテハ解脫子旋回シアラザルコト又解脫子ヲ舊位ニ復セシムルニ方リ解脫子定位ニ復セザルトキハ僅カニ回轉盤ヲ廻ハシツツ徐口ニ之ヲ放ツコト
 - 七、軸ノ動搖スルモノニ在リテハ左手ヲ以テ一方向ニ器ヲ壓シツツ操作ス
- 二、方向照準用轉輪要スレバ俯仰轉輪ヲ廻ハシテ眼鏡ノ視軸ヲ視點ノ方向ニ導ク

砲隊鏡ノ
撤收

眼鏡ノ視
度調節
目標ノ標
定法

- 第六十 砲隊鏡ヲ撤收スルニハ概ネ左ノ順序、方法ニ依ル
 - 一、接眼鏡ヲ靜カニ其ノ最大限ニ螺入シ高低分畫板及氣泡管室ノ分畫ヲ零ニ復シ又眼鏡托架側面ノ指標ヲ俯仰誘導螺室ノ標線ヨリニ合セタル後眼鏡ヲ托架ヨリ脱シ頭部ヲ先ニシ且對物稜鏡ヲ眼鏡匣ノ蝶番ノ方向ニ向ケテ眼鏡匣ニ納ム
 - 二、眼鏡托架ノ各分畫ヲ零ニ復シ之ヲ三脚架ヨリ脱シ眼鏡匣ニ隔板ヲ裝シ其ノ所定ノ位置ニ納メ蓋ヲ裝ス
 - 三、三脚架ハ概ネ設置ト反對順序ニ撤收シ手入布等ニテ土砂ヲ除去シテ三脚架囊ニ納ム
- 第六十一 眼鏡ノ視度ヲ調節スルニハ遠距離ニ在ル目標ヲ照準シ間隔調整轉輪ニ依リ接眼鏡間隔ヲ規正シ且接眼鏡外筒ヲ廻ハシ最モ鮮明ニ目標ヲ視得ル如クス此ノ場合ニ於ケル間隔分畫及視度分畫ハ各人ニ應ズル瞳孔間隔及視度ヲ示スモノニシテ之ヲ記憶シ置キ爾後此ノ分畫ニ裝定セバ眼鏡ノ接眼鏡間隔及視度ハ直チニ之ヲ各自ニ適應セシムルコトヲ得
- 第六十二 砲隊鏡ヲ以テ目標ヲ標定スルニハ之ヲ設置シタル後概ネ左ノ順序、方法ニ依ル
 - 一、眼鏡托架ノ壓螺ヲ緩メ視點ヲ概ネ眼鏡視野ノ中央ニ在ラシムル如ク托架以上ヲ回轉シテ壓螺ヲ緊定ス此ノ際要スレバ俯仰轉輪ヲ使用ス又至近距離ニ在ル標桿等ヲ標定スル場合ニ於テハ之ニ視度ヲ調節シテ精密ニ視視スルノ著意ヲ必要トス

測遠機ノ用途
測遠機ノ設置

目標照準

八、砲隊鏡設置後之ヲ撤收スルコトナク短距離ノ位置移動ヲ行フニ方リテハ成ルベク眼鏡及眼鏡托坐ヲ脱シテ別ニ携行スルヲ可トスルモ止ムヲ得ズ眼鏡ヲ裝著シタル儘行フトキハ片手ヲ眼鏡筒ニ添ヘテ保持スルコト

第六十五 測遠機ハ主トシテ地上目標ニ對スル距離測量ニ使用スルモノトス

第六十六 測遠機ヲ設置スルニハ概ネ左ノ順序、方法ニ依ル

一、三脚架ヲ開キ三脚架ヲ取出ス
二、三脚架ノ脚桿ヲ反轉シテ適宜ノ長サニ規正シタル後托架ヲ上方ニシ架頭板上面ガ概ネ水平トナル如ク所望ノ地點ニ設置ス
三、眼鏡匣ヨリ眼鏡ヲ取出シ之ヲ托架ニ結合シ要スレバ彩鏡ヲ裝シ接眼鏡ノ視度ヲ調節ス

接眼鏡ノ視度ヲ調節スルニハ遠距離ニ在ル目標ヲ照準シ視度規正用把子ヲ回轉シ最モ鮮明ニ目標ヲ視得ル如クス此ノ場合ニ於ケル視度分畫ハ各人ニ應ズル視度ヲ示スモノニシテ之ヲ記憶シ置キ爾後此ノ分畫ニ裝定セバ眼鏡視度ハ直チニ之ヲ各自ニ適應セシムルコトヲ得

第六十七 測遠機ヲ以テ目標ヲ照準スルニハ之ヲ設置シタル後兩手ヲ以テ俯仰桿ヲ持チ眼鏡筒ヲ左右ニ廻ハシ且之ヲ俯仰セシメ照門、照星ヲ以テ方向及高低ノ概略照準ヲ爲シ次テ接眼鏡ヨリ視視シ要スレバ橫傾斜規正轉輪ニ依リ眼鏡ノ左右傾斜ヲ規正シ目標ヲ對物鏡ノ中央ニ導キ精密ニ照準ス

夜間使用

第六十八 夜間測遠機ヲ使用スルニハ距離分畫ヲ認識シ得ル如ク照窓ヲ照明ス

撤收

第六十九 測遠機ヲ撤收スルニハ概ネ左ノ順序、方法ニ依ル
一、眼鏡ヲ托架ヨリ脱シ規正板ノ縛革ヲ以テ規正板本體及三脚ト共ニ縛リ標線板ヲ手前ニシ且之ヲ垂直ナラシムル如ク眼鏡匣ニ納ム此ノ際對物窓部ハ之ヲ規正板ノ標線板ノ反對側ニ在ル相當孔ニ嵌入セシム

二、三脚架ノ緊定轉輪ヲ緩メ下脚及上脚ノ白線ヲ一致セシメタル後轉輪ヲ緊定シ托架ノ方向ヲ架頭板ノ某一邊ニ概ネ直角ナル如ク位置セシメ脚桿ヲ上方ニ反轉シ其ノ中間ニ兩覆ヲ折疊ミテ挾ミタル後三脚架囊ニ納ム

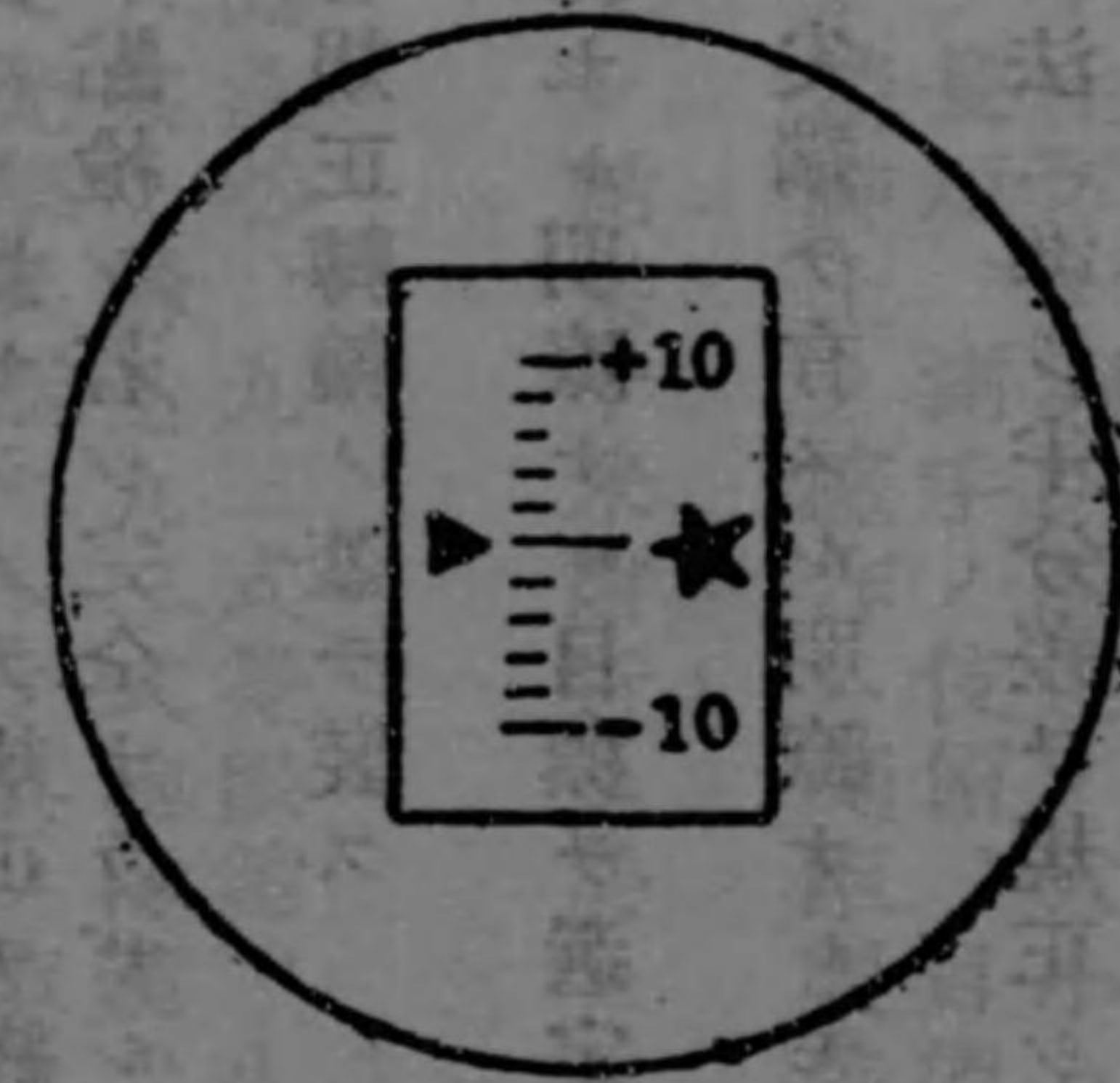
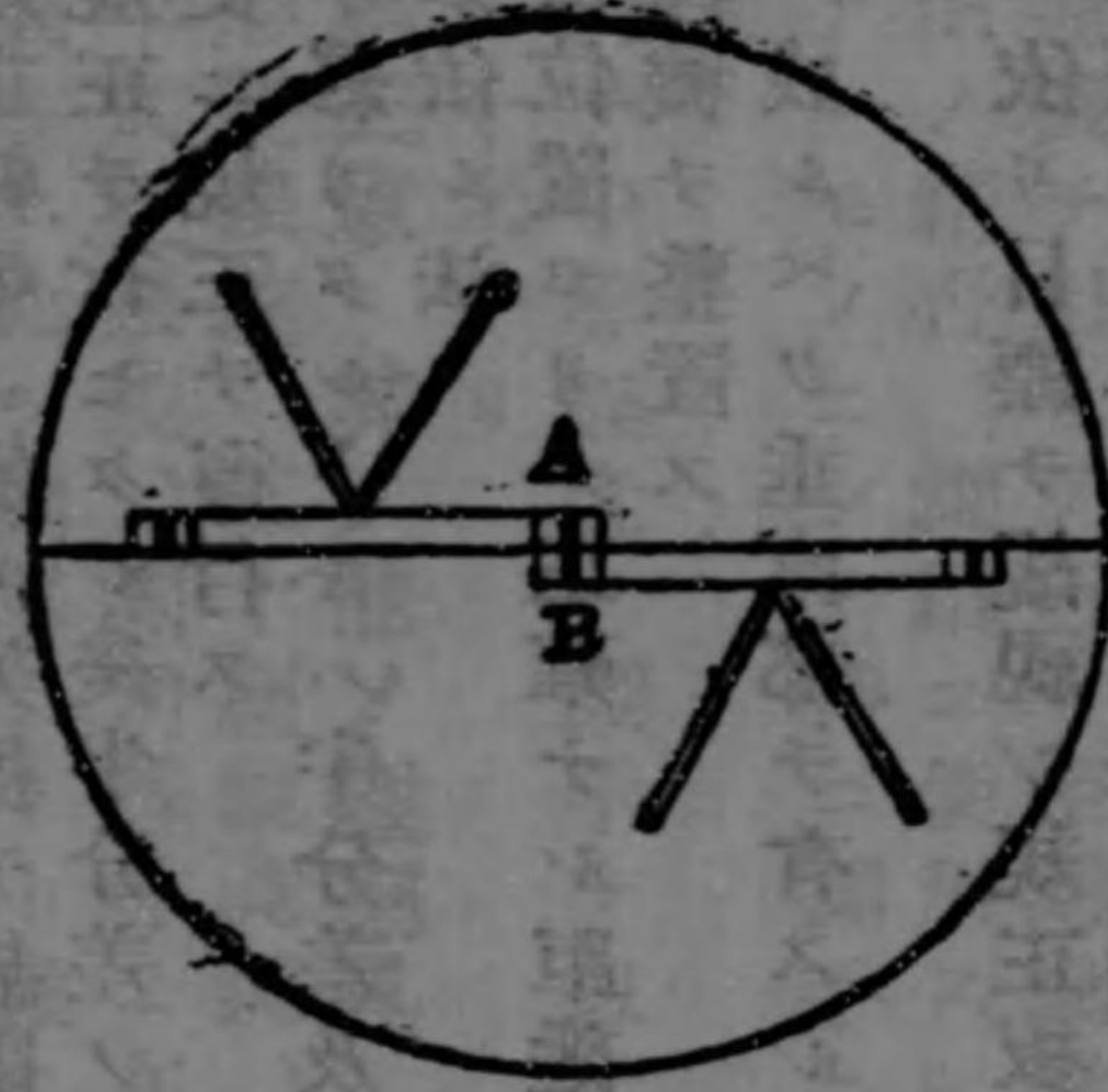
第七十 測遠機ヲ用ヒテ距離規正ヲ實施スルニハ之ニ先ダチ規正ヲ行フヲ要ス規正ハ半分差規正及距離規正ヲ實施スルモノニシテ規正板又ハ實距離目標ニ依リテ之ヲ行フ

規正板ニ依ル法

一、適宜ノ地點ニ測遠機ヲ設置ス

二、規正板ヲ測遠機ニ對シ設置ス之ガ爲測遠機ヨリ五十米以上前方ニ規正板ノ本體ト三脚トヲ結合シテ略々水平地上ニ固定シ狙準儀ノ縱線ト細隙線トヲ連ヌル視線ヲ正シク測遠機ノ回轉中心ニ向ハシム若シ地域ノ關係

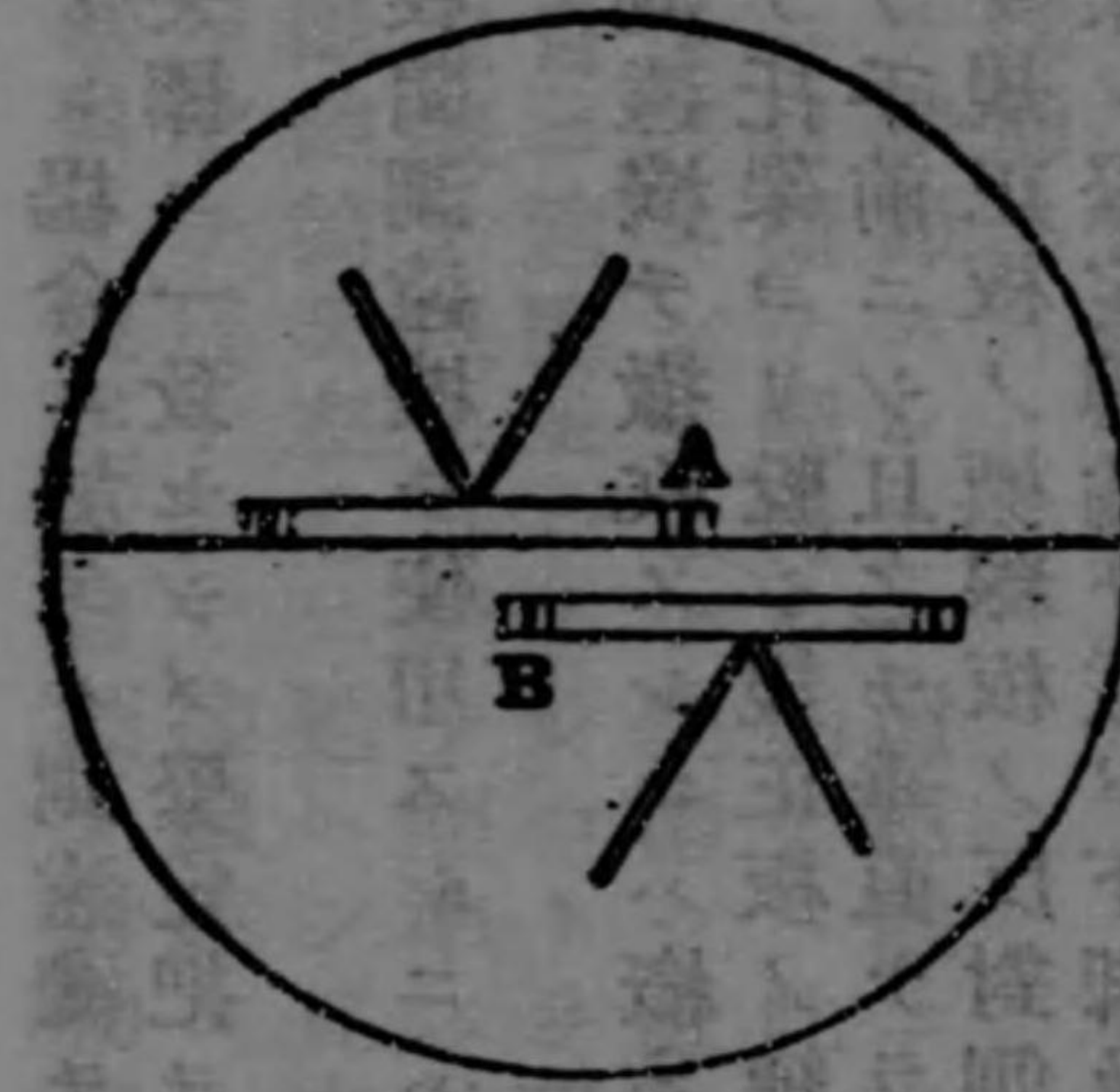
圖八十二第



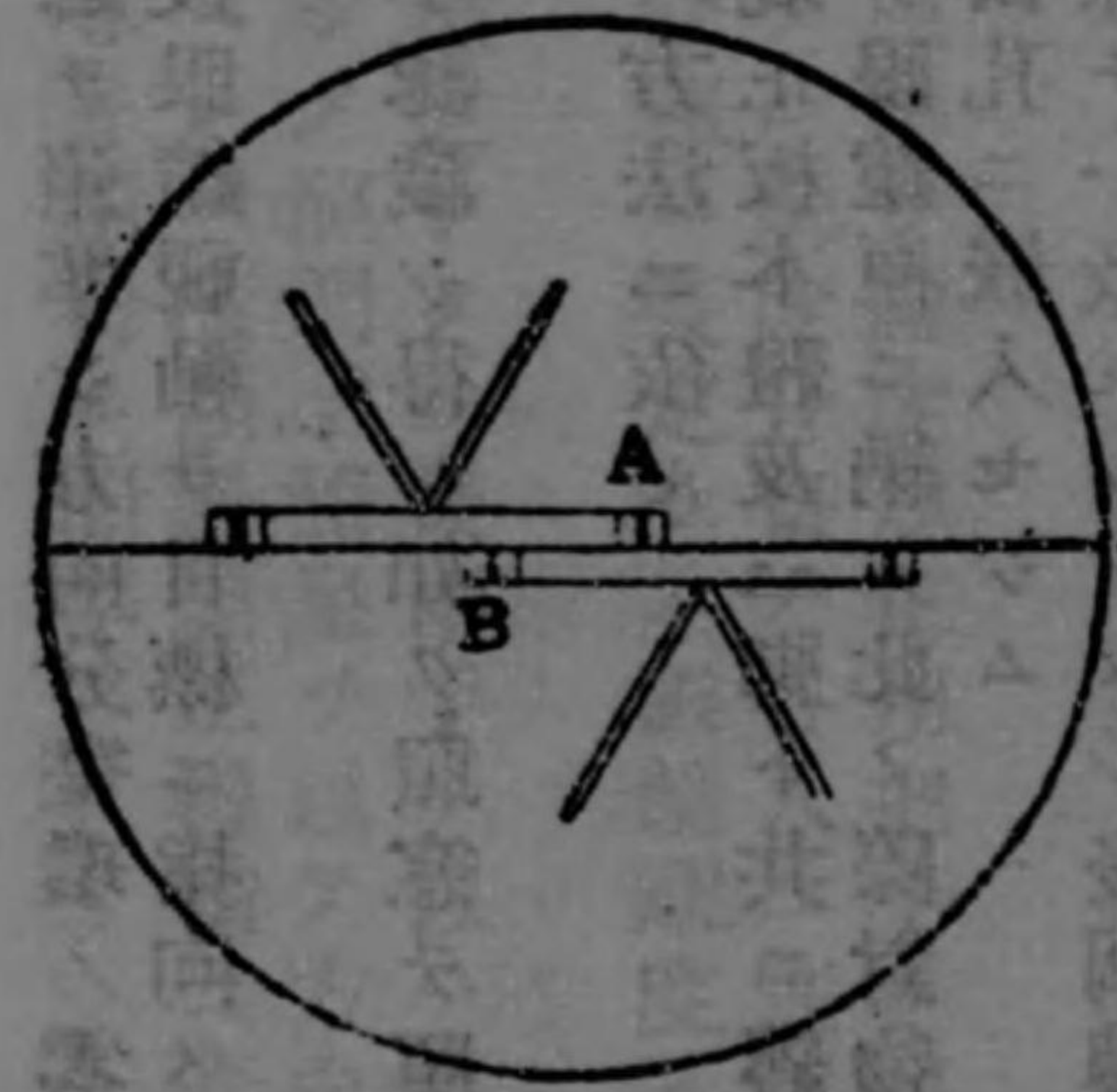
七、以上ノ如クスルモ尙多少ノ誤差アルニ依リ爾後數回ニ互リ單ニ距離測合轉輪ノミヲ操作シ第二十八圖ノ如キ見エ方トシ其ノ際矢標ガ無限大符

六、接眼鏡ヨリ規正板ヲ視視シ兩手ヲ以テ俯仰槓桿ヲ操作シ規正板ノ標線ヲ半分線ニテ切斷スル如ク眼鏡ヲ俯仰セシメ又眼鏡ニ左右ノ傾斜アリテ規正板ノ標線正シク垂直ニ視エザル場合ニ於テハ之ヲ正シ半分線ノ上下ニ於ケル標線ノ映像A、Bガ對物鏡ノ中央ニ於テ上下ニ正シク一致スルヤ否ヤヲ檢シ若シ一致セザル場合(第二十七圖)ニ於テハ距離測合轉輪ヲ回轉シ之ヲ一致セシメ(第二十八圖)タル後距離規正轉輪ノ蓋ヲ脱シ轉輪ヲ廻ハシテ矢標ヲ(★)符號ニ一致セシム

圖六十二第



圖七十二第



上規正板ヲ五十米以上ニ設置シ得ザルトキハ半分差規正ハ遠キ目標ニ對シテ之ヲ行ヒ距離規正ノミ規正板ニ依リテ行フ如クスルヲ可トス
 三、眼鏡ノ方向ヲ規正板ニ向ハシム
 四、距離測合轉輪ヲ回轉シ距離目盛上無限大符號(★)ヲ矢標ニ正シク一致セシム
 五、接眼鏡ヨリ規正板ヲ視視シ俯仰槓桿ヲ操作シテ眼鏡ヲ俯仰セシメツツ半分線ニテ切斷セラレル上下ノ映像位置ヲ點檢ス若シ上下同シ部分ニテ切斷セラレザルトキ(第二十六圖)ハ半分差規正轉輪ノ蓋ヲ脱シ轉輪ヲ回轉シ同シ部分ニテ切斷セラレル如ク規正ス(第二十七圖)

實距離目
標ニ依ル
法

操作上ノ
注意事項

號上下ノ分畫(規正分畫ト稱シ各二秒ニ應ズ)ノ何レニ一致スルヤヲ記錄
シ距離測合轉輪ニ依リ其ノ平均値ニ應ズル分畫ヲ矢標ニ一致セシメ最後
ニ距離規正轉輪ニ依リ矢標ヲ無限大符號ニ一致セシメ規正ヲ終ル
八、距離規正ヲ行ヒタル後半分畫ノ規正ヲ點檢シ若シ完全ナラザル場合ニ
於テハ更ニ規正ヲ復行ス
九、規正ヲ終リタルトキハ半分差及距離各規正轉輪ノ蓋ヲ裝ス
實距離目標ニ依ル法
一、測遠機位置ヨリ正確ナル距離ヲ既知セル明瞭ナル目標ヲ選定シ之ニ
對シ測遠機ヲ設置ス
該目標ハ成ルベク垂直部ヲ有スルカ又ハ尖端ヲ有スル明瞭ナルモノヲ要
ス
二、眼鏡ニ依リ目標ヲ規視シ規正板ニ依ル法ニ準ジ半分差ヲ規正シ次テ距
離測合轉輪ヲ使用シ半分線ノ上下ニ於ケル目標ノ映像ヲ正シク一致セシ
メ距離規正轉輪ヲ廻ハシテ距離矢標ヲ既知距離ニ裝定ス
三、以下規正板ニ依ル法ノ第七乃至第九號ニ準ジテ行フ
第七十一 測遠機ノ操作ニ必要ナル注意事項左ノ如シ
一、測距精度ヲ増進スル爲成ルベク使用者ヲ限定スルコト
二、衝突ヲ防護シ爲シ得ル限リ震動ヲ與フルカ如キ操作ヲ避クルコト
三、急激ナル溫度ノ變化ハ測遠機ノ精度ニ影響シ且眼鏡ニ曇チ生ズル原因
トナルヲ以テ使用上之ニ注意スルコト

其ノ他ノ
觀測具

測距誤差

四、測遠機ノ設置後測距ヲ行ハザル間ハ之ニ簡單ナル雨覆等ヲ爲シ以テ降
雨又ハ直射日光ニ對シ防護スルコト但シ空氣ノ流通ハ之ヲ妨ゲザルコト
五、測遠機ノ設置又ハ撤收ニ方リテハ特ニ鏡面及「ガラス」面ヲ破損セザル
如ク注意スルコト
六、設置後ハ必ず規正ヲ行ヒ又爲シ得ル限リ距離測量直前ニ於テ規正ヲ點
檢スルコト
七、測距誤差ヲ小ナラシムル爲轉軸ノ操作ニ方リテハ最後ニ止ムル方向ヲ
一定ナラシムルコト
第七十二 測遠機ヲ用ヒテ行フ距離測量ニ於テ生ズル測距誤差ノ大小ハ主ト
シテ測遠機規正ノ精否、測距ニ使用スル時間ノ長短、測手ノ伎倆、目標ノ明
暗等ニ依リ異ナルモノニシテ特ニ測手ニ與フル精神上ノ感作ハ測距誤差ヲ増
大スルモノナリ
平時戰況下ニ於テ中等程度ノ測手ヲ以テ實驗セル結果千米附近ニ於ケル測距
公算誤差ハ約三十米ナリ
第三章 其ノ他ノ觀測具
第七十三 角形雙眼鏡、五十糎觀測鏡、携帶測遠器、九三式雙眼鏡、八九式
雙眼鏡、十三年式雙眼鏡、測角器等ニ在リテハ其ノ構造九三式砲隊鏡、九三
式野戰輕測遠機等ニ比シ簡單ナリト雖モ何レモ光學兵器ニシテ其ノ取扱不良
ハ直チニ此等ノ性能ニ影響ヲ及スモノナルヲ以テ手入、取扱等ニ關シテハ既
述ノ觀測具ニ準ジ十分ノ注意ヲ拂フコト緊要ナリ

距離測量ノ種類

各種測量ノ併用
目測、歩
法、(騎)測
地圖ニ依
ル法
卷尺測案
正切法
交會法
測遠機

第三篇 距離測量及角測量

第一章 距離測量

要則

第七十四 距離測量ハ目測、歩(騎)測、音響測量、卷尺又ハ測案ニ依ル測量、
正切法、交會法等ニ依リ或ハ九三式野戰輕測遠機、携帶測遠器ヲ以テ行ヒ時
トシテ地圖ヲ利用スルチ有利トスルコトアリ
距離測量ニ方リテハ前項ノ方法ヲ併用シ或ハ一方法ニ依リ測量セル結果チ他
ノ方法ヲ以テ點檢スル等ノ手段ニ依リ正確チ期スルコト必要ナリ
第七十五 目測、歩(騎)測及音響測量ハ簡易ニ距離ヲ概測シ或ハ他ノ測量法
ノ成果ヲ點檢スルニ適ス
地圖ニ依ル方法ハ使用スル地圖ノ精度、測量セントスル兩地點ノ圖上位置ノ
不明ニ依リ精度チ異ニスト雖モ簡易ニ距離ヲ概測シ或ハ他ノ測量法ノ成果
ヲ點檢スルニ適ス
卷尺又ハ測案ニ依ル方法ハ平坦地ノ短小ナル距離ヲ測量スルニ適ス
正切法ハ斷絶地或ハ比高大ナル二點間若クハ距離稍、大ニシテ時間ノ餘裕少
キ場合ニ於ケル測量ニ適ス
交會法ハ大ナル距離ヲ測量スルニ適ス
九三式野戰輕測遠機及携帶測遠機ハ簡易ニ距離ヲ測量スルニ適ス然レドモ距
離大ナルニ從ヒ正切法、交會法等ニ比シ其ノ精度低下スルモノトス

目測ノ要領

目測誤差ノ原因

第七十六 目測ハ地上ノ長サト目標ノ見エ方トニ依リテ距離ヲ判知スルモノ
ニシテ概ネ左ノ方法ニ依ル
一、數回ノ演習ニ依リ記憶シタル地上ノ距離或ハ目前ノ某既知距離ヲ以テ
測量スベキ距離ニ比較シテ測定スルカ或ハ測量スベキ距離ノ中央ニ一點
ヲ定メ此ノ點ニ至ル距離ヲ目測シ之ヲ二倍シテ測定距離ト爲ス
二、一定ノ距離ニ在ル目標ノ明暗、大小ヲ記憶シ以テ測量スベキ距離ニ在
ル目標ニ之ヲ比較シ距離ヲ判知ス
第一號ノ方法ハ中間ノ土地ヲ通視シ得ルトキニアラザレバ適用シ得ザルモ比
較的正確ニ測量スルチ得ベク之ニ反シ第二號ノ方法ハ何レノ場合ニ於テモ適
用シ得ベシト雖モ其ノ結果稍、不正確ナルチ免レズ蓋シ同一ノ距離ニ在ル同
一ノ物體モ諸種ノ原因ニ因リ見エ方チ異ニスレバナリ故ニ以上ノ諸法チ巧ニ
應用スルトキハ迅速且正確ニ距離ヲ判知シ得ベシ
雙眼鏡ヲ使用スルトキハ目標ニ至ル間ノ地形ノ觀察チ容易ナラシメ得ルチ以
テ目測ノ補助トシテ大ナル利益アルモノトス
第七十七 土地ノ形狀、目標ノ位置、氣象、時刻其ノ他種々ノ原因ハ目測ニ
誤差ヲ生セシムルモノニシテ其ノ場合概ネ左ノ如シ
一、近ク誤リ易キ場合
天氣晴朗ナルトキ、測手太陽チ背ニスルトキ、目標其ノ背後ノ物色ノ關
係ニ依リ鮮明ナルトキ、遠隔セル明瞭ナル獨立物體、積雪地、水面、廣

音響測量

目測ノ距離

實戰ニ在リテハ目測一般ニ近キニ失シ又低キ姿勢ニ在リテ目測スルトキ遠キニ失スルヲ通常トス

第七十八 音響波動ノ速度ヲ利用シ距離ヲ測量スルコトアリ即チ天候平穩ノ場合ニ於テ音響ハ一秒間約三百三十三米ニ達スルモノナルヲ以テ三秒間ニ一ヨリ十迄ノ數ヲ連呼シ得ル如ク口調ヲ練習スルトキハ一箇ノ呼唱ハ百米ニ相當ス即チ發光ヲ視テヨリ音響ノ耳ニ達スル間ニ要スル時間ヲ口調ニ依リ測ルトキハ其ノ距離ヲ概測シ得ルモノトス

第七十九 目視ノ景況ニ依リ飛行機ニ至ル距離ヲ判定スルニハ氣象、明暗ノ度、太陽ノ位置、飛行機ノ種類、高度、飛行方向、飛行機ノ姿勢等ニ依リ其ノ見エ方ヲ異ニシ之ガ判定通常困難ニシテ一ニ慣熟ニ俟ツベキモノ多シト雖モ認識容易ナル狀況ニ於テ中型飛行機ニ就キ其ノ標準ヲ示セバ左ノ如シ

千 米 飛行機ノ輪廓ノミヲ認メ得

六百米 飛行機ノ型式ヲ判別シ又翼柱、脚等ヲ認メ得

二百米 型式ノ細部、標識等ヲ又天蓋ヲ有セザルモノハ搭乗者ノ頭部ヲ

漠地、平坦地、波狀地等ニシテ特ニ中間ノ土地ヲ通視シ得ザルトキ等

二、遠ク誤リ易キ場合

目標ノ見エ方不明瞭ナルトキ特ニ目標線ノ大部ヲ目視シ得ザルトキ、炎熱ノトキ、陽炎アルトキ、測手太陽ニ面スルトキ、目標其ノ背後ノ物色ノ關係ニ依リ鮮明ナラザルトキ、曇天、濃霧、黎明、薄暮、森林内、狭長ナル土地等

飛行音及發射音ノ關係

步測

第八十 小銃、輕機關銃、重機關銃等ノ發射音ト此等彈丸ノ飛行音トノ關係ニ依リ時トシテ概略ノ距離ヲ判知シ得ルコトアリ

彈丸ノ飛行音ハ其ノ存速音響波動ノ速度ヨリモ大ナル間ハ合成音「パン」トナリ存速音響波動ノ速度以下トナリタルトキハ連續音「シューウン」トナル又發射音ハ遠距離ニテ聽クトキハ「ト」音トシテ耳ニ感ズ而シテ此等ノ三音ハ發射位置ヲ遠ザカルニ從ヒ其ノ間隔及順序ヲ異ニスルモノトス而シテ小銃ニ就キ其ノ關係ヲ例示セバ銃側附近ニ在リテハ「ト」音ト「パン」音トハ同時ニ發生スルヲ以テ單ニ激烈ナル一音ヲ聽取スルノミナルモ射線方向ニ銃口ヲ遠ザカスルニ從ヒ「パン」音、「ト」音ノ順序ニ區別シテ聽キ得ベク其ノ兩音ノ間隔ハ距離ノ増大ニ伴ヒ増加シ約八百米ニ至レバ其ノ間隔〇・八秒ヲ算ス而シテ約九百米以上ニ在リテハ兩音ノ間隔内ニ「シューウン」音ヲ聽キ約千五百米附近ニ於テハ「ト」音及「シューウン」音ヲ略、同時ニ聽取スルニ至ルモノトス

彈丸ノ音響ニ依リ發射位置ノ方向ヲ判定スルニハ常ニ「ト」音ニ依ラザルベカラズ而シテ「パン」音ハ屢、發射位置ノ方向ヲ誤ラシムルモノナルヲ以テ注意スルヲ要ス

第二節 步(騎)測及卷尺又ハ測索ニ依ル測量

第八十一 步測ニ依リ距離ヲ測量スルニハ先ヅ自然ノ步法ヲ以テ百米ノ長サヲ步ミテ得タル複步數ニ步ヲ以テ知得セシメ此ノ複步數ト測量スベキ地上ヲ步ミテ得タル複步數トヲ比較シ其ノ距離ヲ定ムルモノニシテ六十六乃至七十

騎測

卷尺測索

複歩ヲ以テ百米ヲ歩行スルヲ通常トス
騎測ハ通常經過時間ト歩度トニ依リ距離ヲ測量スルモノトス
歩(騎)測ハ土地ノ傾斜及起伏等ニ依リ大ナル誤差ヲ伴フコトアルニ注意スル
ヲ要ス

九三式野戰輕測遠機ノ測法

第八十二 卷尺又ハ測索ヲ以テ距離ヲ測量スルニハ二名測手一、助手一ヲ以テテス助手ハ卷尺(測索)ノ零ヲ記セル端末ヲ取りテ前進シ測手ハ卷尺(測索)ノ他ノ端末ニ在ル最大目盛(布製卷尺ニ在リテハ十米、測索ニ在リテハ百米ヲ通常トス)ヲ出發點若クハ該點ヲ通ズル垂直線中ニ置キ且到着點ノ方向ニ卷尺(測索)ノ方向ヲ一致セシムル如ク助手ノ位置ヲ修正シ助手ヲシテ卷尺(測索)ヲ緊張セシメタル後「宜シ」ト唱ヘ助手ハ其ノ地點ヲ標示ス測手及助手ハ更ニ到着點ノ方向ニ前進シツツ前ト同一ノ操作ヲ反復シ到着點ト最終ノ測點トノ距離卷尺(測索)ノ最大目盛以下ナルトキハ測手ハ助手ヲシテ零ヲ記セル端末ヲ到着點ニ置カシメタル後殘餘ノ長サヲ卷尺(測索)上ニ看讀シ之ヲ既ニ得タル距離ニ合算ス
傾斜大ナル斜面ニ在リテハ卷尺(測索)ヲ水平ナラシムル爲標柱、垂球等ヲ用ヒ卷尺(測索)ノ端末ヲ測點ヲ通ズル垂直線中ニ在ラシムルヲ要ス百米測索ヲ用フル場合ニ於テハ水平ニ緊張シ得ル程度ニ短縮シテ使用スルヲ可トス

第九三式野戰輕測遠機ノ測法

第三節 九三式野戰輕測遠機ニ依ル測量

第八十三 九三式野戰輕測遠機ヲ用ヒテ距離ヲ測量スルニハ之ヲ規正シタル後測距スベキ目標ヲ照準シ半分線ノ上下ニ現レタル目標ノ映像ヲ視野ノ中央

各種目標ノ測法

固定目標ノ測法

携帶測遠器測法

ニ於テ半分線ノ上下ニ相接セシメテ距離測合轉輪ヲ廻ハシ正倒ニ映像ヲ正シク一致セシメテ距離看讀接眼鏡ヲ通シ矢標ノ示ス距離分畫ヲ看讀ス此ノ際正倒ニ映像ヲ一致セシムル爲過度ニ之ヲ凝視スルトキハ却ツテ不正確トナリ測距誤差ヲ大ナラシムルコトアルニ注意スルヲ要ス
第八十四 目標ニシテ垂直輪廓ノ相當長キ部分ヲ有スルモノハ測距最モ容易ナリ此ノ場合ニ於テハ其ノ垂直部ヲ半分線ニテ切斷スル如ク照準シ半分線ノ上下ニ於ケル垂直部ヲ一直線ナラシムル如クシテ測距スルヲ有利トス
目標ノ直線部傾斜セル場合ニ於テハ傾斜規正轉輪ヲ使用シテ半分線上下ノ映像ヲ一直線ト爲スヲ可トス
直線輪廓部ヲ有セザル目標ニ在リテハ特異ノ突出部又ハ尖端等ヲ選定シ半分線ニテ兩尖端部ヲ互ニ相接セシムル如ク照準シテ測量スルヲ可トス
第八十五 固定目標ニ對シ距離ヲ測量スル場合ニ於テハ數回之ヲ復行シテ其ノ距離ヲ平均シ以テ精度ヲ増進スルヲ可トス
第八十六 測遠機ハ運搬等ノ爲ノ震動ニ因リ又ハ溫度ノ變化特ニ眼鏡筒各部ノ溫度差ニ因リ著シク規正值ニ變化ヲ來スコトアルヲ以テ測遠機調整後ハ必ズ規正ヲ行ヒ且爾後概ネ三十分毎ニ規正ヲ復行シ又爲シ得ル限り測距直前ニ規正ヲ點檢スルヲ要ス之ガ爲規正板ヲ適當ナル位置ニ設置シ隨時規正ヲ實施シ得ル如クスルヲ可トス

第八十七

携帶測遠器ヲ以テ距離ヲ測量スルニ依ル測量

第四節 携帶測遠器ニ依ル測量
第八十七 携帶測遠器ヲ以テ距離ヲ測量スルニハ測手ハ先ヅ第一測點ニ於テ

法基線設定

量正切法測

携帶測遠器使用上ノ注意

第九十 依リ距離ヲ算定ス
基線ヲ設定スルニ方リテハ砲隊鏡、携帶測遠器其ノ他ノ器具ヲ用ヒ

第八十九 助手ハ距離ヲ測量スベキ地線ノ一端Bニ於テ之ニ直角ナル水平ノ基線BB'ヲ設

テシ左ノ要領ニ依リ距離ヲ測量スルニハ通常三名(測手一、助手二)ヲ以

テシ左ノ要領ニ依リ距離ヲ測量スルニハ通常三名(測手一、助手二)ヲ以

テシ左ノ要領ニ依リ距離ヲ測量スルニハ通常三名(測手一、助手二)ヲ以

テシ左ノ要領ニ依リ距離ヲ測量スルニハ通常三名(測手一、助手二)ヲ以

テシ左ノ要領ニ依リ距離ヲ測量スルニハ通常三名(測手一、助手二)ヲ以

テシ左ノ要領ニ依リ距離ヲ測量スルニハ通常三名(測手一、助手二)ヲ以

テシ左ノ要領ニ依リ距離ヲ測量スルニハ通常三名(測手一、助手二)ヲ以

テシ左ノ要領ニ依リ距離ヲ測量スルニハ通常三名(測手一、助手二)ヲ以

テシ左ノ要領ニ依リ距離ヲ測量スルニハ通常三名(測手一、助手二)ヲ以

テシ左ノ要領ニ依リ距離ヲ測量スルニハ通常三名(測手一、助手二)ヲ以

テシ左ノ要領ニ依リ距離ヲ測量スルニハ通常三名(測手一、助手二)ヲ以

テシ左ノ要領ニ依リ距離ヲ測量スルニハ通常三名(測手一、助手二)ヲ以

テシ左ノ要領ニ依リ距離ヲ測量スルニハ通常三名(測手一、助手二)ヲ以

テシ左ノ要領ニ依リ距離ヲ測量スルニハ通常三名(測手一、助手二)ヲ以

テシ左ノ要領ニ依リ距離ヲ測量スルニハ通常三名(測手一、助手二)ヲ以

テシ左ノ要領ニ依リ距離ヲ測量スルニハ通常三名(測手一、助手二)ヲ以

テシ左ノ要領ニ依リ距離ヲ測量スルニハ通常三名(測手一、助手二)ヲ以

テシ左ノ要領ニ依リ距離ヲ測量スルニハ通常三名(測手一、助手二)ヲ以

テシ左ノ要領ニ依リ距離ヲ測量スルニハ通常三名(測手一、助手二)ヲ以

テシ左ノ要領ニ依リ距離ヲ測量スルニハ通常三名(測手一、助手二)ヲ以

テシ左ノ要領ニ依リ距離ヲ測量スルニハ通常三名(測手一、助手二)ヲ以

テシ左ノ要領ニ依リ距離ヲ測量スルニハ通常三名(測手一、助手二)ヲ以

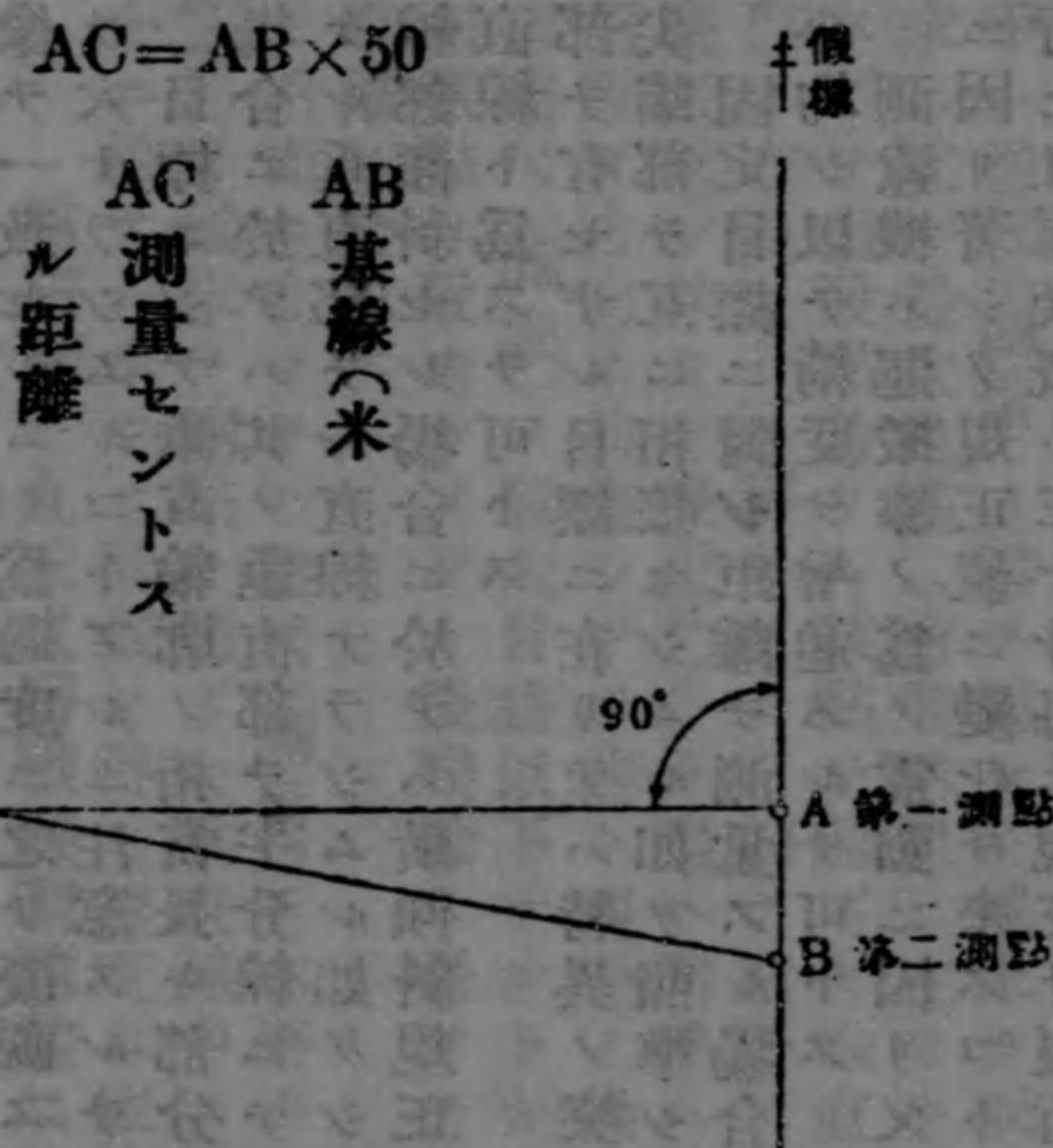
テシ左ノ要領ニ依リ距離ヲ測量スルニハ通常三名(測手一、助手二)ヲ以

テシ左ノ要領ニ依リ距離ヲ測量スルニハ通常三名(測手一、助手二)ヲ以

テシ左ノ要領ニ依リ距離ヲ測量スルニハ通常三名(測手一、助手二)ヲ以

テシ左ノ要領ニ依リ距離ヲ測量スルニハ通常三名(測手一、助手二)ヲ以

圖九十二 第二



測量セントスル目標ヲ側方ニシテ立チ測遠器ノ「R」ト記シタル視窓ヲ開キ
對物方窓ヲ目標ニ面セシムル如ク器ヲ水平ニ保持シテ視窓スベシ然ルトキハ
器中ニ於ケル目標ノ映像ハ目標ト測手トヲ連結シタル線ト直角ノ方向ニ現ル
ベシ測手ハ器ノ上方或ハ下方ヨリ前方ヲ通視シ其ノ映像ト同方向ニ於テ之ト
一致スベキ一ノ假標ヲ定ム
次ニ總板ヲ「R」ノ窓ニ移シ
他ノ視窓ヨリ再ビ前ト同
要領ヲ以テ目標ヲ視フトキ
ハ目標ノ映像ハ前ノ假標ニ
一致セズシテ之ト若干ノ離
隔ヲ生ズベシ是ニ於テ測手
ハ假標ト第一測點トノ延線
上ヲ後退シツツ此ノ映像ト
假標トノ一致スル點ヲ求メ
之ヲ第二測點トス此ノ兩點
間ノ距離ヲ稱スルニハ兩點
ヲ求ムル距離ヲ五十倍ヲ以
テ求ムル距離ト爲ス(策二
十九圖)

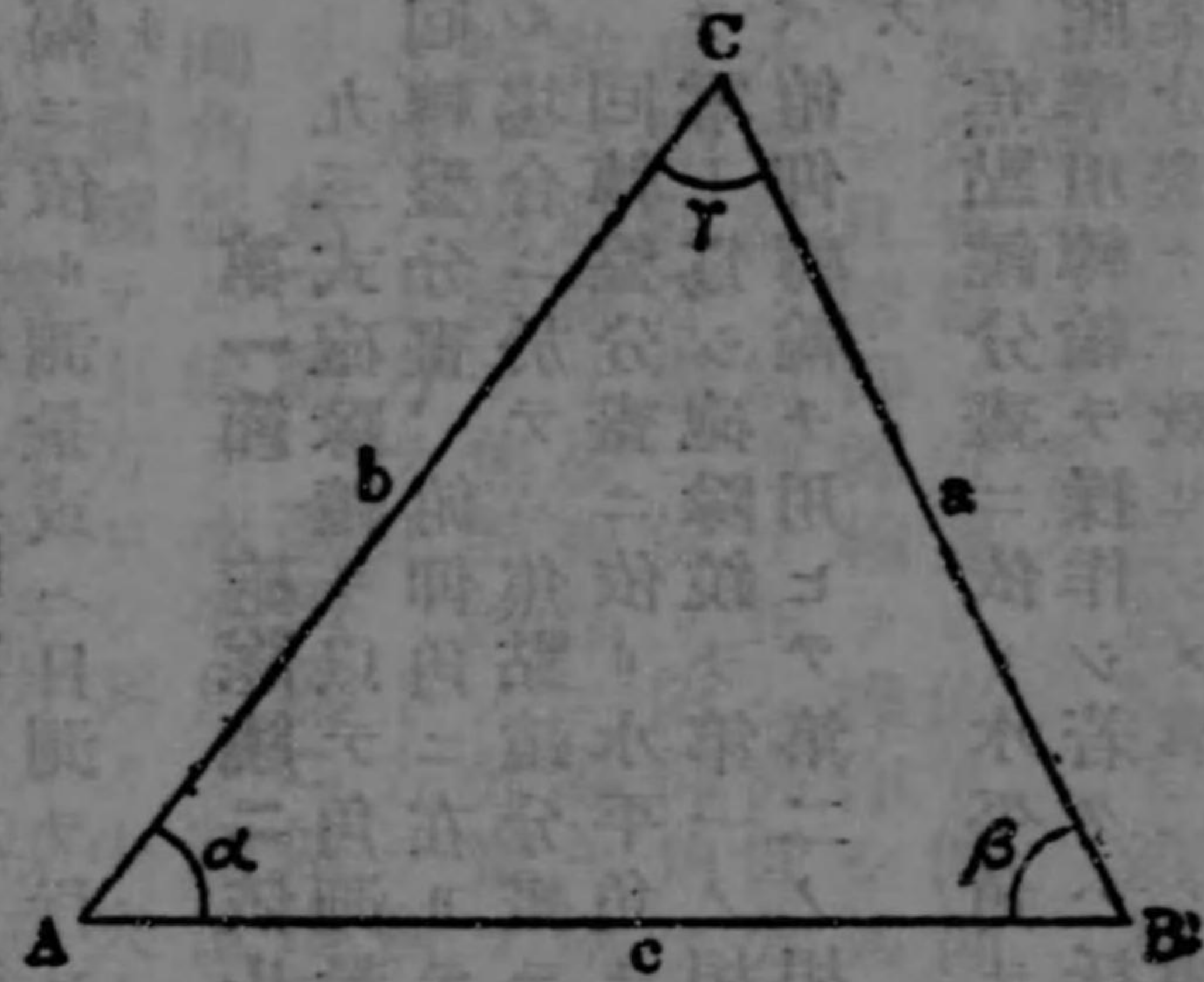
地形上若シ後退スルコト能

角ノ單位
密位

角測量法
第九十四種ノ雙眼鏡及照準眼鏡等ノ焦點鏡分畫ニ依リ若クハ各種應用ノ方法ヲ用ヒテ行フモノトス
第九十五種ノ雙眼鏡及照準眼鏡等ノ焦點鏡分畫ニ依リ若クハ各種應用ノ方法ヲ用ヒテ行フモノトス

第二章 角測量

圖一十三第



$$a = c \frac{\sin \alpha}{\sin \gamma} \quad b = c \frac{\sin \beta}{\sin \gamma}$$

α, β, γ c a, b
 角(度又ハ密位) 既知邊長(米) 求ムル距離(米)

敵方ニ在
ル既知長
ノ利用

第九十二種ノ雙眼鏡及照準眼鏡等ノ焦點鏡分畫ニ依リ若クハ各種應用ノ方法ヲ用ヒテ行フモノトス
第九十三種ノ雙眼鏡及照準眼鏡等ノ焦點鏡分畫ニ依リ若クハ各種應用ノ方法ヲ用ヒテ行フモノトス

第六節 交會法

圖十三第



$$D = \frac{l}{\tan \alpha}$$

α 小ナルトキ
 (二分畫以下)ハ

$$D = \frac{l \times 1000}{\alpha}$$

α l D
 頂角(密位) 基線長(米) 求ムル距離(米)

器具測量ノ點檢

ハ半徑ノ約千分ノ一ノ長サニ等シ
百密位ヲ以テ一分畫トス
射角ニ在リテハ一度ノ十六分ノ一ヲ單位トシタルモノアリ一度ノ十六分ノ一
ノ大キサハ概ネ一密位ニ相當ス
密位ト度トノ關係附表第一ノ如シ
第九十六 器具ヲ用ヒ角測量ヲ行フニ方リテハ測量後勉メテ最初ノ規視點ノ
方向ニ對シ點檢ヲ行ヒ要スレバ之ヲ復行シ以テ誤差ノ減少ニ勉ムルヲ要ス又
同時ニ指幅ニ依ル測量或ハ目測ヲ行ヒ器具ニ依ル測量ノ成果ヲ點檢スルノ著
意必要ナリ

第一節 砲隊鏡ニ依ル測量

砲隊鏡測量法

第九十七 九三式砲隊鏡ヲ以テ角測量ヲ行フニハ之ヲ整置シタル後水平角ニ
在リテハ回轉盤分畫、俯仰角ニ在リテハ高低分畫板ノ分畫ニ依ルモノトス又
角值小ナル場合ニ於テハ焦點鏡分畫ヲ用フ

回轉盤ノ水平角測量

第九十八 回轉盤分畫ニ依リ水平角ヲ測量スルニハ方向分畫環及方向分畫筒
ノ各分畫ヲ零ト爲シ砲隊鏡ヲ第一ノ規視點ニ對シ標定シタル後回轉盤ヲ廻ハ
シ要スレバ俯仰轉輪ヲ用ヒテ第二ノ規視點ヲ規視シ兩分畫指標ノ指示スル分
畫ヲ看讀ス

焦點分畫ノ水平角測量

第九十九 焦點鏡分畫ニ依リ水平角ヲ測量スルニハ解脫板、方向分畫用轉輪
又ハ方向照準用轉輪ヲ操作シ若クハ托坐ノ壓螺ヲ緩メテ眼鏡ヲ廻ハシ第一ノ
規視點ニ某分畫ヲ一致セシメ第二ノ規視點ニ對スル隔リヲ分畫上ニ看讀ス此

高低分畫板ノ俯仰角測量
焦點鏡分畫

ノ際規視點相互間並ニ規視點ト測點トノ比高大ナルトキハ測量セル角值ニ誤
差アルニ注意スルヲ要ス
第一百 高低分畫板ノ分畫ニ依リ俯仰角ヲ測量スルニハ第九十九ノ要領ニ依リ
眼鏡ヲ廻ハシ且俯仰轉輪ヲ操作シ其ノ視軸ヲ規視點ニ導キタル後高低轉輪ニ
依リ高低水準器ノ氣泡ヲ正シ高低分畫板及氣泡管室ノ分畫ヲ看讀ス
第一百一 焦點鏡分畫ニ依リ俯仰角ヲ測量スルニハ高低分畫板及氣泡管室ノ分
畫ヲ零ニ裝シ眼鏡ヲ規視點ニ導キ俯仰轉輪ニ依リ高低水準器ノ氣泡ヲ正シタ
ル後規視點ヲ規視シ焦點鏡ノ分畫ヲ看讀ス而シテ俯仰角ハ縱、橫標線ノ交點
ヲ基準トシ其ノ上方ヲ正、下方ヲ負トス

第二節 測角器ニ依ル測量

測角器ノ水平角測量

第一百二 測角器ニ依リ水平角ヲ測量スルニハ駐子ヲ「駐」ノ位置ニ置キ器ヲ水
平ニシ且接眼鏡ヲ上方ニシ其ノ中央上面ヲ以テ規視點ヲ規視シ接眼鏡ヲ通シ
テ分畫板分畫ノ零ヲ先ヅ左方ノ規視點ニ向ケ右方ノ規視點ニ對スル方向分畫
ヲ看讀ス

測角器ノ俯仰角測量

第一百三 測角器ニ依リ俯仰角ヲ測量スルニハ駐子ヲ「駐」ノ位置ニ置キ器ヲ垂
直ニシ且接眼鏡ヲ右方ニシ内部ノ氣泡ヲ兩赤線ノ中央ニ導キツツ器ノ右側外
方ヨリ規視點ヲ規視シタル後接眼鏡ヲ通シテ中央標線(四分畫ノ線)ノ上方又
ハ下方ニ於テ規視點ニ通ズル分畫板ノ分畫ヲ看讀ス

磁針方位角測量

第一百四 測角器ニ依リ磁針方位角ヲ測量スルニハ駐子ヲ「駐」ノ反對ノ方向ニ
廻ハシテ磁針分畫板ノ回轉ヲ自由ナラシメタル後第一百二ニ準シテ操作シ中央

各種眼鏡
ノ測法

標線ニ映ズル磁針分畫板ノ分畫ヲ看讀ス
第三節 各種眼鏡ノ焦點分畫又ハ腕長規尺其ノ他
應用材料ニ依ル測量
第一百五 各種眼鏡ノ焦點分畫ニ依リ水平角、俯仰角ヲ測量スルニハ砲隊鏡
ノ焦點分畫ニ依ル方法ニ準ジテ行フモノトス
某點ニ對スル高低角ヲ測量セントセバ先ヨ眼鏡視軸ト同一水平面上ニ在ル地
物ヲ求メ之ト測量セントスル地點トノ俯仰角ヲ測量スベシ
眼鏡視軸ト同一水平面上ノ某點ヲ決定スルニハ鏡(軍刀ノ刀身其ノ他應用材
料ヲ垂直ニ保持シ其ノ鏡面ニ映ズル自己ノ眼ノ映像ヲ見通シタル線上ノ地物
ヲ求ムレバ可ナリ(以下此ノ方法ニ準ズ)

腕長規尺
ノ測法

第六 腕長規尺ニ依リ水平角(俯仰角)ヲ測量スルニハ腕長
トノ水平距ノ十分ノ一ヲ一分畫トシテ分畫ヲ刻セル規尺ヲ水平(垂直)ニ保持シ
離ヲ調フ
其ノ某分畫ヲ一地點(眼目高ト同一水平面上ノ一地點)ニ一致セシメ他ノ地點
ノ相當スル分畫ヲ看讀ス
指幅ニ依ル方法ハ前項ニ示スモノノ應用ニシテ一指幅ハ通常約三十密位トシ
テ測量ス

方向桿
ノ測法

第七 方向桿(附圖第二)ハ通常水平角ノ測量ニ用ヒラルモノトス
方向桿ヲ用ヒテ水平角ヲ測量スルニハ通常分畫管ノ中央ヲ通ズル視線ヲ基準
點ニ指向シ測量セントスル地點ニ相當スル分畫管上ノ分畫ヲ看讀ス此ノ際眼

兵器某部
分利用測
法

ノ位置ヲ一定スルコト必要ナリ
第八 射撃姿勢ニ於ケル兵器ノ某部分ヲ角測量ノ基準トシテ使用スルヲ便
トスルコトアリ其ノ一例附圖第三ノ如シ

諸兵射擊教範

總則終
第一部

合場ノ平均	合場																				合場ノ平均
	0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28	30	32	34	36	38	
500	0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28	30	32	34	36	38	40
550	0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28	30	32	34	36	38	40
600	0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28	30	32	34	36	38	40
650	0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28	30	32	34	36	38	40
700	0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28	30	32	34	36	38	40
750	0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28	30	32	34	36	38	40
800	0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28	30	32	34	36	38	40
850	0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28	30	32	34	36	38	40

一、表中ノ値ハ、距離トノ異ナルニ依リテ、他ノ左方ニ修正スルノ必要アリ
二、表中ノ値ハ、距離トノ異ナルニ依リテ、他ノ右方ニ修正スルノ必要アリ

合場ノ平均	合場																				合場ノ平均
	0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28	30	32	34	36	38	
500	0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28	30	32	34	36	38	40
550	0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28	30	32	34	36	38	40
600	0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28	30	32	34	36	38	40
650	0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28	30	32	34	36	38	40
700	0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28	30	32	34	36	38	40
750	0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28	30	32	34	36	38	40
800	0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28	30	32	34	36	38	40
850	0	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28	30	32	34	36	38	40

因數	%	因數	%	因數	%	因數	%
1.36	79	1.07	53	0.51	27	0.02	1
1.90	80	1.09	54	0.53	28	0.04	2
1.94	81	1.12	55	0.55	29	0.06	3
1.98	82	1.14	56	0.57	30	0.07	4
2.03	83	1.17	57	0.59	31	0.09	5
2.08	84	1.19	58	0.51	32	0.11	6
2.13	85	1.22	59	0.63	33	0.13	7
2.18	86	1.25	60	0.65	34	0.15	8
2.24	87	1.27	61	0.67	35	0.17	9
2.30	88	1.30	62	0.70	36	0.18	10
2.37	89	1.33	63	0.72	37	0.20	11
2.44	90	1.36	64	0.74	38	0.22	12
2.52	91	1.39	65	0.76	39	0.24	13
2.60	92	1.42	66	0.79	40	0.26	14
2.69	93	1.45	67	0.80	41	0.28	15
2.78	94	1.48	68	0.82	42	0.30	16
2.91	95	1.51	69	0.84	43	0.32	17
3.04	96	1.54	70	0.86	44	0.34	18
3.22	97	1.57	71	0.89	45	0.36	19
3.45	98	1.60	72	0.91	46	0.38	20
3.82	99	1.64	73	0.93	47	0.40	21
4.00	100	1.67	74	0.95	48	0.41	22
		1.71	75	0.98	49	0.43	23
		1.74	76	1.00	50	0.45	24
		1.78	77	1.02	51	0.47	25
		1.82	78	1.04	52	0.49	26

附表第三

公算因數表

目標高(目標幅)

高低半數必中界(方向半數必中界) = 因數

考	備	考	備
50	1.36	50	1.36
48	1.40	48	1.40
46	1.44	46	1.44
44	1.48	44	1.48
42	1.52	42	1.52
40	1.56	40	1.56
38	1.60	38	1.60
36	1.64	36	1.64
34	1.68	34	1.68
32	1.72	32	1.72
30	1.76	30	1.76
28	1.80	28	1.80
26	1.84	26	1.84
24	1.88	24	1.88
22	1.92	22	1.92
20	1.96	20	1.96
18	2.00	18	2.00
16	2.04	16	2.04
14	2.08	14	2.08
12	2.12	12	2.12
10	2.16	10	2.16
8	2.20	8	2.20
6	2.24	6	2.24
4	2.28	4	2.28
2	2.32	2	2.32
0	2.36	0	2.36

考備

考備

考備

考備

考備

考備

考備

備考	伏姿自動火器的	膝的	伏的	頭的	目標種類	射距離(米)	四四式(三八式)騎銃命中公算表
					(%)		
	40.7	64.9	39.1	27.9	200		
	29.4	49.3	26.3	17.1	300		
	20.2	35.4	16.9	10.3	400		
	14.0	25.4	11.4	7.1	500		
	10.5	17.3	7.7	4.6	600		
	7.5	12.4	5.4	3.1	700		
	5.8	8.2	3.8	1.8	800		
	3.8	6.4	2.7	1.5	900		
	2.8	4.5	1.9	1.1	1000		(%)

附表第五

備考	伏姿自動火器的	膝的	伏的	頭的	目標種類	射距離(米)	三八式步兵銃命中公算表
					(%)		
	47.0	71.0	46.2	35.7	200		
	31.5	55.3	30.9	21.2	300		
	23.2	39.8	19.5	12.4	400		
	16.1	27.0	12.6	7.7	500		
	11.2	19.2	8.7	5.1	600		
	8.5	13.6	6.1	3.4	700		
	6.0	9.9	4.2	2.5	800		
	4.5	7.3	3.2	1.7	900		
	3.6	5.9	2.5	1.5	1000		(%)

附表第四

備考
 一、本表ハ單一銃ヲ以テスル射撃ノ實用半数必中界ヲ基礎トシテ算出セルモノナリ
 二、頭的、伏的、膝的ニ對シテハ平均彈道目標ノ中央ニ、伏姿自動火器的ニ對シテハ射手(伏的)ノ中央ニ連シタル場合ニ於ケル命中百分數ヲ示ス而シテ自動火器的ニ對シテハ伏的、頭的ニ對スル命中百分數ヲ各別ニ算定シタルモノヲ合算セリ
 三、前進的ニ對スル命中百分數ハ膝的ニ對スルモノヲ通用スルモノトス

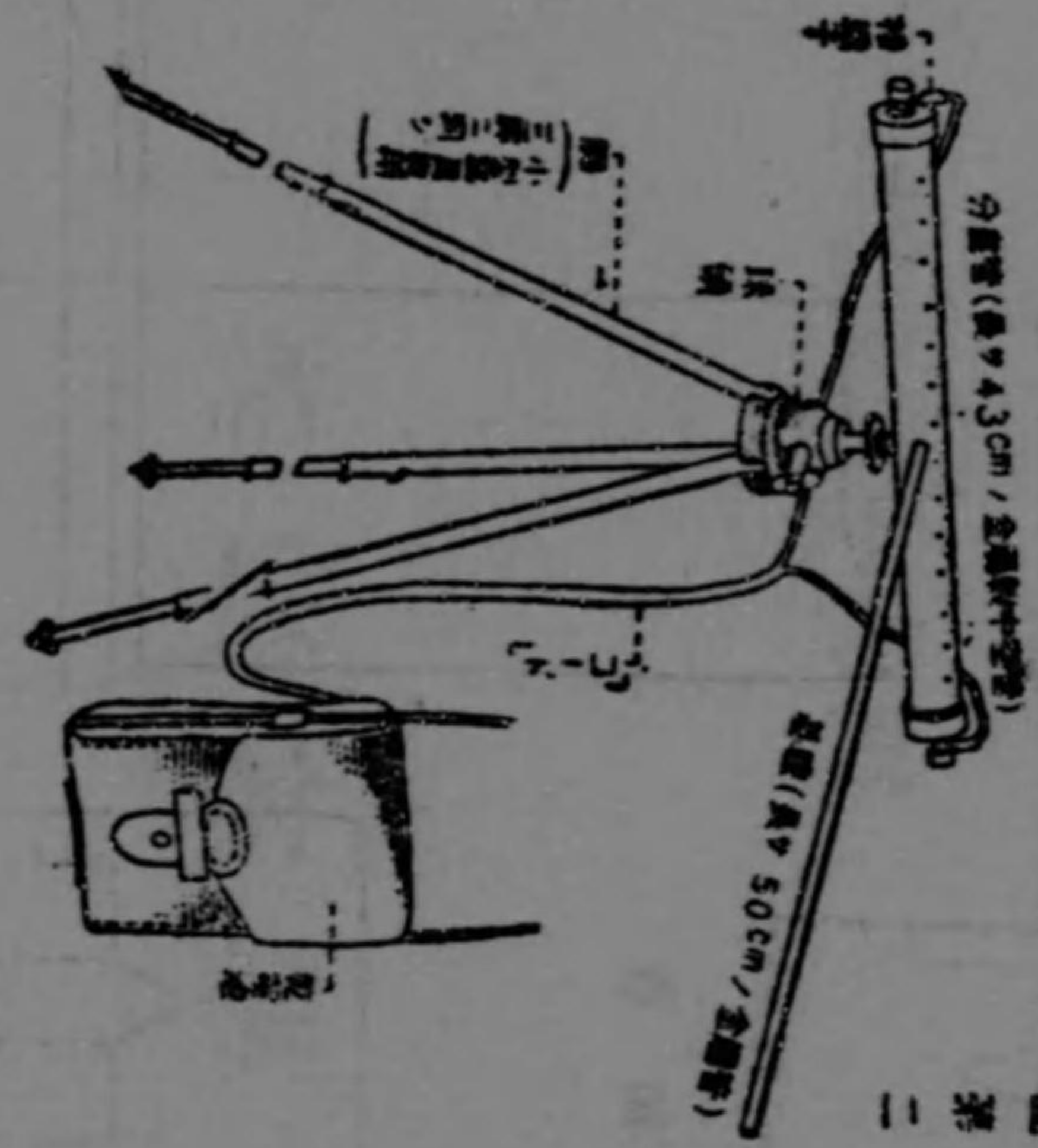
備考 附表第四三同シ	伏姿自動火器的	膝的	伏的	頭的	目標種類射距離(米)	十一年式輕機關銃命中公算表
	29.2	39.4	24.0	15.3	200	
	17.5	30.2	13.6	8.0	300	
	11.3	18.6	8.3	4.9	400	
	7.6	11.0	5.5	3.9	500	
	5.4	9.0	3.7	2.2	600	
	4.0	6.4	2.8	1.6	700	
	2.9	4.9	2.0	1.2	800	
	2.2	3.6	1.5	0.9	900	
	1.6	2.7	1.1	0.7	1000	

附表第七

備考 附表第四三同シ	伏姿自動火器的	膝的	伏的	頭的	目標種類射距離(米)	九六式輕機關銃命中公算表
	36.0	54.3	33.0	22.5	200	
	26.2	39.6	21.6	13.7	300	
	17.4	26.9	13.4	7.8	400	
	11.5	19.1	8.4	5.1	500	
	8.1	13.3	5.7	3.4	600	
	5.8	9.7	4.1	2.3	700	
	4.4	7.0	3.0	1.8	800	
	3.1	5.1	2.1	1.2	900	
	2.3	3.7	1.5	0.9	1000	

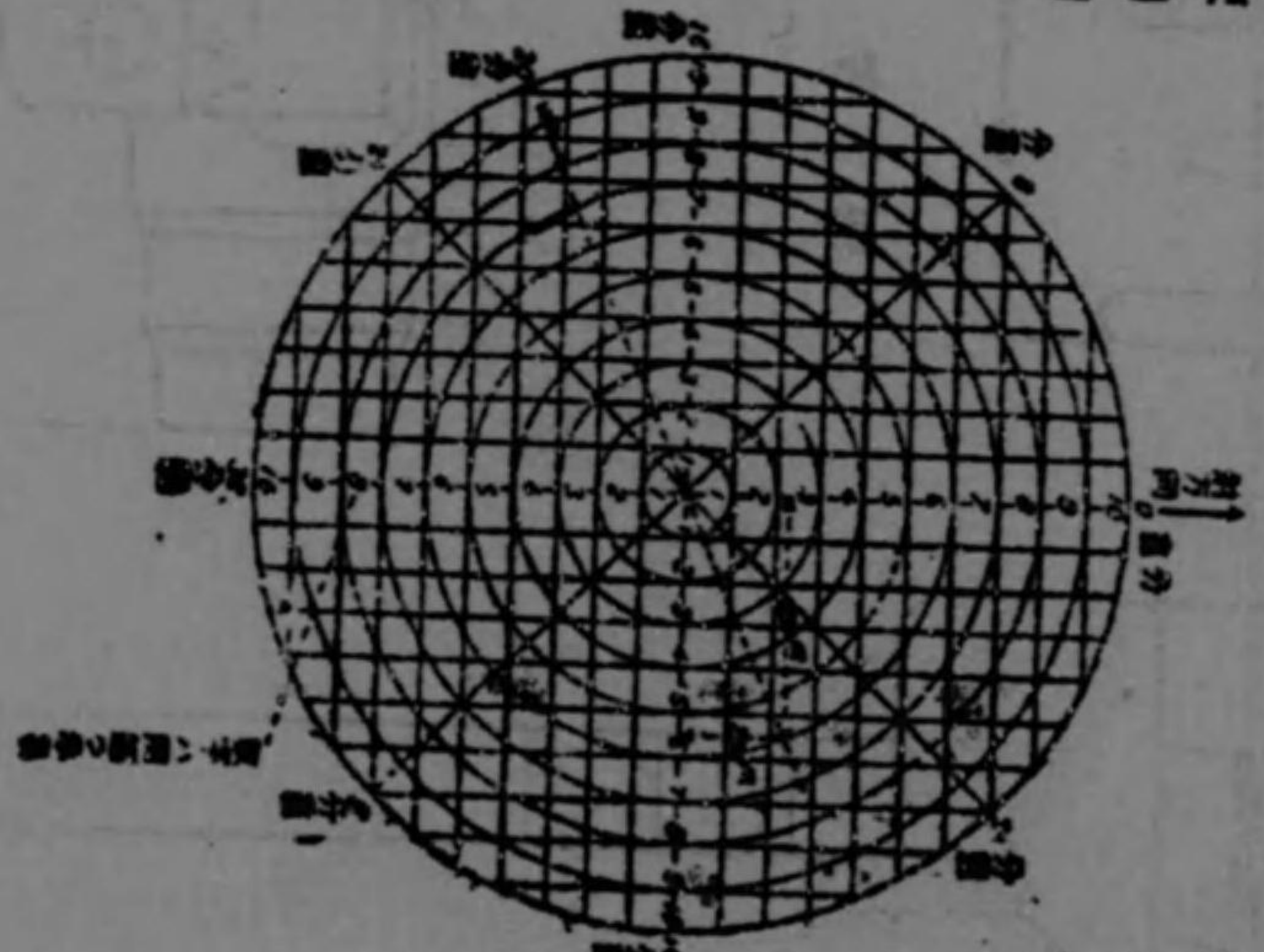
附表第六

圖一 分度器(上) 分度器(下) 分度器(左) 分度器(右) 分度器(前) 分度器(後) 分度器(上) 分度器(下) 分度器(左) 分度器(右) 分度器(前) 分度器(後)



圖一 分度器

圖二 分度器(上) 分度器(下) 分度器(左) 分度器(右) 分度器(前) 分度器(後) 分度器(上) 分度器(下) 分度器(左) 分度器(右) 分度器(前) 分度器(後)



圖二 決定風分ノ風

分度器

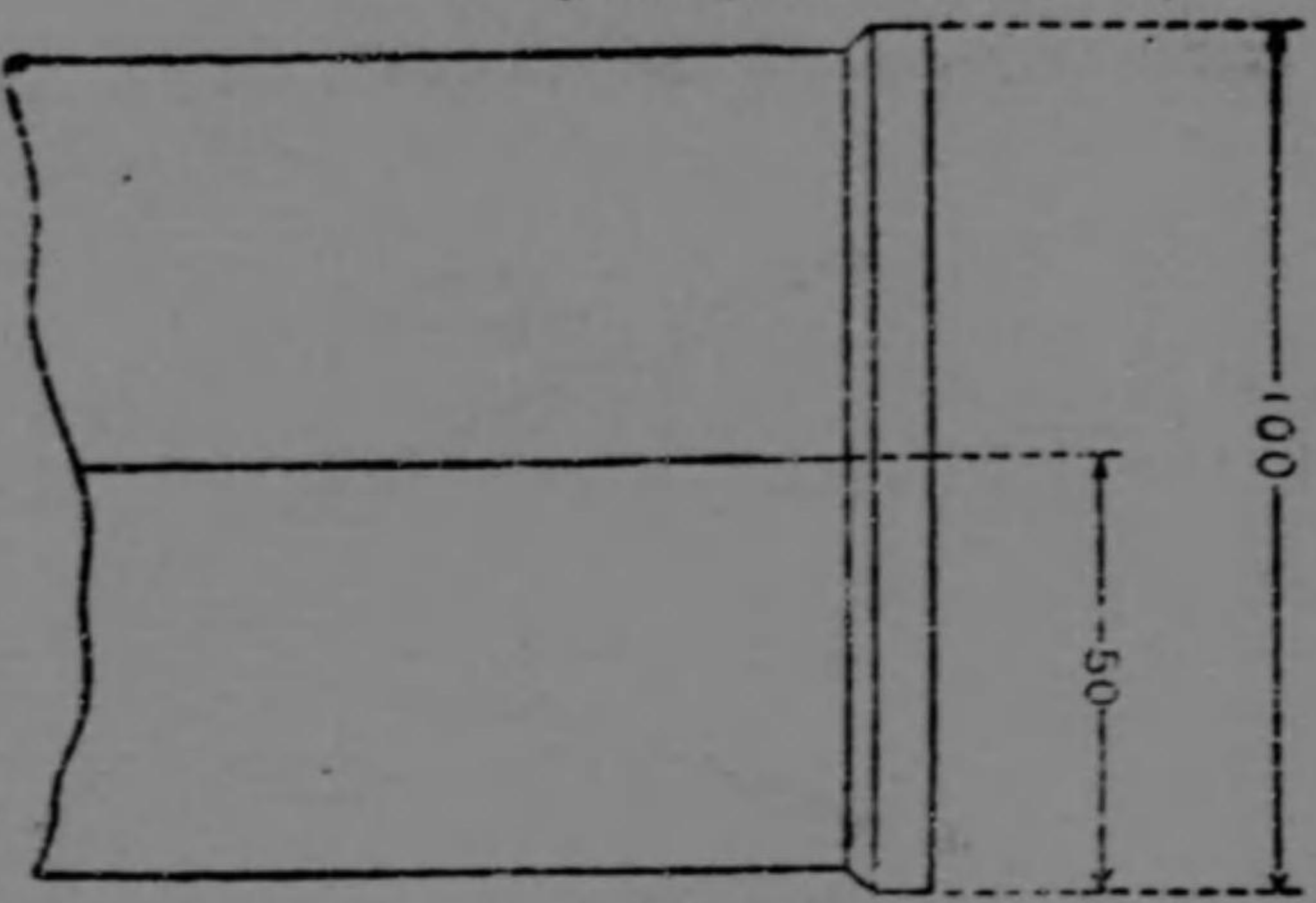
附表第八

九二式重機關銃命中公算表

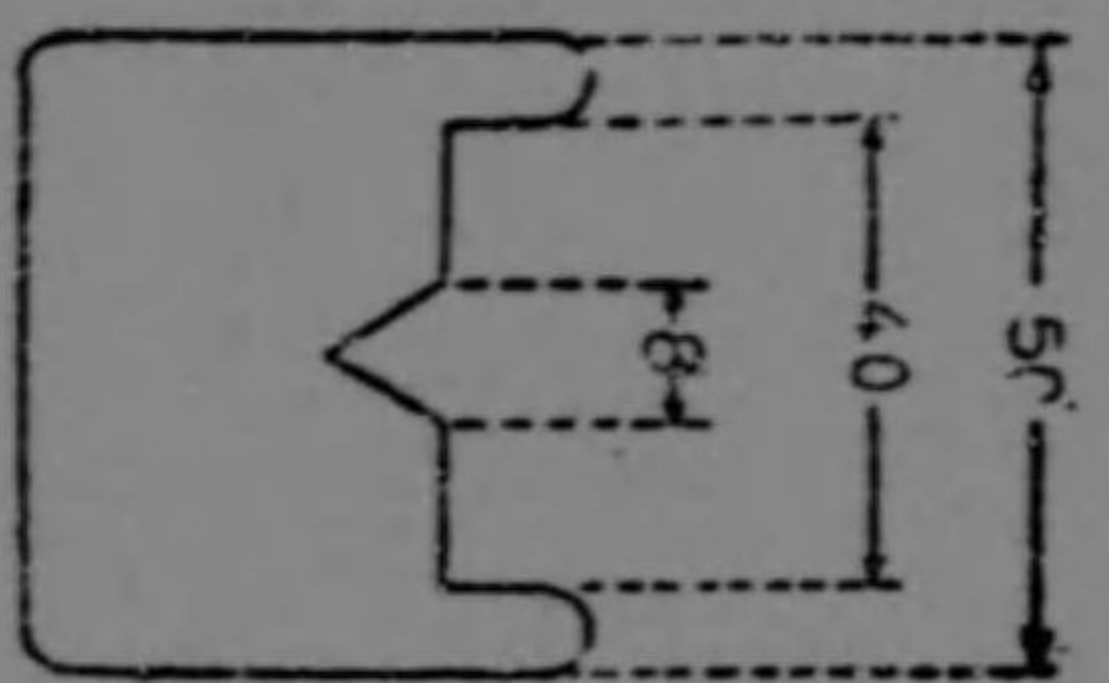
考 備	火 姿 器 自 動 的	心 軸) 兵 散 (米 一 隔 間			目 標 種 類	射 距 離 米	
		膝 的	伏 的	頭 的			
一、附表第四ニ同シ 二、軸心間隔一米以上ノ散兵ニ對スル命中百分數ハ其ノ軸心間隔ヲ以テ本表ノ命中百分數ヲ除シタル商トス	點非射定	43.8	45.6	38.2	24.4	15.1	200
	點緊射定	33.6	36.5	36.3	20.5	12.3	300
		24.3	37.5	33.5	17.0	10.0	400
		18.0	21.8	30.4	14.6	8.5	500
		13.7	17.3	27.7	12.5	7.4	600
		10.0	13.2	25.0	11.1	6.4	700
		7.6	10.2	22.2	9.7	5.6	800
		5.9	8.2	19.9	8.4	4.9	900
		4.7	6.6	17.5	7.3	4.4	1000
		3.8	5.3	15.6	6.6	3.8	1100
		3.1	4.5	13.6	5.6	3.3	1200
		2.6	3.7	12.5	4.9	2.8	1300
	2.1	3.0	10.9	4.5	2.6	1400	
	1.5	2.3	9.4	3.8	2.3	1500	

(%)

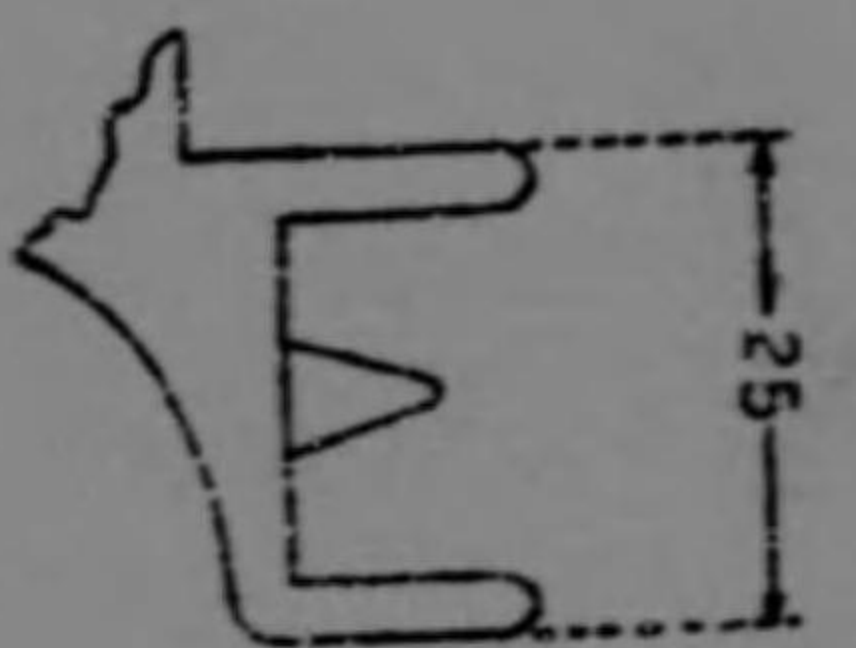
例數概位密ノ牙部某器兵ルケ於ニ(射伏)勢察擊射
銃圖輕式六九 銃圖輕式年一十



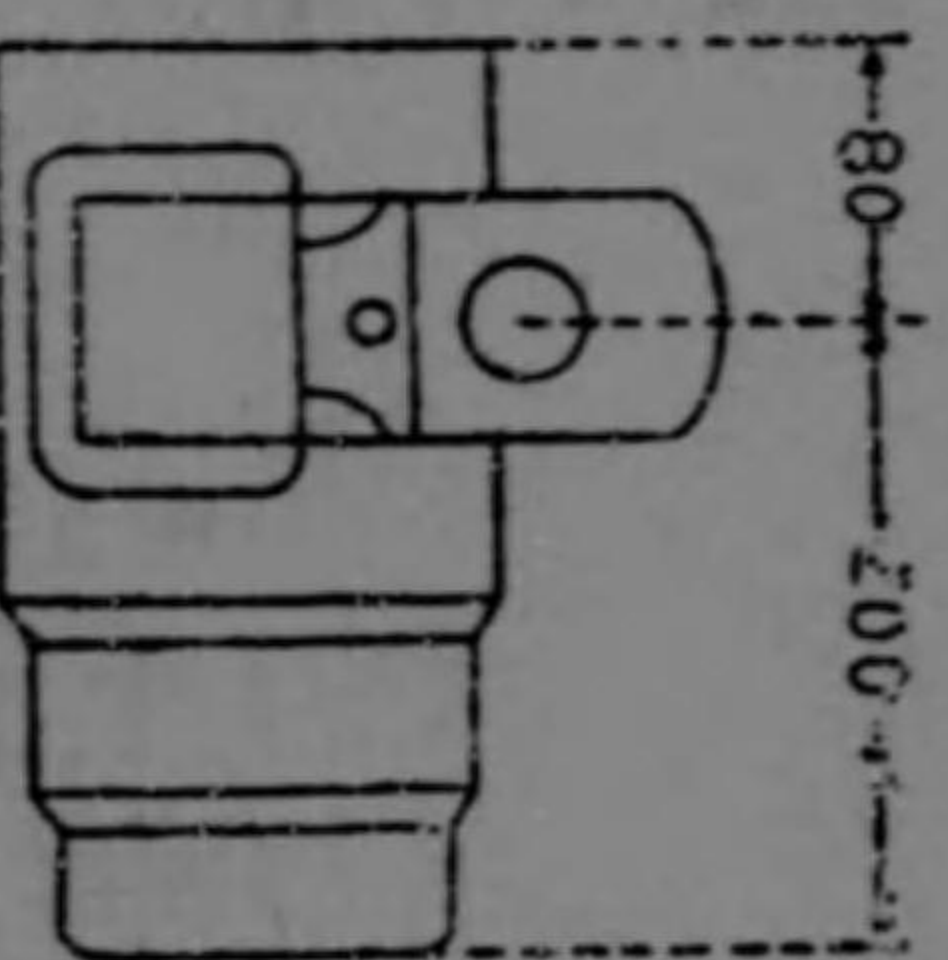
尺照



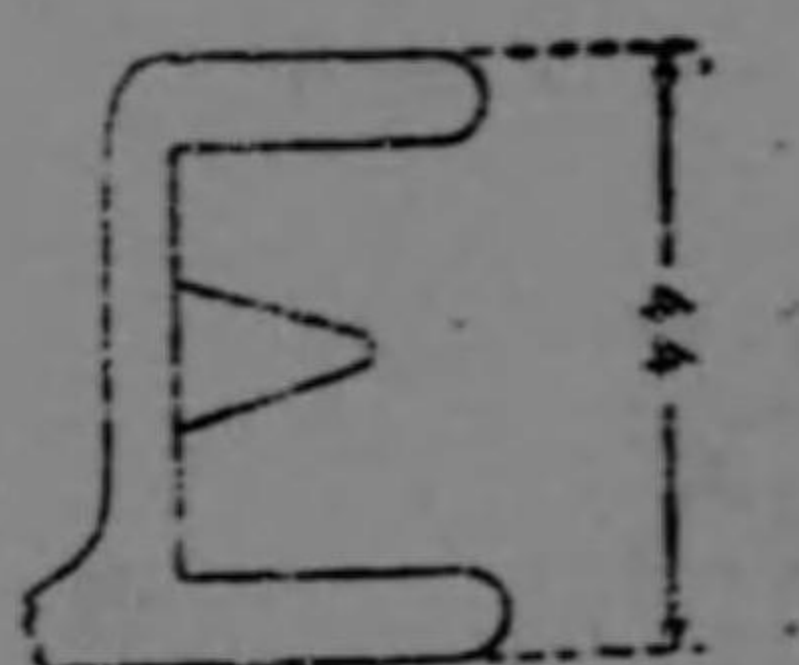
尺照



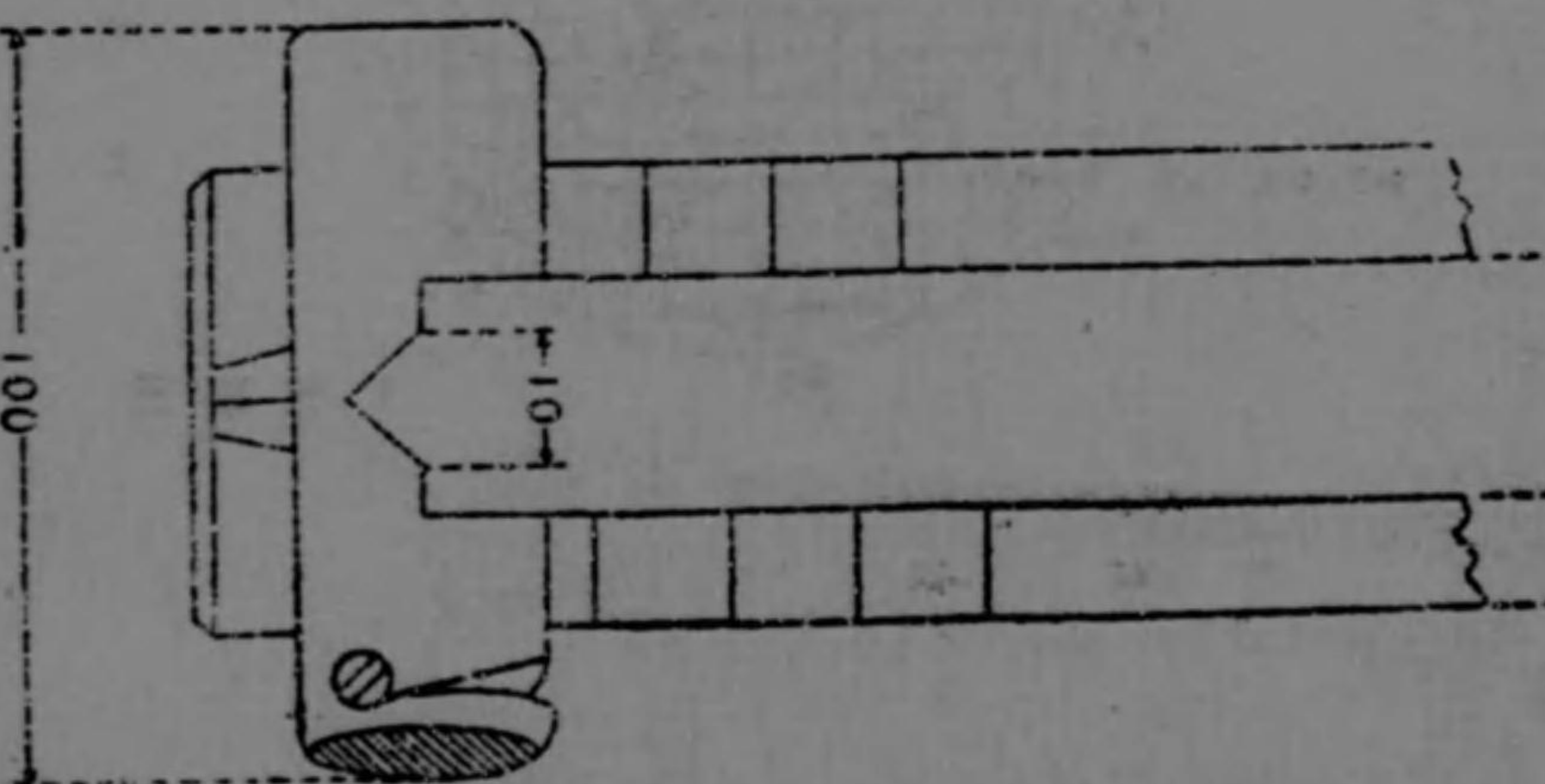
尺照



尺照



銃兵步式八三
銃圖輕式三式四圖
尺照 15
30
100



陸達第三十七號

諸兵射擊教範第二部

③

射擊一

諸兵射擊教範第二部目次(歩兵用)

第一篇 歩兵隊及騎兵隊射擊教育……………一

通則……………一

第一章 小銃及輕機關銃……………二

要則……………二

第一節 射擊豫行演習……………三

要旨……………三

第一款 小銃……………三

据銃……………四

照準……………四

擊發……………九

射擊ノ方法……………三

第二款 輕機關銃……………五

据銃……………五

照準……………五

擊發……………七

射擊ノ方法……………七

第三款 部隊ヲ以テ行フ射擊……………三〇

故障ノ豫防及排除……………二八

射擊ノ方法……………二七

擊發……………二七

照準……………二七

据銃……………一九

第二款 輕機關銃……………一九

射擊ノ方法……………一五

擊發……………一三

照準……………九

据銃……………四

第一款 小銃……………三

要旨……………三

第一節 射擊豫行演習……………三

要則……………二

第一章 小銃及輕機關銃……………二

通則……………一

第一篇 歩兵隊及騎兵隊射擊教育……………一

豫行演習……………三

第四款 夜間及煙内射擊……………三

第二款 狹窄射擊……………三

第三款 基本射擊……………三

要旨……………三

第一款 小銃……………三

第二款 輕機關銃……………三

第四節 應用射擊……………三

要旨……………三

第一款 小銃……………三

第二款 輕機關銃……………三

第五節 輕機關銃觀測射擊……………三

第六節 戰闘射擊……………三

要旨……………三

第一款 各個戰闘射擊……………三

小銃……………三

輕機關銃……………三

第二款 部隊戰闘射擊……………三

分隊戰闘射擊……………三

小隊戰闘射擊……………三

豫行演習……………三

第四款 夜間及煙内射擊……………三

第二款 狹窄射擊……………三

第三款 基本射擊……………三

要旨……………三

第一款 小銃……………三

第二款 輕機關銃……………三

第四節 應用射擊……………三

要旨……………三

第一款 小銃……………三

第二款 輕機關銃……………三

第五節 輕機關銃觀測射擊……………三

第六節 戰闘射擊……………三

要旨……………三

第一款 各個戰闘射擊……………三

小銃……………三

輕機關銃……………三

第二款 部隊戰闘射擊……………三

分隊戰闘射擊……………三

小隊戰闘射擊……………三

第七章 連合戰團射擊	四七
第七節 射擊指揮	四七
第二章 重擲彈筒	五三
第一節 射擊豫行演習	五三
要旨	五三
第一款 筒ノ保持法	五三
第二款 分畫ノ裝定	五七
第三款 照準及擊發	五七
第四款 射彈ノ觀測	五九
第五款 射擊豫習	六一
第二節 準備射擊	六二
第三節 戰團射擊	六二
要旨	六二
第一款 各個戰團射擊	六三
第二款 分隊戰團射擊	六四
第四節 射擊指揮	六五
第三章 拳銃	六七
第四章 手榴彈	七〇
第五章 實驗射擊	七二
第六章 距離及角測量ノ教育	七三

第七章 射擊ノ獎勵及褒賞	七四
第一節 射擊ノ獎勵	七四
第二節 射擊ノ褒賞	七六
第一款 射擊徽章	七六
第二款 射擊名譽旗	七七
第二篇 步兵、騎兵隊以外ノ諸隊ノ射擊教育	七八
通則	七八
第一章 戰車隊、騎兵戰車隊、搜索聯隊裝甲車隊、師團輕裝甲車訓練所	七八
第二章 迫擊隊	七九
第三章 砲兵隊	七九
第四章 工兵隊	七九
第五章 師團通信隊、鐵道隊及電信隊	八〇
第六章 航空兵隊	八〇
第七章 輜重兵隊	八二
第三篇 士官候補生、幹部候補生及下士官候補者ニ對スル射擊	八三

通則	八二
第一章 士官候補生	八二
第二章 幹部候補生	八四
第三章 下士官候補者	八六
第四篇 彈藥、記錄及報告	八八
第一章 彈藥	八八
第二章 記錄及報告	八九
第一節 記錄	八九
第二節 報告	九〇
附 表	九〇
第一 輕機關銃ノ主ナル故障ノ種類及其原因ノ排除法	九一
第二 步兵隊狹窄射擊實施基準表	九四
第三 步兵隊小銃基本射擊習會表	九六
第四 步兵隊輕機關銃基本射擊習會表	九八
第五 步兵隊小銃應用射擊習會表	一〇一
第六 步兵隊輕機關銃應用射擊習會表	一〇五

第七 步兵隊小銃各個戰團射擊習會表	一一〇
第八 步兵隊輕機關銃各個戰團射擊習會表	一一三
第九 步兵隊部隊戰團射擊實施區分表	一一五
第十 步兵隊重擲彈筒準備、戰團射擊實施區分表	一二七
第十一 步兵隊拳銃射擊習會表	一二八
(第十二乃至第三十四省略)	
第三十五 士官候補生小銃基本射擊習會表	一一九
第三十六 士官候補生輕機關銃基本射擊習會表	一二〇
第三十七 士官候補生小銃應用射擊習會表	一二三
第三十八 士官候補生輕機關銃應用射擊習會表	一二七
第三十九 士官候補生小銃、輕機關銃各個戰團射擊習會表	一三三

第四十 幹部候補生小銃基本射擊習會表……………一三四

第四十一 幹部候補生輕機關銃基本射擊習會表……………一三五

第四十二 幹部候補生小銃應用射擊習會表……………一三六

第四十三 幹部候補生輕機關銃應用射擊習會表……………一四三

第四十四 幹部候補生小銃、輕機關銃各個戰闘射擊習會表……………一四五

第四十五 下士官候補者小銃基本射擊習會表……………一四八

第四十六 下士官候補者輕機關銃基本射擊習會表……………一四九

第四十七 下士官候補者小銃應用射擊習會表……………一五三

第四十八 下士官候補者輕機關銃應用射擊習會表……………一五六

第四十九 下士官候補者小銃各個戰闘射擊習會表……………一五九

第五十 下士官候補者輕機關銃各個戰闘射擊習會表……………一五九

第五十一 步兵、騎兵隊士官候補生、幹部候補生及下士官候補者重擲彈筒準備、戰闘射擊實施區分表……………一六五

附圖 (第五十二乃至第六十二省略)

第一 小銃、輕機關銃照準檢査用材料ノ一例……………一六七

第二 重擲彈筒照準檢査用材料ノ一例……………一六八

第三 射擊名譽旗……………一六九

諸兵射擊教範 第二部 目次 終

射擊教育ノ振作……………

第一 射擊教育ノ振作ハ一ニ幹部ノ優秀ナル射擊伎倆ニ俟ツモノ大ナリ之ガ爲中隊長ハ幹部ノ伎倆ヲ考慮シ一貫セル計畫ノ下ニ射擊ノ特別教育ヲ實施シ絶エズ其ノ伎倆ヲ向上シ特ニ射擊教育ニ任ズル者ヲシテ垂範克ク射擊術ノ機微ヲ捉ヘ之ガ教育ニ任ジ得ルノ技能ヲ附與シ以テ遺憾ナキヲ期セザルベカラズ

第二 大隊長ハ適宜ノ方法ニ依リ本教育ノ成果ヲ助長スルニ勉ムベシ

第三 射擊教育ハ先ヅ各個ノ射擊技能ヲ練磨シ次テ部隊ヲ以テスル射擊ノ教育ニ移ルモノトス

第四 各個ノ射擊技能練磨ノ爲ノ教育ニ方リテハ徒ラニ外形ノ齊一ヲ望ムコトナク綿密周到ナル注意ヲ以テ眞ニ克ク射手ノ性質、體格ニ適應スル教育ヲ實施シ如クナル場合ニ於テモ一彈一敵ヲ斃ス必中ノ信念ヲ以テ正確ナル射擊ヲ實施シ得ルノ自信ヲ有スルニ至ラシメ部隊ヲ以テスル射擊ノ教育ニ方リテハ戰闘教練ト射擊トヲ渾然調和セシメ常ニ戰況ニ應ズル射擊ヲ實施シ得ル如ク十分指揮官以下ヲ訓練シ以テ射擊教育ヲ完成スベキモノトス

第五 射擊術ヲ教育スルニ方リテハ徒ラニ齊一進歩ニ囚ルコトナク優秀者ノ伎倆ヲ益々助長セシムルト共ニ未熟者ノ過失ヲ速カニ發見シテ之ヲ矯正シ

齊一進歩ノ要……………

各個ノ射擊技能練磨……………

教育順序……………

射擊教育ノ振作……………

諸兵射擊教範 第二部 第一篇 步兵隊及騎兵隊射擊教育

第一 射擊教育ノ振作ハ一ニ幹部ノ優秀ナル射擊伎倆ニ俟ツモノ大ナリ之ガ爲中隊長ハ幹部ノ伎倆ヲ考慮シ一貫セル計畫ノ下ニ射擊ノ特別教育ヲ實施シ絶エズ其ノ伎倆ヲ向上シ特ニ射擊教育ニ任ズル者ヲシテ垂範克ク射擊術ノ機微ヲ捉ヘ之ガ教育ニ任ジ得ルノ技能ヲ附與シ以テ遺憾ナキヲ期セザルベカラズ

第二 大隊長ハ適宜ノ方法ニ依リ本教育ノ成果ヲ助長スルニ勉ムベシ

第三 射擊教育ハ先ヅ各個ノ射擊技能ヲ練磨シ次テ部隊ヲ以テスル射擊ノ教育ニ移ルモノトス

第四 各個ノ射擊技能練磨ノ爲ノ教育ニ方リテハ徒ラニ外形ノ齊一ヲ望ムコトナク綿密周到ナル注意ヲ以テ眞ニ克ク射手ノ性質、體格ニ適應スル教育ヲ實施シ如クナル場合ニ於テモ一彈一敵ヲ斃ス必中ノ信念ヲ以テ正確ナル射擊ヲ實施シ得ルノ自信ヲ有スルニ至ラシメ部隊ヲ以テスル射擊ノ教育ニ方リテハ戰闘教練ト射擊トヲ渾然調和セシメ常ニ戰況ニ應ズル射擊ヲ實施シ得ル如ク十分指揮官以下ヲ訓練シ以テ射擊教育ヲ完成スベキモノトス

第五 射擊術ヲ教育スルニ方リテハ徒ラニ齊一進歩ニ囚ルコトナク優秀者ノ伎倆ヲ益々助長セシムルト共ニ未熟者ノ過失ヲ速カニ發見シテ之ヲ矯正シ

不良射手ノ教育

射撃ノ服装

射撃ノ準銃

射撃ノ特別教育

全員興味ヲ以テ全幅ノ努力ヲ之ガ練磨ニ傾注セシムルヲ要ス之ガ爲中隊長ハ各種ノ手段ヲ講ジ兵ヲ起シテ自然ニ嗜好心ヲ起サシムルコト必要ナリ射撃ノ進歩ヲ阻害スルコト大ナリ故ニ命中不良ノ射手ニ對シテハ懇切ニ之ヲ指導シ荷モ激情ヲ以テ之ニ對スルコトアルベカラズ蓋シ命中不良ハ射手ノ怠慢放逸ニ依ルコト稀ニシテ射手ノ自覺セザル過失ニ依ルコト多ケレバナリ

第四 小銃、輕機關銃ノ基本及應用射撃竝ニ重擲彈筒ノ準備射撃ニ於ケル下士官以下ノ服装ハ軍裝ニシテ鐵帽ヲ用ヒ防毒面ヲ携行スルモノトス但シ步兵隊小銃、輕機關銃ノ基本射撃ハ背囊ヲ除キ又其ノ初年兵竝ニ之ニ準ズル者ノ第一、第二習會ハ背囊ヲ除クモノトス

戰開射撃ニ於ケル指揮官以下ノ服装ハ軍裝ニシテ鐵帽ヲ用ヒ防毒面ヲ携行シ其ノ負擔量ヲ概ネ戰時ニ等シカラシムベシ

第五 輕機關銃、重擲彈筒及拳銃射撃教育ノ爲ニハ特ニ定ムルモノノ外小銃ニ就キ示セル事項ニ準ジテ實施スルモノトス

第一章 小銃及輕機關銃

第六 中隊(通信隊、機關銃中、銃隊、步兵砲隊及速射砲隊ヲ含マズ)長ハ初年兵基本射撃ヲ終リタルトキ小銃手中射撃技能優秀ナル者十五名ヲ選抜シテ特別射手ト爲シ狙撃ノ技能ヲ向上スル如ク教育ヲ行フモノトス但シ第二年度ニ於テ前記人員ニ缺員ヲ生ズルモ十名以上ナルトキハ補充セザルモノトス又

射撃ノ上等兵ニ對シテノ教育

射撃ノ演習ノ目的

射撃ノ演習ノ進行

射撃ノ演習ノ順序

射撃ノ時間

小銃手タル上等兵(以下小銃上等兵ト略稱ス)ニ對シ輕機關銃射撃ニ關シ戰時分隊長タルニ必要ナル技能ヲ附與スル如ク特別教育ヲ行フモノトス

第一節 射撃演習ノ要旨

第七 射撃演習ハ射手ヲシテ据銃、照準、擊發及射法ノ要領ヲ修得セシメ以テ射撃術ノ基礎ヲ作り且諸種ノ目標ニ對シ各種ノ狀態ニ於ケル射撃ヲ練習シテ益々各個ノ射撃技能ヲ向上セシメ又戰況下ニ於テ部隊ヲ以テスル射撃ヲ演練スル爲行フモノトス

第八 射撃演習ハ一貫セル計畫ノ下ニ教育ノ各期ヲ通ジ絶エズ之ヲ行フヲ要ス

第一款 小銃

第九 射撃演習ハ勉メテ戰況ノ下ニ實距離ニ設置セル諸種ノ目標特ニ視ニ難キ目標ニ對シ之ヲ行フベキモノトス之ガ爲先ヅ膝射、伏射ヲ以テ基礎ノ教育ヲ行ヒ次デ各種ノ地形、地物ヲ利用スル射撃動作ヲ教育シ射手ノ習熟スルニ從ヒ漸次距離ヲ大ニシ目標ノ狀態ヲ實際ニ近似セシメ又屢々實兵ヲ用フル等ノ手段ニ依リ逐次其ノ程度ヲ向上スルヲ要ス

隱顯、移動スル目標特ニ飛行機ニ對スル射撃及劇動後ニ行フ射撃ハ射撃教育ノ進歩ニ伴ヒ射撃演習ニ於テ十分之ガ練磨ヲ圖ルコト緊要ナリ又裝面シテ行フ射撃ニ慣レシムルヲ要ス

第十 戰場ノ實相ニ鑑ミ一發ノ發射時間(据銃ヨリ擊發迄)ハ勉メテ短少ナラ

圖 一 第

一ノ其 銃据ルケ於ニ射膝
面 正



肩ノ方向ハ毎回之ヲ變ゼザルヲ要ス

右股ヲ射面ニ對シ略、直角ナラシム

成ルベク垂直ニ近カラシムルヲ可トスルモ過度ニ之ヲ
要求シテ肩著ヲ不良ナラシムルガ如キコトナキヲ要ス
右肘ハ概ネ肩ノ高サヲ可トスルモ無理ナル力ヲ加ヘザルヲ
要ス

ノ短縮
眼心指一
致

据銃要件
三

シメザルベカラズ之ガ爲精密ナル照準ニ要スル時間ヲ基準トシ此ノ時間内ニ
眼心指ノ一致ヲ求ムル如ク演練スルヲ要ス
眼心指ノ一致ハ命中ヲ良好ナラシムル爲極メテ重要ナルヲ以テ特ニ留意シテ
教育スルコト緊要ナリ

据銃

第十一 据銃ノ要ハ照準、擊發間銃ヲ動搖セシメザル如ク之ヲ臂上ニ安定セ
シムルニ在リ膝射、伏射及逆射ノ姿勢ニ於ケル据銃ノ要領及其ノ要點概ネ第
一乃至第六圖ノ如シ
立射ノ姿勢ニ於ケル据銃ノ要領ハ膝射ニ於ケルモノニ準ズ

圖 二 第

二ノ其 銃据ルケ於ニ射膝

面 側 左

歴第掛ヲ第二食實銃
 スーケ引一節指ニ把
 段其鐵節或ノ握ヲ
 ヲノニ根ハ第リ確



ルニテ前手ク爲ルニ上
 ヲ密掌後ノ左シ儘保體
 要著ハス位足得照持ヲ
 スシ銃而置及ル準シ眞
 ア床シヲ左如ヲ直

頭ハ自然ノ位置ニ保持ス
 肘ノ突出部ト膝ノ突出部ト
 相接セザル如クス

リスハ又體ヲヲ肩置据依シ置床
 テベ床据ヲ上壓要著ヲ銃リ得ニ尾
 モカ尾銃磯ゲ著ス及變ニ其ル保板
 亦ラ板後ラ或シト頗ゼ方ノ如持ハ
 同ズノ右シハ又雖著ザリ位クシ頭ヲ
 (伏置ヲベニ故過確如回ヲノル自
 射ヲ緩カ出ラ度實ク其規長儘然
 ニ動メラシニニナスノ正短照ノ
 在カ又ズ身肩肩ル 位シニ準位



圖 三 第
 一ノ其 銃据ルケ於ニ射伏

左肘ノ位置ハ肩著ヲ不
 ナラシメザル範圍ニ於テ
 射面ニ近カラシムルヲ可
 トス
 兩肘ノ間隔ハ體格ニ依リ
 異ナリトト雖モ概木肩幅ニ
 等シク上體ノ重ミヲ兩肘
 ニ平等ニ懸クハ要ス

左肘ノ位置ハ
 因難ナ
 ラシメ
 度ニ
 出ト
 ス



圖 四 第
 二ノ其 銃据ルケ於ニ射伏



圖五 第 銃据ルケ於ニ射逆 (撃射空對)



圖六 第 銃据ルケ於ニ射膝 (撃射空對)

仰角小ナル場合ニ於テハ通
常姿勢ヲ踵上ニ接ス

据銃法	据銃ノ演	格据銃ト體	照準ノ正	照準ノ方	照尺ノ裝	置法
第十二 据銃スルニハ兩手ヲ以テ銃口ヲ上グルコトナク體ニ近ク迅速ニ銃ヲ上ゲ床尾板ヲ肩ノ凹ミ即チ襟ト肩頭トノ間ニ壓著スルト同時ニ引鐵ノ第一段ヲ壓ス此ノ際頭ハ据銃後其ノ位置ニ於テ直チニ照準シ得ル如ク保持シアルヲ要ス	第十三 据銃ノ動作ハ敏速ニシテ而モ銃ハ据銃ト同時ニ概ネ目標ニ指向セラレアルコト緊要ナリ之ガ爲一舉動ヲ以テ確實ニ肩ニ壓著シ銃ノ方向常ニ目標ニ指向セラレアル如ク反復練習セシムルヲ要ス	第十四 各姿勢ニ於ケル据銃法ヲ教育スルニ方リテハ各人ノ體格ニ應ジ懇切ニ教示シ其ノ要點ヲ深刻ニ體得セシムルヲ要ス	第十五 照準ハ如何ナル場合ニ於テモ正確迅速ナラザルベカラズ之ガ爲絶エズ演練ヲ重ヌルコト緊要ナリ而シテ不正ナル照準ハ固辯トナリ易キヲ以テ教育ノ當初ヨリ特ニ嚴密ニ矯正スルヲ要ス	第十六 照準ヲ行フニハ射距離ニ應ズル照尺ヲ裝シ銃ヲ左右ニ傾クルコトナク据銃スルト共ニ左手ノ閉ヂ照準線ヲ正シク照準點ニ向クルモノトス	照尺ヲ裝スルニハ右手ノ拇指ト食指トヲ以テ遊標ノ分畫ニ裝置シ表尺板ヲ起ス	標註鈎ヲ照尺ノ遊標ノ上緣ヲ正確ニ表尺板上所望ノ分畫ニ裝置シ表尺板ヲ起ス
照準ニ方リテハ照星頂ヲ常ニ照門ノ中央(谷型照門ニ在リテハ照門ノ中央ニシテ兩線ト水平)ニ在ラシムルヲ要ス						

門照型谷 二ノ其

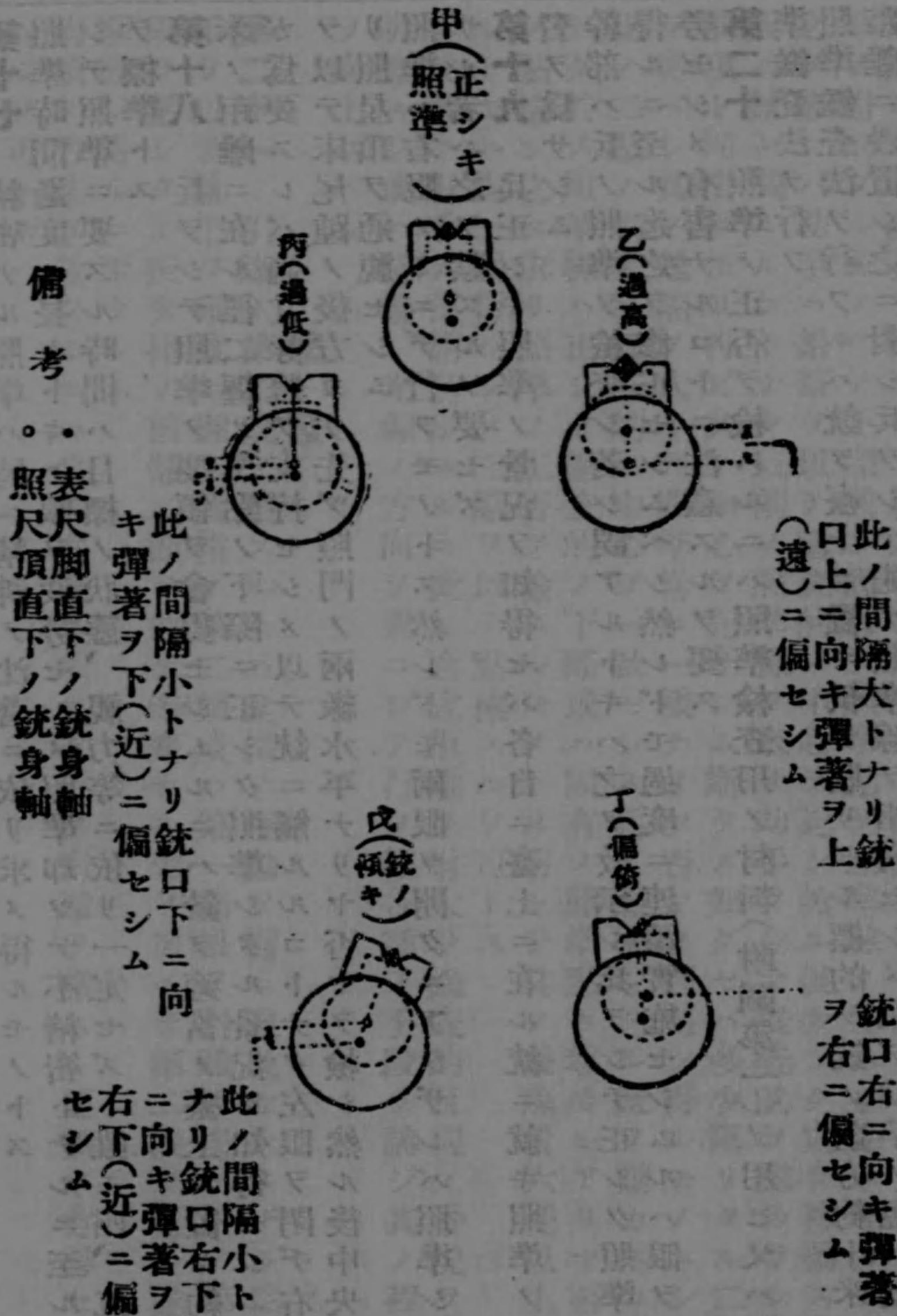
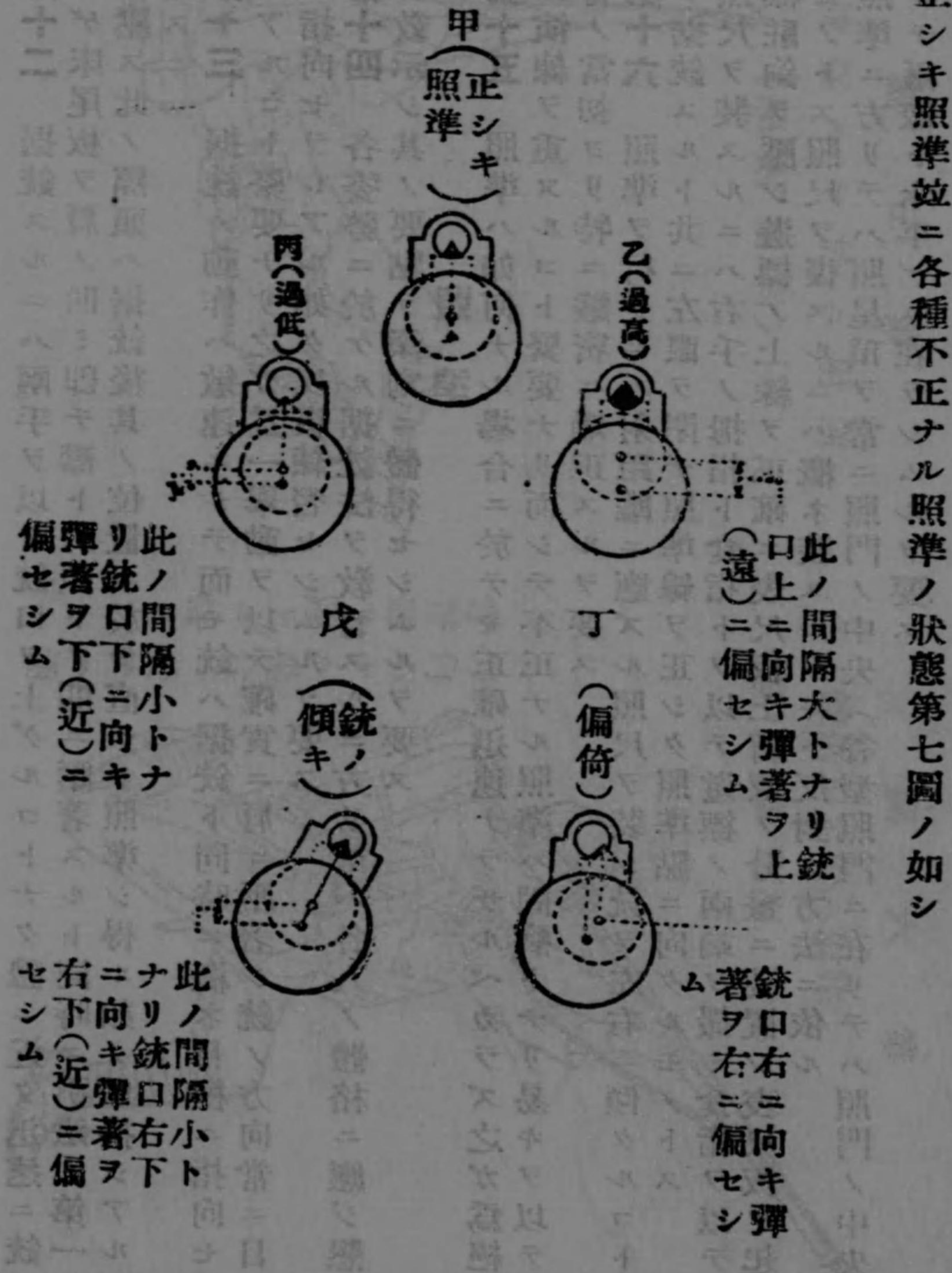


圖 七 第
門照孔 一ノ其

正、不正
照準



領撃發ノ要

引鐵ヲ壓スル爲力ヲ加フル要領ヲ十分理解セザル者アルトキハ幹部ハ射手ノ食指上ニ自己ノ食指ヲ添ヘテ引鐵ヲ壓シ其ノ要領ヲ感得セシメ或ハ射手ヲシテ自己ノ食指ヲ以テ幹部ノ食指ヲ壓セシメ其ノ要領ヲ理解シタリヤ否ヤヲ檢知スベシ又引鐵ノ壓シ方ノ適否ヲ容易ニ檢知スルニハ食指ノ前部二節ノ運動ニ能ク注意スルヲ可トス之ガ爲幹部ハ通常射手ノ左側前ニ位置スルヲ適當トス

第二十二 撃發ノ要領ハ据銃ト同時ニ引鐵ノ第一段ヲ壓シテ呼吸ヲ止メ照準ヲ始ムルト共ニ躊躇スルコトナク第二段ヲ壓シ照準完了スルト同時ニ撃發シ得ルニ至ラシムルモノトス

此ノ要領ヲ教育スルニハ先ヅ据銃後至短時間内ニ精密ナル照準ヲ完了スル如ク反復練習セシメ此ノ時間概ネ一定トナルニ至ルヤ其ノ時間内ニ第二段ヲ壓シテ撃發シ得ル如ク演練シ兩者ノ時間概ネ一致スルニ至レバ据銃後照準ヲ始ムルト共ニ引鐵ノ第二段ヲ壓シ照準線所望ノ照準點ニ近キ範圍ニ指向セラレアル間自然ニ撃發スル如ク演練ヲ重ヌベシ斯クノ如クシテ始メテ前項ノ目的ヲ達成シ得ルモノトス

此ノ教育ハ最重要ナルモノニシテ其ノ方法ヲ誤ルトキハ眼心指ノ一致ヲ害シ或ハ徒ラニ撃發ノ好機ヲ求メントスル結果急激ニ引鐵ヲ壓シ又ハ照準時間ヲ延長シ却ツテ命中ヲ不良ナラシムルガ如キ過失ヲ犯スニ至ルヲ以テ最モ綿密慎重ニ之ガ教育ヲ行ヒ演練ノ完璧ヲ期セザルベカラズ

第二十三 撃發ノ直前ニ於テ照準線ノ達シタル方向ヲ確認シテ報告

豫言

セシムルハ極メテ必要ナリ而シテ若シ之ヲ確認シ得ザルトキハ其ノ不明ナルコトヲ報告セシムベシ此ノ教育法ハ射手ノ伎倆ヲ進歩セシムルニ頗ル有益ナルヲ以テ常ニ之ヲ勵行スルヲ要ス教育ノ初期ニ在リテハ撃發ノ後ト雖モ尙時

照準點ノ決定法

第二十四 照準點ハ平均彈道ヲ所望ノ點(通常目標ノ中央)ニ導ク如ク選定スルモノトス之ガ爲距離離ト照尺トノ關係、氣象ノ感及竝ニ銃ノ固有癖等ニ依リ生ズル平均點ノ偏差量及目標ノ移動方向、移動速度等ヲ考慮シテ照準點ヲ定ムルモノトス

射撃ノ方法

小銃ノ臂上射撃ニ在リテハ定起角其ノ他ノ關係ニ依リ平均彈道依托射撃ノモノニ比シ若干低下スルヲ以テ照準點ノ選定上留意スルヲ要ス

固定目標ニ對シ各種偏差ノ關係不明ナル場合ニ於テハ目標ノ下際ヲ照準スルモノトス

照準點選定ノ要領ニ關シテハ之ガ基礎的事項ヲ十分會得セシメタル後實地ニ就キ機會アル毎ニ綿密ニ之ヲ教示スルコト緊要ナリ

第二十五 側方ニ移動スル目標ヲ射撃スルニハ照準線ヲ目標ノ移動ニ追隨セシメツツ其ノ前方ヲ照準スルモノトス而シテ其ノ照準點ハ射距離及目標ノ速度ニ依リ異ナルモノニシテ其ノ標準第一表ノ如シ

照準點選定

照準點選定ノ要領ニ關シテハ之ガ基礎的事項ヲ十分會得セシメタル後實地ニ就キ機會アル毎ニ綿密ニ之ヲ教示スルコト緊要ナリ

側方移動

側方ニ移動スル目標ヲ射撃スルニハ照準線ヲ目標ノ移動ニ追隨セシメツツ其ノ前方ヲ照準スルモノトス而シテ其ノ照準點ハ射距離及目標ノ速度ニ依リ異ナルモノニシテ其ノ標準第一表ノ如シ

目標

目標ニ依リ異ナルモノニシテ其ノ標準第一表ノ如シ

行演習
 定及追隨シテ射撃スル方法ヲ演練シ次テ空中ニ於ケル固定若クハ移動スル模
 型目標ニ對シテ行ヒ射撃姿勢、射撃動作ヲ併セ演練スルヲ要ス而シテ模型目
 標ハ其ノ大キサ及移動速度ヲ距離ノ比ニ應ジ縮小シタルモノヲ用フルヲ可ト
 ス
 眞目標ニ對スル射撃演習ハ飛行演習等ノ機會ヲ利用シテ隨時隨處ニ之ガ
 演練ヲ行フノ著意緊要ナリ
 第二十八 射撃豫行演習ニ在リテハ射法特ニ連續發射間ニ於ケル照準線ノ保
 持、故障ノ豫防及排除、目標變換等ノ要領ヲ注意シテ教育スルコト特ニ緊要
 ナリ
 第二十九 空包ヲ用フル射撃演習ハ射法特ニ連續發射間ニ於ケル照準線
 ノ保持法、故障排除ノ要領ヲ修得セシムル爲價値極メテ大ナルヲ以テ之ガ教
 育ニ意ヲ用フルヲ要ス之ガ爲計畫的ニ之ヲ實施スルノ外苟モ空包ヲ使用スル
 場合ニ於テハ勉メテ本教育ヲ行フノ著意緊要ナリ
 第三十 据銃ノ正否ハ命中ノ良否ニ影響スルコト頗ル大ナルヲ以テ如何ナル
 場合ニ於テモ確實ニ實施シ得ル如ク熟練スルヲ要ス又機ヲ失セズ發射スル爲
 據銃ヲ一舉ニ適當ナル位置ニ接著シテ直チニ照準ヲ開始シ得ル如ク演練スルト
 共ニ据銃ニ方リ銃ノ指向適當ナラザルトキハ直チニ兩肘ノ閉閉、肘ノ位置或
 ハ體全體ノ移動等ニ依リ之ヲ修正シ速カニ照準ヲ開始シ得ルコトニ慣熟セシ

飛機ニ對スル射撃ニ在リテハ擊發ノ好機ハ瞬時ニシテ去ルモノナルヲ以テ
 擊發ノ直前照準線ヲ飛行機ノ進路上稍々前方ニ導キ飛行機所望ノ照準線ニ達
 スルトキ發射スルモノトス
 第二十七 飛行機ニ對スル射撃ノ教育ハ屢々實彈ヲ用ヒテ實施スルコト困難
 ナルヲ以テ射撃豫行演習ニ依リ其ノ目的ヲ達成スル如ク十分ナル訓練ヲ行フ
 ヲ要ス
 飛行機ニ對スル射撃豫行演習ハ先ヅ地上ノ固定、移動目標ニ對シ照準點ノ選

第九圖 前方修正量ト遊標幅トノ關係

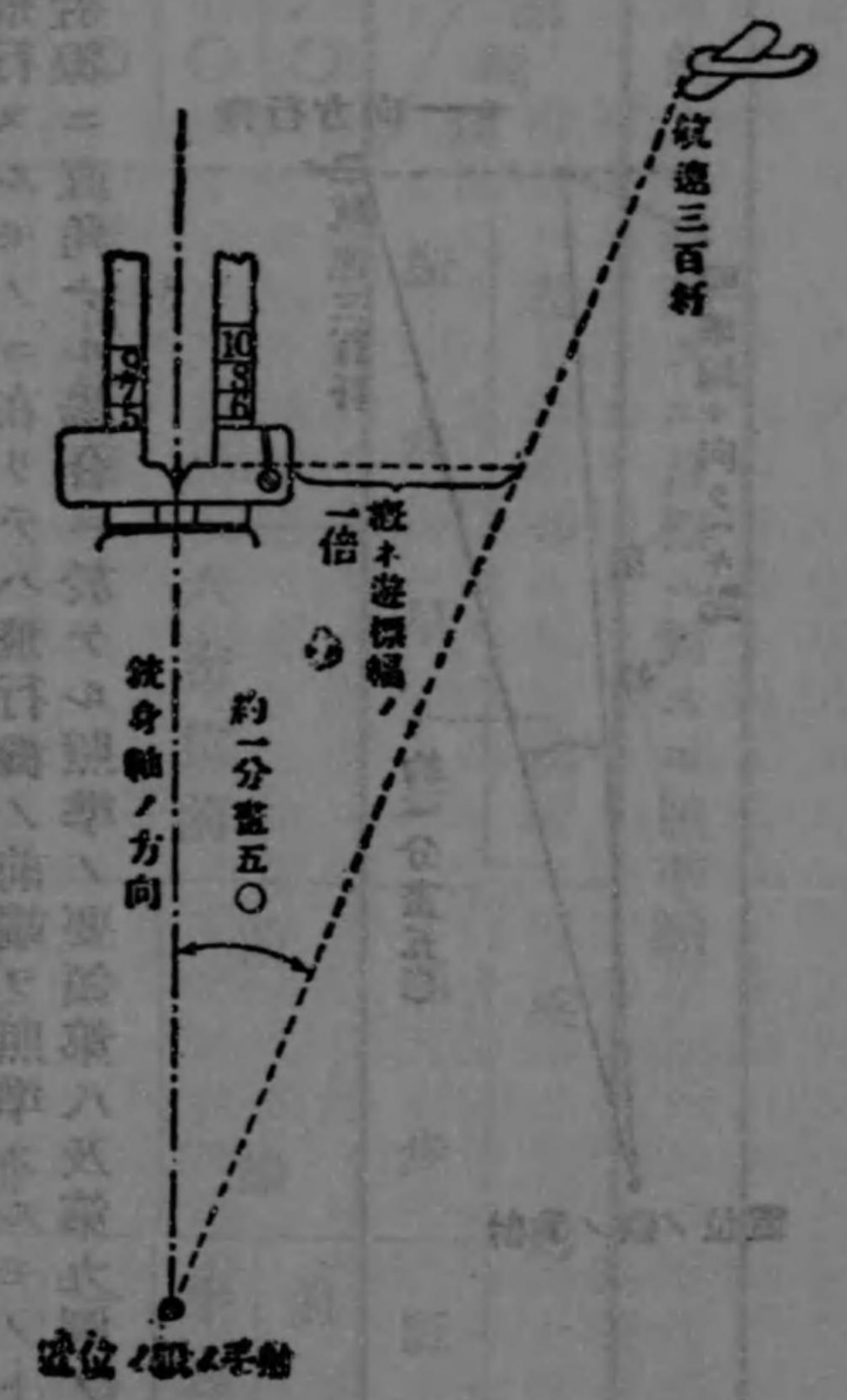


圖 一 十 第

二ノ其 銃据銃關機輕式六九
面 側 左



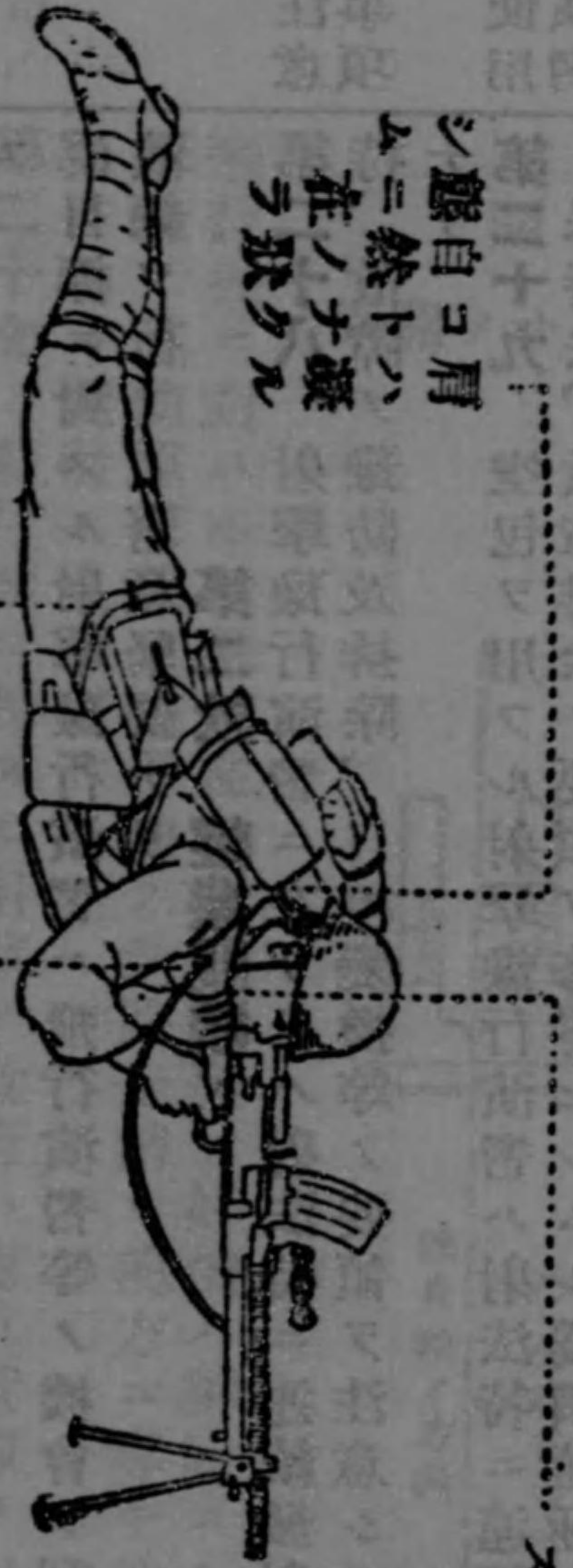
ク 節 握 右
ヲ リ 手
根 食 以
ニ 指 以
近 ヲ テ
ク 用 右
或 ハ 心 側
ハ 鐵 面
第 內 ヲ
二 節 入
ヲ 引 其
鐵 ノ 握
ニ 掛 一 把
一 確 實

……
ミ 確 左
ニ 實 手
壓 著 ス ヲ
以 テ
下 方
床 尾 板
ヲ 肩
ノ 凹 把
ヲ

件据銃ノ要

ムルヲ要ス
第三十一 据銃ノ要ハ連續發射間照準線ヲ正確ニ保持スルニ在リ
据銃ノ要領及其ノ要點概ネ第十四圖ノ如シ

一ノ其 銃据銃關機輕式六九



クニスニハ向體ノ方
ハ確凹ニ著ス
床尾板

面 側 右

ス銃類ハニ接ク

第十一号 步兵隊射擊教育 其八 圖 式 圖 面



圖三十 輕式一九一一年 側面 其一

脚桿ヲ過度ニ緊張スルコトナク銃ヲ僅カニ前方向ニ進メ脚桿ニ若干ノ緩ミヲ有セシム
 用心織ニ近ク銃把ヲ握リ食指ノ屈伸ヲ自由ニス
 兩手ヲ以テ銃ノ左側ニ傾カザル如ク左側ニ壓著ス

第二十圖 九六式輕機關銃据銃其三ノ正面



照門、照星ヲ以テ照準スルトキハ頭ヲ備カニ左ニ起シ右眼ヲ以テ行フモノトス

兩肘ノ間隔ハ概ネ肩幅ニ等シク其ノ位置ハ上方ノ前シテ兩肩ノ間ニ行スル如クノ體向ニ重ミヲ兩肘ニ懸ク要ス

圖 五 十 第
合 場 ル ナ 小 角 仰



兩方切張十分後方ニ引キ腹部ハ前
 適切ニ射手ノ動作ニ應ジ得ル如
 ク常ニ射手ニ注目ス
 他ノ彈藥トキハ一層安定良好ナ
 リ

僅カニ腰ヲ引キ反撞ニ抗スル如
 クス爲シ得レバ一名ノ彈藥手ヲ
 シテ後方ヨリ背囊ヲ支ヘシムル
 トキハ安定良好ナリ

圖 四 十 第
二ノ其 銃据銃關機輕式年一十
面 側 左



右手ハ掌ヲ銃把ニ接著シ指ヲ十分廻ハシ
 テ指ト中指トヲ對向セシムル如ク確實
 ニ握ル此ノ際過度ニ力ヲ加ヘザルヲ要ス

左手ハ五指ヲ揃ヘテ概本第二節
 根ヲ上ニシ指ト掌トヲ以テ床鼻
 ノ前方ヲ挟ム如ク握ル
 掌ハ確實ニ銃床ニ接著セシム

銃射擊据
法

第三十二 飛行機ニ對スル射擊ニ於テ輕機關銃ニ仰角ヲ與フルニハ一名ノ彈
 藥手其ノ脚桿ヲ保持スルカ又ハ附近ノ地物或ハ所在ノ材料ヲ利用シ之ニ銃ヲ
 依スルモノトス
 彈藥手ノ脚桿ヲ保持スル場合ニ於ケル据銃ノ要領第十五及第十六圖ノ如シ

方引 鐵ノ 三引	ノ照裝照十 點準法準一 檢正照式 三否尺	照尺裝法 照尺裝法	照九 準六 法式
----------------	-------------------------------	--------------	--------------------

第三十三 九六式輕機銃ノ照準ハ眼鏡照準具又ハ照門、照星ヲ以テ行フ
ノ交點ヲ正シク照準點ニ向クルモノトス
照門、照星ヲ以テ照準ヲ行フニハ射距離ニ應ズル照尺ヲ裝シ要スレバ横尺ニ
依リ方向修正ヲ行ヒ照準線ヲ正シク照準點ニ向クルモノトス
照尺ヲ裝スルニハ左手ノ拇指ト食指トヲ以テ轉輪ヲ左方ヨリ撮ミ之ヲ前後ニ
廻ハシ所望ノ分畫ヲ確實ニ分畫窓下緣ニ一致セシム
横尺ヲ裝スルニハ左手ノ拇指ト食指トヲ以テ轉輪ヲ左方ヨリ撮ミ之ヲ前
後ニ廻ハシ所望ノ分畫ヲ確實ニ分畫窓下緣ニ一致セシム
射擊間照尺及横尺ヲ改裝スルニハ据銃シタル儘之ヲ行フモノトス
第三十四 十一年式輕機銃ノ照準竝ニ照尺ノ裝法ハ小銃ニ就キセル所ニ
準ズルモノトス但シ照準ハ通常左眼ヲ閉ヅルコトナク行フモノトス
第三十五 照準ノ正否ヲ檢査スルニハ照準檢査用ノ材料(附圖第一)ヲ用ヒ又ハ
小銃ノ要領ニ準ジ照準檢査法ヲ行フ
眼鏡照準具ヲ用フル場合ニ於テハ距離目盛ヲ誤リ易キヲ以テ特ニ之ガ點檢ニ
注意スルヲ要ス

第三十六 引鐵ヲ歷スルニハ食指ノ運動ヲ臂ニ波及セシメザル爲右手ヲ以テ
握把(銃把)ヲ確實ニ握リ食指ノ第一節ヲ根ニ近ク或ハ第二節ヲ引鐵ニ掛ケ等

圖六十六第

合場ルナ大角仰



仰角ノ大小ニ依
リ肘ノ若干之伸
バシ曲ダルモノ
トス

臀部ヲ踵ヨリ離シ腰ヲ十分前方ニ張ル

擊發
 發言
 射擊教育
 射擊重點
 點射ノ反
 復射ノ移
 點射ノ移
 連續點射

齊ナルカヲ加ヘテ之ヲ壓シ遂ニ擊發シ得ルニ至ラシム而シテ連續發射中食指ヲ緩メザルコト及擊發ノ後敏速ニ食指ヲ伸バスコトニ熟セシムルコト緊要ナリ

第三十七 擊發ノ要領ハ照準ヲ始ムルト同時ニ呼吸ヲ止メ正シク照準シ得タルトキ擊發シ得ル如ク引鐵ヲ壓スルモノトス而シテ練習ヲ重ヌルニ從ヒ照準ノ安定ヲ害セズシテ而モ迅速ニ擊發シ得ルニ至ラシムルヲ要ス

連續發射間ニ於ケル照準線ト照準點トノ關係ヲ注視シ其ノ狀態ヲ確認シテ報告此ノ報告ヲセシムルハ極メテ必要ニシテ特ニ連續發射間照準線ヲ保持スル要領ヲ會得セシムル爲價值大ナルモノトス

射擊ノ方法

第三十八 射法ノ教育ハ點射ニ重點ヲ置キ其ノ他ノ射法ハ其ノ概要ヲ會得セシムルヲ以テ足レリトス

點射ノ教育ニ方リテハ先ヅ點射ヲ反復スル要領ヲ十分會得セシメ次デ點射ヲ移動スル要領ヲ教育スルヲ要ス

第三十九 點射ヲ反復スルニハ約三發或ハ約五發ツツ發射スル如ク食指ヲ屈伸シ更ニ照準シテ同一動作ヲ反復スルモノトス

第四十 點射ヲ移動スルニハ通常目標ノ某點ヨリ逐次一回若クハ數回ノ點射ヲ爲シツツ迅速ニ之ヲ目標ノ他部ニ及スモノトス之ガ爲體全體ノ移動或ハ兩肘ノ移動等ニ依リ迅速確實ニ照準線ヲ移動スルモノトス

第四十一 連續點射ヲ行フニハ引鐵ヲ壓シタル儘連續發射スルモノトス

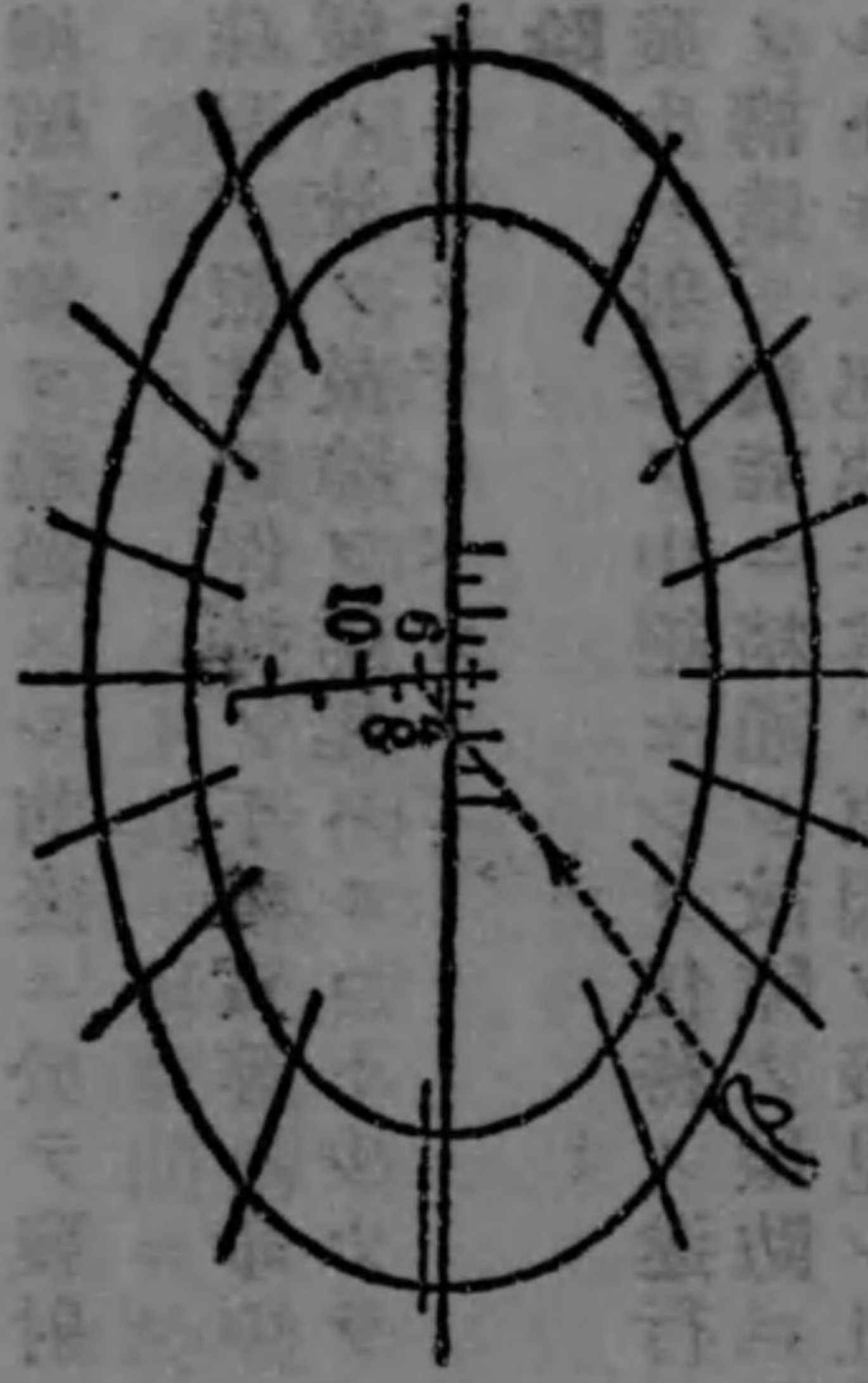
飛機射
 側方移動
 目標三五
 飛行機射
 要領云

飛機射ヲ行フニハ引鐵ヲ壓シタル儘照準線ヲ概ネ目標ニ沿ヒ平等ニ移動スルモノトス

第四十二 側方ニ移動スル目標ヲ射擊スルニハ照準線ヲ目標ノ移動ニ追隨セシメツツ點射ヲ反復スルモノトス而シテ其ノ照準點(方向修正量)ハ第一表ニ示スモノニ準ズ

第四十三 飛行機ヲ射擊スルニハ照準線ヲ目標ノ移動ニ追隨セシメツツ點射ヲ反復スルモノニシテ照門、照星ヲ用フル場合ニ於テハ小銃ノ要領ニ準ジテ照準ヲ行ヒ眼鏡照準具ヲ用フル場合ニ於テハ第十七圖ニ示ス要領ニ依ルモノトス

如ク照準スルニ在ラシムルニ應ズル標圖標其ノ前邊ヲ軌道ニ向ハシメ且百又ハ六百ノ四飛行機ヲ常ニ四



準照ルヲ用フル具準照鏡眼ノ銃關機輕式六九

圖 七 十 第

三―三 擊發ノ要領ハ小銃ニ準ズルモ飛行機照準線ヲ通過スル前後ニ於テ發射スルモ
 第四十四 連續發射ニ伴フ照準ノ疎漏、照準線保持ノ不確實等ハ命中ヲ不良
 ナラシメ又引鐵ヲ壓セル食指ノ弛緩ハ銃ノ故障ヲ誘起スルコト少カラズ故ニ
 幹部ハ周到ナル注意ヲ以テ之ガ矯正ニ勉メザルベカラズ

故障ノ豫防及排除

第四十五 射擊間ニ於ケル故障ノ發生ハ射擊ヲ中絶セシメ任務ノ遂行ニ多大
 ノ障礙ヲ生ゼシム故ニ幹部以下銃ノ構造、機能ニ精通シ故障ノ豫防ニ全幅ノ
 注意ヲ拂ヒ若シ一度故障ヲ生ジタルトキハ迅速ニ其ノ原因ヲ發見シ且故障ヲ
 排除スルコトニ習熟セザルベカラズ

夜暗ニ於ケル故障ノ豫防及排除ニ習熟スルハ夜間射擊ノ爲緊要ナリ

第四十六 故障ノ豫防スル爲ニハ銃ノ點檢及手入ヲ勵行シ常ニ機能ヲ完全ナ
 ラシムルコト緊要ナリ

射擊實施ニ方リテハ機能上故障ヲ生起シ易キ要部ヲ檢シ又發射ノ爲儘渣附着
 シ若クハ異物介在シ易キ部分ノ手入ヲ行ヒ或ハ摩擦多キ部分ニ塗油シ射擊間
 ニ在リテハ射擊動作就中裝填操作及連續發射間ニ於ケル引鐵ノ保持ヲ確實ニ
 シ又射擊中止間ニ在リテハ腔中ニ塗油シ或ハ冷氣ヲ流通セシメ爲シ得レバ銃
 ヲ陰影内ニ入レ止ムヲ得ザレバ放熱部ニ水氣アル布片ヲ當ツル等ノ手段ニ依
 リ銃身ヲ冷却スルコトニ勉ムベシ

第四十七 射擊ニ先ダチ銃ニ就キ點檢ヲ行フベキ主要ナル部位左ノ如シ

檢部位

九六式輕機關銃

一、銃身ノ結合確實ニシテ腔中、藥室ニ異狀ナキヤ

二、規整子分畫ノ測合正シキヤ

三、銃尾機關ノ前進、後退容易ニシテ軋ルコトナキヤ、復坐ばねノ折損
 又ハ衰損ナキヤ

四、尾筒底駐栓ノ結合正シキヤ

五、彈倉駐子ノ機能良好ナリヤ

一、腔中、藥室ニ異狀ナキヤ

二、規整子分畫ノ測合正シキヤ

三、放熱筒、尾筒ノ結合正シキヤ

四、彈送止ハ確實ニ壓下シアリヤ

五、銃尾機關ノ前進、後退容易ニシテ軋ルコトナキヤ、復坐ばねノ折損
 又ハ衰損ナキヤ

六、送彈機關ノ運動正シキヤ

七、尾筒底駐栓ノ結合正シキヤ

第四十八 活塞ノ後退過劇及後退不足ハ各種故障ノ原因ヲ成スモノナルヲ以
 テ常ニ「ガス」壓ト復坐ばねノ張力トノ調節ヲ圖リ以テ故障ノ豫防ニ勉ムルヲ
 要ス之ガ爲メ規整子分畫ノ測合ヲ適切ナラシムルト共ニ射擊間ニ於テモ發
 射速度ニ注意シ之ヲ適度ニ調節スルコト必要ナリ

目的演習ノ	部隊演習ノ	夜間射撃ノ方法	射撃ノ設備
ニ關スル事項ヲ綿密ニ教育スル爲行フモノニシテ主トシテ指揮官ノ射撃指揮 特ニ目標ノ選定並ニ之ガ指示、距離ノ測定、射撃號令ノ徹底、部下ノ監視、 兵ノ部隊内ニ於ケル射撃動作特ニ迅速ナル目標ノ發見了解、射撃目標ノ選定、 沈著正確ナル射撃動作等ヲ演練シ以テ指揮官ノ意圖ノ如ク適切ニ射撃ヲ指向 シ得ルコトニ習熟セシムルヲ要ス	第五十六 部隊ヲ以テ行フ射撃演習ハ特ニ計畫シテ履、之ヲ行ヒ又教練 間ト雖モ常ニ此ノ著意ヲ以テ監督指導スルヲ要ス 幹部以下疲勞困憊セル時期ヲ捉ヘテ之ヲ行フハ此ノ目的達成ノ爲效果特ニ大 ナリ	第四款 夜間及煙内射撃 第五十七 夜間射撃ハ豫メ準備セル射撃設備ニ依リ或ハ照明ヲ利用シテ行フ ヲ通常トシ時トシテ銃身ヲ地面ニ平行ニシテ之ヲ行フヲ要スルコトアリ又照 明燈ヲ射撃ノ場合ニ於テハ直接之ヲ照準スルモノトス、 第五十八 小銃ヲ以テスル夜間射撃ノ設備ハ前後ニ又杭ヲ打入シ或ハ橫材ヲ 横タヘ所望ノ地點ヲ照準シ之ニ應ズル如ク杭又ハ橫材ノ高サ及方向ヲ規正シ タル後堅固ニ之ヲ固定ス	射撃ノ設備 輕機銃ヲ以テスル夜間射撃ノ設備ハ先ヅ脚桿ノ位置ヲ固定シタル後所望ノ 地點ヲ照準シ銃ノ高低、方向ヲ定メ之ニ應ジ適宜ノ橫木ヲ用心鐵ノ前方附近 ニ於テ輕ク銃ノ下面ニ接スル如ク兩側ノ杭ニ縛著シ銃ノ高サヲ規正シ次デ橫 木上ニ方向規正ノ設備ヲ爲ス尙夜間目視シ得ル補助照準點ヲ設ケ銃ヲ動カス

原因排除	原因發見	擬製實射教育	射撃間部	夜間教育	狀況ニ應	法	部隊ノ豫
第四十九 主ナル故障ノ種類及其ノ原因、排除法概ネ附表第一ノ如シ 第五十 故障ノ原因ヲ發見スルニハ生起セル故障ノ現象ヲ基礎トシテ判斷ス ルモノナルモ尙發射間ニ於ケル爆音ノ調子、藥莢蹴出ノ状態及蹴出セル藥莢 等ハ之ガ有力ナル資料トナルモノトス	第五十一 故障ノ原因及之ガ迅速ナル排除法ヲ的確ニ理解記憶セシムルニハ 擬製彈ヲ用ヒ各種ノ故障ヲ現シ又毀損セル部品ヲ示シテ故障生起ノ状態、發 生ノ原因及排除法ヲ教育スルモノトス又射撃間發生セシ故障ニ對シテハ勉メ テ現場ニ於テ綿密ニ教育スルヲ要ス	第五十二 射撃間ニ於ケル部品ノ交換ハ屢、之ヲ行フヲ要スルコトアルヲ以 テ常ニ迅速確實ニ實施シ得ル如ク習熟セシムルコト緊要ナリ擊莖、抽筒子及 抽筒子ばねノ交換ニ於テ特ニ然リ	第五十三 夜間ニ於テハ故障豫防ノ爲特ニ射撃前ノ點檢ヲ十分ニシ裝填操作 ヲ確實ナラシムルコト緊要ナリ	夜暗ニ於ケル故障ノ豫防及排除ノ教育ニ在リテハ分解結合、部品ノ交換、指 頭ノ觸感ヲ以テスル要部ノ點檢並ニ故障ノ判斷等ニ習熟セシムルヲ要ス	第五十四 故障排除ノ教育ハ單ニ部分的ニ之ヲ行フノミナラズ狀況ニ應ズル 排除法ノ適否ニ著意シテ綿密ニ之ヲ教示シ以テ戰闘間ニ於ケル排除ニ習熟セ シムルコト緊要ナリ	第三款 部隊ヲ以テ行フ射撃演習ハ戰闘經過中ノ某一時期ヲ捉ヘ射撃	第五十五 部隊ヲ以テ行フ射撃演習ハ戰闘經過中ノ某一時期ヲ捉ヘ射撃

銃腔塗油

第六十六 命中ヲ確實ナラシムル爲射擊前必ズ銃腔ニ塗油スベシ若シ同一銃ヲ以テ連續射擊スル場合ニ於テハ約五發毎ニ塗油スルヲ要ス

第三節 基本射擊

基本射擊ノ目的

第六十七 基本射擊ハ實包ヲ以テスル射擊ノ基礎教育ニシテ射手ヲシテ特ニ爆音及反撞ヲ伴フ射擊ノ要領及銃ノ特性ヲ體得理解シ輕機關銃ニ在リテハ連續發射間ニ於ケル照準線保持ノ要領ヲモ會得セシメ以テ銃ト自己ノ伎倆トニ確信ヲ得シムル爲行フモノトス

基本射擊ノ教育ノ目

基本射擊ニ在リテハ本射擊ニアラザレバ演練シ得ザル主要事項ノ教育ニ全力ヲ傾注セザルベカラズ之ガ爲射擊姿勢、据銃、照準等ハ射擊豫行演習等ニ於テ十分演練ヲ重ネ以テ基本射擊ノ際此等ノ爲多クノ時間ヲ費サザル如クスルヲ要ス

命中不良ノ指導者

射手ヲシテ射擊ニ對スル自信ヲ得シムル爲ニハ先ヅ命中ノ良好ヲ期セザルベカラズ之ガ爲命中不良ノ者アルトキハ能ク其ノ原因ヲ探究シ之ガ矯正法ヲ適切ナラシムルヲ要ス

射擊用具及彈藥ノ材料

第四部附圖第二十一乃至第二十五及第二十八ノ如シ
第六十九 彈頭ニ塗料ヲ施シタル實包ヲ用フルトキハ發射順序ニ應ズル彈著點ヲ識別シ得ルヲ以テ射擊動作ノ良否ヲ發見スルニ有利ナルコトアリ輕機關銃ノ射擊ニ於テ特ニ然リ

空包豫習

第七十 初年兵竝ニ之ニ準ズル者ニハ基本射擊ノ豫習トシテ空包射擊ヲ行ハシムルヲ可トス空包射擊ヲ行ヒタルトキハ銃腔ヲ拭ヒタル後ニアラザレバ實包射擊ヲ行ハシムベカラズ

射擊ノ使用

第七十一 執銃本分ノ射手ハ必ズ各自ノ銃ヲ以テ射擊スベシ若シ修理等ノ爲使用シ得ザルトキハ中隊長ノ許可ヲ受ケ一時他ノ銃ヲ以テ射擊スルコトヲ得然ルトキハ其ノ番號ヲ射擊手簿(附表第五十五)ノ當該習會ノ部ニ記入シ置クヲ要ス

射擊實施會習

第七十二 基本射擊ハ步兵隊ニ在リテハ附表第三、騎兵隊ニ在リテハ附表第十三ニ據リ實施スベシ但シ初年兵小銃手、通信隊初年兵竝ニ第二年兵ニ在リテハ第一期間ニ其ノ全部ヲ終ラシムルコトニ勉ムベシ

過失矯正ノ手段

第七十三 射擊豫行演習ニ熟セル射手ト雖モ爆音、反撞ニ慣レザルト過度ニ命中ニ焦慮シ發射ノ好機ヲ捉ヘントスル結果發直前ニ於テ右眼ヲ閉ヂ頭ヲ動カシ或ハ肩ヲ進メ又ハ急激ニ發射ヲ行フ等ノ過失ヲ犯スコトアリ斯クノ如キ過失ヲ矯正スルニハ射手ニ覺知セラレザル如ク不發彈ヲ裝填シ或ハ全ク裝